# チェコ共和国における社会主義時代のプレハブ住宅開発地の居住史集成的再価値化に関する研究

田中　由乃

# チェコ共和国における社会主義時代のプレハブ住宅開発地の居住史集成的再価値化に関する研究

目次


## 第１章　序論　...1

１．１　プレハブ住宅開発地についてのこれまでの世間的評価　...1
１．１．１　戦後の工業化による量産型住宅建設の広がり　...1
１．１．２　社会主義時代の住宅開発地に対するこれまでの世間的評価と民主化後の変化　...1
１．１．３　旧社会主義国の中のチェコ共和国の位置づけ　...2
１．１．４　チェコ共和国の社会主義時代の住宅開発地に対する現在の研究的関心　...4
１．２　研究の目的　...5
１．３　本研究の独自性　...6
１．４　本論文で使用する用語の概念の設定　...10
１．５　本論文で使用する用語の表記　...14

## 第２章　チェコ共和国の社会主義時代の住宅開発地　...15

２．１　既往研究にみるチェコ共和国の政治体制転換時における住宅開発地に関わる制度の変化　...15
２．１．１　社会主義体制転換時の土地・財産の国有化　...15
２．１．２　社会主義体制下におけるプラハ市の住宅開発地　...17
２．１．３　社会主義体制終結後の財産の返還と私有化・民営化　...17
２．１．４　社会主義時代のパネル工法によるプレハブ集合住宅「パネラーク」　...19
２．１．５　国家レベルの住宅開発地再生施策　...22
２．２　プラハ市による戦後の都市計画と住宅開発地再生施策　...22
２．２．１　プラハ市市街地と社会主義時代の住宅開発地の立地関係　...22
２．２．２　戦後からの都市計画に関するプラハ市役所の政策　...25
２．２．３　現在の都市計画に関するプラハ市役所の政策　...25
２．２．４「Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť」の調査内容と事業の特徴　...27
２．３　プラハ 11 区行政の Jižní Měst 再生に対する取り組み　...30
２．３．１　区役所の住宅開発地に対する施策　...30
２．３．２　プラハ 11 区 Jižní Město の基本情報　...31
２．３．３　プラハ 11 区の行政制度　...34
２．３．３．１　新規開発への市民参加機会　...34
２．３．３．２　建築物の所有関係　...35

２．３．４　所有者の違いと住宅改修の進捗　...35
２．３．５　プラハ 11 区 Jižní Město にみる区の再生施策　...36
２．４　得られた知見　...39

第３章　プラハ市プラハ 11 区 Jižní Město を中心とした社会主義時代の住宅開発地開発計画に関する建築雑誌記事　...41

３．１　プラハ 11 区 Jižní Město 開発に関する「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」の記事　...41
３．１．１　調査の方法　...41
３．１．２　Jižní Město 全体計画のコンペティション（1967 年）　...43
３．１．２．１　フェーズ 1 のコンペの概要　...44
３．１．２．２　フェーズ 1 におけるコンペの趣旨　...44
３．１．２．３　フェーズ 1 における J.Krásný らの案　...45
３．１．２．４　フェーズ 2 のコンペの概要　...46
３．１．２．５　フェーズ 2 における J.Krásný らの案　...46
３．１．２．６　考察　...46
３．１．３　イジュニームニェストの詳細な地域計画（1969 年）　...47
３．１．３．１　イジュニームニェストの詳細な地域計画　...47
３．１．４　イジュニームニェストのための住宅（1972 年）　...50
３．１．４．１　イジュニームニェストのための住宅　...50
３．１．４．２　イジュニームニェストの第一建設グループの住居開発　...50
３．１．４．３　考察　...50
３．１．５　JM 全体の空間構成と第 3 住居グループ（1973 年）　...50
３．１．５．１　JM 全体の空間構成　...50
３．１．５．２　第 3 住居グループの地域計画　...52
３．１．５．３　第 3 住居グループの住宅計画　...53
３．１．５．４　考察　...53
３．１．６．JM II の詳細な地域計画（1978 年）　...54
３．１．６．１　JM II の詳細な地域計画　...54
３．１．６．２　考察　...54
３．１．７　JM II の進捗（1981 年）　...55
３．１．７．１　JM II 全体の進捗　...55
３．１．７．２　Horní Kunratice と Horní Roztyly　...55
３．１．７．３　考察　...56
３．１．８　住居グループの社会的価値の評価（1982 年）　...58
３．１．８．１　住宅開発地の社会的価値の評価　...58
３．１．８．２　考察　...59

３．１．９　新しいプラハの住宅開発地のコンペ―案と現実（1988 年）　...59
３．１．９．１　記事の概要と JM に対する評価　...59
３．１．９．２　考察　...60
３．２　得られた知見　...60

第４章　プラハ市プラハ 11 区における社会主義時代のプレハブ住宅開発地 Jižní Město の現在の価値　...61

４．１　Jižní Město 住民インタビューによる地域の価値　...61
４．１．１　調査の方法　...61
４．１．２　空間用途別にみる価値の対象とその形成過程　...62
４．１．２．１　住宅　...64
４．１．２．２　公共施設　...65
４．１．２．５　交通機関　...69
４．１．２．６　JM 周辺の緑地　...69
４．２　Jižní Město の民主化後の変化、認識されていた価値と地域再生に対する取り組み主体　...71

第５章　オストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区における社会主義時代の住宅開発地の現在の価値　...73

５．１　プラハ市の事例に対してのオストラヴァ市の位置づけ　...73
５．１．１　オストラヴァ市の開発の歴史　...73
５．１．２　オストラヴァ市内の基本情報　...73
５．１．２　オストラヴァ市における調査対象地の選定　...73
５．１．３　調査の手順　...79
５．２　資料調査による Ostrava-Jih 地区内の各地域の特色　...80
５．２．１　開発時期　...80
５．２．２　空間構成　...82
５．２．３　年齢別人口の割合　...82
５．２．４　住宅所有者の割合　...82
５．３　Ostrava-Jih 地区に関わる行政による社会主義時代の住宅開発地再生施策と民主化後の変化　...83
５．３．１　オストラヴァ市の方針　...83
５．３．２　Ostrava-Jih 地区の民主化後の変化　...83
５．４　Ostrava-Jih 地区住民インタビューによる地域の価値と地域住民の取り組み　...84
５．４．１　インタビューの方法　...84
５．４．２　住宅・地域に対するインタビュイーの認識と特色ある場所や取り組み　...87
５．４．２．１　Zábřeh 地域　...87
５．４．２．２　Výškovice 地域　...94

５．４．２．３　Hrabůvka 地域　...97
５．４．２．４　Dubina+Bělský les 地域　...101
５．４．２．５　オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区　...105
５．４．２．６　住宅　...108
５．４．３　得られたデータの考察　...109
５．５　オストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区内の民主化後の変化と認識されていた価値　...109
５．５．１　Ostrava-Jih 地区内の民主化後の変化　...109
５．５．２　Ostrava-Jih 地区において認識されていた価値　...109
５．５．３　考察　...110

## 第６章　得られた知見と考察　...111

６．１　各章より得られた知見のまとめ　...111
６．１．１　第２章より得られた知見　...111
６．１．２　第３章より得られた知見　...111
６．１．３　第４章より得られた知見　...113
６．１．４　第５章より得られた知見　...113
６．２　社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化　...113
６．２．１　時代の移り変わりからみる社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化　...113
６．２．２　複数主体による社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化　...114
６．３　プラハ 11 区 Jižní Město の社会的位置づけからみた、Jižní Město に対するこれまでのイメージとその要因　...114
６．４　Jižní Město の開発計画と現在の価値の関係性からみた、Jižní Město における価値の積み重ねと価値付けの理由　...116
６．５　Jižní Město とオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区の事例にみる社会主義時代の住宅開発地の現状の多様性を踏まえた、地域の特徴に応じた今後の社会主義時代の住宅開発地の多様な在り方の可能性についての考察　...116
６．６　今後の社会主義時代の住宅開発地の多様な在り方の可能性　...117
６．７　今後の課題　...118

## 補章　プラハ市プラハ 11 区 Jižní Město における住民間の価値の共有に向けての実践　...119

１　研究の背景とワークショップの目的　...119
２　地域の魅力探しワークショップの実施　...119
３　ワークショップの結果　...120
４　今後の展望　...122

# 付録 ...　a-1

**Jižní Město 住民インタビュー記録　...a-2**
**Ostrava-Jih 地区住民インタビュー記録　...a-31**
**プラハ 11 区住民参加イベントのコメントカード一覧　...a-57**

# 第１章　序論

## １．１　プレハブ住宅開発地についてのこれまでの世間的評価

はじめに、本論文の研究対象である社会主義時代のプレハブ住宅開発地について、既往研究をもとにその背景について時間経過を追いながらまとめる。

### １．１．１　戦後の工業化による量産型住宅建設の広がり

第二次大戦後、住宅建設が工業化され、大量生産が可能になったことから、世界各地で量産型住宅が建設されるようになった。そしてそれに伴い、それらの住宅群で形成された団地やニュータウンといった住宅開発地もまた、世界中で見られる様になった。量産型住宅の普及によって、これまでよりも効率よく一定水準の住宅を市民に供給することが可能になった一方で、住宅形態の多様性は減少することとなった。

### １．１．２　社会主義時代の住宅開発地に対するこれまでの世間的評価と民主化後の変化

戦後、世界中で量産型住宅が建設される中、ソ連や東欧諸国といった当時の社会主義国においても、パネル工法によるプレハブ集合住宅が大量供給され、特定のモジュールによって設計されるなど、住宅水準の統一が目指された。社会主義時代のプレハブ集合住宅（写真 1-1）は、その政治体制の失敗によるイメージの悪さも伴って、特に、画一的である、無個性であるといったイメージがネガティブに語られることも多い[(1)]。また、「社会主義時代の高層集合住宅は将来、他に選択肢のない人々の住宅になるだろう」（Strong ら、1996）[(2)]、「社会的地位の低い人々が社会主義時代からの住宅団地とインナーシティの大部分を占めるだろう」（Sýkora、2007）[(3)] などとも述べられており、社会主義時代の住宅開発地に対する世間的評価はこれまで厳しいものであったといえる。

**写真 1-1　プレハブ集合住宅の立ち並ぶ住宅開発地 ( チェコ共和国プラハ市、2013）**

(1) 例えば、Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon. p.325. に、社会主義時代に「都市周辺部の『灰色』の住宅団地に大量の均質住宅が出現」、といった表現がみられる。また、Zarecor, K. M. (2014). Architecture in Eastern Europe and the Former Soviet Union. Architecture Publications. p.1 には、「東欧と旧ソ連はしばしば灰色、特色のない、そして貧しく建設された戦後の建物と結び付けられる」とある。

(2)Strong. A. L. et al. (1996), Transitions in Land and Housing: Bulgaria, The Czech Republic, and Poland, St. Martin's Press, p.253.

(3)Sýkora, L. (2007). The Czech Case Study - Social Inequalities in Urban Areas and Their Relationships with Competitiveness in the Czech Republic. Social Inequalities in Urban Areas and Globalization: The Case of Central Europe, pp.77-104.

しかし、民主化後もこのような量産型のプレハブ住宅の殆どで構造・室内の状態が十分良好であったことなど[4]から、現在に至るまで旧社会主義国の多くで、社会主義時代に形成されたプレハブ住宅は取り壊されることなく、一定量が現存している。さらに、地域に関わる主体が住環境の更新に関わり、住宅開発地をより魅力ある地域にしようと試みていることが報告されている[5]。また、パネル工法のプレハブ住宅は無個性であるといった表現で語られることも多いが、それらの建ち並ぶ住宅開発地を地域のまとまりとして着目すると、各地域、あるいは 1 つの地域内においてもその住宅棟の階数や配置、公共施設との位置関係、交通アクセス等に差異がみられる可能性があると同時に、時間の経過に伴う所有関係の変化や物理的老朽化に対する改修等の再生事業の有無によって、その住環境が異なってくる可能性が考えられる。

既に開発から数十年が経過している現在、物理的老朽化を迎えつつある一方で、これらの地域は、時間の経過に伴い、地域独自の歴史や魅力を生み出してきたが、その中には、今まで顧みられてこなかった部分が数多く存在していると考えられる。それらを改めて拾い上げ、各地域の特徴を踏まえて今後の地域再生に取り組むことは、重要な意味を持つと考えられる。また、これまで積極的に評価されてこなかった、あるいはマイナスイメージを抱えてきた地域は世界中に存在する。一般的に言っても、そのような住宅開発地がそれまでの過去を引き受けた上で、地域それぞれの歴史や魅力を加えられることにより独自の価値と将来性のある地域として多数の市民に認識されることは、そこに暮らす住民のアイデンティティにも影響を与えるものであり、地域に対する価値の認識が住生活の向上に大きな意味を持つと考えられる。

### １．１．３　旧社会主義国の中のチェコ共和国の位置づけ

本研究では、チェコ共和国のプラハ市、オストラヴァ市の大規模住宅開発地を調査対象地として選定した。旧社会主義国の最も代表的な国としては、その国家規模からソ連が挙げられるが、「（共産主義時代のアパートメントの）現在の状況は、今のところ旧ソビエト連邦が最も悪い[6]」ものである一方で、既往研究においては、旧社会主義諸国の中のチェコ共和国の特徴として、「旧東欧経済圏のなかで最も工業化が進んでいて、市場経済への移行も比較的スムーズに進んでいる[7]」こと、社会主義時代の住宅が現在も比較的良好な状態で残っていること[8]、現在でもチェコ国民の約 3 分の 1 が社会主義時代の住宅に住んでいること[9]、全くない訳ではないが、居住環境における民族差別や移民の問題が比較的

(4)Zarecor, K. M., and Špačková, E. (2012), Czech Paneláks are Disappearing, but the Housing Estates Remain, Architekture & urbanizmus, vol.46, no.3-4, p.293.

(5)Temelová, J., et al. (2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiations, Urban Studies, vol.48, no.9.

⑹Zarecor, K. M. (2014). Architecture in Eastern Europe and the Former Soviet Union. Architecture Publications. p.14.

(7) 小林 富士雄（1995）、チェコとその林業をめぐる話題：分離独立、民営化、森林管理、そして森林衰退、森林科学：日本林学会会報 15、pp.48-54。

(8) 日本貿易振興機構（2011）、チェコの環境に対する市民意識と環境関連政策：http://www.jetro.go.jp/world/europe/reports/07000441（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

(9)Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834.

少ないこと[10][11][12]などが挙げられている。チェコ共和国の住宅開発地の居住者層については、Maier ら (1998)[13] においては、「西欧とは異なり、それら（社会主義時代の住宅）は低所得者層のためにデザインされた住宅ではなく、実際現在（1998 年当時）でも全ての所得者層の居住者がいる」、「1990 年代に、最も所得の高いグループが住宅団地から転出した。しかし、これらの団地のほとんどは、いまだに社会的立場の異なる人々の混ざり合う家となっている[14]」、と述べられている。一方で、指摘されている問題点としては、社会主義時代の住宅開発地に対して Blažek ら (2008)[15] が、中流階級の居住者が社会主義住宅団地のフラットや住宅を改築することに投資するよりも、郊外エリアに引っ越して彼ら自身の家族住宅を得る方を好むことや、社会主義住宅団地の物理的再生の有無によって団地環境の社会的二極化や不平等が生じることを指摘している。

Ouředníček ら (2009)[16] は、共産主義時代に建設された住宅団地の将来的な開発における 2 つの主な脅威として、(1) 人口統計学的な高齢化、(2) 民族コミュニティの集中、を挙げている。さらに、Temelová ら (2011)[17] は、現在のチェコの住宅団地開発に無視できない影響を与える 3 つの一般的なリスクプロセスとして、(1) 裕福で教養のある人々の住宅団地からの大量流出と、それに伴う社会的地位の低下[18]、(2) 住宅団地人口の統計学的な高齢化あるいはより一般的には、住宅団地のアンバランスな人口構成[19]、(3) パネル住宅の技術的・建築的状況の質の低さ、住宅団地の居住環境の質の低さ（学術的、

(10)Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, voal.48, no.9, pp.1811-1834.

(11)Blažek, J., Csank, P., Macešková, M., Sýkorová, I., & Žížalová, P.(2008), Regional Development of Prague, and Application of the Four-Capital Model to the Issue of Urban Sprawl, European Environment, vol.18, no.2, pp.96-109.

(12)Ouředníček, M., & Temelová. J. (2009), Twenty Years After Socialism: The Transformation of Prague's Inner Structure, Studia Universitatis Babes-Bolyai, Sociologia, vol.54, no.1, pp.9-30.

(13)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K.(1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(14)Maier, K. (2005). Czech Housing Estates: Recent Changes and New Challenges. Geographia Polonica, vol.78, no.1, pp.39-51.

(15)Blažek, J., Csank, P., Macešková, M., Sýkorová, I., & Žížalová, P.(2008), Regional Development of Prague, and Application of the Four-Capital Model to the Issue of Urban Sprawl, European Environment, vol.18, no.2, pp.96-109.

(16)Ouředníček, M., & Temelová. J. (2009), Twenty Years After Socialism: The Transformation of Prague's Inner Structure, Studia Universitatis Babes-Bolyai, Sociologia, vol.54, no.1, pp.9-30.

(17)Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834.

(18) この箇所は、Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834. において以下の 3 つの文献が引用されている。

1. Maier, K. (1997) Problems of Housing Estates and the Case of Prague, in: Z. Kovács and R. Wiessner (Eds) Proyesse und Perspektiven der Stadtentwicklung in Ostmitteleuropa, pp.231-243. Passau: L.I.S. Verlag.

2. Musil, J. (2002) Co se děje s českými městy dnes, in: P. Horská, E. Maur and J. Musil (Eds) Zrod velkoměsta: Urbanizace českých zemí a Evropa, pp.298-331. Prague and Litomyšl: Paseka.

3. Ouředníček, M. (2007) Segregace sociálně slabých, Obec & finance, 11, pp.28-29.

(19) この箇所は、Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834. において以下の 2 つの文献が引用されている。

専門的な議論だけでなく、政治家やメディアによっても議論されている）を指摘した上で、将来の住宅団地の持続可能性への疑いが持ち上がったり、団地に関して取り壊しから人間味を加えた再生まで異なる意見が出されたりしている、と述べている。社会主義時代の住宅開発地がどのように居住継続、更新されようとしているかについての研究は少ないが、その中で先行研究としては Temelová ら (2011)[20] のものがあり、社会主義時代の住宅開発地は主に開発当時のプランニングや民主化後の経済活動の相互作用的影響によって環境再生が上手く行われている、上手く行われていない、その中間、の 3 つに分かれるとし、各地域の実態に応じた多様なアプローチが必要で、そのためには個々の地域行政の役割が重要である、と指摘している。

これらのことより、チェコ共和国の住宅開発地は旧社会主義国の中では比較的良好な状態を現在まで維持してきたことに加え、今後の地域再生の在り方についての議論が始まりつつある地域であるといえる。それゆえ、研究の実現可能性の観点から、現在の視点から地域の価値を掘り起こすことが出来る可能性は旧社会主義国の中でも比較的高いと考えられ、またその価値を活かした地域再生の在り方を考える意義のある地域であるといえる。東ドイツも西ドイツの市場経済が導入されたことから、民主化の動きは早かったと考えられるが、職を求める住民の西側への移動などによって、東側の住宅開発地は現在縮小の方向に向かっており、減築などの政策が行われている [21]。その一方で、チェコ共和国では現在でも人口の約 3 分の 1 が社会主義時代に建設された住宅開発地で生活しており、基本的に住宅棟を維持する方向で改修、整備等が行われている。このことから、今後も住宅ストックの一部を担い続けると考えられ、社会主義時代の住宅開発地の長期的な維持・改善が重要な課題であると考えられる。

### １．１．４　チェコ共和国の社会主義時代の住宅開発地に対する現在の研究的関心

これまでの既往研究の中にみられる社会主義時代の住宅開発地の位置づけとしては、都市の住宅ストックの一つとして触れられているもの、社会主義時代の住宅開発地全体の傾向について触れられたもの、住宅開発地内部の物理的老朽化の進行度の比較を扱ったものなどがあるが、これらの研究は一つの住宅開発地の現在までの時間の積み重ねに着目して、開発の経緯や現在地域に関わっている人々

---

1. Maier, K. (1997) Problems of Housing Estates and the Case of Prague, in: Z. Kovács and R. Wiessner (Eds) Proyesse und Perspektiven der Stadtentwicklung in Ostmitteleuropa,pp.231-243. Passau: L.I.S. Verlag.

2. Stojanová, J. and Kalvach, Z (2001) Protection of the Human Rights of Seniors. Czech Helsinki Committee (http://www.helcom.cz/en/view.php?cisloclanku=2003062307)

(20)Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P.(2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834.

(21) 例えば、植村、宇都、水石、榊原、安田 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 上 ) 人口減少先行国ドイツにおける減築の実際と課題 ( 特集 人口減少時代の都市問題 ). 知的資産創造 , 17 巻、8 号 , pp.6-23。植村、宇都 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 中 )2040 年の日本の空家問題、知的資産創造、17 巻、9 号、pp.62-75。植村、宇都 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 下 )2040 年の日本の空家問題への対応策案、知的資産創造、17 巻、10 号、pp.60-77 参照。ドイツでは連邦政府の政策として 2002 年に「東独地域の都市再生」が導入、され、07 年までの 5 年間で 25 億ユーロの補助金を「空き家の減築」や「中心市街地の再生」などに投入し、住宅を物理的に再編したことが述べられている。

の意見について、十分に明らかにしているとは言い難い。しかし、多様化している現状を踏まえて地域の再生を考えるのであれば、社会主義時代の住宅開発地一般についての傾向をとらえるのみでなく、各地域の内情により迫る必要があると考えられる。

また近年、チェコ共和国において社会主義時代の住宅開発地に対する研究的関心が高まりつつある。近年みられる活動としては、2013 年から始まった Paneláci[22] や、2014 年から始まった SÍDLIŠTĚ, JAK DÁL? (HOUSING ESTATES, WHAT'S NEXT?)[23] といった研究プロジェクトあげられ、書籍の出版や講演会、展示会などが行われ始めており、今後更に、社会主義時代の住宅開発地に対する研究的関心の高まりのみならず、一般市民への関心の広がりが期待される。

### 1．2　研究の目的

本研究では、社会主義時代のプレハブ住宅開発地の一つであるチェコ共和国プラハ市 Jižní Město（JM、イジュニームニェスト）に特に着目し、開発当初から現在までの時代の移り変わりの中における地域の歴史を辿りながら、地域に関わる複数主体による居住史を集成することによって、地域を再価値化することを目的とする。このことは、社会主義時代のプレハブ住宅開発地の価値の現在の視点からの見直しと、今後の地域再生の在り方についての手がかりに繋がることを踏まえて、研究の課題を以下の様に設定した。

〈課題 1〉プラハ 11 区 Jižní Město の社会的位置づけから、Jižní Město に対するこれまでのイメージとその要因を明らかにする
〈課題 2〉Jižní Město の開発計画と現在の価値の関係性から、Jižní Město における価値の積み重ねと価値付けの理由を明らかにする
〈課題 3〉Jižní Město に加えてオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区の事例にみる社会主義時代のプレハブ住宅開発地の現状の多様性を踏まえて、地域の特徴に応じた今後の社会主義時代のプレハブ住宅開発地の多様な在り方の可能性について考察する

本研究の調査対象地を図 1-1 に、研究の課題と論文の構成の対応を図 1-2 に示す。課題に取り組むための調査として、まず、チェコ共和国プラハ市における社会主義時代の住宅開発地についての基本情報をまとめ、行政の取り組みについて明らかにする（第 2 章）。次に、社会主義時代にチェコ国内で発行された建築分野の公式機関誌の記事を中心に読み解くことで、住宅開発地の開発の経緯と、その開発に対する当時の見解を明らかにする（第 3 章）。さらに、JM 住民へのインタビューを主に用いて、現在までに蓄積された地域の価値を示す（第 4 章）（図 1-3）。さらに、各住宅開発地の特徴をより明確にするために、開発の背景が異なる事例としてオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区を扱う（第 5 章）（図 1-4）。〈課題 1〉については、第 2 章、第 3 章より得られた結果をもとに、社会主義時代の住宅開発地の、都市における位置づけを明らかにする。〈課題 2〉では、第 3 章、第 4 章より得られた結果をもとに、社会主義時代の開発計画と現在の地域の価値の関係性を明らかにし、価値の理由と時間軸を示す。

(22)http://panelaci.cz/ （最終閲覧日 2016 年 10 月 21 日）
(23)http://www.sidlistejakdal.cz/en/（最終閲覧日 2016 年 10 月 21 日）

最後に〈課題３〉において、第４章と第５章より得られた異なる背景を持つ社会主義時代の住宅開発地との現在の価値の生じ方の違いを踏まえながら、開発当初からそれぞれに積み重ねられてきた地域の特徴を活かした、今後の地域再生のあり方について考察する。

### １．３　本研究の独自性

本研究の独自性は以下の 3 点である。これらの独自性は課題１～３に対しての調査の方法に総括的に関係するものである。

**(1) 調査対象地を特定の住宅開発地に定め、地域関係者の口述を中心に扱うことで、当事者レベルでの具体性の高い地域の価値を明らかにする**

既往研究においては、国、市レベルでの社会主義時代の住宅開発地の扱いや、複数地域のそれぞれの特色の紹介が行われているが、各住宅開発地の内情を十分にとらえているとは言い難い。しかし、今後住宅開発地の将来を考えていく上では、社会主義時代の住宅開発地に対する一般的な捉え方を超えて、それぞれの住宅開発地の内情により迫ることが重要であると考えられる。そのため、本研究では特定の調査対象地を定め、地域関係者の口述を中心に扱うことで、当事者レベルでの、より具体性の高い地域の価値を明らかにするための調査を行った。過去の記憶の口述に関しては、記憶が美化されたり、反対に実際よりも悪く思い出されたりといったことが考えられるが、本研究ではその様な記憶のされ方自体も現在の価値の一部と捉えることとする。本研究で扱う地域はチェコ共和国プラハ市 Jižní Město（JM）とオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区と定めたが、調査対象地の選定の手順については、調査の方法と合わせて第２章以降で詳述する。

**(2) 新規資料や口述データ等、独自性・資料性の高いデータから調査対象地の価値を捉える**

本研究で扱う地域関係主体として、特に社会主義時代の開発主体である国営企業の専門家、民主化後の区行政、行政関連企業と住民がある。社会主義時代のことに関しては特に公式機関誌の記事から

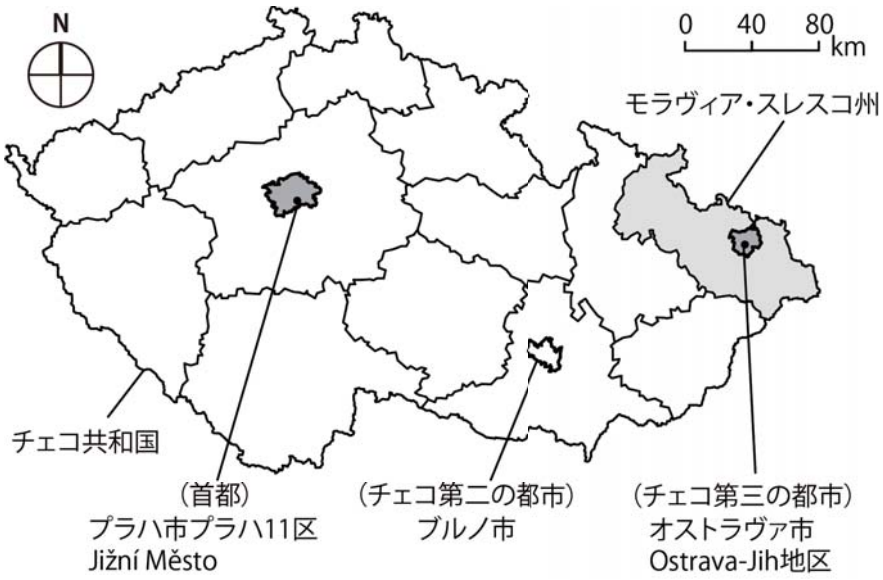



**図 1-1　本研究の調査対象地（Jižní Město、Ostrava-Jih 地区）**

**論文の構成と各章の関係**

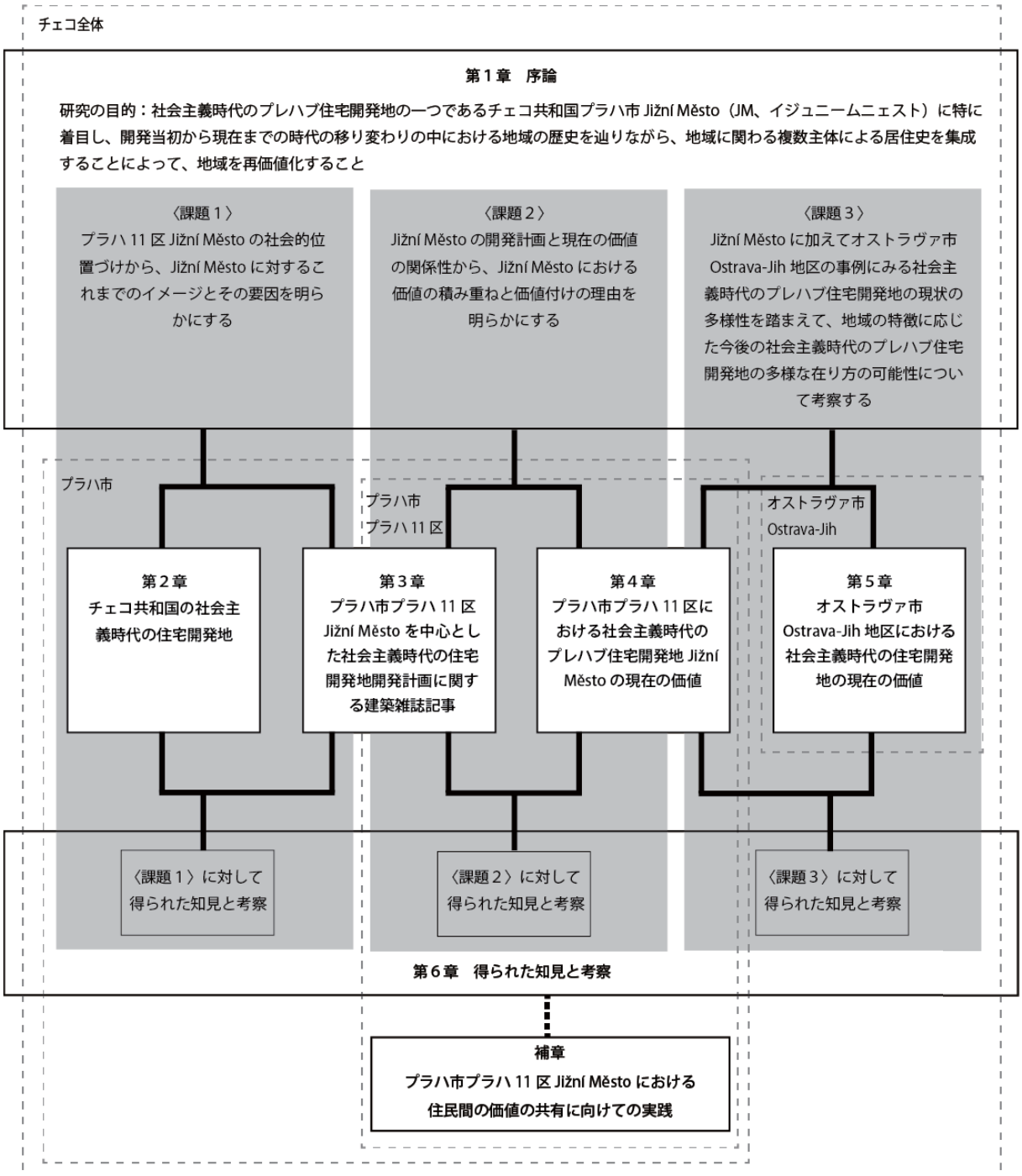
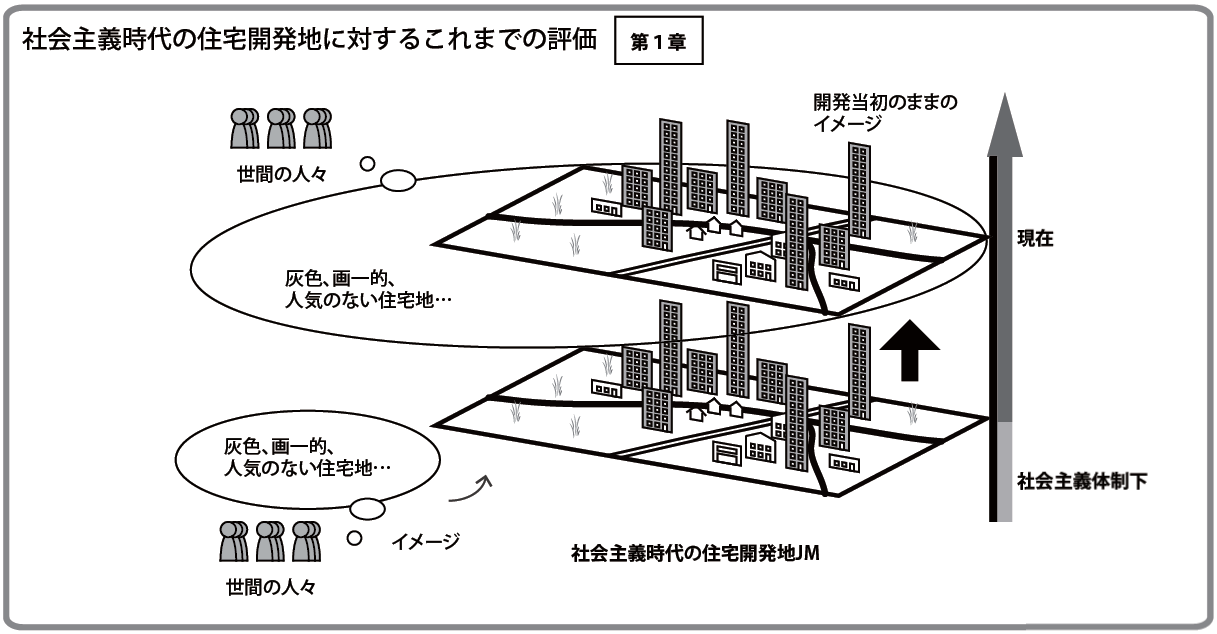



図 1-2　論文の構成



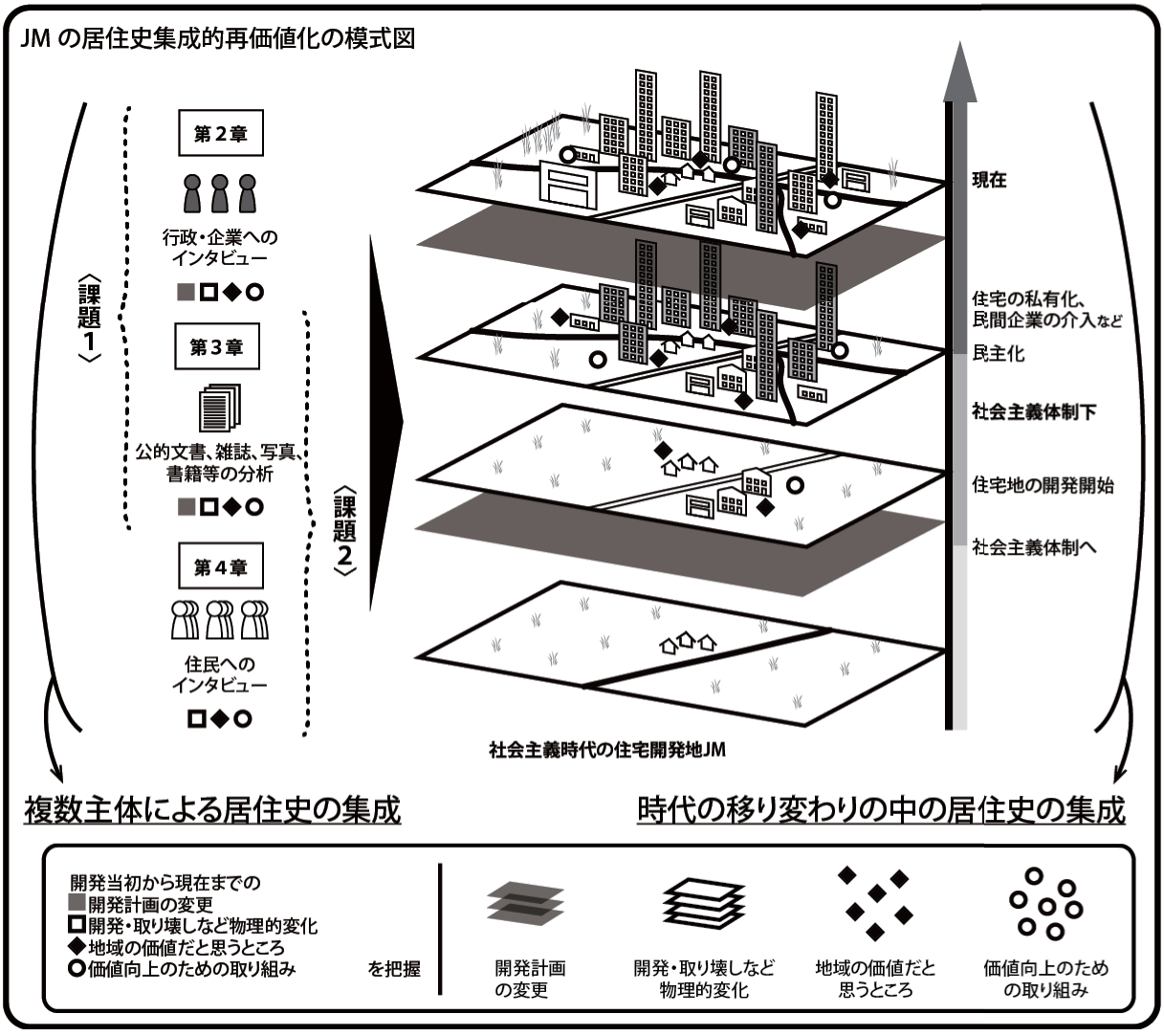




図 1-3　地域の価値の蓄積を明らかにする方法の模式図

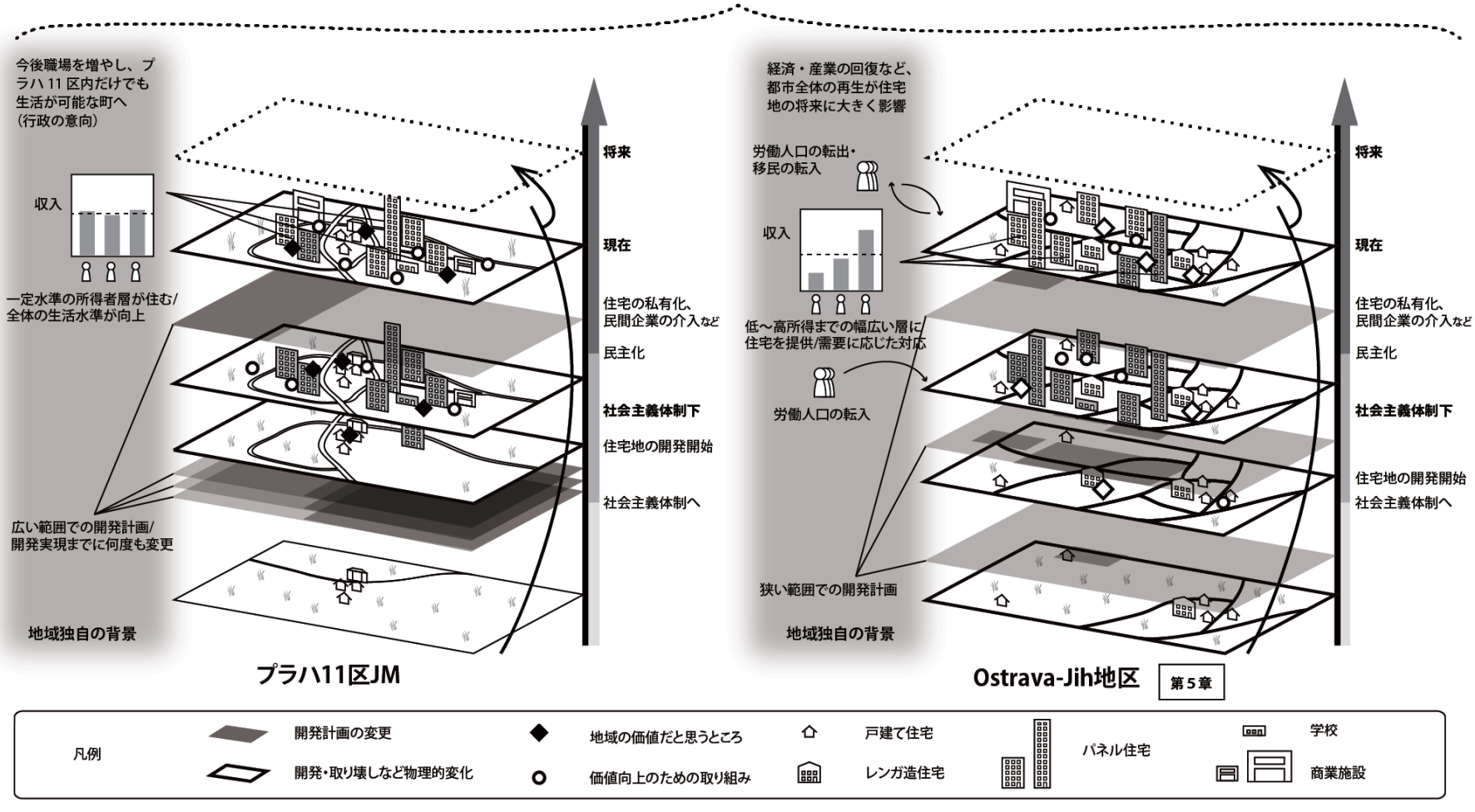



図 1-4　2 つの地域の現状の違いを踏まえた地域再生の考え方の模式図

開発の意図を読み取ったが、ここで使用した公式機関誌はアーカイブに未整理のまま保管されていた資料であり、その内容を明らかにすることには資料的価値があるといえる。また、住民へのインタビューについても、チェコ共和国においては一般的ではない調査である。そのため、知り合いを介さないインタビュー依頼は断られる可能性が高く、調査関係者に知り合いを紹介してもらうことでインタビューが実現した。チェコ国内の研究者によってインタビュー調査が実施されることが少なく、かつ地域関係者の協力が必要なインタビューを実施し、社会主義時代から居住し続けてきた住民、幼少期に社会主義時代を経験した住民、民主化後に居住を始めた住民など、様々な立場の住民の意見を明らかにしたことには、重要な意義があると考える。複数の地域関係主体の視点から住宅開発地の価値を多角的に明らかにすることで、一面的な評価を防ぐと同時に、各データから得られた情報を客観的に補足しあうことが可能であり、住宅開発地の将来を建設的に考えるための手がかりを増やすことに結びつくと考えている。

**(3) 政治体制の転換をまたぐ居住史について、時代背景を連続的に扱う**

本研究では、社会主義時代に開発された住宅開発地の現在の住民にインタビューを行った。政治体制の転換によって地域に関わる行政主体が変化した一方で、住民の中には社会主義時代から対象の住宅開発地に住み続けている人々がおり、その様な住民の口述を扱うことで、政治体制の転換をまたぐ居住史を扱うことが可能である。ただし、インタビュー調査はインタビュイーの主観を色濃く反映するものであり、他者と政治的な社会背景が関わる話をすることに対して心理的抵抗がある可能性を配慮する必要がある。筆者はチェコの政治体制の外にいることで、中立的な立場をとることができ、そのことでインタビュイーの心理的抵抗を軽減できる可能性が考えられる。インタビュイーが自身の意見を抵抗なく語るということは、住宅開発地の全時間の積み重ねの中で地域の価値をとらえるという研究の重要な部分に対して、重要な意味があると考えられる。また、異なる文化圏からの視点で見ることで、チェコでは当たり前のこととして見落としてしまうような点について着目し、そのことに対するインタビュイーの意見を引き出すことが出来ると考えられる。その一方で、言語的、文化的な違いはインタビュイーの話の理解を困難にもする。そのため、インタビューは日本・チェコ両方の文化に詳しいチェコ語 - 日本語通訳者を介して行うと同時に、筆者自身もチェコ語、チェコの文化や歴史について積極的に学ぶ様努めた。

## １．４　本論文で使用する用語の概念の設定

・ドキュメント

本論文では公式に作成された文書、地図、計画図等をまとめてドキュメントとよぶ。本研究で特に分析に使用したドキュメントを表 1-1 に示す。

・住宅開発地

本論文では住宅供給を目的としてまとまった規模で計画的に開発された地域を住宅開発地とよぶ。

・住宅開発地における価値

広辞苑（第六版）によれば、「価値」は以下の様に定義されている。

①物事の役に立つ性質･程度。経済学では商品は使用価値と交換価値とをもつとされる。ねうち。効用。②（哲）「よい」といわれる性質。「わるい」といわれる性質は反価値。広義では価値と反価値とを含めて価値という。㋐人間の好悪の対象になる性質。㋑個人の好悪とは無関係に、誰もが「よい」として承認すべき普遍的な性質。真・善・美など。

また、岡 (2016)[24] は、「居住地を選択するための指標として安全性、保健性、利便性、快適性、持続可能性の 5 つの住環境指標を用いてきた。これらの指標は、多かれ少なかれ地価に反映し、誰にも共通な住環境価値を示すものとして、受け入れられているかのように見えていた。5 つのチェックリストで高いポイントを得ることのできる場所の地価が高くなり、その場所は人々の憧れとして人気が集中し、さらにその場所の価値が上がった。」、「その場所に住むことにより、地価に結びつく住環境価値ではない、何か新しい価値観を見出している。さらに、その場所を自らによって居心地のよい、機嫌良く暮らすことのできるような空間とする活動が行われているところがある。」とある他、内田 (2016)[25] は、「経済的側面から見た持続価値については、やはり地価の上昇という指標がある。（中略）しかし、まちとしてはそれで良いわけが無い。最初に価値を作るための「文化」の役割を述べたように、我々は経済的側面からの判断を「超えた」持続価値とはなにかを考えなくてはならないのである。価値には「使用価値」「交換価値」があるとすると、ここで言えば「使用価値」の持続可能性こそが必要となるだろう。持続する価値とは地価の上昇からキャピタル・ゲインを求めるような意味ではなく、その土地に安心して住み続けられ、営みを続けられることによって形成される価値である。」と述べている。

**表 1-1　本研究で分析に使用したドキュメント一覧**

| | 名称 | 入手場所 |
|---|---|---|
| プラハ市 | プラハ市航空写真 | http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/ |
| | Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť , 2001 | プラハ市役所 |
| | プラハ市地籍図 | http://nahlizenidokn.cuzk.cz/ |
| | Jižní Městoの詳細な地域計画図（1968年） | プラハ11区役所 |
| | 1980年代のCentrální Parkの写真 | プラハ11区役所 |
| | 建築誌　ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR | IPR PRAHA (Institut plánování a rozvoje hl. m. Prahy/ Prague Institute of Planning and Development)アーカイブ |
| オストラヴァ市 | Hruška, L., Kukuliač, P. a kol.(2011). SOCIOEKONOMICKÝ ATLAS OSTRAVY, ACCENDO-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s. | 行政関連企業PROCES |
| | オストラヴァ市の地域計画図（1926、1963年） | オストラヴァ市アーカイブ |
| | オストラヴァ市の地域計画図（2014年） | https://uzemniplan.ostrava.cz/ |
| | Ostrava-Jih地区の地図（年不詳） | オストラヴァ市アーカイブ |
| | Ostrava-Jih地区の開発計画図(一部地域のみ) | オストラヴァ市アーカイブ |

(24) 岡絵理子 (2016)、新しい住環境価値の生まれ方、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.3-4。

(25) 内田奈芳美 (2016)、経済的側面を超えた、地方都市の持続価値、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.13-16。

これらの定義、議論をまとめると、住宅開発地の価値は、交換価値、すなわち地価に反映される安全性、保健性、利便性、快適性、持続可能性といった住環境指標で示されるものと、経済的には測ることのできない使用価値に分けられる。

更に、高見沢 (2016)[26] は住環境価値について、日本の郊外住宅地や団地などが、集団的類似価値観・類似家族を受け入れる類似環境の集合体として供給されたと述べられている。また、「その過程（＝戦後の高度成長期、筆者注）での住環境価値は画一的だったが、その後人々に余裕ができ、生活に対する価値観や住環境への価値観が多様化したととらえておく。」とした上で、「集団的な価値観が一定の範囲におさまっていないと持続的に「良い住環境」を維持できるとはいえない。」とある。高鍋 (2016)[27] は、「住環境価値とは、必ずしも経済的な資産価値とイコールにはならない。ハードソフトの組み合わせでできる地域社会の価値は、人により捉え方が異なり、各地域で定義しないとそれを共有するのは難しい。」と述べている。

高見沢は日本の郊外住宅地と団地が類似環境の集合体として供給されたことに触れているが、このことは、本研究の調査対象地であるチェコ共和国の社会主義時代の住宅開発地にも少なからず当てはまることであると考えられる。社会主義時代の集合住宅は都市で働く労働者に住宅を大量かつ素早く供給するものであり、企業の労働者とその家族は住む場所を国から指定されるなど、社会主義時代の住宅開発地には類似した職業分野・労働年齢層の労働者世帯の集合体が存在していたと考えらえる。その上で、その後の民主化による思想の自由化を踏まえれば、チェコ共和国のプレハブ集合住宅開発地においても現在、価値観の多様化が起こっていると考えられよう。

以上の議論を踏まえると、政治体制の転換を経験した地域を対象として、住宅開発地の使用価値、すなわち地域の居心地の良さや継続されてきた営みといったものに注意を払うことは、政治体制を超えて、人々一人ひとりが捉えた住宅開発地の価値に注意を払うことであると言え、現在、住宅開発地の価値をみるには、経済的数字では測ることのできない、多様化した価値についてこそ注意を払う意義があると考える。そのため、本研究では地域関係者へのインタビューを主に使用することで、経済的指標には表れない、実際に地域と関わる中で価値として認識されているものについて明らかにすることとする。

なお、地域価値の分類については、田村 (1999)[28] がまちづくりの視点から地域価値の要素を 12 の項目（気象、自然、人文的自然風景、構築物、ストリート・ファニチャーと移動物、イベント、景観、雰囲気、人間、飲食物、特産品・地域産業、物語・事件、独自の方法）に分類した上で、地域価値の大分類を (1) 風土的価値 (2) 歴史的価値 (3) 人の営み的価値の 3 つに定めている。また、青山ら (2003)[29] は、

(26) 高見沢実 (2016)、住環境価値の捉え方と都市計画制度、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.5-8。
(27) 高鍋剛 (2016)、居住地の物的環境と地域社会の持続可能性、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.11-12。
(28) 田村明 (1999)、まちづくりの実践、岩波新書。
(29) 青山吉隆、中川大、松中亮治 (2003)、都市アメニティの経済学　環境の価値を測る、学芸出版社。

都市アメニティを「都市空間が生活の質（Quality of Life）に及ぼす価値」と定義し、都市空間の美しさ、快適さ、安全さ、魅力などを挙げた上で、その分類を行っている。そして、政策決定を支援するため、また政策代替案の是非を判断し、代替案の優劣を比較するための情報を得るための、アメニティの価値の測り方について述べている。

・再価値化

2012 年度日本建築学会大会（東海）では「住環境の再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」と題して都市計画部門パネルディスカッションが行われている。その中で野澤康はまとめとして再価値化について「新しい住環境の価値、可能性の発見」、「住環境価値の再定義、社会的・地域的背景の解明」、「 地域固有の住環境の再価値化（価値の顕在化）」と述べている [(30)]。また同パネルディスカッションにおいて田中友章は、「住環境の再価値化」を「減少価値の分担による住環境の保全」と「増加価値の集合化による住環境の創出」と定義し、現存する価値の消滅・減退を抑制すること、新たに価値を創出することを再価値化としている [(31)]。寺川政司 は「まちに生じている歪みと特長を再価値化してまちの再生を促す」、「市場評価の低い土地の持つ潜在的価値を向上させることで、まちの再価値化が推進（または乱開発）される可能性がある」と述べている [(32)]。

これらの議論を踏まえ、本研究では、これまでも評価されていた既存の対象を価値として再認識すること、これまでは評価されていなかった既存の対象に価値を見出すこと、これまでは存在していなかった対象を価値のあるものとして創出すること、の 3 つを合わせて再価値化と定義する。

・居住史

本研究では、居住、すなわち「住むこと・すまい」の歴史を居住史と呼ぶ。この中には、地域で暮らしてきた住民それぞれの居住史をはじめとして、各地域関係者の語るそれぞれの住宅開発地の居住史も含まれる。

・居住史集成的再価値化

本研究では、開発当初から現在までの時代の移り変わりの中における地域の歴史を辿りながら、地域に関わる複数主体による居住史を集成することによって、地域を再価値化することを居住史集成的再価値化と呼ぶこととする。ただし、居住史集成的再価値化とは、集成された地域の価値を一つの意見として統一することを意図したものではない。本研究で行う調査によって得られた資料や関係者へのインタビューには限りがあり、示された地域の価値が地域関係者の総意であるとは言えない。しかし、インタビュイー一人ひとりの意見に注意を向けることで、総意としてまとめられた時には省略されてしまうような、個人的な思いを拾い上げることが出来る。それらを含めて、様々な時代における、様々

(30)「住環境の再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」まとめ：http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/indexho/4.Ysushi%20Nozawa.pdf（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

(31)「住環境の再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」田中 友章：http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/indexho/2-3.Tomoaki%20Tanaka.pdf（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

(32) 寺川 政司（2012）、「ハウジング・まちづくり 居場所を紡ぐコレクティブタウンを推進する『リノベーション特区』」、西成特区構想有識者座談会報告書第 19 章。

な主体による多様な価値の存在を示すことで、今後の地域再生に活かす手がかりを広げることを意図している。

### 1．5　本論文で使用する用語の表記

・チェコ語の表記

地域名、人名、公式文書名、専門用語などについては状況に応じてチェコ語表記・英語表記・日本語表記を使い分ける。日本においてカタカナ表記が定着しているものはカタカナ表記を使用する。チェコ共和国独自の制度、市よりも細分化された地域区分、地名には原則チェコ語を用いる。既往研究において英語表記が用いられている語に関しては既往研究の表記に従う。

・チェコスロバキア共和国、チェコスロバキア社会主義共和国、チェコ共和国

本研究の調査対象地域の開発の歴史はチェコスロバキア共和国、チェコスロバキア社会主義共和国、チェコ共和国時代をまたぐものであるが、全体の流れを扱う場合、現在の国名に従いチェコ共和国またはチェコと表記する。既往研究のレビューにおいては各文献の表記に従う。

・プラハ市

本研究では特に 1970 年以降のプラハ市について扱うが、本論文中で図示するプラハ市境界は 2016 年時点のもので統一する。プラハ市は 1918 年から 92 年まではチェコスロヴァキアの首都であったが、1993 年チェコスロバキアがチェコ共和国とスロバキア共和国に分離し、93 年以降はチェコ共和国の首都となっている。

・社会主義時代

チェコ共和国の 1948 年から 89 年までの社会体制について、既往研究においては社会主義あるいは共産主義という表現が見られるが、本論文では社会主義という表現を用いることとする。ただし、既往研究の引用においては引用元の表現に従う。

# 第２章　チェコ共和国の社会主義時代の住宅開発地

## ２．１　既往研究にみるチェコ共和国の政治体制転換時における住宅開発地に関わる制度の変化

チェコ共和国の基本的な社会背景と、社会主義時代の住宅開発地に関する政策を把握するため、既往研究論文、文献をもとに社会主義体制転換時の土地・財産の国有化、社会主義体制下における住宅開発地、社会主義体制終結後の財産の返還と私有化・民営化についてまとめる。

### ２．１．１　社会主義体制転換時の土地・財産の国有化

表 2-1 はチェコ共和国の 1600 年代からの社会の動きと土地利用に関する政策についてまとめた年表である。Maier ら (1998)[(1)] によると、「1959 年に住宅と土地の国有化について最初の処置がとられたが、この時住宅協同組合による住宅建設は法律により認められていた」とある。Sýkora(1995)[(2)] によれば、「全ての土地は国有化され、土地の所有権はいわゆる個人使用権に変わった [(3)]。ほとんどの住宅（単一家族の小住宅は除く）もまた国有化され、住宅ストックの管理と新築の責任は国家が負うことになった」。Maier ら (1998)[(4)] には、住宅の返還が行われた 1900 年時点において、「単一家族住宅は全住宅ストックの 12％あり、それらのほぼ全ては私有のままであった」とある。

これらのことから、社会主義体制下の住宅の所有関係を簡単にまとめると、単一家族住宅のほとんどが私有のままであったことを除いては、既存住宅は国有化された。また、社会主義体制下の新築住宅については国家が責任を負ったが、住宅協同組合による住宅の建設も認められていた。

また、土地の国有化は住宅地域だけでなく森林地域についても起こっており、丸毛 (1951)[(5)] によれば、チェコスロヴァキア共和国は 1948 年に社会主義体制となり、同年 3 月 21 日、議会によって地主的土地所有の完全廃棄を期する新土地改革法が採択された。また、小林 (1951)[(6)] には「第二次大戦後 1946 年に始まる社会主義国有化政策により、先ず旧貴族の大規模所有林地と教会所有林はすべて国有となった。その後、自治体所有林、小規模私有林も 1960 年頃には殆どが国有林に編入され、1989 年社会主義政権の崩壊時には 95% を国有林が占め」とあることから、森林についてはほとんどが国有化されたことが分かる。

---

(1)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K.(1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(2)Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and S. McGreal, eds., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.

(3) この箇所は、Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and S. McGreal, eds., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon. において以下の文献が引用されている。

Michalovic, P. (1992) Housing in Czechoslovakia: Past and Present Problems, in B. Turner, J. Hegedüs and I. Tosics (Eds), The Reform of Housing in Eastern Europe and the Soviet Union, Routledge, London, 46-61.

(4)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K.(1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(5) 丸毛 忍（1951）、チェコスロヴァキヤの土地改革、農業総合研究、5 巻、2 号、pp. 277-289。

(6) 小林 富士雄 (1995)、チェコとその林業をめぐる話題 : 分離独立 , 民営化 , 森林管理 , そして森林衰退、森林科学 : 日本林学会会、15 号、pp. 48-54。

**表 2-1　チェコ共和国の社会の動きと土地利用に関する政策**

| 年 | 社会の動き | 土地利用に関する政策 |
|---|---|---|
| 1620 | オーストリア帝国ハプスブルグ家による支配(g) | |
| 1886 | | 4月　プラハ市建築条例(9) |
| 1910 | | 12月　帝国住宅基金(9) |
| 1917 | | 1月　借家人保護法(9) |
| 1918 | 第一次世界大戦後、チェコスロバキア共和国成立(g) | |
| 1919 | | 5月　地主の大所有地の収用に関する法令(1) |
| 1938 | ミュンヘン協定により、チェコスロバキア共和国崩壊(g) | |
| 1939 | ボヘミア・モラビア地方はドイツの保護領に(g) | 建築進歩協会ブロック(BAPS)が組織される(4) |
| 1945 | 第二次世界大戦後、独立回復(g) | 5,6,7月　土地改革(1) |
| 1946 | | ドイツ系住民の追放、チェコ人・スロヴァキア人の入植計画(1) |
| | | 4月　建設復興法、戦災復興の家屋に対する税免除法(4) |
| | | 7月　特別住宅供給法(4) |
| | | 7月　二カ年計画のモデル団地建設を発表（クラドノ、ズリーン、オストラヴァ）(4) |
| 1947 | | 国民経済復興二カ年計画実施(1946/10公布)(1) |
| | | 9月　家族住宅接収法(4) |
| 1948 | 共産主義体制確立(g) | 3月 新土地改革法(農地及び森林財産の長期調整法)(1) |
| 1949 | | 都市計画法Act.No.280制定(8) |
| 1968 | プラハの春とチェコ事件(g) | |
| 1989 | 「ビロード革命」により共産主義体制終結(g) | |
| 1991 | | 小規模財産(住宅、農場など)の返還(5) |
| | | 農地法成立(3) |
| 1993 | スロバキアと平和裡に分離・独立 | |
| 2004 | EU加盟(g) | |

**参考文献**


(g)　外務省HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/czech/data.html#section1（最終閲覧日2016年12月12日）

(1)　丸毛 忍 (1951)、チェコスロヴァキヤの土地改革、農業総合研究、5巻、2号、pp. 277-289。

(2)　佐藤 雪野 (2011)、日本から見た戦間期チェコスロヴァキア土地改革、国際文化研究科論集、19巻、pp.127-133。

(3)　小林 富士雄 (1995)、チェコとその林業をめぐる話題：分離独立，民営化，森林管理，そして森林衰退(<特集>世界の林業は今(3))．森林科学：日本林学会会報、15巻、pp.48-54。

(4)　森下 嘉之(2012)、チェコスロヴァキア第三共和国(1945-1948年)期における社会政策の変容：住宅政策の分析を中心に、スラヴ研究、59巻、pp.93-114。

(5)　牧野 勝都 (2000)、中欧諸国におけるコーポレート・ガバナンスの課題、日本経営教育学会全国研究大会研究報告集、41号。

(6)　芦川 智 (2012)、チェコ共和国における民主化と都市空間の変化-民主化20年後の東欧-、學苑、861号、pp.2-14。

(7)　赤川 元章 (2001)、チェコスロバキアにおける国有企業の民営化プロセスについて、三田商学研究、43巻、6号、pp.1-28。

(8)　黒川 紀章 (1959)、チェコスロバキアの都市計画、国際建築、26巻、7号。

(9)　森下 嘉之 (2008)、戦間期プラハにおける住宅政策-チェコスロヴァキア共和国における社会政策と社会主義諸政党-、社会経済史学、74巻、1号、pp.23-40。

### ２．１．２　社会主義体制下におけるプラハ市の住宅開発地

Maier ら (1998)[7] によれば、都市のコア部分と都心部分は 1930 年代の開発によって既に建築スペースが埋め尽くされており、それらに隣接する地域では比較的分離した郊外市街地と家族住宅で構成された田園都市が特徴となっていた。1950 年代以降の社会主義住宅団地はこの地域で行われたが、大規模な建築プログラムについては、開発活動は外部へと移っていった。社会主義体制下のプラハ市では、共産党の「Complex Housing Construction Programme」のもとで 54 の住宅団地が建設された [8]。

また、Sýkora. L. (1995)[9] には「1970 年代から 1980 年代にかけて、いわゆるノース、サウス、サウスウエストタウン（巨大住宅団地で、各団地は約 10 万人の人々が居住できる）がプラハ外周部の特徴的な景色をつくった」、「大規模プロジェクトは古い住宅ストックやインフラを再生・再構築させるよりも利益になることが分かった。結果として、都市周辺の『灰色』の住宅団地の中に大量の均質住宅が出現し、それと同時に都心部の住宅ストックの補修は完全に放置された」、ともあり、社会主義時代の住宅開発がプラハ市外周部の景観を大きく変えただけでなく、利益重視の開発が優先されたことにより、都心部の住宅ストックにも間接的に影響を与えていたことがうかがえた。

Bren (2002)[10] には、「1980 年代初期に the Czech Institute of Interior Design が行った分析によると、プラハの世帯の 31％が chata[11] を所有しており、25％が友人や親戚の chata へ出入りし、5-10％が彼らの職場に属する chata を使用している。平均して人々は年間 100 ～ 120 日を、彼らの田舎の避難所で過ごしている [12]」とあり、プラハ市民の休日の住まいとして chata の存在が指摘されている。

### ２．１．３　社会主義体制終結後の財産の返還と私有化・民営化

チェコスロヴァキア共和国は 1989 年、ビロード革命によって社会主義体制が終結する。その後、土地や財産に関する返還、私有化・民営化が始まった。既往文献には「住宅の返還は 1990 年に始まり、それはプラハの住宅の全戸数の約 15％に関係した [13]」、「プラハ 1 区ではほぼ 70%、プラハ 3 区、5 区

(7)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(8)Ouředníček, M., & Temelová. J. (2009), Twenty Years After Socialism: The Transformation of Prague's Inner Structure, Studia Universitatis Babes-Bolyai, Sociologia, vol.54, no.1, pp.9-30. なお、Lux. M. (ad.) (2003), Housing Policy: An End Or a New Beginning?, Open Society Institute, pp.47-116. に掲載されている Sýkora, L. (2003). Between the State and the Market: Local Government and Housing in the Czech Republic, p.62 によれば、このプログラムは 1990 年末に終了している。

(9)Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon. なお、Norh Town に含まれる地域は明確には定められていないが、Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT. では、Norh Town は Prosek、Kobylisy、Ďáblice、Bohnice-Čimice 地域をまとめたものとしている。

(10)Bren, P. (2002), Weekend Getaways: The Chata, the Tramp, and the Politics of Private Life in Post-1968 Czechoslovakia. In Crowley D., Reid E. S. (Eds.) Socialist Spaces: Sites of Everyday Life in the Eastern Bloc, Oxford.

(11) 日本語では別荘、セカンドハウス、小屋などと訳される。一般に郊外にあり、chata の周りには家庭菜園などが作られる。

(12) この箇所は、Bren, P. (2002). In Crowley D., Reid E. S. (Eds.), Weekend getaways: The chata, the tramp, and the politics of private life in post-1968 czechoslovakia. New York: Oxford. において、Práce, 5 January 1989. p.3 が引用されている。

(13)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

では約 50-60% の住宅ストックが返還された[14]」とある。社会主義時代に建設された住宅の私有化については「1991 年に始まり、国が国の所有するストックを自治体に移し、私有化手続きの基本的枠組みを準備した。市営住宅は利子なし、10 年分割払いの低料金で居住者に提供された。（中略）もし居住者が購入に興味が無ければ住宅は他の人に販売されるが、その際は建物の物理的状態をもとに計算した正規価格となる。（中略）1994 年から建物全体だけでなく、個々の住戸についても一定の状況下において販売されるようになった[15]」とあり、Lux ら（2010）によれば、「これらのアパートの大部分は、各自治体によってその価格状況や売却スピードは多様であるにせよ、入居者に低価格で売却された。チェコ共和国では、所有権が自治体に移されたアパートの 3 分の 2 以上が、2006 年末までに売却された[16]」とある。

このことから、社会主義時代に建設されたプレハブ集合住宅は、民主化に際して所有を自治体に移した後、更にある程度の割合で住戸が個人所有へと移行していったことが分かる。

住宅管理に関しては「公共サービスの民営化に伴って、公的な住宅ストックの責任を負っていた Housing Services Corporations は民営の不動産仲介業者に取って代わられた[17]」とあり、建築物の管理体制が社会体制の変化から影響を受けていたことが分かる。

農地に関しては、「1991 年にいわゆる『農地法』が成立し、土地など農林業を営むための個人財産を返還する方法が定められた[18]」。

また、企業の民営化については、1990 年秋に、議会によって民営化に関して財産返還法（Restitution Act）、小規模民営化に関する法律（Small-Scale Privatization Act）の 2 つの法律が承認された、と述べられている。財産返還法は、「最後の国有化時（1959 年に実施）に補償なしに収用された小規模資産を旧所有者およびその相続人へ実質資産の形で返還することを意図するもの」、小規模民営化に関する法律は「前述の法律（財産返還法のこと・筆者注）対象外の小規模資産（新たに創出されたもの・旧所有者の返還要求なきもの）の『国有財産』（Staatseigentum）を『事物』(Sachen) の自然人および法人へ

(14) この箇所は、Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and S. McGreal, eds., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon. において以下の文献が引用されている。

Sýkora, L. and Šimoníčková, I. (1993) From Totalitarian Urban Economy Managerialism to Liberalized Urban Property Market: Prague's Transformations in Early 1990s. Paper Presented at the International Workshop on Problems of Development and Administration of Prague, Prague, Central European University Foundation, 26-27 April 1993.

(15)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K.(1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(16) この箇所は、Lux, M., & Sunega, P. (2010). The Future of Housing Systems After the Transition - The Case of the Czech Republic. Communist and Post-Communist Studies, vol.43, pp.221-231. において、Kubečka, J., Chlupová, D., Polešáková, N., Rohrerová, L. (2008). Výsledky Dotazníkové Akce o Změnách v Obecním Bytovém Fondu ve Vybranách Městech (2006, 2007) が引用されている。

(17)Ludek,S. (1995), Prague., In Berry, J., and S. McGreal, eds., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.

(18) 小林 富士雄（1995）、チェコとその林業をめぐる話題：分離独立、民営化、森林管理、そして森林衰退、森林科学：日本林学会会報 15、pp.48-54。

移譲という方法で『民営化』を実施するものであった[19]」。さらに Sýkora(1995)[20] によれば、都市部では小規模な私有化と大規模な私有化が行われた。公売により、国有の小規模ビジネス（店、レストラン、小規模企業）を民間部門に売却することを目的とした小規模な私有化はプラハ市においては 1991 年 1 月から開始され、1993 年末に終結したが、1994 年時点では大規模私有化はまだ初期段階であった。

また、Sýkora ら（2007）[21] によれば、1990 年代後半からは海外からの直接投資が急速に成長し、新しい経済活動が行われるようになった。「プラハ市最初の郊外ショッピングセンターは 1990 年代半ば頃にオープンし」、「1998 年には、ハイパーマーケットが第一に買い物をする場所であったチェコ人は 4% であったのに対し、2 年後の 2000 年にはチェコ人は 20%、プラハ市民は 25% になった」とある。さらに、周辺部の小売店については、「住宅地域内にある食品スーパーマーケットの既存のネットワークは最終的に大部分が強力な国際チェーン店によって民営化された」とある。

### ２．１．４　社会主義時代のパネル工法によるプレハブ集合住宅「パネラーク」

社会主義時代の建築物のプレハブ化については、烏田（1972）[22] によれば、「極く大まかにいうと、住宅やホテル病院など、比較的小さなスペースに仕切られた空間が並ぶような建物には、コンクリート耐力壁によるプレハブが用いられ、事務所や工場その他一般な建築のように、大きい空間を要し、平面計画の変化の多いものは、柱に荷重を持たせるプレハブが向いている。前者はラージパネルシステム、後者はフレームシステム、あるいはオープンシステム、スチルトンシステムなどと呼ばれている。」として、ラージパネルシステムの例にチェコスロバキアの T08B を挙げている。写真 2-1 は、チェコ共和国プラハ市におけるプレハブ住宅建設の様子である。

**写真 2-1　チェコ共和国プラハ市プラハ 11 区でのパネル住宅建設の様子**
**（出典：Městská část Praha11 (2010), Praha11 Obrazem）**

(19)赤川 元章 (2001)、チェコスロバキアにおける国有企業の民営化プロセスについて、三田商学研究、43 巻、6 号、pp. 1-28。

(20)Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and S. McGreal, eds., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.

(21)Sýkora, L. & Ouředníček, M. (2007), Sprawling Post-Communist Metropolis: Commercial and Residential Suburbanisation in Prague and Brno, the Czech Republic., Employment Deconcentration in European Metropolitan Areas the GeoJournal Library, vol.91, pp.209-233.

(22) 烏田専右 (1972)、東欧諸国の建築工業化について、コンクリートジャーナル、10 巻、2 号、pp.60-68。

社会主義時代のチェコ共和国内の住宅開発に関する主な出来事と各時期に対応する住宅団地・住宅タイプの分類を表 2-2 に示す。表 2-2 より、1960 年代に「Golden Sixties」と呼ばれる、建築作品に大きな自由がもたらされた時代があったことがわかる。また、チェコ共和国で社会主義時代に建設された、パネル工法によるプレハブ集合住宅はチェコ語でパネラーク（Panelák）と呼ばれ、国家レベルでも 11 シリーズ[23]、50 タイプしかなく、これらが 80,000 棟全てに使われた（実験住宅は含まれない）[24]。また、1955 年以降、チェコ共和国内ではパネル技術を用いて約 1,165,000 戸のアパート住戸が建設されたが、これはチェコ共和国の住宅ストック全体の 31％、アパート住戸の 54％を占める[25]。Skulinová (2008)[26] によると、戦後の建設技術の発展の観点からいえば、チェコ共和国全体でオストラヴァのパネル技術が実用的に最も発展していたと言える、とあり、1950 年から 95 年のオストラヴァ地方において、チェコ共和国で開発されたパネル住宅建設の基礎的なシステムのすべてのタイプが実際に実現した[27]。また、50 年代末以降、国内では 15 種類以上の基本タイプが公示され、使用されたが、それには地方的なヴァリエーションが生じていた。1961 年には更に住宅建設のための新しいタイプの素材が、各地方の原材料を基礎として開発された。

ここで、プレハブ住宅の名称に着目すると、Gottwaldov（現在の Zlín）で開発されたものがタイプ G と命名されている（表 2-2）。また G57、G58 を地域の状況に注意を払って多様な地方ヴァリエーションに発展させたものについて、1960 年にブルノで成立したものが B60、1964 年にオストラヴァで成立したものが GOS となっている[28] ことから、プレハブ住宅の名前は、基本的に成立した都市の頭文字と成立年から構成されていると考えられる。ただし、タイプ T については番号は通し番号と考えらえる。

本研究で扱うプラハ市プラハ 11 区 JM では VVÚ-ETA と Larsen-Nielsen[29] が主に使用され、オスト

(23)Zarecor, K. M. (2012), Socialist Neighborhoods After Socialism: The Past, Present, and Future of Postwar Housing in the Czech Republic, East European Politics and Societies vol.26, no.3, pp.486-509.

(24)Zarecor, K. M., Špačková, E. (2012), Czech Paneláks are Disappearing, but the Housing Estates Remain, Architektura & urbanizmus, vol.46, no.3-4, pp.288-301. において、Kubečková-Skulinová, D. (2003), Vady a poruchy panelové bytové výstavby, Habilitation Project Summary. Ostrava, Vysoká škola báňská - Technické univerzita Ostrava. から引用されている。

(25)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava. において、Skulinová, D. Panelová bytová výstavba, historie a vývoj, časopis Stavitel, 08/2004, str.8-11, ISSN 1210-4825 と Skulinová, D, Habilitační práce Vady a poruchy panelové bytové výstavby から引用されている。

(26)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava. において、Skulinová, D. Panelová bytová výstavba, historie a vývoj, časopis Stavitel, 08/2004, str.8-11, ISSN 1210-4825 と Skulinová, D, Habilitační práce Vady a poruchy panelové bytové výstavby から引用されている。

(27)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava. において、Skulinová, D. Panelová bytová výstavba, historie a vývoj, časopis Stavitel, 08/2004, str.8-11, ISSN 1210-4825 と Skulinová, D, Habilitační práce Vady a poruchy panelové bytové výstavby から引用されている。

(28)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava.

(29)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie,

## 表 2-2　社会主義体制下の住宅開発に関する主な出来事とパネラークの種類

| 年 | 住宅開発に関する主な出来事（Flekačová(2014)とZarecor (2012)の文献をもとに作成） | Flekačováによる住宅団地の分類（プラハ） | 住宅タイプ | | | | | | | | | 調査対象地の開発時期 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | Flekačováによる（プラハ） | Skulinováによる（オストラヴァ） | | | | | | | | プラハ11 | | Ostrava-Jih | | | |
| | | | | | | | | | | | | JM1 | JM2 | Hrabůvka | Výškovice | Zábřeh | Bělšky les + Dubina |
| 1945年6月<br>1948年 | Block of Progressive Architectural Associations (Blok architektonických pokrokových spolků/BAPS) 設立。<br>チェコ建築家の専門組織の主導権を握る。<br>国家企業Czechoslovak Construction Works (Československé stavební závody)設立。<br>全ての民間建設会社が統合される。デザイン機関Stavoprojektを特別な部門として有する。<br>・Stavoprojektにはバーチャの生産システムが導入されており、カナダ・アメリカなど資本主義国とコネクションがあった。<br>・2年もしないうちに、建築研究機関によってチェコスロヴァキア初のパネラークのデザインが実験される。 | The Prehistoric Phase | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1950年– | ソビエト形式への適合を強いる政治的圧力を受ける。<br>・巨大で歴史主義的な社会主義リアリズムの「ソレラ」と呼ばれるスタイルの建築。<br>・伝統的なレンガ造建築、標準計画を基礎として建設されたアパートメントブロックで、タイプTと呼ばれる。主にT13とT15が建設される。 | The Socialist-Realist Phase | T_ | T11、T13<br>(1950–55) | | | | | | | | | | | | | |
| 1950年代初頭 | Gottwaldov（現Zlín）のSvit（元バーチャ）、Prague、Brnoのthe Institute for Prefabricated Buildingsにおいて、住宅プロトタイプの研究が行われる。<br>・4つのプレハブ構造技術（1.大型ブロック構造、2.大型ブロックとスケルトンシステムのハイブリッド、3.スケルトンと非構造体パネルの集合体、4.構造体パネル技術）について、どれが最も安く、早く、効率的かを比較した。<br>・1954年までに、長期的に見て、新築住宅の最善の選択肢はパネラーク（構造体パネルで作られており、スケルトンは不使用）であると決定。Gottwaldovで開発されたものであったため、プロトタイプを”G-building”（G-dům)と命名。<br>・タイプTの開発が中止され、完全なプレハブコンクリートパネル建築へとシステムが変更される。<br>・タイプG40を用いてプラハでの最も初期の住宅団地が建設される。通常5階建てで、列になるか、主要道路に沿って配置された。<br>・個々のファサードのパネルの間の接続は、コーニスによって縁取られた偽古典主義のlisenesと屋根で覆われている。<br>・次のタイプとして、タイプG57が生まれる。6階建てで、歴史主義的な要素がなくなる。 | The Pioneering Phase | G_ | | T15<br>(1954–60) | G57<br>(1957–65)<br>T02B-OS<br>(1957–66) | | | | | | | | | | 1955–65 | |
| –1960年代<br>1960年代<br><br><br><br>–1960年半ば | 技術が進歩し、建物は8階建て以上に拡張される。<br>1958–1968年の政治・社会的「雪解け」の時期と同時に、1960年代の建築作品にも大きな自由がもたらされた。＝「Golden Sixties」<br>・Invalidovnaでは2つのタイプが建設された。連窓の長いスラブブロックとベントパーゴラで終わるポイントハウスで、これらはのちに住宅団地デザインに繰り返し用いられるようになった。<br>・T05B – T08Bがより大規模な建設の実現を可能にした。<br>パネラークがチェコスロヴァキアの規範になる。<br>・1990年まで主要な住宅タイプであり続けた。今日80,000棟のパネラークに1,165,000戸のアパートユニットが存在する。 | The 'Humanistic' or the 'Beautiful' Phase | T 0_ B | | | | T03B-OS<br>(1960–70) | VOS<br>(1960–68) | | | | | | | 1960–70 | | |
| 1968年–<br><br><br>–1970年代初頭 | プラハの春以降、芸術作品への監視が再び始まる（強化される）。<br>The Union of Czech Architects (1968–1969)が解散され、前体制のAlliance of Czechoslovak Architectsに置き換えられる。1966年に設立され、尊敬を強く集めていたAlliance of Design Ateliers (Sdružení projektových ateliérů)も、国家デザインスタジオの構成要素へと組み込まれる。<br>多数の高層住宅棟の中に数千個のアパートメントが含まれる単独開発が珍しくなくなる。<br>・Jižní Město (1971–1985)が建設される。新しい構造方式the Czechoslovak VVÚ-ETAとデンマークのシステムLarsen-Nielsenが | The Technocratic Phase | VVÚ-ETA<br>Larsen-Nielsen | | | | | | GOS<br>(1964–72) | VM-OS<br>(1968–80) | BP-70-OS<br>(1970–83) | T06B-BTS<br>(1977–1984)<br>T06B-OS<br>(1971–1983)<br>VP-OS<br>(1980–88)<br>P1.11, P1.13<br>(1982–93) | 1971–85 | 1981–92 | | 1965–75 | 1985–89 | 1985–92 |
| –1972年<br>1980年代 | 11シリーズの住宅タイプが導入される。<br>1981–82年のチェコスロヴァキアの経済的不景気によって、1970年代の誇大妄想的建設プロジェクトと、長期的な持続が不可能な都市地域の継続的拡大が終わりを迎える。住宅団地建設への投資は1980年代中頃から減少し続けた。<br>・ Jihozápadní Město (1978–2000)が建設される。 | The Post-Technocratic Phase | VVÚ-ETA | | | | | | | | | | | | | | |


**参考文献**

Flekačová, M. (2014), Beautiful Boxes or Technocratic Grey? Towards a Periodic Definition of Czech Housing Estates Using the Example of Prague, Czech and Slovak Journal of Humanities, no.2, pp.168–182.
Zarecor, K. M. (2012), Socialist Neighborhoods After Socialism: The Past, Present, and Future of Postwar Housing in the Czech Republic, East European Politics and Societies, vol.26, no3, pp.486–509.
Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská – Technická univerzita Ostrava

ラヴァ市 Ostrava-Jih 地区で使用が確認されているのは、T13[30]、T06B、BP70-OS、G、T08B、T02B、GOS、VOS[31] である。各プレハブ住宅の基本的な平面図を図 2-1 に示す。

### ２．１．５　国家レベルの住宅開発地再生施策

社会主義時代の住宅開発地再生に対する国家レベルの主要な政策は、Podprogram Podpora Regenerace Panelových Sídlišť (Programme for the Regeneration of Prefabricated Housing Estates) と Nová Zelená Úsporám (New Green Savings Programme) の 2 つがある [32]。前者は自治体に対して支払われる補助金で、建物だけでなく建物周辺部の再生に対しても使用可能であるのに対し、後者は建物再生のみに使用される補助金で、省エネ改修などに使用することが出来る。

## ２．２　プラハ市による戦後の都市計画と住宅開発地再生施策

ここでは、戦後のプラハ市の市街化地域の拡大、都市計画の変遷と、民主化後の住宅開発地再生施策についてみていく。

### ２．２．１　プラハ市市街地と社会主義時代の住宅開発地の立地関係

プラハ市はチェコ共和国の首都であり、国内第一の経済水準と人口水準を有していることから、チェコ共和国における社会主義時代の住宅開発地を見る際に、まず基準とする都市としてふさわしいと考え、プラハ市域全体に着目した。市街地に占める社会主義時代の開発地を把握するため、プラハ市航空写真 [33] から得られる 1953 年、75 年、88‐89 年、2012 年の航空写真を用いて市街地の拡大過程を把握した。航空写真に約 100 m四方のメッシュを重ね、メッシュの半分以上で市街化が読み取れるものに着色することで作成した図 2-2 から、プラハ市における市街化地域のうち、資料の範囲で社会主義体制時代と確認できる 1953 年以降の郊外への拡大範囲をよむことができる。特に社会主義体制終結の 89 年までの大規模市街地開発に対して、89 年以降はそれに付随する形の小規模開発が目立つことが分かった。図 2-3 からプラハ市人口は 120 万人前後で増減しており (2013 年 3 月現在約 125 万人 [34])、89

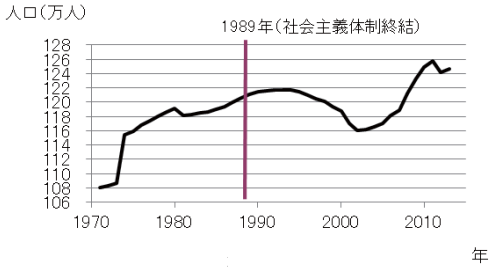



**図 2-3　1971 ～ 2011 年のプラハ市の人口推移**
**（チェコ統計局のデータをもとに作成）**

Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava. によれば、Larsen-Nielsen はプラハでのみ実現した建設システムタイプである。

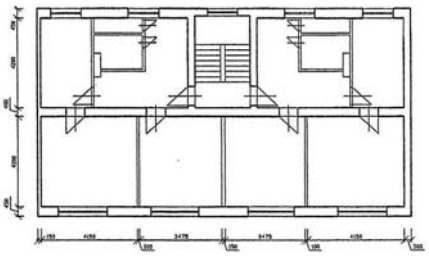
(30)Skulinová, K.D. (2008), Bytová výstavba v Ostravě v druhé polovině minulého století, vady a poruchy: monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava. に記述あり。

(31) オストラヴァ市アーカイブ所蔵の開発計画図に記載あり。

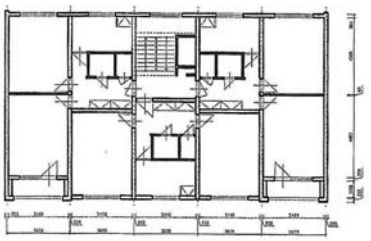
(32) オストラヴァ大学人文地理・地域開発学科 Petr Rumpel 准教授へのインタビューによる。

(33) プラハ市航空写真　http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

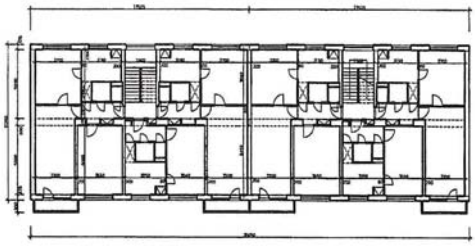
(34)Český Statistický Úřad: http://www.czso.cz/xa/redakce.nsf/i/home（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）



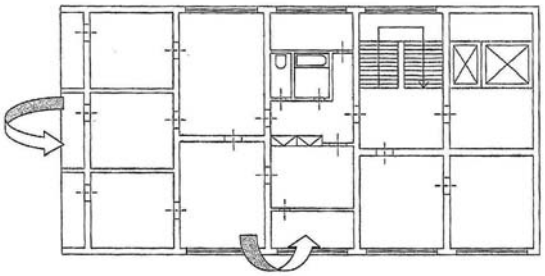
Obr.12 Charakteristický půdorys T13



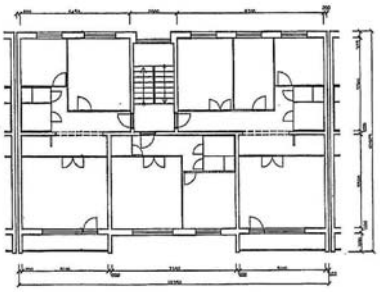
Obr.20 Charakteristický půdorys G 57



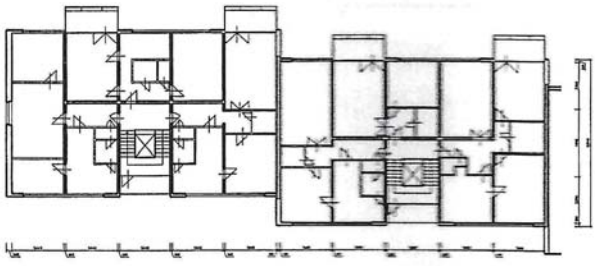
Obr.24 Charakteristický půdorys T02B-OS



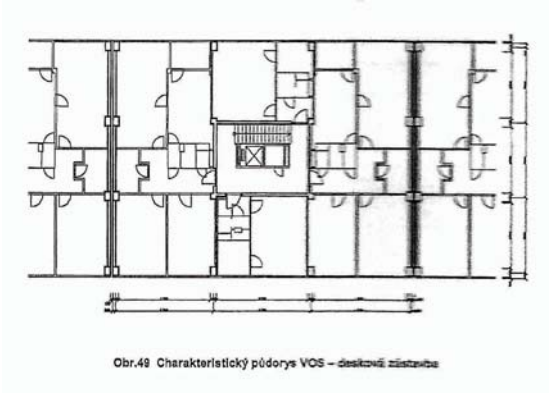
Obr.32 Charakteristický půdorys GOS



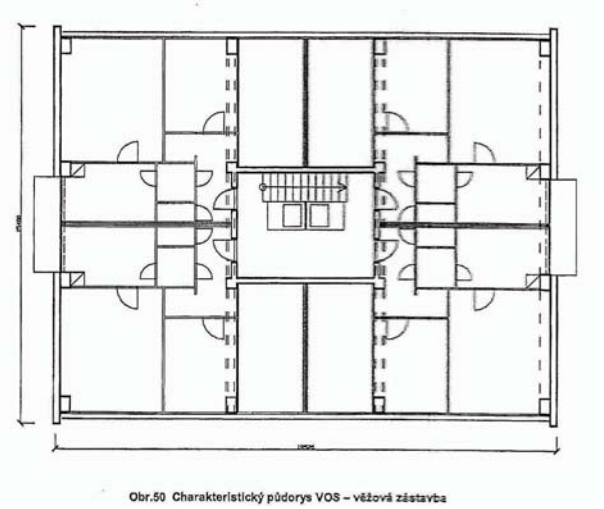
Obr.36 Charakteristický půdorys BP-70-OS



Obr.45 Charakteristický půdorys T06B-OS řadová zástavba



Obr.49 Charakteristický půdorys VOS – desková zástavba



Obr.50 Charakteristický půdorys VOS – věžová zástavba

**図 2-1　プレハブ住宅タイプ別の標準平面**
**（出典：Skulinová, K.D. (2008), Bytová výstavba v Ostravě v druhé polovině minulého století, vady a poruchy: monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava ）**
**各図面の縮尺の比は出典と同様**

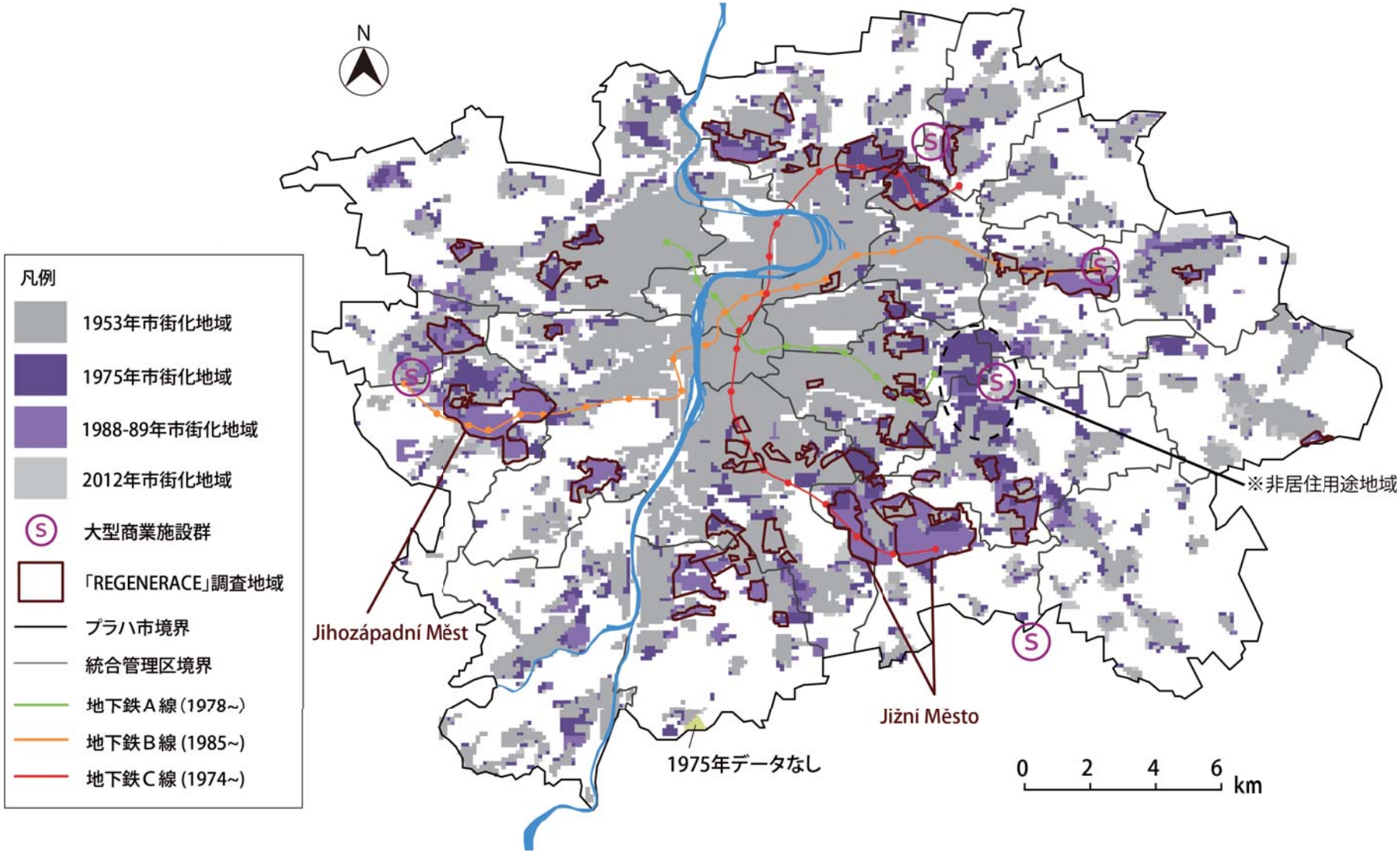



図 2-2 プラハ市の市街地拡大変遷図と住宅再生調査対象地
( 市街化地域に関してはプラハ市航空写真 http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/ をもとに筆者作成 )

年以降に市街化地域拡大が大規模に行われなかったことと矛盾しないが、近年は人口増加傾向にあることから、引き続き社会主義時代の住宅地が重要な住宅ストックとして機能することが求められることが推測される。

### 2．2．2　戦後からの都市計画に関するプラハ市役所の政策

既往研究のレビューより、プラハ市における都市計画制度に関する年表を作成した（表 2-3）。表 2-3 は主に Maier ら（1998）の文献 (35) をもとにしたものであるが、必要に応じて他の文献によって補足している。

1960 年代の Comprehensive Housing Construction 計画では、「公共投資者や国営建設会社は小・中学校、保育園、病院、食料品店、カルチャーセンターといった基本施設を建てなければならない。しかし、実際にはほとんどが数年遅れて建設されるか、建設されずに終わった。また、独立した地域をつくるという元々の理想と異なり、この計画は基本施設以外の職場については考えられていなかった。1990 年代初頭までに行われたすべての住宅開発はこれらの結果できたものである。」とあり、60 年代から 90 年代に開発された団地の住宅以外の周辺環境が円滑に実現していなかったことが分かる。

また、烏田 (1972)(36) によれば、「チェコでは、51 年の建築設計のための国の組織ができたが、60 年までは在来の現場打ちコンクリートによる建設が多かった。61 年に本格的工業化に踏み出し、Institute of Building Type Design が設立された。その任務は各種建物の設計寸法を統一しプレハブによる大量生産組織を打ち立てることである。そしてここでは設計のみでなく、投資計画やパレハブ工場（本文ママ）の計画も行なうのである。かくて以後の 10 年間に全国に 15 のプレハブ工場ができ、71 年には 9 つのパネル工場によって 2 万戸の住宅が建てられるまでになった」。また、表 2-3 の「建設された住宅ユニット数」、「住宅の建築工法」についてみても、住宅建設においてプレハブ工法が確実にシェアを拡大していたことが分かる。

さらに、住宅団地は第一〜第三世代に分かれるとし、「第一世代の住宅団地が地域やブロックごとの集中ボイラーだったのに対し、ニュータウンでは広域地域の暖房施設が必要であった。最初の団地では石炭が、次に North Town では液体燃料が、そして最終的に South Town と South-West Town ではガスが使用された (37)」とあり、暖房施設については世代によって異なる試みがなされていたことが分かる。

### 2．2．3　現在の都市計画に関するプラハ市役所の政策

現状について把握するため行ったプラハ市役所へのヒアリング (38) によれば、「現在（2013 年）プラハ市では都市計画に関して 5 つの開発ドキュメントと 1 つの分析ドキュメントを定めている。開発ドキュメントは更に市全体を対象とした Strategic Plan(39)、Development Principles、Land Use Plan (Územní

(35)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.

(36) 烏田専右 (1972)、東欧諸国の建築工業化について、コンクリートジャーナル、10 巻、2 号、pp.60-68。

(37)Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.

(38)2013 年 3 月 8 日プラハ市役所 ÚRM 担当者へのヒアリングによる。

(39)Strategic Plan: http://kreativnipraha.eu/en/prague-strategic-plan（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）なお、インタビュー当時の 2013 年には 2008 年版の Strategic Plan を意味していたが、2013 年 5 月からアップデートが始まっ

表 2-3　プラハ市都市計画年表

| | 年 | 出来事 | 主な特徴 | 建設された住宅ユニット数（戸） | 住宅の建築工法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1940s | 1945 | pre-war Comprehensive Planに基づく開発<br>この年以降、次第に国営化が始まり建設産業は国営の独占企業に統一される | ・小さな集合住宅が建てられる | 1945年から50年：6000戸以下 | 約三分の一がプレハブシステムによって建設 |
| | 1948 | 社会主義体制確立 | | | |
| | | comprehensive master planの概略発表 | ・Patrick Abercrombieの影響を受けた、都市を緑地のオープンスペースで囲むというアイデア | | |
| 1950s | 1950s | | ・StrašniceのSolidalita団地の建設において、プレハブの壁と天井がプラハで初めて使用される※4<br>・50年代後半、パネル技術と工業化された開発が、主にVeleslavínのPetřinyと、VokovicemのČervený Vrch近くの大規模住居コンプレックスにおいて初めて使用された※4 | | |
| | 1951 | Office for Urban Planning※1設立<br>comprehensive master planが再度完成する | | 1951年から55年：約8500戸 | |
| | 1954 | Nikita Khrushchevのスターリン建築批判により、戦前のモダニズムが再びプラハに持ち込まれる | | | |
| | 1958 | Comprehensive Master Plan for Prague承認 | | 1956年から59年：17000戸以上 | |
| | | Land Planning Act制定 | ・マスタープランのシステムの枠組みを定める<br>物理的なプランニングはAct内の「a projection of central economic planning」により定義 | | |
| | | Heritage Preservation Act制定 | | | |
| | 1959 | 住宅と土地の国有化についての最初の処置 | ・住宅協同組合による住宅建設は法律により認められる | | |
| 1960s | 1960s | Comprehensive Housing Construction計画※2導入 | ・新しい団地に基本的なサービスと設備を提供するため導入 | | |
| | 1960s初頭 | 「第一世代」の住宅団地の建設 | ・既存住宅やインフラに接続する形で建設<br>・住宅の空間的水準は非常に低かったが、集中暖房や温水といった設備は極めて良かった<br>・階数の上限は基本的に6階<br>・研究・産業関係の職場の近くに位置 | | |
| | 1960s前半 | チェコスロバキアの国内経済がほぼ崩壊状態となり、プロジェクトは中止または延期、あるいはコスト削減が強いられた | | | |
| | 1960 | 行政の刷新により地域行政が強化される<br>地方自治体が10地域に分けられる | | | |
| | 1961 | Office for Urban PlanningがCity(Chief) Architect's Office(ÚHA)に変わる | ・ÚHAはプランニングコンサルタントの役割を負っていたが、地方自治体にもプランニングと建築についての専門家が勤めていた | | |
| | | Institute of Building Type Design設立 | | | |
| | | 61年以降、新しいプレハブコンクリートシステムが紹介される | | | |
| | 1964 | Comprehensive Master Plan改正 | ・住宅団地は既存の開発地と比較して、より規模が大きく、完全に独立したニュータウンとして提案された<br>・特に交通ネットワーク のデザインと、都市の厳しい住宅不足の解決が重視された | | |
| | | 都市市街地が1920年のGreater Pragueの境界を超える | | | |
| | 1968 | プラハ市の大規模な合併が行われる | | | |
| | ～1970 | 「第二世代」の住宅団地の建設 | ・既成市街地の隣接地を前世代で使い切ったため、インフラを初めから整備<br>・インフラ整備のため建設コストが上昇する | | |
| 1970s | 1970～ | 「第三世代」の住宅団地の建設 | ・1920年代のGreater Pragueの境界を越える<br>・ニュータウン型の開発<br>・3つの大規模住宅団地North Town(Severní Měst)、South Town（Jižní Měst）、South-West Town（Jihozápadní Měst） | | |
| | 1971 | Plang for the Prague Regional Agglomeration完成 | | | |
| | 1974 | 最初の地下鉄が開通 | ・地域の繁華街がトラム沿線から地下鉄駅周辺へと変化 | | |
| | 1975 | Copmrehensive Plans for Prague and Prague Region完成 | | | |
| | 1976 | Planning and Building Act※3が議会を通過 | | 1976年から80年：51300戸 | 97%がプレハブブロック住宅によって建設されたと推定 |
| 1980s | 1985 | 3本の地下鉄線による基本的なトライアングルが完成 | | | |
| | 1986 | Prague Master PlanとPrague Regional Planの改正 | ・人口目標や広域的開発の縮小 | | |
| | 1989 | 社会主義体制終結 | | | |
| 1990s | 1991 | 国有化された財産の返還 | | | |
| | | 新しいComprehensive Master Planの作成開始 | | | |
| | 1992 | standard European procedures for Environmental Impact Assessmentが国の法的システムに導入される | | | |
| | 1993 | スロバキアと分離・独立 | | | |
| | 1994 | City Architect's Officeが2つに分裂 | ・City Planning Department（Municipal Office内に存在）：特別な開発プロジェクトにおける意思決定とプラン認可の専門組織<br>・City Development Office：プランニング作成を管理したり、自身でプランを準備する機関 | | |
| | | 民間コンサルタント会社ECOTERRAによってPrague2010レポートが作成される | ・Strategic Planningのスタートとしての位置づけ | | |
| | 1995-1997 | City Development OfficeによってDepartment for Strategic Conceptsが設立され、いくつかのトピックについてのワークショップが開催される | British Know-How Fundの専門家の援助を得た組織 | | |
| | 1998 | Strategic Planの草稿作成開始 | | | |
| 2000s | 2000 | Strategic Planが承認 | | | |
| | 2016 | 新しいUzemni Planの作成開始 | | | |

※1 Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.ではTown Planning Officeと表記
※2 Ouředníček, M., & Temelová. J. (2009), Twenty Years After Socialism: The Transformation of Prague's Inner Structure, Studia Universitatis Babes-Bolyai, Sociologia, vol.54, no.1, pp.9-30.ではComplex Housing Construction Programmeと表記
※3 Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.ではTerritorial Planning and Building Actと表記
※4 Flekačová, M., Kudyn, M., Zadražilová, L., and Halmanová, K. (2012). Prague panel housing estates (Evan Mellander Trans.). City Development Authority Pragueによる

Plán)[40] の 3 つと、指定地域のみを対象とした Planning Studies、Regulatory Plans の 2 つに分けられる。Strategic Plan は 15-20 年の長期間における開発コンセプトが記されたもの、Development Principles は地域レベルで概念的に開発を調整するためのもの、Land Use Plan は土地利用を定めるものである。」この中で地域の開発計画にもっとも直接的に関わるのは Land Use Plan であるため、Land Use Plan 以上の詳細な管理については区レベルで行われていると考えられる。また、現在プラハ市は 22 区に分かれており[41]、市全体の都市開発を規制する Land Use Plan はプラハ市役所が定めているが、「民主化以降プラハ市の住宅地拡大は市外にも及んでいる為、郊外化に対して市役所のレベルでコメントを行うことはあってもそれに法的拘束力は無く、詳細な地区整備・開発に関しては区レベルの管理が重要である」との認識であった。また、住宅以外の大規模な開発として、商業施設に関しては「市中心部は規制が厳しいため、より制限の少ない郊外に大型商業施設群が開発されている」との指摘がなされた。

### 2．2．4「Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť」の調査内容と事業の特徴

現在の市の都市計画の体系と市全体における社会主義時代の住宅開発地の捉え方について、プラハ市役所担当者へのヒアリング[42]を行った。そこで同市役所が 2001 年に行ったプレハブ住宅開発地再生に関する調査事業「Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť」の存在が明らかになったことから、その内容に着目し、再生事業としての位置づけを確認した。市役所の調査事業「REGENERACE」はプラハ市全域のプレハブ住宅地の中でも住戸数が 300 戸以上の 54 地域を対象としており、全地域をまとめた報告書と、各地域別冊のより詳細な調査データが付加された報告書が編集されているが、各地域の調査項目は共通している（表 2-4）。

この調査は「プラハ市のプレハブ住宅地の生活状態と生活水準を改善し、他の住宅地と同レベルにすること」を目的とすると記されており、その再生プロセスの手順や優先順位などを定めるための最初の分析として位置づけられている[43]。この調査は 2001 年に既にまとめられていることから、当時から社会主義時代のプレハブ住宅地の生活水準が低いとの認識がなされていたと同時に、その改善による将来的な利用可能性に市役所が注目していたことが分かった。また、全地域についての調査結果がまとめられている一方で各地域の再生指針のような記述はなく、結論としての再生指針は全地域を総合したまとめとなっている。このことからもこの調査事業は各地域の事実資料を提供するものであり、地域ごとに異なる実態について具体的に取り上げることはなかったと考えられる。また、調査対象の 54 地域の分布と面積、開発期間を集計したものが図 2-2、図 2-4、表 2-5 である。図 2-2 より、調査対象地が 1953 ～ 89 年までの大規模な拡大地域と概ね重なることが分かる。ただし、図 2-2 中「※非居

---

ている。参照 HP によれば、最終ドキュメントは 2016 年秋に市議会によって承認されると記されているが、2016 年 12 月 12 日現在、HP 上での公開は確認できていない。なお、この変更に伴いその他のドキュメントの更新も行われているものと考えられるが、その変更の全容については未整理の状況である。

(40)Územní Plán: http://mpp.praha.eu/app/map/VykresyUP/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

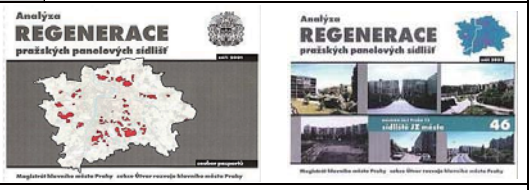
(41) 三輪和宏 (2008)、諸外国の上院の議員定数配分：憲法の規定を中心として、レファレンス、691 号、p.86. によれば、自治体であるプラハ市の下に 22 の「統合管理区 (správní obvod)」があり、更に 57 の「区 (městská část)」に分かれる。統合管理区は自治体ではないが、区は基礎的自治体である。

(42)2013 年 3 月 8 日プラハ市役所 ÚRM 担当者へのヒアリングによる。

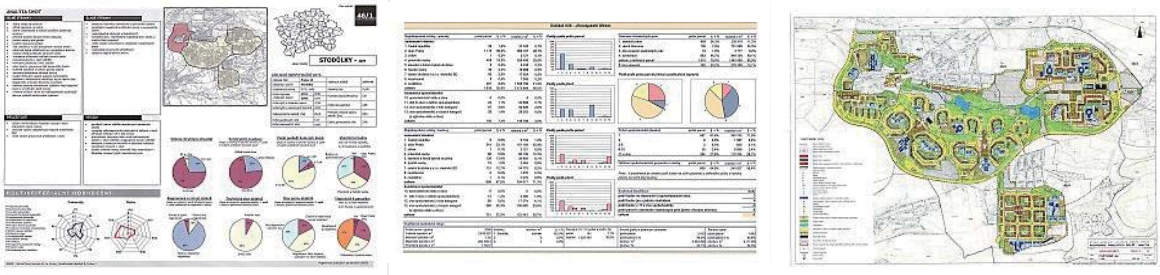
(43)Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť , 2001

表 2-4「REGENERACE」調査項目一覧

| 全地域データ入手済み | | 一部地域のみデータ入手済み | |
|---|---|---|---|
| 文章 | ・SWOT分析 | 地図 | ・広域関係図<br>・地域境界図<br>・正射写真図<br>・土地利用計画図 |
| 基本的な識別データ | ・地区名<br>・地域名<br>・地域番号<br>・居住者人口(1991年、2000年)<br>・全住宅戸数<br>・プレハブ住宅戸数<br>・緑地面積<br>・駐車場数<br>・駐車可能台数<br>・住宅開発期間<br>・地域面積<br>・人口密度(2000年人口/地域面積)<br>・居住密度(居住者/住宅)<br>・緑地面積の余剰<br>・駐車場の不足率 | 統計 | ・土地区画の所有者<br>・建築物の所有者<br>・財産権の制限<br>・建築物の共同所有者数<br>・土地と建築物の所有が異なる区画<br>・トータルの分類<br>・追加統計データ |
| 多基準評価(レーダーグラフ) | ・ポテンシャル<br>・リスク | 統計 | ・住宅ストックの基本容量データ<br>・住宅の賃貸料(チェココルナ/月)<br>・プレハブ住宅の販売価格<br>・新築の販売価格<br>・私有化販売価格(チェココルナ/㎡)<br>・トータルの分類<br>・調査地域の開発への投資<br>・調査地域の地価 |
| 円グラフ | ・居住者の年齢構成の割合<br>・住宅の構造の割合<br>・住宅の階数の割合<br>・建物の所有者の割合<br>・再開発が必要な緑地の割合<br>・建築物の技術的コンディションの割合<br>・建築物の修理状態の割合<br>・区画所有者の割合<br>・広域との関係性について | 地図 | ・土地区画の所有者図<br>・建築物の所有者図<br>・財産権の制限図<br>・外部公共空間の状態図<br>・土地利用の状態図<br>・建築物の状態図<br>・緑地図<br>・交通図<br>・環境状態図<br>・空気質の評価図<br>・技術設備図<br>・問題個所図<br>・ポテンシャルのある場所の再生状態図 |
| 文章 | ・人口統計、社会的側面について<br>・都市構想について<br>・住宅のステータスについて<br>・公共施設について<br>・他の住宅以外の施設について<br>・緑地について<br>・交通について<br>・技術設備について<br>・環境について<br>・経済について | | |

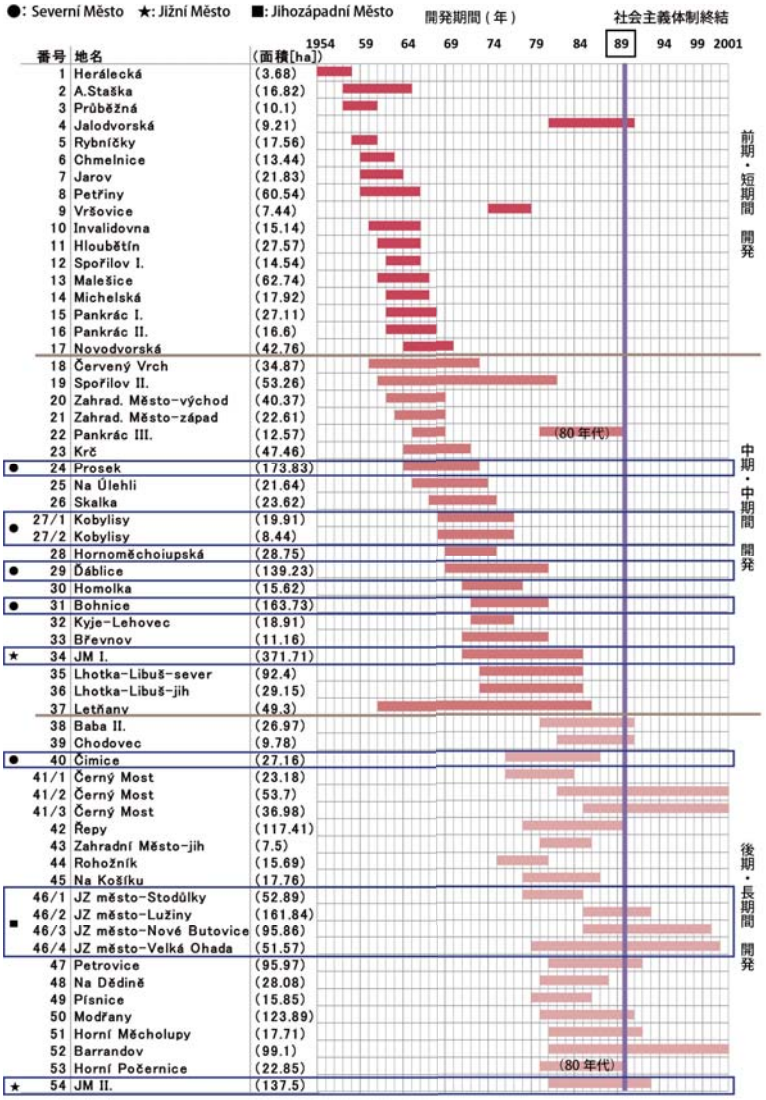



「REGENERACE」全地域(左)と地域別[No.46](右)の表紙→
↓地域別の調査書の一部中身(下3)



(Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť , 2001( チェコ語 )
の調査項目を筆者が日本語訳し、表を作成 )

表 2-5　市役所調査対象住宅地の開発期間




(Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť , 2001 より得られる開発地域名、面積、開発期間のデータから筆者が表を作成し、特徴による区分を行った )

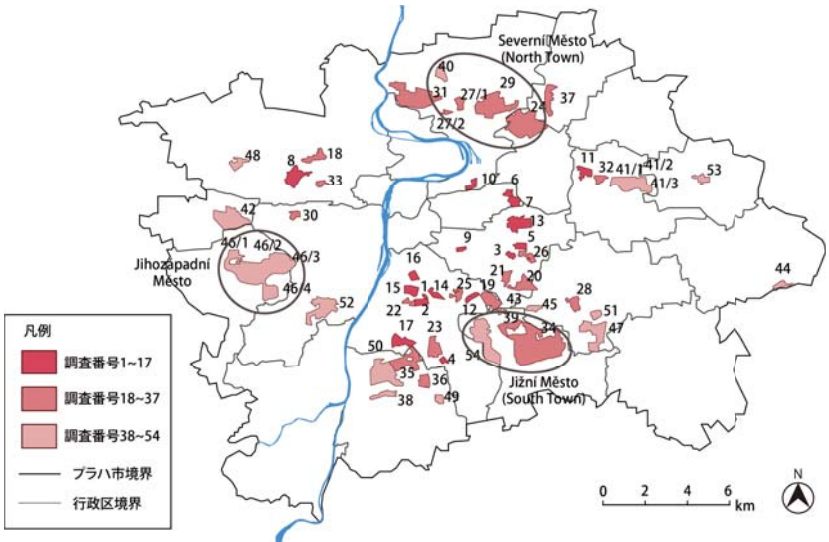



図 2-4 「REGENERACE」調査地域の地理的分布と 3 つの大規模住宅開発地
(Analýza REGENERACE pažských panelových sídlišť , 2001 の調査地域の地理的位置と番号をもとに着色 )

住用途地域」と示した箇所は複合施設・公共施設地域であり住宅開発地ではない。また表 2-5 より調査番号が小さいものほど開発時期が早く、開発期間も短い傾向にあり、図 2-4 より調査番号が小さいものほど市中心部に近く、番号が大きくなると郊外化、大規模化する傾向が確認できる。

### ２．３　プラハ 11 区行政の Jižní Měst 再生に対する取り組み

プラハ市役所担当者の「区レベルの管理が重要」との指摘から、ここでは区レベルでの、社会主義時代の住宅開発地に対する行政施策についてまとめる。

#### ２．３．１　区役所の住宅開発地に対する施策

地域というまとまりとしての住宅開発地をみるため、ある程度規模の大きな住宅開発地を調査候補地とすると、特に、Severní Město、Jižní Město、Jihozápadní Město の 3 つの住宅開発地が考えられたが、このうち Severní Město は「REGENERACE」において一つの地域としてまとめられておらず、また２．２．２でみた暖房施設の試みの違いや表 2-5 から他の 2 地域と比べてやや早い時期に開発されたことが分かる。今回は、地域としてのまとまりがより強いと考えらえる Jižní Město、Jihozápadní Město を調査対象地とし、それぞれが位置するプラハ 11 区、13 区役所にインタビューを行った。プラハ市、プラハ 11 区、13 区の行政区分地域について図 2-5 に示す。区役所担当者へのインタビューの結果、プラハ 11 区役所は区が積極的に独自の地域再生施策を行っている [44]（その詳細については後述する）一方で、13 区では区役所は住宅地再生に対して独自の施策は行っていないという返答を得た [45]。プラハ 13 区役所

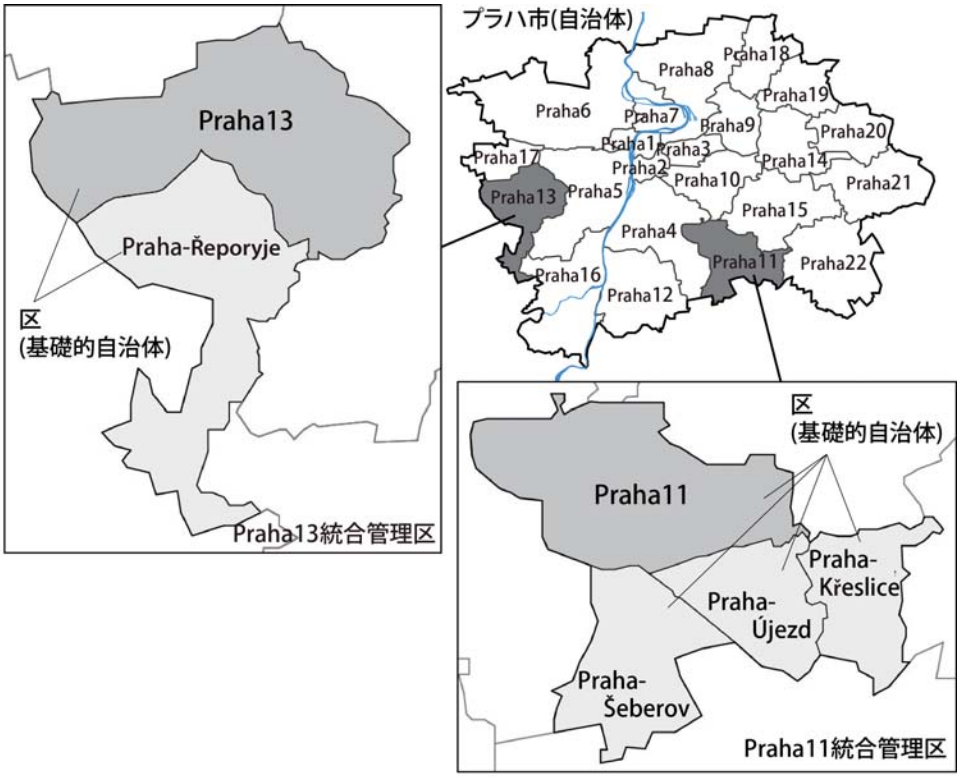



**図 2-5　プラハ市の行政区分**

(44)2013 年 3 月 11 日プラハ 11 区役所 Odbor územního rozvoje（地域開発部）担当者 3 名へのチェコ語 - 日本語通訳者を介したヒアリングによる。

(45)2013 年 3 月 11 日プラハ 13 区役所 Oddělení územního rozhodování（政策決定部）担当者へのヒアリングによる。

でのインタビューによれば、現在プラハ 13 区役所は市役所の都市計画に全面的に従う方針をとっており、建築物の改修に関しても各所有者にまかせている、ということであった。また、新規開発に関しては開発当初のマスタープランを引き継ぐ形で未完成部分の開発を進めているが、89 年の民主化以降、計画にはない商業施設群の開発も行われている、という点が指摘された。

以上のような区役所の地域再生に対する姿勢の違いを踏まえ、プラハ 11 区では区行政主体の施策によって、より積極的に新規開発や環境再生に取り組んでいる地域であるため、開発当初から環境が大きく改善したと考えられる。すなわち、社会主義時代の開発当初からの積み重ねの中に住宅開発地の価値を見出しやすいと考え、調査対象地とした。逆にプラハ 13 区に関して言えば、社会主義時代の開発当初の状態が比較的維持されており、積極的な再生施策を行わなくとも、ある程度の住環境水準が既に整っている可能性が考えられる。今回は時代の変化の中の価値の集積に着目するという観点からプラハ 11 区を調査対象地としたが、プラハ 13 区の社会主義時代の開発計画と現状の関係性からもまた、重要な知見が得られる可能性があり、今後の課題としたい。

### ２．３．２　プラハ 11 区 Jižní Město の基本情報

プラハ市プラハ 11 区には、社会主義時代に形成された大規模住宅開発地であるイジュニームニェスト（Jižní Město、South City の意、以下 JM）が存在する（図 2-6）。プラハ 11 区は市の南東部に位置し、開発以前は 3 つの村から成っていたが、1968 年に集合住宅団地 JM の開発の一部としてプラハ市に組み込まれ、1994 年に現在のプラハ 11 区となった [46]。プラハ市の調査資料「REGENERACE」[47] では 34、54 巻に Jižní Město I, II として取り上げられており、それに基づき各開発の基本情報をまとめたものが表 2-6 である。図 2-7 より、1975 年時点で JM I の一部に住宅棟が確認できる。また、社会主義時代終結時には JM 内の住宅棟が概ね完成し、その後、2012 年までに JM 周辺部での市街化が進んでいることが分かる。現在の JM 詳細図を図 2-8 に示す。

Chodov-Háje の最初の計画的開発は 1971 年に行われた。そのために 1966 年に公開コンペが行われ、採用された建築家 Jiří Lasovský, Jan Krásný, Miroslav Řihošek らのチームの計画案が現在の都市の形態の

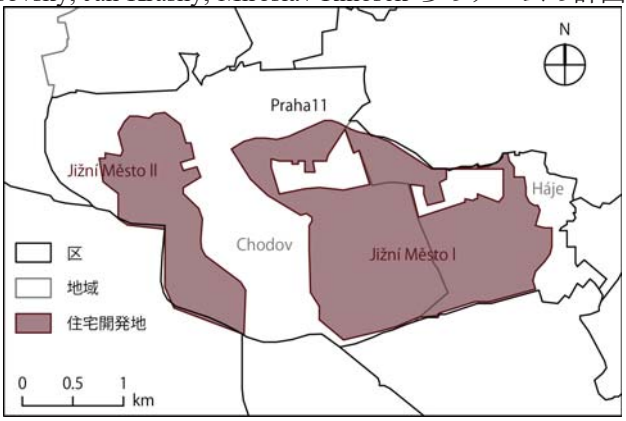



**図 2-6 プラハ市、プラハ 11 区とイジュニームニェストの位置関係**

ベースとなっている [48]。またこの計画案に関して建築家 Jiří Lasovský が当時の設計の思い出を語る様子

(46)2013 年 3 月 11 日プラハ 11 区役所 Odbor územního rozvoje（地域開発部）担当者 3 名へのチェコ語 - 日本語通訳者を介したヒアリングによる。

(47)Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť, 2001.

(48)2013 年 3 月 11 日プラハ 11 区役所 Odbor územního rozvoje（地域開発部）担当者 3 名へのチェコ語 - 日本語

表 2-6『REGENERACE』による JM I、II の基本情報

| 開発地域名 | 開発期間（年） | 面積(ha) | 住戸数（戸）[うちパネル住宅住戸] | 設計者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| JM I | 1971–1985 | 371,71 | 21860 [21780] | ※ Jiří Lasovský Jan Krásný Miroslav Řihošek | ・プラハ最大の住宅団地 ・オリジナルのコンセプトは、衛星「カーデンシティ」を実現する、大体同規模の3つの住宅地域（Litochleby, Opatov, Háje）として考えられていた |
| JM II | 1981–1992 | 137,50 | 8419 [8314] | J. Zelený Rothbauerová | ・1980年のプロジェクトは部分的に実現 ・建設は81年から始まり、92年までにパネル住宅地の大部分が完成 |

※JM Iの設計者は、プラハ11区役所担当者へのインタビューによる。『REGENERACE』には記載なし。

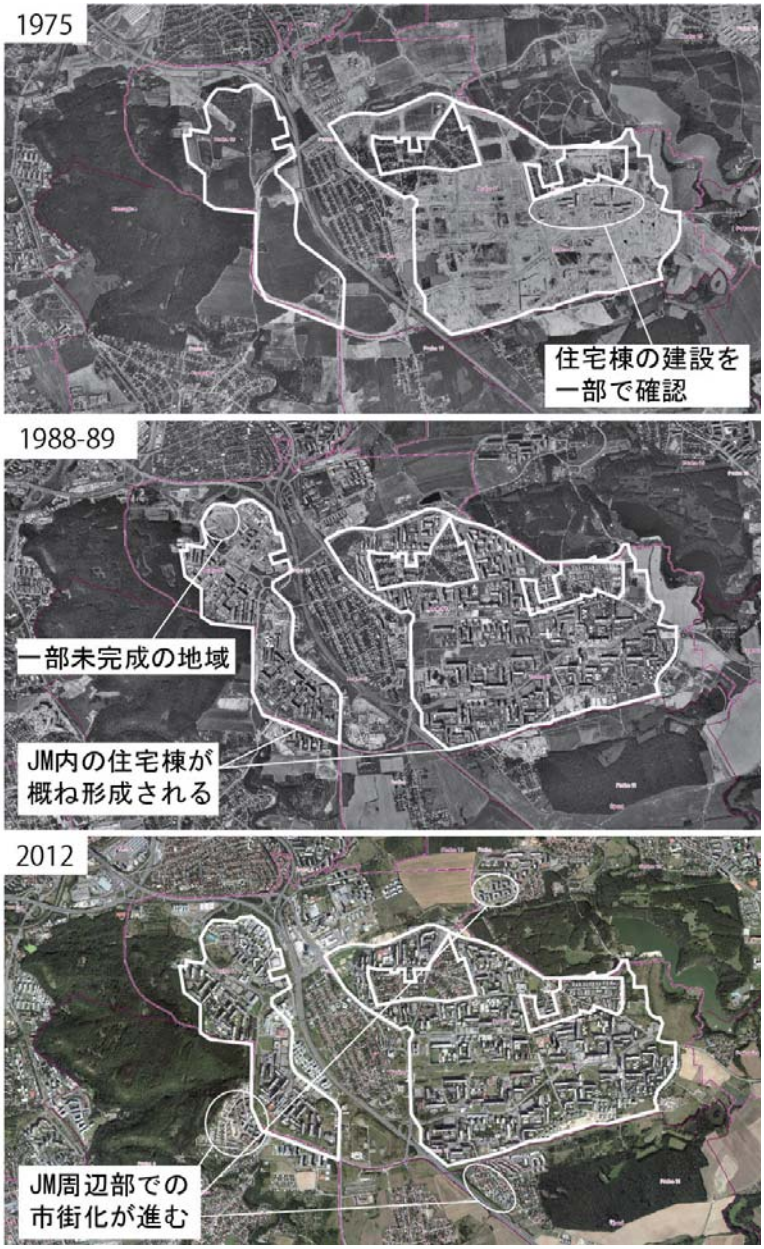



図 2-7　JM の開発の変遷
（写真：プラハ市航空写真：http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/（最終閲覧日 2014 年 6 月 7 日））

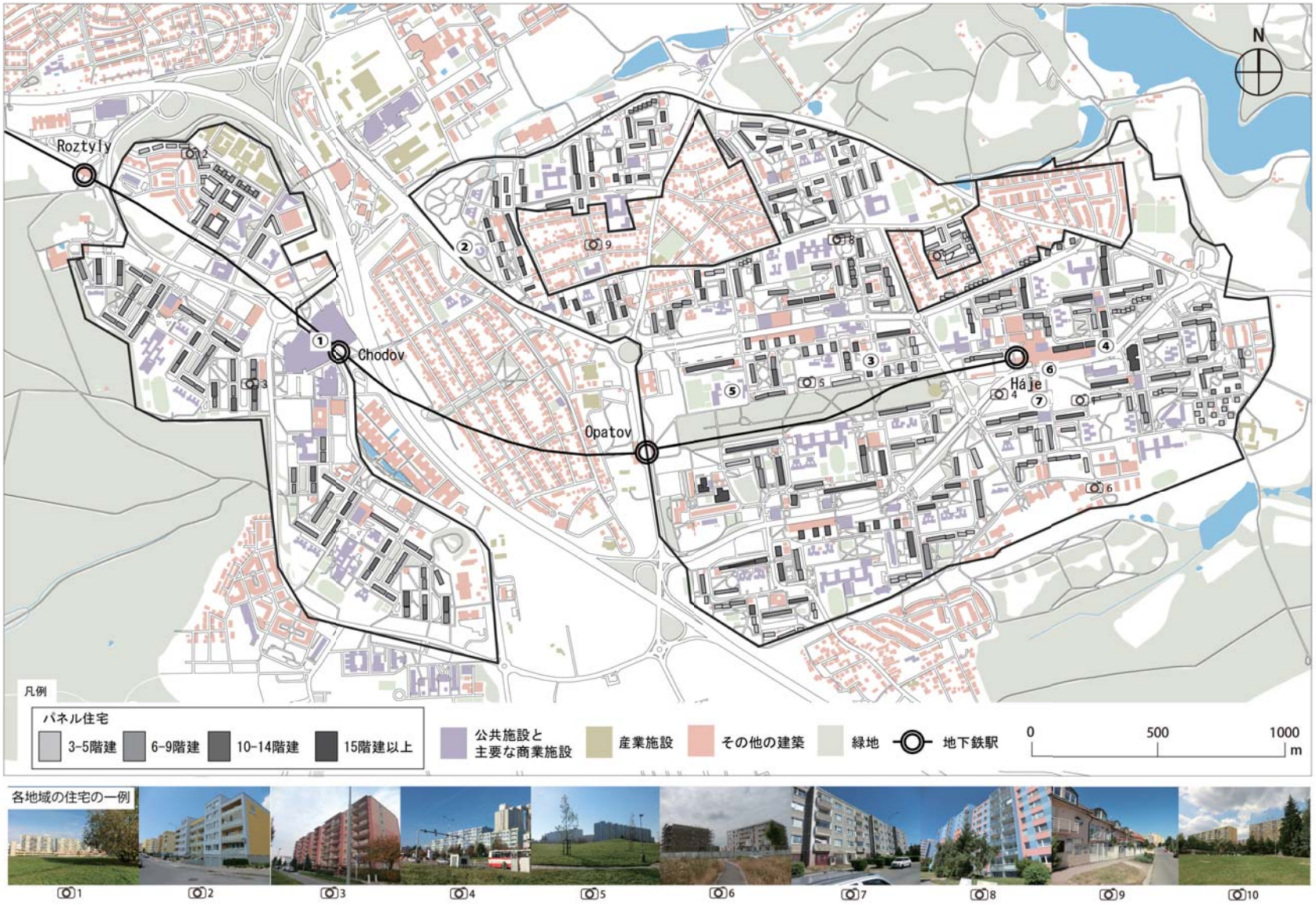



図 2-8　JM 詳細図（地図：筆者作成　写真：2013.03 筆者撮影）

が、2007 年にプラハ 11 区役所によって出版された「Praha11 na Prahu 21. Století (Prague 11 in Prague city of 21st century) 」[49] に 3 頁にわたって記されていることから、現在、建築家らの作品としてまちの歴史を特徴づける出来事に位置づけられていると考えられる。

既往文献によれば、中心部は完成していなかったこと、計画案では変化を持たせていた住宅棟の高さをほとんど均一にすることを強いられたこと [50] などが指摘されている他、プラハの入口の灰色の壁というイメージ [51]（1998 年）、パネル開発の乱用 [52]（2012 年）といった表現もなされており、これまでその評価は高いものではなかったことがうかがえる。

### 2．3．3　プラハ 11 区の行政制度

プラハ 11 区の行っている地域再生のための行政施策に関連する行政制度について、プラハ 11 区役所担当者の話 [53] をもとにまとめる。

#### 2．3．3．1　新規開発への市民参加機会

現在新規開発を行う際にはその計画段階において市民が意見を述べる機会が用意されている（図 2-9）。新規開発の際は、まず最初に開発主体（主に海外デベロッパー企業）が計画案を公表する。次に公表された案に対して区の都市計画課がコメントを加えた後、区長と町議員に提出し、意見を聞くことになっている。更に EIA（環境アセスメント）申請後区のウェブサイトに開発主体の公表した計画案を掲載するが、この時各段階でのコメントを反映させるかどうかは開発主体の判断にまかされて

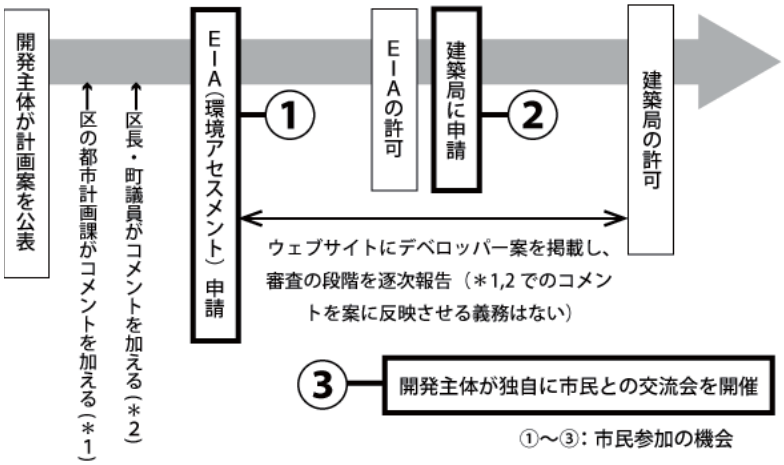



**図 2-9　新規開発に対する市民参加の機会**

---

通訳者を介したヒアリングによる。

(49)Bartoň.J. (2007), Praha11 na Prahu 21. Století, Městská část Praha 11, pp.102-104.

(50)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT, pp.58-59.

(51)Maier, K., Hexner, M., and Kibic, K. (1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT, pp.58-59.

(52)Flekačová, M., Kudyn, M., Zadražilová, L., Halmanová, K., (translation: Mellander, E). (2012), Pražská panelová sídliště ( Prague Panel Housing Estates), Útvar rozvoje hl. m. Prahy (City Development Authority Prague).

(53)2013 年 3 月 11 日プラハ 11 区役所 Odbor územního rozvoje（地域開発部）担当者 3 名へのチェコ語 - 日本語通訳者を介したヒアリングによる。

おり、強制ではない。EIA 審査の段階は逐次ウェブサイト上で報告され、許可が下りれば建築局に計画を申請する。建築局の許可が下りれば新規開発が可能となる。市民参加の機会は大きく (1)EIA 申請、(2) 建築局審査、(3) 市民との交流会時の 3 回に分けられる。(1) の段階では個人・団体・役所のレベルで意見を述べることができ、全ての意見に対して同等に重きが置かれる。(2) の段階でも (1) と同様のレベルから意見を述べることが出来るが、開発への関係性が高い個人・団体からの意見をより重要視するといった違いがある。また、(3) は開発主体が市民の理解を得るために独自に開く交流会であるが、近年では政治的背景を理由にした開発反対や交流会が政治活動の場として利用されるなどの問題が生じていることが指摘された。

#### 2.3.3.2　建築物の所有関係

現在建築物には主に (1) 住宅協同組合、(2) プラハ市 [54]、(3) 個人組合の 3 つの所有タイプがある。(1) は 89 年の民主化以前からあるもので、法人が建物を所有し、個人に賃貸する形で管理しているのに対し、(3) は建築物の私有化後に出来た組合で、建築物を個人所有する人々の組合である。

### 2.3.4　所有者の違いと住宅改修の進捗

2013 年 7 月 15 日から 22 日にかけて、JM I、II 地域を踏査し、パネル住宅のファサード改修の状況を確認した（表 2-7）。パネル住宅改修の進捗の差はファサードの彩色の違いとなって表れており、民主化後の住宅所有者の多様化が反映されていると考えられる。改修の状況は改修あり、改修なし、一部改修あり、工事中の 4 つに分類し、建築物の所有者分類図 [55] との対応をみた。プラハ 11 区の主なパネル住宅の所有タイプのうち、住宅協同組合は「チェコの法人」に、個人組合は個人所有の住戸が複数集まっていることから「複数の主体」に含まれる。また、住宅一棟の中にプラハ市、住宅協同組合、個人が所有する住戸が混在する場合も「複数の主体」に分類される。

調査の結果、複数の主体が所有する住宅棟の改修の割合（64%）はチェコの法人所有のもの（84%）よりも低く、所有者による違いがみられた。このことから、複数の主体による住宅棟の管理に対する合意形成が困難であり、それが住宅改修にも影響している可能性が考えられる。しかし、2013 年 7 月時点で工事中の住宅棟は、いずれも複数主体の所有する住宅についてであった。このことから、現在複数の主体が所有する住宅棟のファサード改修率は比較的低いものの、改修に対する計画が無い訳ではなく、今後改修が進んでいくのではないかと予測される。また、現在のパネル住宅の配置と「REGENERACE」（2001 年）に掲載されているパネル住宅の配置を比較すると、改修状況の調査範囲において、パネル住宅の取り壊しが見られなかったことから、パネル住宅は今後も当分の間維持され

(54) プラハ 11 区役所担当者によれば、プラハ市の所有するパネル住宅の一部については区が管理を委託されており、実質的な管理は区が行っているが、名目上はプラハ市の所有であり、後述の所有者分類図にもプラハ市の所有として分類されている。

(55) プラハ市土地・建物所有者分類図：http://mpp.praha.eu/majetek/default.aspx（最終閲覧日 2014 年 6 月 7 日）この所有者分類図において、建築物の所有者タイプは (1) チェコ共和国、(2) プラハ市、(3) プラハ市内の区、(4) プラハ市以外の kraje（県）、(5) プラハ市以外の自治体（村レベルなど規模は様々）、(6) チェコの法人、(7) チェコ国籍の個人、(8) 外国企業またはチェコ以外の国籍の個人、(9) 上記以外、(10) 複数の主体、(11) 土地登記簿上に所有の明記なし、(12) 図面上で定義できない、の 12 タイプに分類されている。

ていくと考えられる。

### ２．３．５　プラハ 11 区 Jižní Město にみる区の再生施策

プラハ 11 区役所へのヒアリングにおいて、Chodov-Háje の市街地環境の優れた点と問題点、地域再生の目的について挙げてもらった（表 2-8）。まず優れた点として、住宅と公共施設（学校、病院、福祉施設等）が近くに配置されていること、設備・交通インフラが整っていることなど公共設備のプランニングに関する点が挙げられた。また、住宅開発地の物理的老朽化への区による独自の施策として、現在システムが更新されたため不要となった暖房の集中管理施設をビール醸造所として再利用する（写真 2-1）など、用途が無くなった公共施設等の行政所有の物件を用いたリノベーション（表 2-8- ※ 1）や、集合住宅の外観改修コンテストを行うことによる景観の改善（表 2-8- ※ 2）といった、既存建築の改修、活用の取り組みも挙げられた。改修コンテストは建物所有タイプのうち (1) 住宅協同組合、(3) 個人組合のものが対象で、行政管理以外の住宅に対しても環境改善の働きかけを行っていることが分かった。

反対に問題点としてもプランニングに関する点が挙げられた。特に道路と歩行者、車、駐車場といった交通関係の指摘（表 2-8- ※ 3）と、残されたままになっている未開発地に関する指摘（表 2-8- ※ 4、

**表 2-7　パネル住宅のファサード改修の有無と所有者の関係**

| | 所有者 | プラハ市 | | チェコの法人 | | 複数の主体 | | 不明 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| JM I | 調査住宅数（棟） | 22 | | 260 | | 470 | | 36 | | 788 | |
| | ファサード改修の状況（棟） | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし |
| | | 9 | 10 | 227 | 30 | 340 | 111 | 28 | 8 | 604 | 159 |
| | | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 |
| | | 3 | 0 | 3 | 0 | 11 | 8 | 0 | 0 | 17 | 8 |

| | 所有者 | プラハ市 | | チェコの法人 | | 複数の主体 | | 不明 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| JM II | 調査住宅数（棟） | 9 | | 71 | | 205 | | 2 | | 287 | |
| | ファサード改修の状況（棟） | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし |
| | | 9 | 0 | 50 | 21 | 92 | 113 | 2 | 0 | 153 | 134 |
| | | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | 所有者 | プラハ市 | | チェコの法人 | | 複数の主体 | | 不明 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| JM 全体 | 調査住宅数（棟） | 31 | | 331 | | 675 | | 38 | | 1075 | |
| | ファサード改修の状況（上段：棟数）（下段：割合） | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし | あり | なし |
| | | 18 | 10 | 277 | 51 | 432 | 224 | 30 | 8 | 757 | 293 |
| | | **58%** | **32%** | **84%** | **15%** | **64%** | **33%** | **79%** | **21%** | **70%** | **27%** |
| | | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 | 一部 | 工事中 |
| | | 3 | 0 | 3 | 0 | 11 | 8 | 0 | 0 | 17 | 8 |
| | | **10%** | **0%** | **1%** | **0%** | **2%** | **1%** | **0%** | **0%** | **2%** | **1%** |

改修あり　改修なし　一部改修あり　工事中

**( 現地調査をもとに筆者作成 )**

写真 2-2）が多く見られた。また、住民や建物所有者との合意に関するトラブル（表 2-8- ※ 5）も指摘された。具体例は、新規住宅建設の際に隣接する建物所有者が自分の所有する既存建築物から 1 m以上離さなければ新築を認めないと主張したことにより、建物間に微妙な隙間を開けなければならなかったというものや（写真 2-3）、事前に区役所に届け出ると反対されるという理由で建物所有者が区役所に無断で集合住宅の壁に広告を出してしまう、というものであった。路上駐車の問題を解消するための区役所による新しい駐車場の設計案もあるが、住民の反対により実現していないという例も挙げられた。新築時に意見の相違が起こった、近接する土地・建物の両所有者が異なることや、開発が区役所の意図する通りに進まない中心部の空地の所有者が市と民間企業等混在していることなどは、地籍図 (56) からも確認できた。これらの実例から、図 2-9 中の *1、2 のようなコメントには強制力はないということであったが、住民や土地・建物所有者の意見は比較的尊重されているようにみえる。また、外資系企業による大型商業施設の開発も進んでおり、駅前の商店街との競合が起こっているため将来

**表 2-8　プラハ 11 区役所担当者による評価**

| | |
|---|---|
| **優れた点** | ・市中心部から近い。<br>・住宅と公共施設の位置関係が良い。<br>・技術・交通インフラの連結が良い。<br>・開発の過度な集中が防がれている。<br>・13世紀の建築物を保存、活用している。<br>・パネル住宅は再生可能であり、寿命を延ばすことができる。<br>・学校・公園・スポーツ施設などの公共施設が充実している。<br>・用途が無くなった施設のリノベーションを行っている。(※1)<br>・外観改修コンペにより景観が改善し(※2)、市民がまちづくりへ参加する機会にもなっている。 |
| **問題点** | ・高速道路によって地域が分断されている。(※3)<br>・住宅団地がコンパクトではない。<br>・道路が車に占有され、歩道が地面より高い位置に作られている。(※3)<br>・方向感覚を失いやすい空間である。<br>・駐車場が不足している。(※3)<br>・土地形成のための余分な土壌が非経済的に使用されている。(※4)<br>・中心部の施設が役に立たない、または不要である。<br>・中心部が完成していない。(※4)<br>・緑地が計画通りに完成していない。(※4)<br>・建物が技術的・道徳的に古い。<br>・パネル住宅の寿命が全て同時期である。設備施設に関しては既に古くなったものもある。<br>・住民が未開発なままの現状に慣れ、新規開発を望まない。<br>・職場が住宅地から離れている。<br>・大型商業施設開発により小売店が衰退している。<br>・住宅壁面の広告が景観を乱している。(※5)<br>・公共物への落書がある。(※5)<br>・新築建設の際、近隣所有者の反発により計画の変更や非効率的な建設が行われる。(※5) |

| **再生の目的** |
|---|
| ・次世代にも対応する豊かな建築物と論理的構成をもつ独立した地域をつくる<br>・生活、仕事、娯楽のための環境をととのえる |
| **再生の義務** |
| ・論理的手順と広域的コンテクストの中での未開発地域問題の解決<br>・都市をつくるのに不足している機能（特に社会的、文化的に）を加えた中心部の完成と再構築、それに伴う雇用機会の増加<br>・プラハ11区へのトラム導入<br>・新しい駐車施設の建設による駐車スペース不足の解決<br>・パネル住宅再生の継続<br>・公共空間（特に公園、運動場、サイクリングロードなど短期娯楽のための）再生の継続<br>・開発の合理的規制（新規開発よりも既存住宅の利用）<br>・新技術、環境にやさしいアクセス、植物と水の保護 |

(56) 地籍図 :http://nahlizenidokn.cuzk.cz/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

写真 2-1　ビール醸造所

写真 2-2　歩道橋から見た駅前の空地

写真 2-3　建物間の隙間

写真 2-4　大規模商業施設

写真 2-5　駅前の商店街

表 2-9　プラハ 11 区行政による環境再生のための施策と特徴的な建築物

| 年 | 環境再生のための施策 | 特徴的な建築物の建設 |
|---|---|---|
| 1993 | ・戦略的都市研究<br>[不足する機能の追加による住宅開発地の完成、及びパネル住宅とその周辺環境における生活の質の向上が目的] | |
| 1994 | | 老人ホーム |
| 1995 | | プラハ市アーカイブ |
| 2001 | ・プラハ11区再生研究<br>[建築物、公共の屋外空間、緑地、グラウンド、歩道、駐車場、道路システム対する再生のための主要な規則の作成]<br>・住宅購入者への資金融資 | |
| 2004 | | カーリングホール |
| 2005 | | 商業・経営管理センターホドフ |
| 2007 | | Matka Terezaのコミュニティセンター |
| 2008 | ・住宅再生コンテスト(～現在まで毎年開催)<br>[住宅協同組合と個人組合所有の住宅棟を対象に、優れた改修を行った住宅棟を表彰] | 経営管理センターThe Park Chodovská tvrz公園 |
| 2009 | ・JM住民への住環境評価アンケート<br>[郵送形式で2万2千戸に配布、3400戸から回答] | |
| 2010 | | スポーツホール |
| 2011 | ・"MĚSTO PRO ŽIVOT"(City for life)プログラム(～現在まで継続)<br>[住宅協同組合、個人組合、自治体間の意思伝達を円滑にするためのプログラム] | |
| 2014 | | 屋内プール施設 |

的な商店街店舗の淘汰が懸念される点も指摘された（写真 2-4、写真 2-5）。

プラハ 11 区行政による環境再生のための施策と特徴的な建物について表 2-9 にまとめた。民主化以降、スポーツ施設やコミュニティセンター、公園など娯楽のための公共施設が整備されていることが分かる。

### 2．4　得られた知見

社会主義時代に建設された国有の集合住宅は、民主化に際して一旦所有権が国から自治体に移り、そこから集合住宅入居者等に売却されたことが分かった。売却方法については自治体ごとに異なっていることから、社会主義時代の集合住宅の現在の所有者の割合については、自治体毎に違いがあると考えられる。

プラハ市には 54 の住宅開発地が存在しており、中でも Severní Město、Jiřní Město、Jihozápadní Město の 3 つの大規模住宅開発地等が建設された 60 年代は、建築の自由度が高かったことが分かった。また、1968 年のプラハの春に至る検閲制度の廃止や言論の自由の保障、その後の 1968 年プラハの春以降の監視体制の強化という政治的な流れも踏まえると、60 年代に開発計画が作成された住宅開発地は、社会主義時代全体を通じて、各開発に独自性がみられる可能性が最も高かった時期に含まれると考えられる。

プラハ市行政担当者へのインタビューからは、プラハ市の政策として 2001 年に社会主義時代の住宅開発地の調査事業が行われていたことと、地域再生には区の政策が重要な役割を果たしていることが分かった。そこでプラハ 11、13 区に着目したところ、区レベルでは地域の再生施策に対して独自の姿勢をとっており、地域ごとに異なる実態に対応した施策につながる可能性があることが分かった。

プラハ市、プラハ 11、13 区役所においてプレハブ住宅開発地に対する物理的問題点が認識されていた一方で、住宅ストック活用に対する抵抗感を示す意見は聞かれず、建築物や計画案の優れた点も指摘されており、いずれの立場においても社会主義時代の建築物や計画案の良いところは残し、活かしていこうとする方針は共通していた。

プラハ 11 区の JM に対する優れた点として、プラハ市中心部や JM 内の公共施設へのアクセス性の良さ、社会主義時代以前の建築物が保存されていること、公共施設が充実していること、プレハブ建築物のリノベーション・住宅改修が行われていることが指摘された。問題点としては、JM 内の中心部が未完成であること、駐車場が不足していること、職場が不足していること、住民の反対による計画の中止･変更･非効率的な建設が行われていることが指摘された。また、JM の将来の方針として、生活、仕事、娯楽のための環境が整った、独立した地域を作ることが掲げられていた。

# 第３章　プラハ市プラハ 11 区 Jižní Město を中心とした社会主義時代の住宅開発地開発計画に関する建築雑誌記事

## ３．１　プラハ 11 区 Jižní Město 開発に関する「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」の記事

本章では、社会主義時代にチェコ国内で発行された建築分野の公式機関誌の記事を中心に読み解くことで、住宅開発地の開発の経緯と、その開発に対する当時の見解を明らかにする。

### ３．１．１　調査の方法

社会主義時代の住宅開発地 JM（図 3-1）の開発に関わる資料を得るため、2015 年 3 月にプラハ市アーカイブを訪問したところ、JM の開発計画に関わる図面等の資料は IPR PRAHA (Institut plánování a rozvoje hl. m. Prahy/ Prague Institute of Planning and Development) のアーカイブに保管されていることが分かった。しかし、JM 開発に関する資料は未整理であり、どのような資料が存在するかは不明であるとのことであったため、次回の現地調査までに関連する資料を整理してもらった。2015 年 8 月に同アーカイブを訪問し、チェコ語 - 日本語通訳者を介して整理された資料の内容を確認したところ、JM I、II の開発計画図、JM の開発前のコンペ案、JM 開発に関する雑誌記事等の資料が大量に保管されていることが明らかになった。このことから、これらの資料はこれまでチェコ国内においても関心の対象ではなかったことが推測される。

本章では、今回新たに整理された資料の中でも、特に雑誌記事に着目して分析対象とする。雑誌記事には開発関係者の意図や評価が言葉と図表によって示されていると考えられるからである。アーカイブ職員によって整理された JM 開発に関連する記事の概要を表 3-1 に示す。JM 開発についての記事が掲載されていた雑誌には「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」と「československý architekt」の 2 種類があるが、今回は特に、公式機関紙「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」(1) に掲載された記事（写真 3-1）に注目し、

**表 3-1　雑誌に掲載された JM 開発に関連する記事の概要**

| 雑誌 | 巻（号） | 出版年 | 記事のタイトル | 掲載頁 | 記事の内容 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR*1 | 26 | 1967 | ・プラハのJMコンペティション、理論<br>・プラハのJMコンペティション（フェーズ2） | 91-100<br>459-464 | ●<br>● | ＋<br>＋ |
| | 28 | 1969 | ・プラハ市「JM」の詳細な地域計画 | 442-447 | ● | ＋ |
| | 30 | 1971 | ・コンペティション　プラハのJMの子供のための公園と遊び場の設計と設備についての公的で匿名のデザインコンペティション | 471（他番号記載なし3頁） | ● | － |
| | 31 | 1972 | ・JMのための住宅<br>・プラハ-JMのハーイェ地域の複合施設「KUPA」<br>・JMのためのPragoděv（企業名） | 22-25<br>284-285<br>434-437 | ●<br>●<br>● | ＋<br>－<br>－ |
| | 32 | 1973 | ・プラハのJM　第三グループ（アパートと住宅、9年制小学校）<br>・プラハ4のJMの二番目の病院(Nemocnice)と総合病院(Poliklinika) | 70-79<br>169-171 | ● | ＋-<br>－ |
| | 37 | 1978 | ・JM II　西地域　詳細な地域計画 | 152-158 | ● | ＋ |
| | 40 | 1981 | ・JM IIの進捗 | 346-354 | ● | ＋ |
| | 41 | 1982 | ・住宅開発地の社会的価値の評価 | 170-176 | ○ | ＋ |
| | 43 | 1984 | ・建築と造形芸術作品の統合 | 354-355 | ○ | ＋ |
| | 47 | 1988 | ・新しいプラハの住宅開発地のコンペ一案と現実 | 42-47 | ○ | ＋ |
| | 48 | 1989 | ・JM IIの若者のためのレクリエーション施設 | 42-43 | ● | － |
| československý architekt | 16(6-7) | 1970 | ・プラハのJM　二月の会議の音声記録 | 1-3 | ●:提案<br>○:評価 | |
| | 18(18) | 1972 | ・JMの中心部について | 1-2 | | |
| | 21(7) | 1975 | ・1972-1973年の建築作品の展示会 | 1,3 | | |
| | 24(15) | 1978 | チェコスロバキア中央委員会第四回会議<br>新しい住居建築のタイプ | 1 | ＋:全体計画<br>－:建築物計画 | |
| | 28(/)*2 | 1982 | プラハのJM　希望と現実 | 番号記載なし4頁 | | |
| | /(12)*2 | 1984 | 少しの違いの類型論　あるいは建築がいかに細かいか | 4-5 | | |

*1 雑誌のタイトルは1969年まではČSSR、1971年からはČSRとなっている。
*2 /はコピー資料から確認できなかった箇所

(1) 雑誌「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」は、1939 年に創刊された機関誌であり、森下嘉之 (2013)、近代チェコ住宅社会史、北海道大学出版会、p.248 には、「BAPS は、戦前の建築雑誌を統合した公式機関誌『チェコスロヴァキア建築（Architektura ČSR）』を刊行し、戦後の建築構想を発信した」とある。BAPS とは、Blok

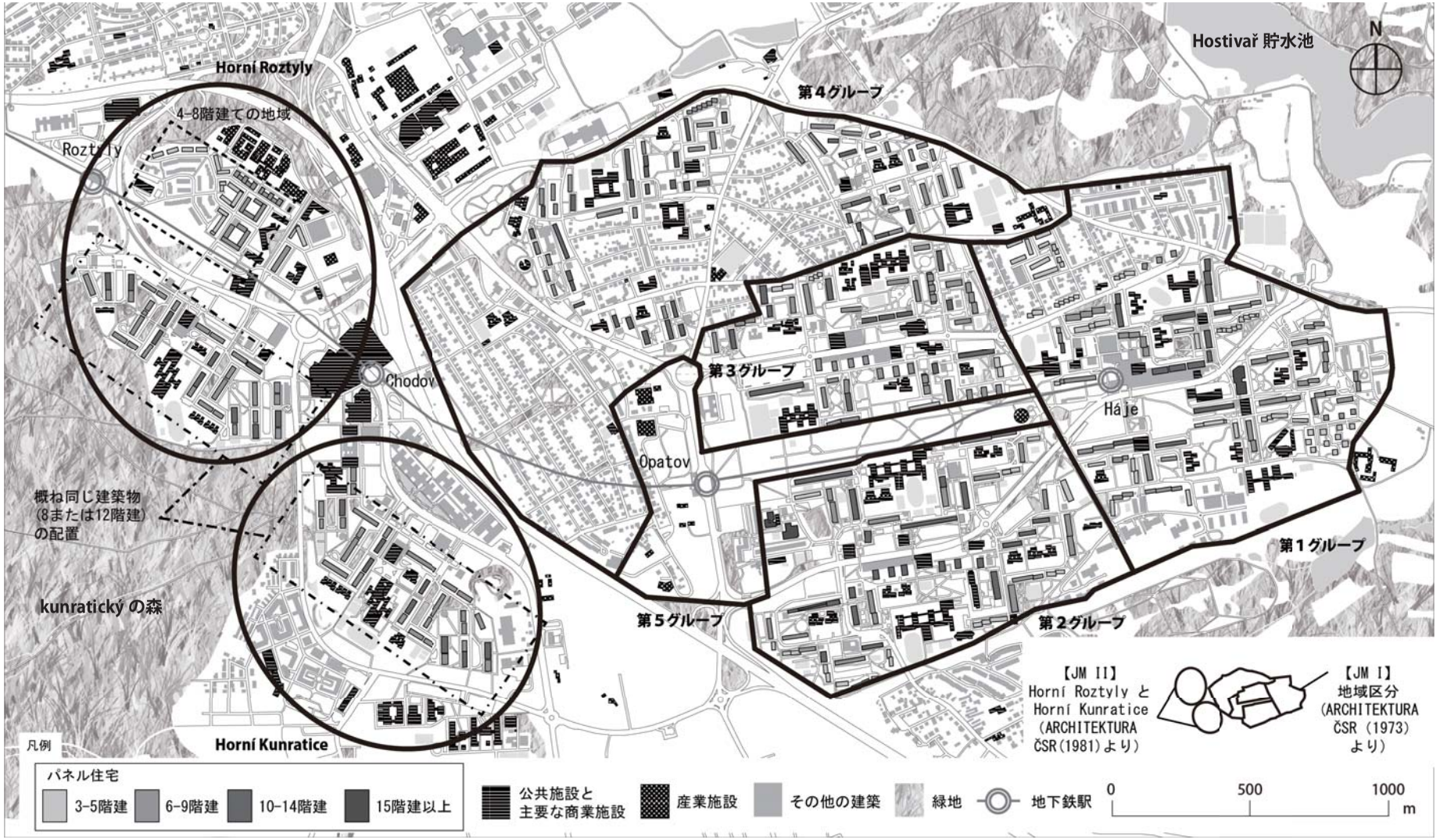



図 3-1　現在のイジュニームニェストの社会主義時代の開発に対応する構成要素

更にその中でも JM の地域計画に関わる部分を中心に、出版された時系列に沿って見ていく。1948 年の社会主義体制への転換や 1968 年のチェコ事件といった政治背景の変化は公的機関誌の編集にも政治的影響を与えた可能性が考えられる。しかし、その様に制限された範囲であったとしても、これまであまり知られることのなかった、住宅開発地の計画の中に込められた設計者の意図や、専門家が当時表明した意見の一端を明らかにすることには意義があると同時に、雑誌記事は住宅開発地の開発計画と現状評価との繋がりを明らかにする上で重要な資料であると考えられる [(2)]。なお、「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」の記事はチェコ語で書かれているため、本論文で内容を整理するにあたって筆者が日本語に翻訳した。翻訳は極力原文に即して行い、その意味するところが曖昧な場合には適宜解釈を補足している。

### 3．1．2　Jižní Město 全体計画のコンペティション（1967 年）

ここでは、1967 年の「ARCHITEKTURA ČSSR」[(3)] に掲載された JM 開発計画案コンペの 2 つのフェーズについての記事をまとめる。

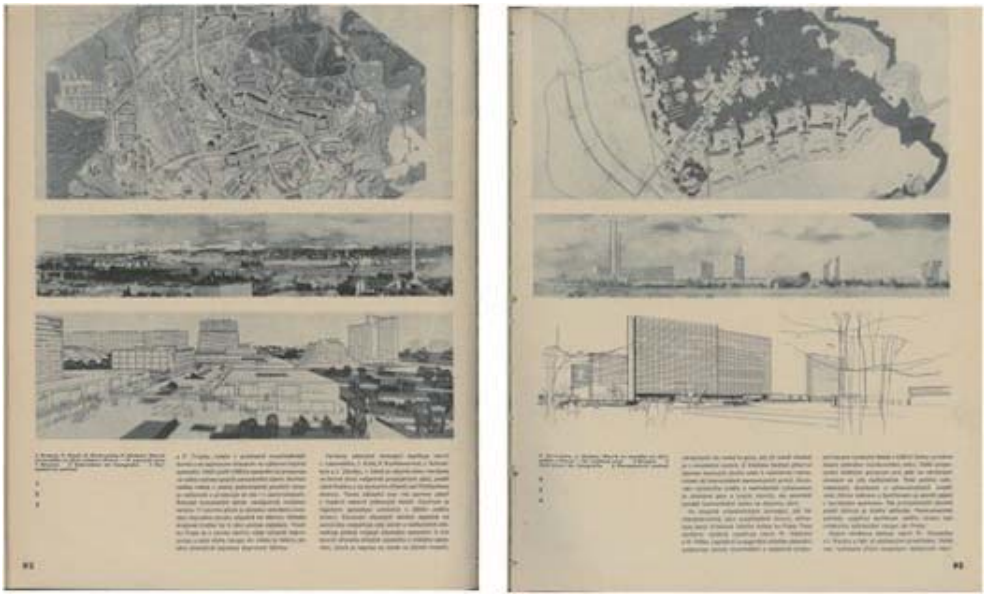


**写真 3-1　雑誌に掲載された Jižní Město 開発に関連する記事の例（出典：Architektura ČSSR 1967 年）**

architektonických pokrokových spolků の略語であり、上記文献では「建築進歩協会ブロック」と訳されている。

(2) 雑誌記事を扱う研究については、日本建築学会計画系論文集 (461)1994 年 7 月において、西山卯三と奥山信一らが討論を行っており、奥山らが『新建築』誌を扱ったことについて、西山が雑誌は「編集方針によって一定の偏向を持たざるを得ない」とした上で、雑誌を資料として取り上げることは「資料としての限界に対する批判検討抜きにしては、極めて危険である」と指摘している。これに対し、奥山らは「論文がきわめて限定した建築家の活動についての検討であることを明示」しており、「『新建築』という建築的なメディア自体の性格を相対化するものであっても、それを直接に絶対視するものではない。」と回答している。本章も一つの雑誌の記事の内容を扱うものであるが、「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」が JM に関する記事において一面的に偏った高 / 低評価を行っている訳ではないことに加え、社会主義時代の雑誌中での議論であることを前提としている。また本論文中で、雑誌記事の内容と航空写真や現在の区行政、住民の意見との照らし合わせを行っており、記事内容を絶対的なものとして扱うのではなく、雑誌記事に対して異なる複数視点からの検討を加えることによって相対化を行っている。

(3)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26.

### 3．1．2．1　フェーズ 1 のコンペの概要

JM の最初の開発を始めるにあたっては、その全体計画についてコンペティションが行われ、コンペの結果は 1967 年の「ARCHITEKTURA ČSSR」に掲載された。コンペの審査と結果の概要は表 3-2 の通りである。結果を見るに、コンペには 2 種類があったと考えられるが、その違いについての記載は同記事中にはない。ただし、1 位なしの区分の 2 位の賞金がもう一方の区分の 1 位の賞金よりも高額であることから、区分の違いによってコンペ案の重みにも違いがあったと考えられる。また、このコンペの結果をもとに、入賞した計画案と 3 つの 1 位入賞チームについて、プランを修正した、より詳細なコンペが行われることとなった [(4)]。なお、本論文では実現された JM に関わる開発計画の意図を追うことを趣旨としているため、コンペ案については、特に最終的に計画案を作成することとなった J.Krásný らの案に注目し、詳述することとする。

### 3．1．2．2　フェーズ 1 におけるコンペの趣旨

コンペの説明において特に留意されていた開発の特色をまとめると、以下のようになる [(5)]。

・JM 全体で 7 ～ 8 万人の住民のために 2 万～ 2 万 5 千戸を用意する。

・JM とプラハ市の地域的な構成関係（※プラハ市という領域の中での JM の地域的な位置づけのことを指すものと考えられる）を考慮する。

・JM はプラハの同心円形の新しい居住エリアの輪の中に含まれるが、プラハの窪地であるという点で、他地域とは異なる。

・プラハ最大規模の Hostivař 貯水池と kunratický 森林公園がすぐ近くにあるという利点がある。

・プラハの他の新しい住宅開発地とは異なり、既存の建物や都市と直接的には接していない。

・プラハとの関係性がより自由であるという利点を使用すると同時に、都市との結びつきを表現することが重要である。

・国家の交通の幹線の一部であるプラハ - ブルノ間の高速道路から都市への入り口である。

・本質的な特殊性は、プラハの他の住宅地と比較してより自己充足的（※ JM という開発地の中で、住

**表 3-2　Jižní Město コンペティション（フェーズ 1）の審査と結果の概要**

| | |
|---|---|
| 主催者 | Národní výbor hlavního města Prahy (National Committee of the Capital City of Prague) |
| 審査員 | Antonín Otradovec, I. náměstek primátora (**議長**), prof. Ing. arch. dr. Jindřich Krise (**副議長**),<br>prof. Ing. arch. Jíří Voženílek, **プラハ市のチーフアーキテクト**, Ing. arch. Milan Procházka, Ing. arch. Milan Jarolím, Ing. arch. Tibor Zalčík CSc., Ing. arch. Aloiz Daříček |
| 記録員 | akad. arch. Josef Hrůza, Ing. arch. Josef Polák, Ing. arch. Jan Benda, Ing. arch. Jozef Proisl |
| 案の数 | 41 |
| 入賞 | 二位　30000チェココルナ　Jan Krásný, V. Musil, K. Ondroulek, V. Skokan　フェーズ 2 に進んだ案<br>三位　23000チェココルナ　I. Oberstein, M. Vaic, Z. Balcar<br>三位　23000チェココルナ　M. Hejduk, M. Mišek<br>三位　23000チェココルナ　V. Syrovátko, J. Hubka<br>一位　13000チェココルナ　J. Klen, M. Balounová, Z. Jakubec, P. Tripal<br>一位　13000チェココルナ　V. Meduna, S. Rys, J. Vylinka, J. Hroš, V. Veselý, M. Šerek<br>一位　13000チェココルナ　J. Rotyka, Fr. Kameník<br>二位　5000チェココルナ　J. Lasovský, J. Krč, V. Rothbauerová, J. Schwaller, J. Záruba<br>二位　5000チェココルナ　B. Kříž |

**(ARCHITEKTURA ČSSR (1967) をもとに表を作成)**

(4)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26、p.91、 1 列目 40~44 行。

(5)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26、p.91、1 列目 53 行 ~2 列目 47 行。

民が日常生活を送るのに必要な学校、病院、商店、職場といった施設やサービスが成立していること、と考えられる）であることと、開かれたランドスケープ（※未開発の緑地のことを示すと考えられる）と直接的に接していることである。

### ３．１．２．３　フェーズ 1 における J.Krásný らの案

J. Krásný らの提案（図 3-2）[(6)] は、以下に示すような点から、フェーズ 1 の時から最も評価されていた [(7)]。

・プラハ市に対して大部分が独立していることを表現する丸ごと一つの町が作られており、低・中層の建築物を多く用いることで郊外に向かってスムーズに移行している。

・アクセントとなる 3 つの高層建築が集まる JM の中心から、高層建築物地域が広がっており、その重心に町の公園がある。

・主に強調されている点は、優れた居住環境と建物の多様な組み合わせであり、それらは思弁的ではないが、しかし豊かで段階的な多様な種類の住宅と自然環境の繊細な統合がある。

・パノラマのドローイングからは、穏やかで調和の取れたシルエットに貢献する、町の中心を強調する

**図 3-2　コンペティション（フェーズ 1）の J.Krásný らの案**
**上からシチュエーション、写真上のドローイング、パース**
**（ARCHITEKTURA ČSSR, 1967　筆者加筆）**

(6) 図 3-2 は、ドローイングに描かれた建物の影・大きさから建物の規模を判断し、文献本文中の表現をもとに地域区分を筆者が加筆した。文献中に明記されている訳ではない。

(7)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26、p.95、3 列目 2~13 行 、p.98、1 列目 1~6 行。

最高層の建物を頂上として、山なりに広がる空間計画が見える。
・広大で穏やかな波状のランドスケープの調和は、この提案の最大の利点に属する。

### 3．1．2．4　フェーズ 2 のコンペの概要

コンペのフェーズ 2 についても、1967 年の「ARCHITEKTURA ČSSR」に掲載されている。フェーズ 2 は限定的かつ記名形式で行われ、コンペのフェーズ 1 で最も高い評価と報酬を得た 7 つのグループが、参加者として招かれた。フェーズ 2 のコンペの概要を表 3-3 に示す。フェーズ 2 では 2 つの案が最優秀案として選ばれたが、それらの案は批判をもとに更に修正を加えた上で、最終的にどちらかが開発の基本案として選ばれることとなった [(8)]。

### 3．1．2．5　フェーズ 2 における J.Krásný らの案

同紙において、J. Krásný らの案（図 3-3）[(9)] は、「*自身の設計案のプラスの面、特に、全体の構成の豊かさと住宅タイプの種類の多様さ、多様に形成された低層建築、郊外との統合の成功、そして細かく形成された地形の優れた強調を発展させた*」、「*調和のとれたプロポーションの様々な住宅が見られ、高層建築住宅はより特別な役割を果たしている*」などと評価されているが、その一方で、住宅地域の中心の高層建築の構成において、住居部分の緑の機能と中央公園の関係については熟慮されていないことも指摘されている [(10)]。

### 3．1．2．6　考察

社会主義時代の住宅開発地の設計のためにコンペが開催されており、複数の建築家グループが独自

**表 3-3　イジュニームニェストコンペティション（フェーズ 2）の審査と結果の概要**

| | |
|---|---|
| 主催者 | Národní výbor hlavního města Prahy (National Committee of the Capital City of Prague) |
| 審査員 | Antonín Otrodovec, プラハ市第一副市長 (議長), Prof. ing. arch. Jiří Voženílek, プラハ市のチーフアーキテクト, Ing. arch. Milan Procházka, Prof. Ing. arch. dr. Jindřich Krise, Ing. arch. Milan Jarolím, Ing. arch. František Zounek, Ing. arch. Jan Benda<br>代理人: Akad. arch. Josef Hrůza, Ing. arch. Josef Polák, Ing. arch. Miloš Mandík. |
| 記録員 | Ing. arch. Josef Pokorný |
| 案の数 | 7 |
| 参加者 | ・J. Krásnýら<br>・I. Oberstein, M. Vaic, Z. Balcar<br>・M. Hejduk, M. Míšek<br>・VI. Syrovátko, J. Hubka<br>・J. Klen, M. Balounová, Z. Jakubec, P. Tripoal<br>・VI. Medunaら<br>・Fr. Kameník, J. Rotyka |
| 入賞 | 同率二位　20000 チェココルナ　（順番なし）<br>No.1−VI. Syrovátko, J. Hubka;<br>No.5−J. Krásný<br>チームメンバー: VI. Slíva, J. Němec, K. Fořti, inž. sítě K. Ondroušek, VI. Musil, VI. Skokan<br><br>三位　15000 チェココルナ<br>No.4−I. Oberstein, M. Vaic, Z. Balcar |

**(ARCHITEKTURA ČSSR (1967) をもとに表を作成)**

(8)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26、p.459、1 列目 32~37 行。
(9) 図 3-3 は、ドローイングに描かれた建物の影・大きさから建物の規模を判断し、文献本文中の表現をもとに地域区分を筆者が加筆した。文献中に明記されている訳ではない。
(10)Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26、p.459、3 列目 20~45 行。

のアイデアを競う場があったと同時に、その審査結果と各案に対する批評が公開されていたことが分かった。また、Krásný らの多様な高さの住宅を配置した案に対する評価から、住宅供給はその効率性だけでなく、周辺環境との調和が考慮されていたことがうかがえる。

### 3．1．3　イジュニームニェストの詳細な地域計画（1969 年）

ここでは、「ARCHITEKTURA ČSSR」1969 年 [(11)] に掲載された記事について扱う。

#### 3．1．3．1　イジュニームニェストの詳細な地域計画

雑誌「ARCHITEKTURA ČSSR」1969 年には、Jan Krásný、Jiří Lasovský、Miroslav Řihošek によって執筆された、JM の詳細な地域計画についての記事 [(12)] が掲載されている。

最終的な設計は、入賞案を作成した Jan Krásny とアトリエ 9 が共同で作成した最初の都市の基礎ス

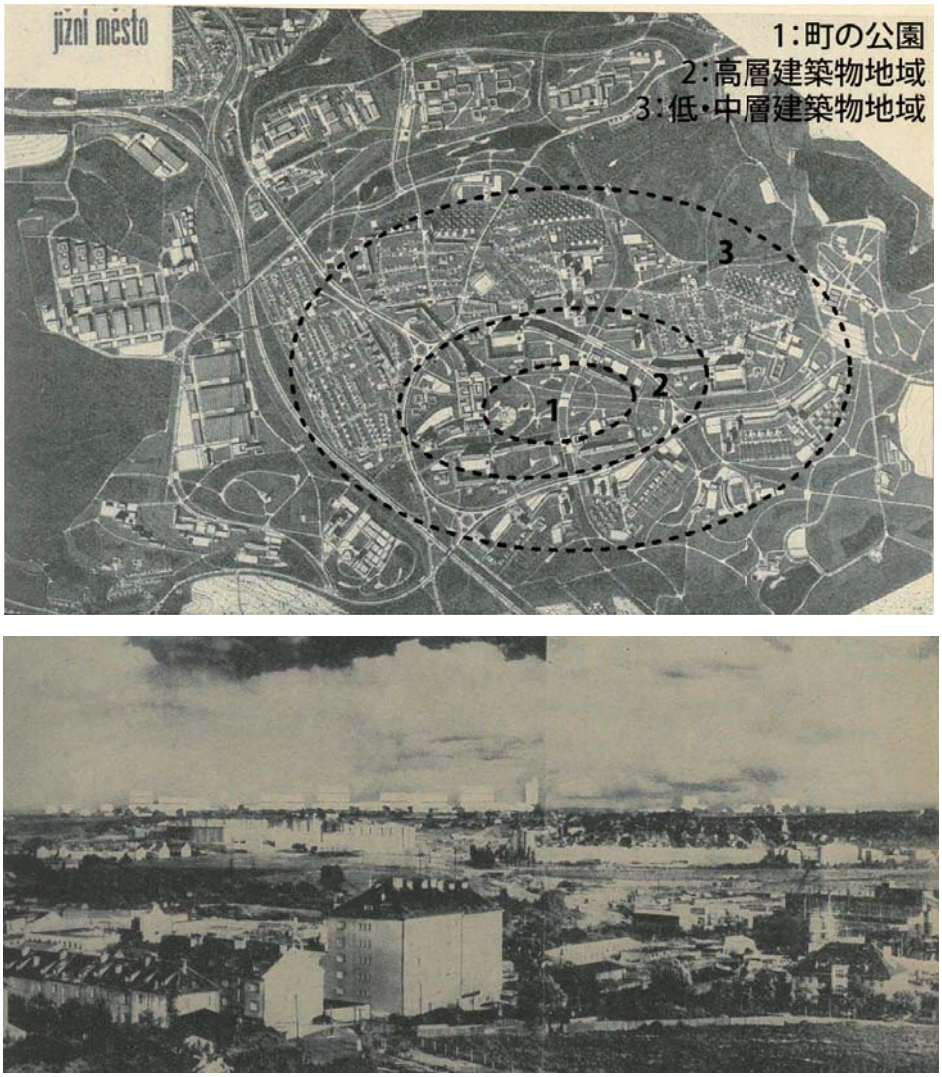



**図 3-3　コンペティション（フェーズ 2）の J. Krásný らの案**
**上からシチュエーション、写真上のドローイング**
**（ARCHITEKTURA ČSSR, 1967　筆者加筆）**

(11)Svaz Architektů ČSSR (1969), Architektura ČSSR, vol.28.

(12)Svaz Architektů ČSSR (1969), Architektura ČSSR, vol.28、p.442-447。

タディに決定したが、建設プログラムの更なる改善によって、住居ゾーンの構成については考え方が変更され、その結果住居グループの構成は草案から著しく変化した、と述べられている。JM の詳細な地域計画図の作成には、設計工学、交通ネットワーク、アトリエの専門家が参加し、1968 年末に承認された(図 3-4)。検討の結果、それぞれ約 1 万 6 千 5 百～ 1 万 9 千 5 百戸を持つ 3 つの大きな住居グループによる住居地域をベースとし、これらを市民施設と交通サービスの観点からの組織的な一単位とした。3 つの大きな住居グループには、Háje、Opatov、Litochleby があり、それらとは本質的に異なるグループとして Chodov が位置づけられた（図 3-5)。Háje は 1973 年から建設が始まる予定の最初のグループであり、そのローカルセンターは地下鉄の終着駅にある。ここは Hostivař のレクリエーション地域（※ Hostivař の貯水池とその周囲の森林地域を指しているものと思われる）に接続していることから、JM 地域全体においても機能的に重要であるとみなされた。2 番目のグループ Opatov については、非常に好ましい地形と状況的な条件を持ち（※具体的にどのような状況のことを示しているかの詳述はない)、JM の遠景にアクセントをつける、とある。3 番目のグループ Litochleby については、北の既成市街地と東の斜面の間にあって、最初の 2 つのグループが自然と郊外へとつながっているのと同じようには、郊外へと移行しない。Chodov は上記の 3 つの住居グループとは異なり、主に古くからある建物地域と、非居住用途の建築物から構成される。その建設のプログラムは、比較的大きなキャパシティを持つホテルや行政機関、ホテル用あるいは実験的な住居の建築物、その他水準の高い市民施設といった、ローカルレベル以上に重要な建築物が設定された。

都市交通計画については、コンペのコンセプトや、全種類の交通負荷の計算の詳細な分析をベースにした比較のスタディから作られた、と述べられている。最大の交通負荷がかかる町の大通りは、ロータリー交差点で 3 方向へ分岐し、そこからさらに地域の交通網へとつながっていくように設計された。しかし同時に、実際に実現するための技術と投資の困難さが指摘され、さらに、騒音、振動、大気汚染や住居地域での交通事故といった有害な影響を最小限に抑えることを困難な課題として挙げている。町の最も効率的な交通手段としては、JM への地下鉄の導入が挙げられており、当時 Kačerov まで建設されていた地下鉄 C 線が、5 駅分延長されると述べられている他、更に公共交通を充実させる方法として、バスが挙げられている。その交通網は町の大通りから町全体のバス交通網に接続する。

都市の詳細な地域計画で扱う範囲については、最終的に開発が確定された範囲のみであるとし、一部地域に対しては、例えば高さのゾーニングのみ、あるいは限定的な権限のある建築とオープンスペースのみを定める、と述べられている。計画の密度には地域差があるが、詳細な地域計画図についてはこの時（1969 年時点)、建築グループといくつかの建築的、工学的アトリエのスタディで既に研究が始まっていることが記されている。

### 3.1.3.2　考察

1969 年時点では、住居地域は現在の JM I 地域のみに計画されていた。さらに JM I 内には 3 つの居住グループが設定されたが、このグループ分けには交通計画との関係性も配慮されており、地下鉄駅の延長、バスの交通網について言及されていた。地下鉄駅については実際に実現したことが図 3-1 より確認できるほか、現在、交通の利便性が区行政によって評価されている（第 2 章の表 2-8、優れた点 3 行目)。また、地域計画は地域ごとに細分化され、各プランの作成に対して、この段階で既に多くの

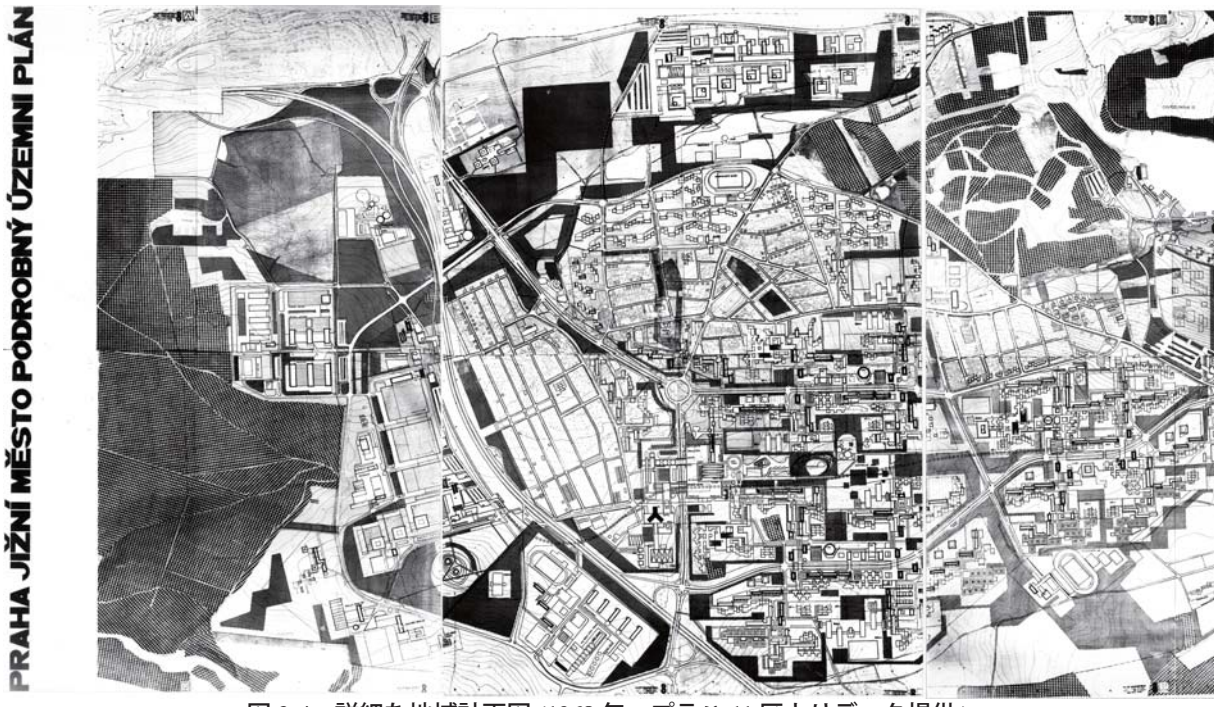



図 3-4　詳細な地域計画図 (1968 年、プラハ 11 区よりデータ提供 )

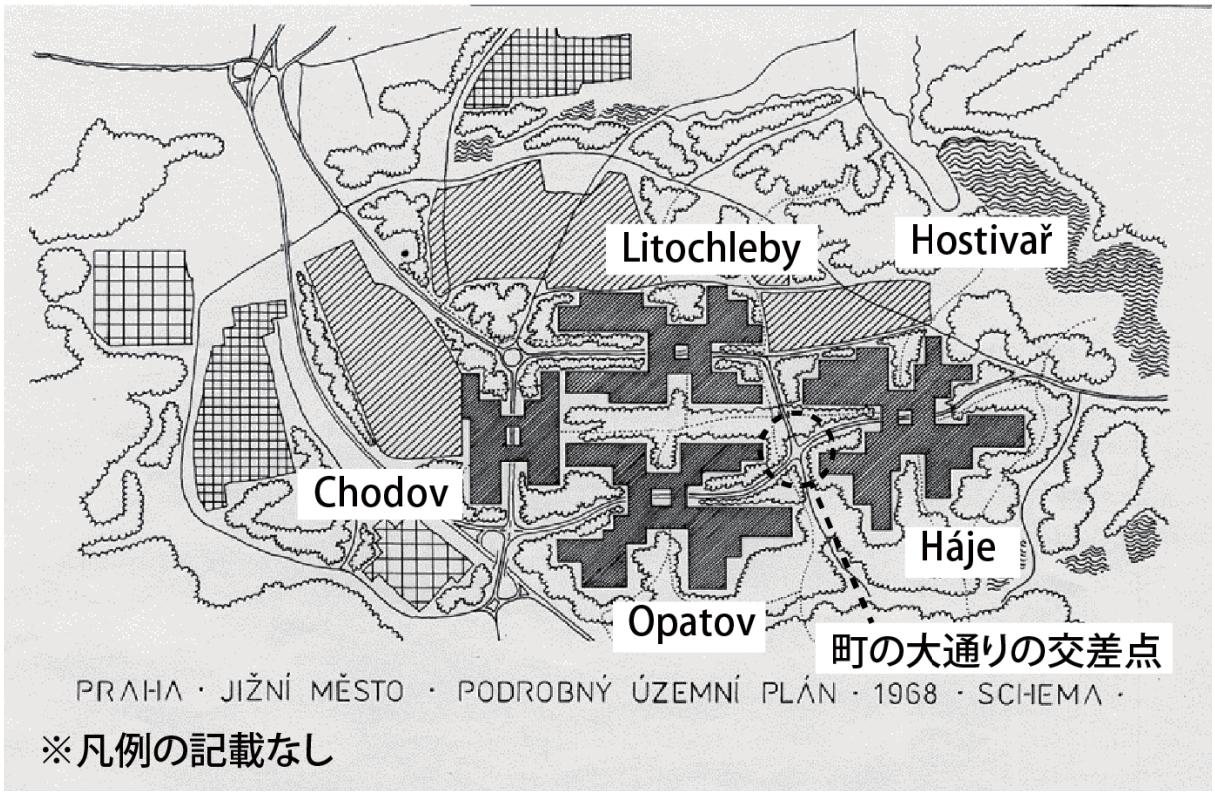



図 3-5　詳細な地域計画図のスキーム
(1968 年、プラハ 11 区よりデータ提供、地域名は筆者加筆 )

専門家チームが関わっていたことも分かる。

### 3．1．4　イジュニームニェストのための住宅（1972 年）

ここでは、1972 年の ARCHITEKTURA ČSR[13] の記事について扱う。

#### 3．1．4．1　イジュニームニェストのための住宅

雑誌「ARCHITEKTURA ČSR」1972 年には、イジュニームニェストのための住宅、というタイトルで、住宅についての研究成果が掲載されている [14]。その中で、Fr. Feistner は、「*住宅については、1964 年以降いくつかの変化に行きつき、新しい知識と経験を獲得し、そして新しい要求が生じた。*」[15] と述べている。

#### 3．1．4．2　イジュニームニェストの第一建設グループの住居開発

第 1 建設グループ Háje の住居開発の建築的なコンセプトの設計者である Z. Myslivečková（表 3-4）の記事 [16] によれば、住宅タイプの改善要求を踏まえて新たな住宅タイプが研究された。3 階から 13 階までの高さの多くの種類を要求する JM の第 1 グループ Háje の都市のコンセプトは、建設システムとして VVÚ-ETA を選択した。それは従来の大きなスパンである 6m と 3m スパンのコンビネーションを基礎とし、場合によっては更に他のスパンも用いる。しかし、「*新しい工場において可能性が非常に制限されたことで、本来の建築意図は相当に縮小し、多方面において折衷案に歩み寄る必要があった。*」[17] とある。

#### 3．1．4．3　考察

この記事によって、一見同じように見えるパネル住宅についても改善のための研究が行われていたと同時に、実際に建設される際には様々な制約があったことが分かる。

### 3．1．5　JM 全体の空間構成と第 3 住居グループ（1973 年）

ここでは、1973 年の ARCHITEKTURA ČSR[18] の記事について扱う。

#### 3．1．5．1　JM 全体の空間構成

1973 年の「ARCHITEKTURA ČSR」には、JM 開発に関わる記事として JM I 全体の空間構成、第 3 住宅グループのアパート、小学校、病院についての詳細が掲載されているが、ここでは特に JM I 全体の空間構成と第 3 住居グループの住宅について扱う。記事 [19] には、各開発の担当者（表 3-5）と、JM

(13)Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, Vol.31.

(14)Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, Vol.31、p.20。さらに、Háje の複合施設「KUPA」と Pragoděv の企業施設についての建設計画も述べられているが、今回は紙面が限られるためこれらの施設の開発計画については触れない。

(15)Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, Vol.31、p.20、1 列目 13~17 行。

(16)Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, Vol.31、pp.21-25。

(17)Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, Vol.31、p.22、11~15 行。

(18)Svaz Architektů ČSR (1973), Architektura ČSR, vol.32.

(19)Svaz Architektů ČSR (1973), Architektura ČSR, vol.32、pp.70-76。

表 3-4　JM の第一建設グループ Háje の設計関係者

| JMの第1建設グループHájeの住居開発の建築的コンセプト設計 |
|---|
| Ing. arch. Zora Myslivečková<br>共同設計者: Ing. arch. V. Kubec, arch. R. Beneš, Ing. Tomášek a Ing. arch. Semerdžiev. |
| チーフデザイナー |
| Ing. arch. V. Kubec. |
| 総合デザイナー |
| Pražský projektový ústav (Prague Design Institute) |

プロジェクトはStudijní a typizační ústav Praha (Study and Typification Institute Prague)において進められた。

**(Architektura ČSR (1972)** をもとに表を作成）

表 3-5　JM の全体構成と第 3 住居グループの設計関係者

| 総合デザイン |
|---|
| Pražský Projektový Ústav, Architektonický Ateliér 2<br>（Prague Design Institute, Architectural Studio 2） |
| 建設グループの研究者 |
| B. Kříž, 共同研究者 J. Hyliš |
| 「住宅A12」の総合デザイン設計 |
| B. Kříž, J. Hyliš, P. Čeček, E. Návesniková, 静力学: G. Kuchař |
| 高層住宅: |
| B. Kříž |
| 9年制小学校 |
| J. Hyliš, J. Fiala |
| 投資機関 |
| Výstavba Hl. Města Prahy, Výstavba Sídlišť<br>(Construction of Capital City Prague, Housing Estates Construction) |
| 総合建設業 |
| Pozemní Stavby N.P., Praha (Land Buildings National Company, Prague) |

**(Architektura ČSR (1973)** をもとに表を作成）

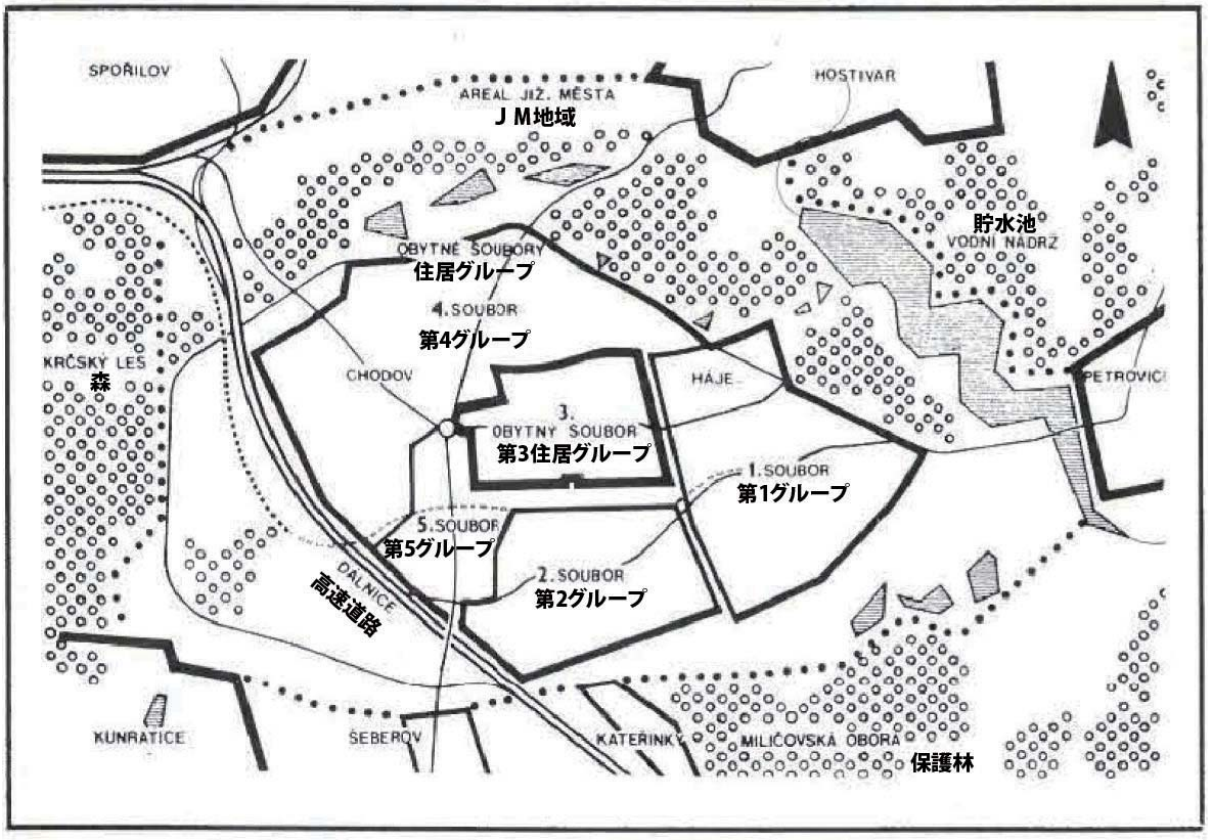



図 3-6　JM の開発グループ（ARCHITEKTURA ČSR, 1973　筆者加筆）

開発のグループ分け（図 3-6）が示されている。記事によれば、JM I 全体の空間構成については、領域的、開発時期的に、開発全体が個別のグループに分けられる。住宅地は 3 つのグループに分かれ、それぞれ 1 万 8 千人に住居を提供する。さらに、地域計画図では大きな規模、特に町全体の都市的な関係性が設計されたが、その一方で町自体の空間構成、マテリアルと機能はただ方向性のみを示すことが可能だった、ということが指摘され、計画案は当時高く評価されたことを認めながらも、ローカルセンターのコンセプトの変化や交通条件の変化によって、住居地域が変更された、と書かれている。また、JM 開発の都市設計グループの作品には、概ね 60 の公的部門と研究所の要求が組み込まれており、多主体による設計が行われていたことにより、それぞれの要求が頻繁に対立し、建設を準備する若干のパートナーの責任と主導権を取り替える必要があった、と述べられている。

### 3．1．5．2　第 3 住居グループの地域計画

組織的には第 3 グループ（図 3-7）はさらに、主に 4 つの住居地域に分けられたが、その空間的な構成は、経済的な生産の厳しい要求によって、主要道路からかなりの距離のところに、主としてパネル技術の最適解としての 8 階建てのアパートが建設され、12 階建ての更に高い高さゾーンに統合されるなど、本質的に影響を受けた、とある。また、中心部の設計として、「*幹線道路に重なって歩行者道路の立体交差点が交差しており、そこには店、サービス、ヘルスセンターなどを含む市民のための施設が配置されている*」(20) とあり、歩行者用テラスの下には駐車場が配置された。第 3 グループ内の 3 つの託児所、3 つの幼稚園と 2 つの 9 年制小学校については、グループ内の静かで、歩行者のアクセスが安全な場所に配置され、第 3 グループ内のみへのサービスを提供している。また、ここで、第 5 グループ（1969 年時点の記事での Chodov 地域に相当）内の町全体の中心は、地下鉄駅から近く、店、多目的ホール、映画館、行政機関、ホテルなどが集中した場所になることも指摘されている。住居グループは、静かな歩行者空間（最も小さい子供のための遊具つき公園と休憩エリア）、商業空間、公共交通機関の駅が連結した最短ルートの周りに計画されており、遠くにある市民施設と公共交通機関の駅ま

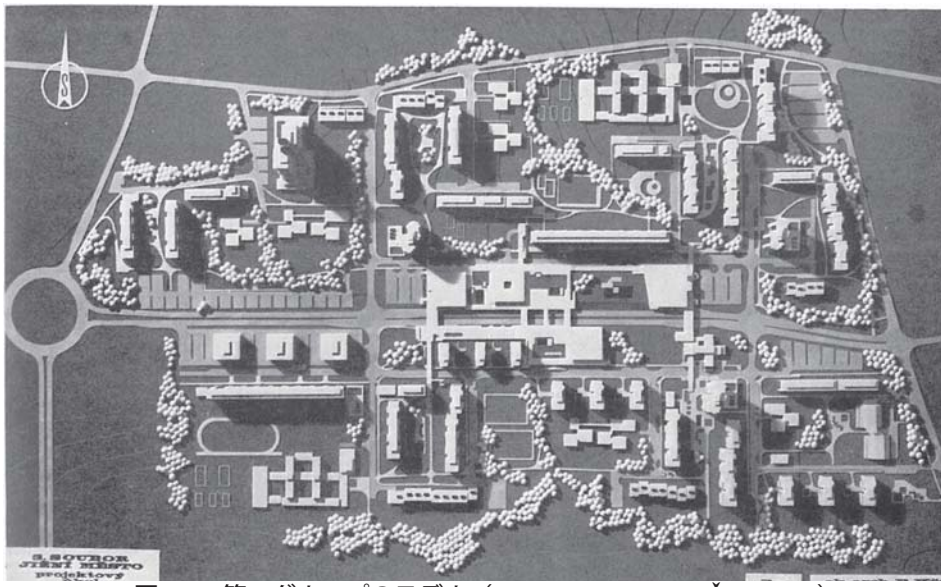


**図 3-7　第 3 グループのモデル（ARCHITEKTURA ČSR, 1973）**

(20)Svaz Architektů ČSR (1973), Architektura ČSR, vol.32、p.74、1 列目 11~15 行。

で、歩行者が車の交通の危険にさらされないルートで通うことが出来る。また、「*緑地、子どもの遊具つき公園、休憩の空間、小さな建築と魅力的な空間の中心部の設計のみならず、造形芸術作品の選択と据え付け、造形芸術家とのコラボレーションの導入についての基本的な思慮も行われた。*」[(21)] とある。

### 3．1．5．3　第 3 住居グループの住宅計画

第 3 グループの住居は、4 千 7 百戸、約 1 万 5 千人の住人を有し、その住宅タイプには「住宅 A12」が提案された。第 3 グループ全体のコンセプトと「住宅 A12」のコンセプトは、建築的な概念の統合の中で同時に生じたため、これらの住宅によって、造形的なコントラストとプロポーション、方向性、日光などが考慮された空間が作り出された、と述べられている。また、この「住宅 A12」は、規模として最適であるとして、通常階に 7 戸までが配置され（図 3-8）、このことによって住宅開発地全体の住宅の非居住空間が節約されたことにより、著しい経済効果があった、と記されている。

### 3．1．5．4　考察

この記事によって、ローカルセンターのコンセプト変更や経済的な理由から、住宅と住居地域の設計が変化したこと、歩行者と車の関係性や公共空間の造形芸術について考慮されていたことが分かる。第 5 グループの町全体（※ JM 全体のことと考えられる）の中心部については、区行政から中心部が未完成であるという指摘（第 2 章の表 2-8、問題点 8 行目）があり、図 3-1 からも大きな建築物が建てられていないことが確認できる。ここで述べられている歩行者用立体通路については、区行政によって問題点として認識されており（第 2 章の表 2-8、問題点 3 行目）、JM 内で立体通路が作られた場所はあるものの、現在評価はされていないと言える。住宅デザインについては、地域計画のコンセプトに沿う住宅の提案がなされると同時に、経済面での効率化も図られていた。

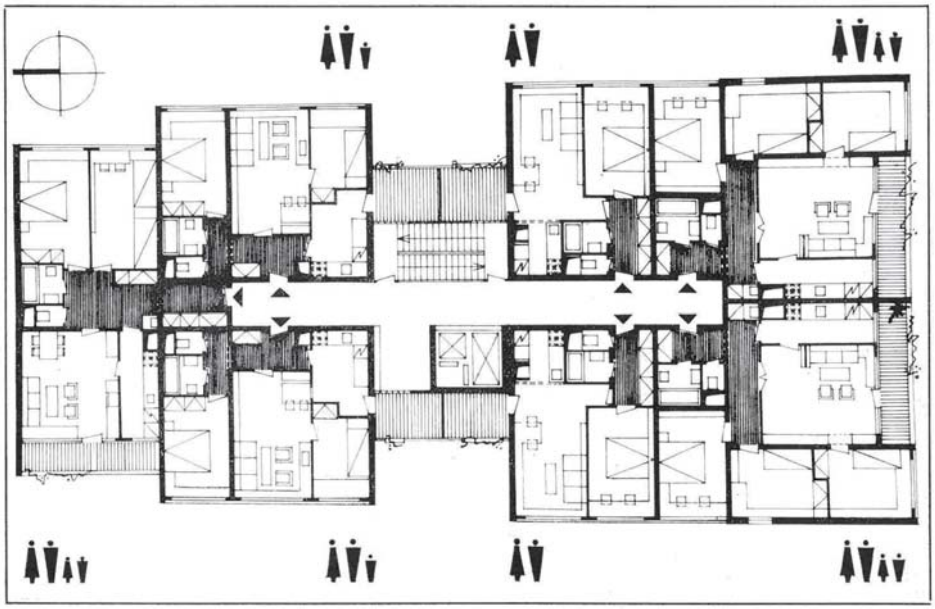


**図 3-8　A12 シリーズの典型的な平面（ARCHITEKTURA ČSR, 1973）**

(21)Svaz Architektů ČSR (1973), Architektura ČSR, vol.32、p.74、2 列目 63~69 行。

### 3．1．6．JM II の詳細な地域計画（1978 年）

ここでは、1978 年の「ARCHITEKTURA ČSR」[22] の記事の内容について扱う。

#### 3．1．6．1　JM II の詳細な地域計画

1978 年の「ARCHITEKTURA ČSR」には、JM II-Západ（西部）の詳細な地域計画についての記事が掲載されている [23]。JM II の詳細な地域計画の担当者を表 3-6 に示す。ここでは JM II の現状、全体の都市デザイン（図 3-9）、施設センターのレイアウトとカテゴリー、公共交通のオペレーションエリア、自動車交通とブロックのボイラー設備の分布、工学的道路ネットワークのスキームが掲載されており、都市の技術的インフラの観点から説明が行われている。

#### 3．1．6．2　考察

この時から JM II という表記が使用されるようになっており、図 3-9 より、この段階で JM II は現在の JM II の南にある Šeberov まで含めて計画されていたこと、JM I 開発前のコンペ時には計画されてい

**表 3-6　JM II の詳細な地域計画の設計関係者**

| |
|---|
| 総合デザイン |
| Pražský projektový ústav<br>(Prague design institute) |
| 設計者チーム |
| Jan Zerený, Vladimír Ježek, Vítězslava Rothbauerová, Jitka Thomasová（チーフエンジニア） |
| 交通計画 |
| Pavel Rittenauer |
| 専門的な協力 |
| Ladisrav Honeiser |

**(Svaz Architektů ČSR, Architektura ČSR, Vol.37, 1978. をもとに表を作成)**

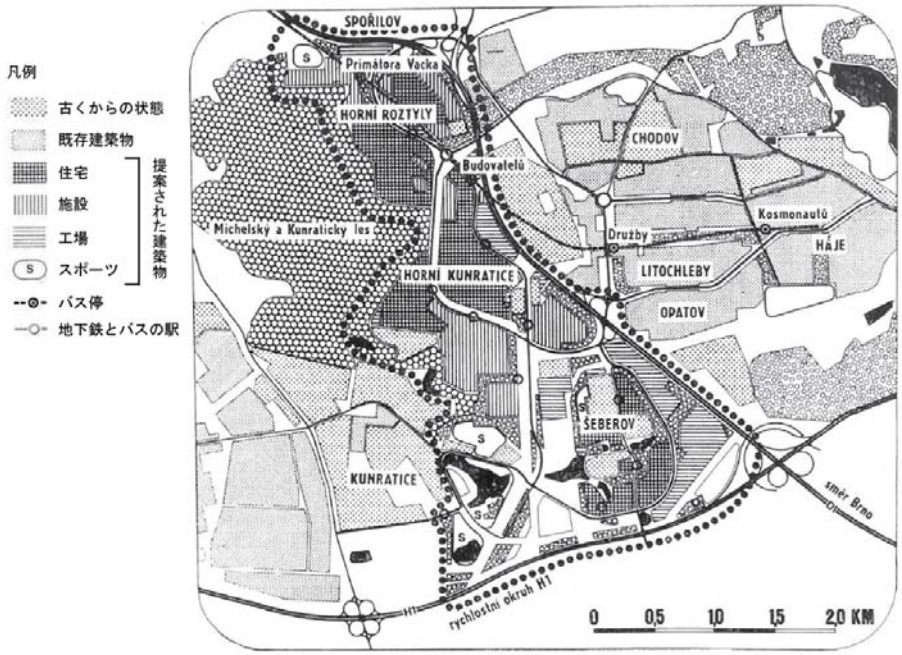



**図 3-9　JM II の全体の都市デザイン（ARCHITEKTURA ČSR, 1981）**
**※ 1978 年の全体の都市デザイン図に地名が入った図面が 1981 年に掲載されていたため、1981 年のものを掲載した。なお、土地の用途や駅の配置についての変更点はない。**

(22)Svaz Architektů ČSR (1978), Architektura ČSR, vol.37.

(23)Svaz Architektů ČSR (1978), Architektura ČSR, vol.37, pp.152-158.

なかった住居地域が JM II 内に描かれていることが分かる。

### ３．１．７　JM II の進捗（1981 年）

ここでは、1981 年の「ARCHITEKTURA ČSR」[24] の記事の内容について扱う。

#### ３．１．７．１　JM II 全体の進捗

1981 年の「ARCHITEKTURA ČSR」には、JM II-Západ の開発の進捗について、Jiří Hrůza による記事が掲載されている [25]。それによれば、JM I、II は合わせて概ね 10 万人が住むが、居住地域が必要であるという圧力等により、当初の住居地域を高速道路の東側（JM I）に集めるというコンセプトを変更し、西側（JM II）に住居機能を入れることが決定された。また、この時までに地下鉄 C 線が完成し、住民にサービスを提供していることも記されている。

#### ３．１．７．２　Horní Kunratice と Horní Roztyly

Horní Kunratice と Horní Roztyly（該当地域は図 3-1 参照）の地域計画の設計関係者を表 3-7 に示す。記事は設計者の Jan Zelený と Vítězslava Rothbauerová によるものである [26]。Horní Kunratice と Horní Roztyly には、3 万 1 千人の住民のための住居、2 万 3 千人の従業員のための仕事場、9 千人のための一時的な住居、7 千人の学生のための学校が計画された（図 3-9）。都市のコンセプトの主な特徴は、住居と仕事場とが近く結びついた町全体の創造であった。主に非住居機能が配置された地域は D1 高速道路に沿って帯状に組織されており、人工的な盛土地形とともに住宅に対する防音装置の役割を果たす。また、2 つの新しい地域の基本的な構成要素は住居であり、700 戸の居住者のために、託児所、幼稚園、小学校、店、サービス、レストラン、文化施設、郵便局、保険会社、貯金局、そして技術設備の建物が設計されている。各ゾーンはバス交通とも接続する、既に実現した地下鉄駅によって結びつけれられている。Horní Kunratice と Horní Roztyly の住居グループは 3 つに分けられるが、その内 2 つは、1ha あたり平均 320 人の住人、8 階と 12 階建ての高さ、最大 1300 戸の水準で計画されている。ま

**表 3-7　Horní Kunratice と Horní Roztyly の地域計画の設計関係者**

| |
|---|
| **総合デザイン** |
| Pražský projektový ústav<br>(Prague design institute) |
| **設計者** |
| Jan Zelený, Vítězslava Rothbauerová, Jitka Thomasová (**チーフエンジニア**), Pavel Rittenauer (**交通計画**) PPÚチーム |
| **総合出資者** |
| Výstavba hlavního města Prahy – Výstavba sídlišť<br>(Construction of the capital city Prague – Construction of housing estates) |
| **上級コントラクター** |
| Montované stavby, n. p., Praha (Prefabricated buildings, national company, Prague) |
| **土木構造物についての独立したコントラクター** |
| Inženýrské a průmyslové stavby, n. p., Praha<br>(Engineering and industrial construction, national company, Prague) |
| **市民施設のコントラクター** |
| Konstruktiva, n. p., Praha（Construction, national company, Prague） |

**(Architektura ČSR (1981) をもとに表を作成)**

(24)Svaz Architektů ČSR (1981), Architektura ČSR, vol.40.

(25)Svaz Architektů ČSR (1981), Architektura ČSR, vol.40、pp.346-347。

(26)Svaz Architektů ČSR (1981), Architektura ČSR, vol.40、pp.348-354。

た、Horní Roztyly にある居住グループは、高さ 4 階から 8 階建てのより小さな住居グループとつながり、Horní Kunratice では、より低層の住居グループが、森に隣接するよう計画されている。計画案によれば、託児所と保育園は規格化されており、住宅と同じ構造システムである。地域センター (Okrskové Centrum) には、基本的なサービス、具体的には洗濯脱水機、洗濯物の収集、ドライクリーニング、理髪店と美容院、食料品のスーパーマーケット、レストランと文化施設が配置されている。広域地域の中心部 (Obvodvé Centrum、図 3-10) は地下鉄 Budovatelů 駅のところに提案され、それは更にアーケードと屋根で覆われた道で縁取られている。地下鉄駅からは、食料品スーパー、特別な食品小売店、細かな商品、家庭用品、靴、衣類、テキスタイル、本、スプラフォン（※チェコのレコードレーベル）、花屋のある商店街へ直接連結しており、ソーシャルハウスには、レクリエーションのための劇場、クラブ、ホール、図書館、映画館、食事施設、小さなスポーツ施設がある。商店街からはサービス施設へと続くが、そこには全ての基本的なサービスとより上級のサービス、更に郵便局、貯金局、保険会社などが集中している。中心には健康のための施設、観光客グループの宿泊のための 1000 床のベッドのあるホテル、1500 人の職員のための行政の建物がある他、地域のランドマークとして、煙突装置や、建築における細かい要素等が作られたことも述べられている。

### ３．１．７．３　考察

当初の計画案の人口計画が更に増大し、JM II 内に住居地域が計画されるという、コンセプトの大幅な変更が行われているが、JM II の中で商業施設や公共施設が計画され、JM I との関わりは述べられていないことから、高速道路 D1 を隔てて、JM I とは切り離されて設計されていると言える。Horní

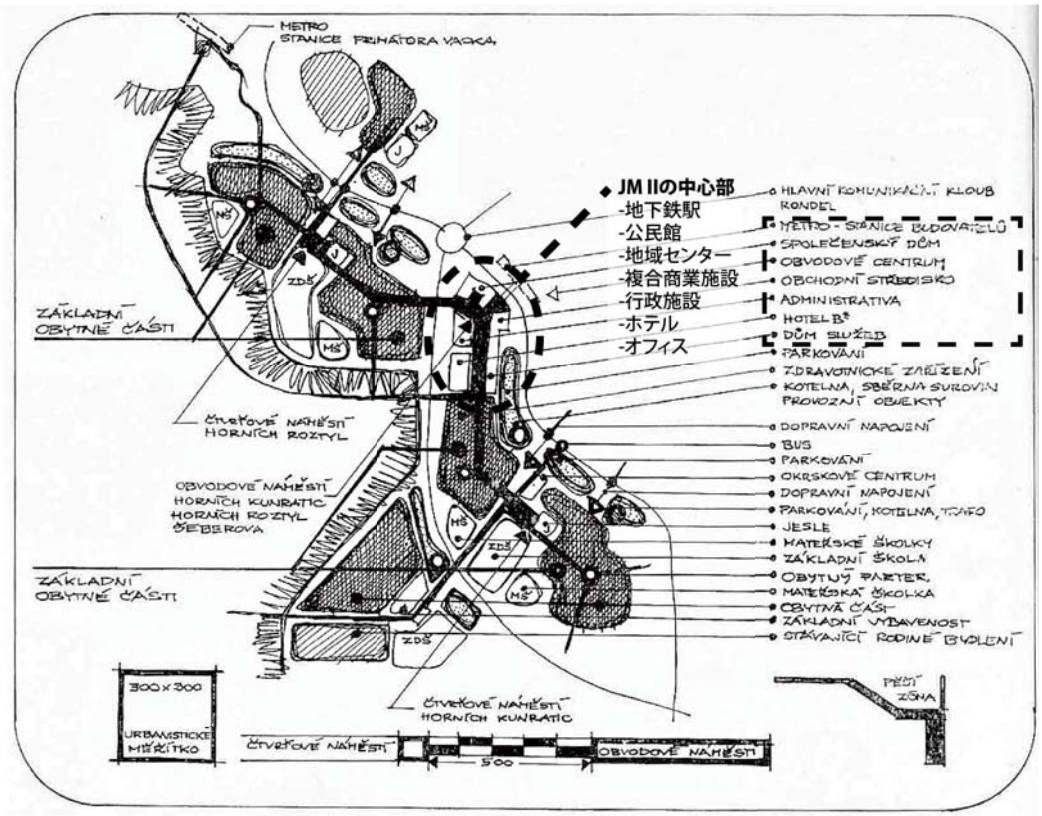



**図 3-10　住居ゾーンのコンセプト**
**（ARCHITEKTURA ČSR, 1981　筆者加筆）**

Kunratice と Horní Roztyly の 8/12 階建ての住居グループと Horní Roztyly の 4-8 階建の住居地域については現在実現されていることが確認できるが、Horní Kunratice の森に近い部分については 89 年以降に開発が行われていることが、図 3-11 より確認できる。JM II の中心施設が計画されていた Budovatelů 駅（現在の Chodov 駅）周辺については、現在は大型ショッピングセンターが建てられており、これが商業施設としての役割を果たしているが、図 3-11 より、それ以前には中心部は完成していなかったと思われる。図 3-9 に描かれている地下鉄駅については、配置は現状と同じであるが、駅の名前（kosuminatů/ 宇宙飛行士、Družby/ 友情、Budovatelů/ 建設者、Primátora Vacka/Vacek 市長）については、現在は地域名に変更されている。

JM II で計画された住居地域に目印が存在していることは、現在でも確認することが出来る（写真 3-2、写真 3-3、写真 3-4）。図 3-1 を見ると、JM II の住居地域のうち、Horní Roztyly の南部と Horní Kunratice で同じ住宅棟の並びが繰り返されており、ランドマークはこのような類似した空間構成の地域を見分けやすくしたと考えられる。

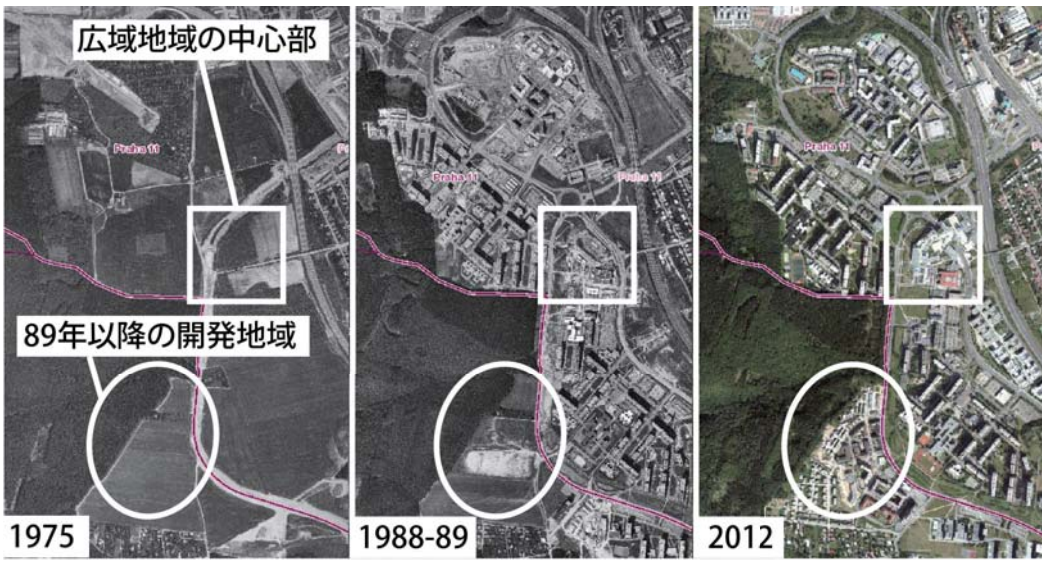



**図 3-11 JM II の開発状況の変化**
**(1975 年、1988-89 年、2012 年　筆者加筆 )**
**航空写真：http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/（最終閲覧日 2016.12.7）をもとに作成**

**写真 3-2　住居地域のランドマークとなった煙突（2013 年、筆者撮影）**

**写真 3-3　各住居地域の印を表す看板（2013 年、筆者撮影）**

**写真 3-4　住宅棟に描かれた住居地域の印（2013 年、筆者撮影）**

### ３．１．８　住居グループの社会的価値の評価（1982 年）

ここでは、1982 年の「ARCHITEKTURA ČSR」[27] の記事の内容について扱う。

#### ３．１．８．１　住宅開発地の社会的価値の評価

1982 年の「ARCHITEKTURA ČSR」には、Jirí Musil の記事が掲載されている [28]。社会主義時代に建設された国内の住宅開発地の社会的価値の評価について、(1) 社会政策の目標、(2) 社会的健康の目標、(3) 日々の生活を容易にする家事作業の合理化の目標、(4) 総合的な住居環境の目標、(5) 理論上での町のコミュニティ創造を活気づける目標、(6) 心理学的目標の 6 つの目標を定め、各目標についての現状の評価を行っている [29]。

その中で、(2) 社会的健康の目標については、「健康的な住居」の実現は、「*戦後の住宅開発地の最も成功した側面の 1 つである*」とし、住宅開発地に対する住居の満足度は比較的高く全体的に良い評価であったものの、暖房が寒すぎる、あるいは逆に暑すぎる、空気が乾燥しすぎる、との回答があったことが述べられている。さらに、交通計画が多くの場合上手くいかず、住宅の間の緑地や公園が駐車場に変更され、騒音やプライバシーの問題となっていることが指摘されている。現状を紹介する事例写真の中には JM の状況も含まれ、本来公園であった場所に作られた駐車場（写真 3-5）、また成功事例として幼稚園、子どもの遊具付き公園（写真 3-6）が紹介されている。(3) 日々の生活を容易にする家事作業の合理化の目標については、家事と日常生活における人間の労力の節約に関して、住宅開発地の住民から高い評価を得た、としている。その利点として、古い建物よりも優れた住宅の技術設備、子どもだけで遊ぶことのできる、低・中層住宅による比較的閉じられたセミパブリック空間などが挙げられた一方で、高層住宅地域については、子どもの安全とお互いの視覚・聴覚的関係を失うことについての母親の不安が指摘された他、より上級の文化的・社会的施設や職場への移動距離の長さについてが指摘された。(4) 総合的な住居環境の目標については、既成市街地と比較した時、住宅開発地は体育施設と、子どもケア施設、特に幼稚園については良く、学校と教育施設については同程度、保健施設、食料品店、公共食堂施設と非生産サービスの運営については悪い、と評価し、さらに新しい住宅開発地に最も欠けているのは小売商品産業、生産と修理のサービスの実現、そして特に文化と教育施設の大部分である、としている。また、既成市街地と比べて、住宅開発地には本質的に仕事の機会

**写真 3-5　本来公園であった場所に作られた駐車場、JM**
**（ARCHITEKTURA ČSR, 1982）**

**写真 3-6　子どもの遊具付き公園、JM**
**（ARCHITEKTURA ČSR, 1982）**

(27)Svaz Architektů ČSR (1982), Architektura ČSR, vol.41.

(28)Svaz Architektů ČSR (1982), Architektura ČSR, vol.41、pp.170-176。

(29)Svaz Architektů ČSR (1982), Architektura ČSR, vol.41、p.170、2 列目 38 行 ~3 列目 61 行。

が少なく、プラハやオストラヴァなどの大きな町において、通勤時間が 15 分以内の被雇用者は経済活動人口のたった 10% のみだったとし、「*住宅開発地は本当に単一機能的である。*」と述べている。(5) 理論上での町のコミュニティ創造を活気づける目標については、 社会学的効果を解説することは、おそらく最も複雑なことであるとした上で、社会的、趣味的グループや、町のコミュニケーションの伝統的な場所（飲食店、図書館、クラブなど）を成り立たせる公共の社会生活が無くなっている、また多くの住宅開発地においては、社会的なコミュニケーションが可能な自由な空間、広場、公園が無くなっている、ということが指摘されている。(6) 心理学的目標に関しては、住民は機能性と実用性の質をベースに評価し、心理学的、文化的価値評価についての優先事項は高くなかったことを説明し、機能性と実用性が十分に機能したうえで、人間の要求が更に広いところまで及ばなければならない、としている。そしてそれを踏まえた上で、心理学的・文化的目的は、現実の住宅開発地において最も問題のある側面に属しているということについて疑いはない、と述べている。

#### ３．１．８．２　考察

国内全体の状況を総括して、住宅設備に関しては住民から高い評価を得られたことを指摘している一方で、職場や、文化施設・広場といった公共空間の不足が挙げられている。この点に関して JM をみると、中心部の施設や職業施設についての開発計画は ARCHITEKTURA ČSR に記事が掲載されている [(30)] 一方で、現状をみると、中心部が完成していないこと（第 2 章の表 2-8、問題点 8 行目）、緑地が計画通りに完成していないこと（第 2 章の表 2-8、問題点 9 行目）、職場が住宅地から離れていること（第 2 章の表 2-8、問題点 13 行目）が指摘されている。これらのことは、開発当初から関心の対象でありながらも計画案が十分に実現できなかったが、現在も区行政がそれを問題点として引き継ぎ、改善に取り組んでいるとみなすことが出来る。

### ３．１．９　新しいプラハの住宅開発地のコンペ―案と現実（1988 年）

ここでは、1988 年の「ARCHITEKTURA ČSR」[(31)] の記事の内容について扱う。

#### ３．１．９．１　記事の概要と JM に対する評価

1988 年の「ARCHITEKTURA ČSR」には、新しいプラハの住宅開発地のコンペ―案と現実というタイトルで、国内の住宅開発地についての意見が述べられている [(32)]。

特に JM について言及されている部分を見ると、「*その成果は豊かで明確な空間的草案を基礎としており、与えられた土地に対する繊細な関係性によってあらゆる方面へとより低い建物の多様な形へと連続して移行する物質的な大きなまとまりによって明瞭に表現されていた。ここでの重要な構成要素は、歩行者ルートのある、際立った緑のシステムだった。*」[(33)] とあるが、当初のコンセプトの中から 3 つの住居グループが維持されたものの、緑のシステムと歩行者道路についてのアイデアは本質的に消

(30)「5.2 第 3 住居グループの地域計画」内の第 5 グループに関する記述や、表 3 の 1972 年の複合施設 KUPA や Pragoděv の企業施設についての記事等。

(31)Svaz Českých Architektů (1988), Architektura ČSR, vol.47.

(32)Svaz Českých Architektů (1988), Architektura ČSR, vol.47、pp.42-47。

(33)Svaz Českých Architektů (1988), Architektura ČSR, vol.47、pp.45、1 列目 5 行 ~12 行。

失し、空間的コンセプトは完全に変更された、ということが述べられている。

#### 3.1.9.2　考察

JM I の社会主義体制下における開発が終了した後の 1988 年時点において、開発当初の計画案については好意的に述べられている一方で、現実には空間のコンセプトについて、当初案が十分に活かされなかったという結論に至っていることが分かる。

### 3.2　得られた知見

これまでアーカイブで未整理の状態となっていた社会主義時代の住宅開発地に関する資料を時系列に沿って読み解くことで、開発当時の住宅開発地の開発計画の変遷とそれに対する議論を示した。その結果、地域計画に対するコンペ案や、さらにそれを分割した詳細な地域計画には、実現に至らなかった部分も含めて建築的な創造性が見られ、社会主義体制下においても、効率的な住宅供給のみが目指されたのではなく、周辺地域との関係性などが考慮されており、担当者それぞれのアイデアが活かされた提案がなされていた。その一方で、多くの専門家チームが関わったことによって、それぞれの要求の対立が起こったことに加え、開発条件の変更に伴って JM 全体のコンセプトが大きく変化する、という出来事が起こっていたことが明らかになった。

現在地域関係者によって評価されている地下鉄・バスといった公共交通機関の利便性（第 2 章の表 2-8、問題点 3 行目）については、開発当時から考慮されており、現在まで維持されていることが分かった。社会主義体制下の住宅開発地における中心施設や職場、JM 内の緑地整備の不足については、民主化以降もプラハ 11 区区役所が対処すべき問題としての認識を引き継いでおり、現在の行政施策に社会主義時代からの連続性が見られる。

# 第４章　プラハ市プラハ 11 区における社会主義時代のプレハブ住宅開発地 Jižní Město の現在の価値

## ４．１　Jižní Město 住民インタビューによる地域の価値

ここでは、行政へのインタビューと建築誌の記事から得られた開発の経緯と現状を踏まえ、実際に JM で日々の生活を送っている人々の意見を明らかにするために行った、住民へのインタビュー調査について詳述する。

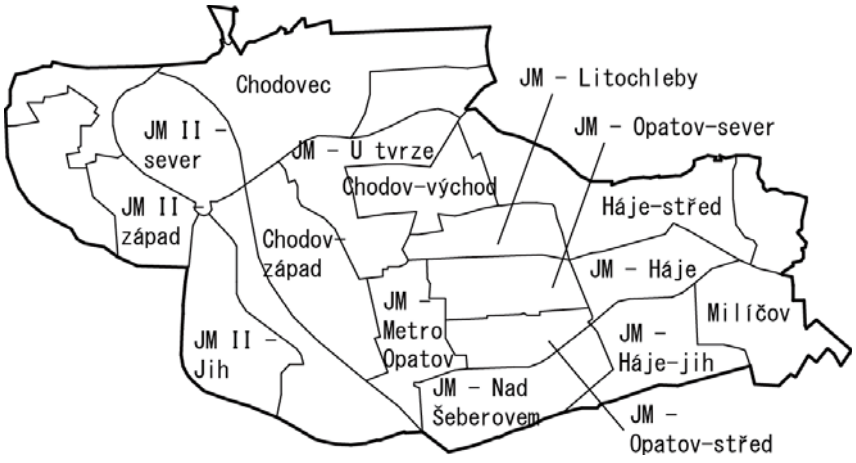
### ４．１．１　調査の方法

JM の時間経過による変化、住民の認識する価値の対象、指摘された価値の形成過程、価値と認識する理由を明らかにするため、2013 年 10 月 8 日から 31 日にかけて、JM の住民 13 名にインタビューを行った。チェコにおいて、知り合い等を介さず無作為に行うインタビューは一般的ではなく、回答が得られる見込みが非常に小さいとの見通しから、プラハ 11 区役所担当者から年齢、性別、居住地域、居住歴の異なる個人的な知り合いを紹介してもらうことによって、住民 13 名の協力を得た（表 4-1）。インタビューはチェコ語 - 日本語通訳者を介し、インタビュイー 1 名に対し約 1 時間行った。

インタビューでは、実際に生活の場として地域と関わっている、という立場からの意見を聞くため、

表 4-1　インタビュイーの基本情報

| | 性別 | 年齢（2013年時点） | 居住地域 | 居住歴（年） | 住宅所有 |
|---|---|---|---|---|---|
| a | 女 | 50代 | JM II-jih | 1985- | 個人 |
| b | 女 | 30代 | JM-Opatov-střed | 1999- | 個人（賃貸） |
| c | 女 | 50代 | JM-Háje-jih | 1979- | 個人 |
| d | 女 | 50代 | JM U tvrze | 1981-89, 96- | 協同組合 |
| e | 女 | 30代 | JM-Litochleby | 2013- | 市（賃貸） |
| f | 男 | 30代 | JM-Opatov-sever | 1978- | 個人（賃貸） |
| g | 女 | 30代 | JM-Opatov-sever | 1979- | 個人 |
| h | 男 | 60代 | JM-Háje-jih | 1979- | 協同組合 |
| i | 女 | 10代 | JM II-sever | 1996- | 協同組合 |
| j | 男 | 10代 | JM II-sever | 1994- | 個人 |
| k | 男 | 30代 | JM-Nad-šerovem | 1981- | 協同組合 |
| l | 男 | 30代 | JM II-západ | 2011- | 個人 |
| m | 男 | 20代 | JM II-jih | 1987- | 個人 |



プラハ 11 区に住み始めてから現在までの、地域での日々の生活を振り返ってもらう形で行った。特に、思い出として記憶に残っていることや、地域において良いと思っている点については詳細に話してもらった。インタビューにおいて、より多様な話が引き出せる様に、以下のような準備を行った。

(1) 本調査を始める前に、プラハ 11 区 JM 元住民 1 名へのプレインタビューを行い（2013 年 7 月）、どのような点が評価の対象となっているのかについてあらかじめ予測を立てた。

(2)2013 年 7 月に JM 全地域とその周辺部の現地踏査を行い、インタビューの前に主な施設の位置関係について把握することで、インタビュイーの話を認識しやすくした。

(3) 自身の生活に対するインタビューを受けた経験が少ない住民に対しても、会話が途切れることの無い様に、プレインタビューと現地踏査から得た情報をもとにインタビューシートを作成し、話のきっかけとなる、上記の目的に関連する質問事項を複数用意した。

(4) 情報が曖昧になることや誤解を減らすため、直接書き込むことのできる、チェコあるいはプラハ 11 区に関連する重要事項をまとめた年表とプラハ 11 区の地図を用意し、インタビュー中に適宜確認しながら書き込みを行った。また、事前準備が可能であった 10 名についてはインタビューの前に自宅の位置を把握し、特に多くの活動が行われると考えられる自宅周辺の拡大地図を別途用意した。

(5) 通訳者に事前に調査の趣旨を伝え、質問の意図を理解してもらい、全てのインタビューを同一の通訳者を介して行った。

(6) インタビューの際には、まず自己紹介と研究の趣旨を伝える説明文（チェコ語）を読んでもらい、筆者の立場を明らかにした上でインタビューの目的を理解してもらった。

(7) 特にインタビューで話題になった飲食店や森などについては、可能な限りインタビュー後に足を運ぶなどして、以後のインタビューでより話題に共感できるようにした。

インタビュー結果は以下の手順で分析を行った。

(1) 各インタビューにおいて話題となったことの中から、JM に関わる内容を抽出した。

(2)(1) で抽出した内容をその空間用途に応じて分類すると、大きく住宅、公共施設、商業施設、オープンスペース、交通機関、JM 周辺の緑地、JM 全体、その他の 8 つの項目に分類された。

(3) 指摘された対象の形成過程を把握するため、抽出・分類された点について語られた時期を a. 1989 年以前（社会主義時代）、b.1990 ～ 2000 年（民主主義時代・環境再生施策実施前）、c.2001 年以降（民主主義時代・環境再生施策実施後）の期間に分け、時間経過に伴う変化を整理し、評価対象がそれぞれが価値として認識されている期間から、JM における現在の価値について考察を行った。

なお、今回の調査は主に地域の良いと思っている点を話してもらうことを目的としていたため、問題点について積極的に尋ねることはしていないが、時間変化に伴う評価の変化や、指摘したインタビュイーの違いによる評価の差異をみることができるため、指摘されたものについては記録している。

### 4．1．2　空間用途別にみる価値の対象とその形成過程

インタビューで得られた話を、空間用途に応じて分類した項目別にまとめ、現在の価値の所在、形成過程、価値として捉えられた理由についてみていく。指摘された点の地理的・時間的関係を図 4-1 に示す。

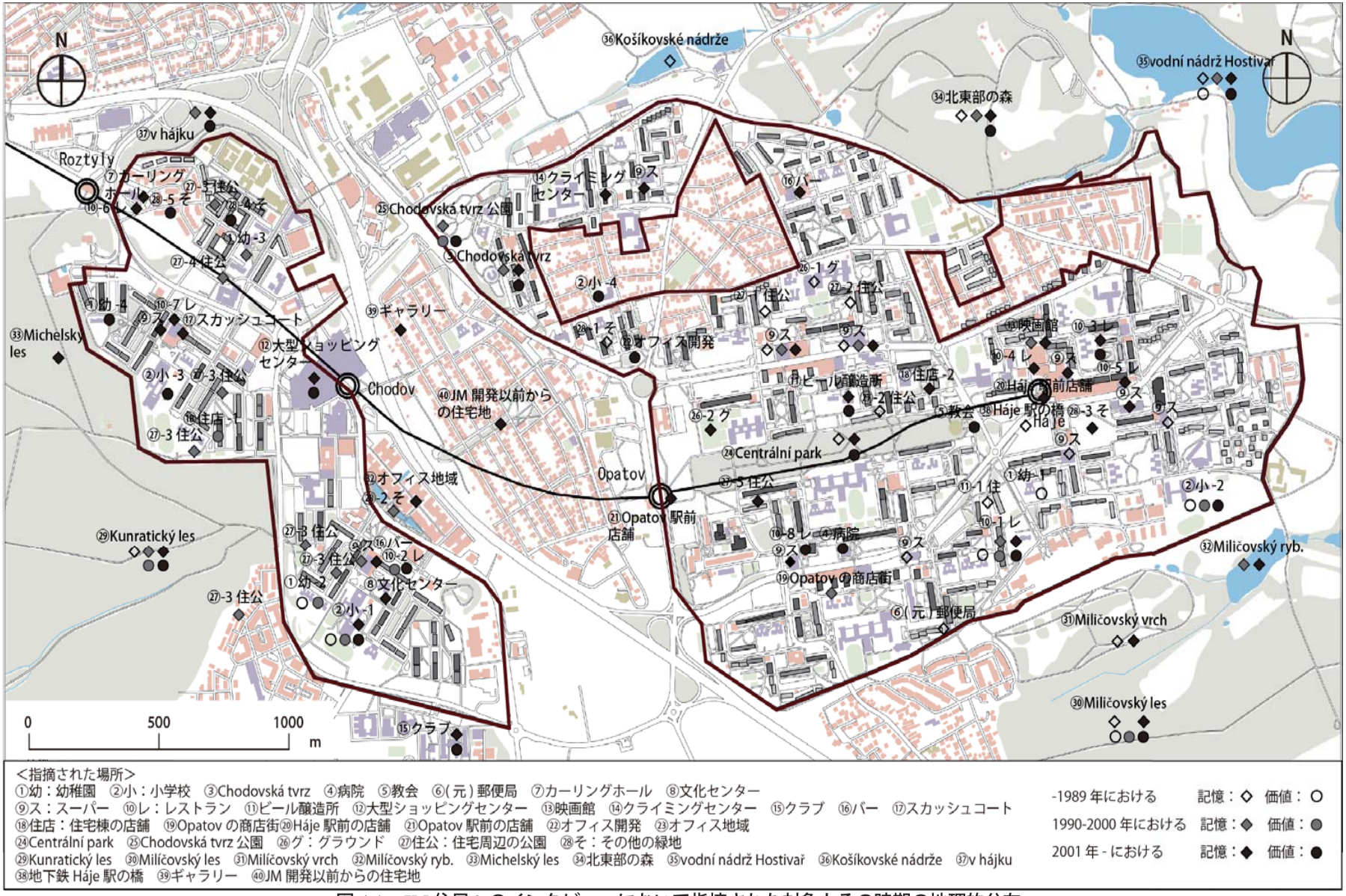



図 4-1　JM 住民へのインタビューにおいて指摘された対象とその時期の地理的分布

### ４．１．２．１　住宅

インタビュイーの発言を表 4-2 に示す。開発当初については、建物は全て灰色で、道を間違えることがあったというエピソードなど、外観が灰色であることが強い印象として述べられていた。90 年代になると、壁とバルコニーの修理を行ったインタビュイーがおり、この頃には住宅改修を行う人がいたことが分かった。玄関の郵便受けなどがきれいなったという話も聞かれたことから、住宅棟全体に関わる改修も行われていたとみられる。2001 年以降になると、ファサードを始めとしてバルコニー、壁、窓などの改修について複数行動があったが、ファサードがカラフルになったことに満足している人がいる一方で、昔の色合いの方が地域にあっていたと感じている人もいた他、改修後の色について納得していない人がいるという話もあった。他に、住宅棟は低層の方が良いという意見に対し、高層住宅の住民からは、上階からの眺めが良い、との意見も聞かれた。

また、1989 年以前では、同じ会社に勤めている人とその家族が住宅棟にまとまって住んでいたとの話があった。インタビューによれば、会社ごとに労働者の住宅をまとめて提供していたようであるが、住宅の近くに勤務地があった訳ではない。あるインタビュイーは、子どものころ近所に同じ職場の人が沢山住んでいる環境にあり、当時、近所の人から子ども服をもらったというエピソードから、当時近隣住民と交流関係があったことが分かった。また、自分の住んでいる住宅棟の住民の顔ならば大体分かる、毎日階段で立ち話をする、といった話が聞かれる一方、会えば挨拶する程度、同じ住宅棟に知り合いはいない、という人もおり、住宅棟内の交友関係には違いがあるとみられる。みんなでやるイベントを作ってほしいという声もきかれ、より親密に近隣住民と交流関係を持ちたいと感じている人もいた。

**表 4-2　住宅についてのインタビュイーの発言**

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 住宅 | 色 | － | △ | 全て灰色で道を間違えた | ● |
| | | | ◆ | カラフルになり、自宅の入口を間違えることがなくなった | |
| | | | ● | 改修後の色に満足している | |
| | | | ● | ブロックごとに色がそろっていることに満足している | |
| | | | ▲ | 以前の色の方が良かった | |
| | | | ▲ | ファサードの色について満足していない人もいる | |
| | 設備 | － | △ | 窓の建て付けが悪かった | |
| | | | △ | 家の中にいても近所の人の声が聞こえる | |
| | | | ▲ | 家の中にいても近所の人の声が聞こえる | |
| | | | ◆ | 水道管、ガス管の修理をした | |
| | | | ▲ | 家の中にいても近所の人の声が聞こえる | |
| | 共用部分改修 | － | ◆ | 壁の塗り直しと、バルコニーのガラス窓の取り付け | ● |
| | | | ◆ | 玄関の郵便受けがきれいになった | |
| | | | ◆ | ファサード、バルコニー、窓、屋根、エレベーター、廊下、断熱の改修 | |
| | | | ● | 廊下に窓があるのが良い | |
| | | | ● | 特別な方法で改修された住宅棟がある | |
| | 室内改修 | － | ◆ | 室内壁、床、キッチン、浴室の改修 | |
| | 周辺の静かさ | － | ● | 周辺が静か | ● |
| | 家賃 | － | ● | 家賃が安い | ● |
| | 眺望 | － | ● | 家から森が見え、景色がとても良い | ● |
| | | | ● | 上階にあり眺めが良い | ● |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における ◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　※表中の番号は図4-1と対応

### ４．１．２．２　公共施設

インタビュイーの発言を表 4-3 に示す。1989 年以前から現在に至るまで継続して、学校が家から近いなどの立地条件が評価されていた。中世の堡塁である Chodovská tvrz（写真 4-1）は、1984 年から 89 年にかけて改修が行われた[(1)]が、現在は結婚式やコンサート会場となっていることが指摘された。また、インタビューによれば、カーリングホール（写真 4-2）は完成当初（2004 年）、中央ヨーロッパ唯一の競技場であり、近くに競技場があったのがきっかけでカーリングを始めたというインタビュイー

**表 4-3　公共施設についてのインタビュイーの発言**

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|
| 公共施設 | 幼稚園 | 1 (1-4) | ◇ 周りの植え込みを植えた(1)<br>◇ 落ち葉の掃除を手伝った(1)<br>◇ 先生と子どもと一緒にサッカーをした(1)<br>◇ 家の窓から顔を出して子どもを送り出した(1)<br>○ 家から近い(1,2)<br>○ 家から子どもを見守ることができる(1)<br>◆ 通っていた(3)<br>● 家から近い(1,2)<br>● 家から近い(1,2)<br>● 周辺の環境が良い(4)<br>▲ 子どもが増えているのに幼稚園の数が少ない | ○<br>●<br>● |
| | 小学校 | 2 (1-4) | ○ 家から近い(1,2)<br>● 家から近い(1,2)<br>◆ 学校の図書館によく行く(1)<br>● 家から近い(1,2)<br>● 最初は色が変だと思っていたが、今は気に入っている(2)<br>● 周辺の環境が良い(3)<br>● 古い建物が良い(4) | ○<br>●<br>● |
| | Chodovská tvrz | 3 | ◆ 子どもと行った<br>◆ 結婚式やコンサートがある<br>● 理由はないが良いと感じる | ● |
| | 病院 | 4 | ● 外観が面白い<br>▲ 専門病院がバラバラにあるので一か所に集めてほしい | ● |
| | 教会 | 5 | ● きれい | ● |
| | （元）郵便局 | 6 | ◇ 母とよく行った | |
| | カーリングホール | 7 | ◆ カーリングをプレーしている<br>◆ カーリングを見に行く | |
| | 文化センター | 8 | ◆ アルバイトをしていた<br>◆ コンサート、写真クラブ、展覧会などに行く<br>◆ 仕事関係のセミナーがある<br>◆ 劇場、アート活動、コンサートなどのイベントに参加 | |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における ◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　　※表中の番号は図4-1と対応

写真 4-1　Chodovská tvrz (2)
(　) 内の番号は図 4-1 と対応

写真 4-2　カーリングホール (7)
(　) 内の番号は図 4-1 と対応

(1)Bartoň.J. (2007), Praha11 na Prahu 21. Století, Městská část Praha 11, p.36.

もいた。JM 独自の特色ある建築物として、住宅開発以前から存在していた堡塁の保存・活用だけでなく、珍しい施設であるカーリングホールが指摘されたことから、既存建築の保存と新規開発の両面から、JM の個性を意識している住民が存在すると考えられる。

#### 4．1．2．3　商業施設

インタビュイーの発言を表 4-4 に示す。1989 年時点では数か所のスーパーと一か所のレストランが指摘されるに留まったが、開発から時間が経過するにつれて指摘される点が多様になっており、民主化以降、民間セクターによる開発が始まったことと時期的に一致する。また、90 年代には住宅の地階に小規模店舗が入るようになったとの意見が聞かれた。民主化によって個人経営の店舗などがあらわれたと考えられるが、現在では減少傾向にあるようである。買い物については、大きなショッピングセンターで特別な買い物をする人、大きな店は嫌いで近所の商店街や小さな店に通う人、JM の外にあるお店が好きな人、パン屋や肉屋、八百屋などを使い分ける人など好みの違いがみられた。社会主義時代よりも店の多様性は増加しているが、喫茶店などが少ないことに不満を感じているインタビュイーもいた。

娯楽施設については、1989 年以前は、出かける場所がなかったという意見や、サイクリングに行ったという意見があった。JM 内部に娯楽施設が無かった分、自転車で遠出する、中心部に行くなどして余暇を過ごしていたと考えられる。2000 年代に入ると、映画館、大型ショッピングセンター、クライミングセンター、複数のレストランなど、これまでと比較して多様な施設が指摘され、娯楽施設が急激に増加したことがうかがえる。スポーツ大会やコンサートといったイベントに参加するという話も聞かれた。また、クラブの値段が町の中心部よりも安くてよいという立地に対するメリットが挙げられた一方で、11 区以外に住んでいる友達が 11 区に来るのは大変なので、友達と遊ぶ時には中心部に出かけることが多いという話もあった。商業施設については、指摘の対象に多様性が見られ、それらに対する評価にもばらつきがみられた。

#### 4．1．2．4　オープンスペース

インタビュイーの発言を表 4-5 に示す。89 年以前には、工事現場や家の前の砂場で遊んだという意見が聞かれ、公園として整備されてはいなかったものの、オープンスペースは子どもの遊び場として使用されていたようである。JM I の中央に位置する Centrální park も、この頃は整備されていなかったことが、プラハ 11 区の所有する写真からも確認できる（写真 4-3）。また、コンクリートの隙間から植物が生え始めたのが印象に残っている、と語るインタビュイーの話からも、当時の JM 内における緑の少なさが推測される。さらに、住宅地全体において木を植えるボランティアが住民によって行われていたという話もあり、開発当時の、JM 内部の緑に対する住民の関心の高さがうかがえた。

89 年以降になると、JM 内部の公園で遊んだり、家の周辺を散歩する、といった声が聞かれるようになり、全体的に環境がきれいになった、緑が多い、満足しているといった意見もあることから、オープンスペースの環境は開発当初より随分改善し、評価されているようである。現在の Centrální park（写真 4-4）の環境も、以前と比較して随分と整備が進んでおり、子どもの遊び場にもなっているようである。

表 4-4　商業施設についてのインタビュイーの発言

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 商業施設 | スーパー | 9 | ◇ | 買い物に行った | |
| | | | ◆ | 買い物に行った | |
| | | | ◆ | 買い物に行く | |
| | レストラン | 10 (1-8) | ○ | 料理がおいしい(1) | ○ |
| | | | ● | 料理がおいしい(1) | ● |
| | | | ● | 顔なじみの客がいて親しみがある(2) | ● |
| | | | ◆ | よく行く(1,4-6) | |
| | | | ◆ | 時々ピザを注文する(3) | |
| | | | ◆ | イタリアンのレストランでビールを飲む(7) | |
| | | | ● | 料理がおいしい(1,2,8) | |
| | | | ● | おしゃれなレストランがある(3) | |
| | | | ▲ | レストラン、特に喫茶店とケーキ屋が少ない | |
| | ビール醸造所 | 11 | ◆ | よく行く | ● |
| | | | ● | ビールがおいしい | |
| | 大型ショッピングセンター | 12 | ◆ | カフェやフードコートを利用 | ● |
| | | | ◆ | 靴や服、特別なものを買いに行く | |
| | | | ● | コンサート、ファッションショー、ダンスなどのイベントが好き | |
| | | | ● | 文化的なイベントが楽しめる | |
| | 映画館 | 13 | ◆ | 工事の様子を家の窓から見ていた | |
| | | | ◆ | 息子がよく行く | |
| | | | ◆ | 映画を見に行く | |
| | クライミングセンター | 14 | ◆ | 子どもが行っている | |
| | クラブ | 15 | ◆ | 年に数回行く | ● |
| | | | ● | まちの中心部より値段が安い | |
| | バー | 16 | ◆ | よく行く | |
| | スカッシュコート | 17 | ◆ | スカッシュをする | |
| | 住宅棟の店舗 | 18 (1-2, 場所不定) | ◆ | 外に出ることなく行けたのでスリッパで買い物に行った | ● |
| | | | ◆ | デパートまで行きたくないとき利用する | ● |
| | | | ◆ | 10-15年前が一番多かったが最近減ってきた | |
| | | | ● | 果物や野菜の質がスーパーより良い | |
| | | | ● | スポーツ道具のレンタル店があって便利だった(1) | |
| | | | ◆ | 美容院、日用品、ガラス製品のお店に時々行く(2) | |
| | | | ● | 果物や野菜の質がスーパーより良い | |
| | Opatovの商店街 | 19 | ◆ | 買い物に行った | |
| | Háje駅前の店舗 | 20 | ◆ | 仕事帰りに寄る | |
| | | | ◆ | 肉屋、日用品店、ベトナム人の店、文房具店に時々行く | |
| | Opatov駅前の店舗 | 21 | ◆ | パン屋に行く | |
| | オフィス開発 | 22 | ● | 面白い形のビジネスセンターの建設が楽しみ | ● |
| | オフィス地域 | 23 | ◆ | 仕事帰りに通る | |
| | | | ◆ | 友人との溜り場だった | |
| | | | ◆ | 友達とコーヒーを飲みながら散歩をする | |
| | 全体 | - | △ | 出かける場所がなかった | |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における ◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　※表中の番号は図4-1と対応

表 4-5　オープンスペースについてのインタビュイーの発言

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| オープンスペース | Centrální park | 24 | ◇ | 工事現場で遊んだ | ● |
| | | | ◆ | 小さい子供が雪で遊んでいるのを見かける | |
| | | | ◆ | サイクリングやローラースケートをした | |
| | | | ● | 昔より良くなった | |
| | | | ● | 理由はないが良いと感じる | |
| | | | ▲ | 木を植えるなどしてきれいにしてほしい | |
| | Chodovská tvrz公園 | 25 | ◆ | 散歩に行った | ● |
| | | | ● | きれいになった | ● |
| | | | ● | 近くに公園とレストランがあってよい | |
| | グラウンド | 26 (1-2) | ◇ | 遊んだ(1) | |
| | | | ◆ | サッカーをする(2) | |
| | 住宅周辺の公園 | 27 (1-5) | ◇ | 砂場で遊んだ(1) | ● |
| | | | ◇ | 遊んだ(2) | |
| | | | △ | あまり遊び場が無かった | |
| | | | ◆ | 遊んだ(3) | |
| | | | ◆ | ボールゲームや木登りをした(4) | |
| | | | ◆ | よく遊んだ(5) | |
| | | | ● | 遊具の周りに犬が入らないように柵があるのがよい(3) | |
| | その他の緑地 | 28 (1-5) | ◇ | コンクリートの隙間から植物が生えていた(1) | ● |
| | | | ◆ | 遊んだ(2) | |
| | | | ◆ | トウモロコシが植わっていた(2) | |
| | | | ◆ | 散歩をする(3) | |
| | | | ● | 桜の花がきれい(4) | |
| | | | ● | バラの花がきれい(5) | |
| | 駐車場 | - | ▲ | 駐車場が少ない | |
| | 歩道 | - | ▲ | 老朽化しているので改修してほしい | |
| | | | ▲ | 整備されていないところに歩道を作ってほしい | |
| | 全体 | - | △ | 緑が少なかった、何もなかった | ● |
| | | | ◆ | 新しい遊び場が色んなところにできた | |
| | | | ● | 緑が増えた | |
| | | | ▲ | 緑を増やしてほしい | |
| | | | ▲ | 子どもの遊び場を増やしてほしい | |
| | | | ▲ | 住宅の間に植物を植えてほしい。今生えている木は好きではない | |

-1989年における　◇：記憶　○：価値　△：問題点
1990-2000年における　◆：記憶　●：価値　▲：問題点
2001年-における　◆：記憶　●：価値　▲：問題点　※表中の番号は図4-1と対応

写真 4-3　1980 年代の Centrální park
（プラハ 11 区役所提供）

写真 4-4　Centrální park (24)
(　) 内の番号は図 4-1 と対応

### ４．１．２．５　交通機関

インタビュイーの発言を表 4-6 に示す。地下鉄 Háje 駅が完成したのは 1980 年 (2) であるが、今回のインタビュイーの中で最も早く JM に住んでいた住民は 1978 年からパネル住宅に入居しており、地下鉄よりも先に住宅が完成し、入居者がいたことがわかる。Háje 駅が完成するまでは、地下鉄 Budějovická 駅（図 4-1 地図範囲外）からバスに乗り換えるのが主な交通手段であったが、バスの本数は 5 分おき程度と頻繁に出ており、不便ではなかったとの意見が聞かれた。現在においてもバスの便が夜遅くまであり、夜中心部などに出かける際も便利であるとの指摘があり、交通機関の利便性についての満足度は開発当初から高かったと考えられる。

### ４．１．２．６　JM 周辺の緑地

インタビュイーの発言を表 4-7 に示す。1989 年以前から現在に至るまで散歩をした、水泳をした、サイクリングに行った、という様に、自然を楽しむために利用されており、開発当初から継続して居住者の憩いの場として機能してきたことが分かった。2000 年以降には、新たにバーベキュー場やレストランを利用するとの指摘もあり、人の手が加えられつつも自然を維持していると考えられる。11 区の中のおすすめの場所として、天気の良い日によく行く森の中にあるレストランを挙げたインタビュイーや、一番いい思い出のある場所として、子どもが小さいときにベビーカーを押してよく行っていたという北東部の森を指摘したインタビュイーもいた。なお、Milíčovský les（写真 4-5）、Kunratický les、北東部の森はプラハ市の自然保護地域に指定されている (3)。

**表 4-6　交通機関についてのインタビュイーの発言**

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 交通機関 | 地下鉄 | － | ○ | 駅から自宅、町の中心、友人宅までのアクセスが良い | ○ |
| | | | ● | 駅から自宅、町の中心、友人宅までのアクセスが良い | ● |
| | | | ● | 駅から自宅、町の中心、友人宅までのアクセスが良い | ● |
| | バス | － | ◇ | 地下鉄がHájeまで伸びる前はバスを使っていた | |
| | | | ○ | 5分おきにバスが来て便利 | |
| | | | ○ | 遠距離バスが便利 | ○ |
| | | | ● | 遠距離バスが便利 | ● |
| | | | ◆ | 毎朝子どもを学校まで見送る | ● |
| | | | ● | 遠距離バスが便利 | |
| | | | ● | 夜遅くまで便がある | |
| | 電車 | － | ○ | 駅がそれほど遠くないので便利 | ○ |
| | | | ● | 駅がそれほど遠くないので便利 | ● |
| | | | ● | 駅がそれほど遠くないので便利 | ● |
| | 車 | － | ○ | 高速道路が近い | |
| | | | ○ | 両親の夏の住まいまですぐに行ける | |
| | | | ● | 高速道路が近い | ○ |
| | | | ● | 両親の夏の住まいまですぐに行ける | ● |
| | | | ● | 高速道路が近い | ● |
| | | | ● | 両親の夏の住まいまですぐに行ける | |
| | | | ● | 中心部に比べて交通量が少ない | |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における ◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　※表中の番号は図4-1と対応

(2)Bartoň.J. (2007), Praha11 na Prahu 21. Století, Městská část Praha 11, p.36.

(3) ENVIS: http://envis.praha-mesto.cz/(mw3wrtnq2dwiwgryxeowzt55)/zdroj.aspx?typ=2&Id=81366&sh=516053348 (最終閲覧日 2014 年 6 月 9 日 )

表 4-7　JM 周辺の緑地についてのインタビュイーの発言

| | 話題の対象 | 番号 | | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| JM周辺の緑地 | Kunratický les | 29 | ◇ | 散歩をした | |
| | | | ◆ | キノコ狩りに行く | |
| | | | ◆ | サイクリングに行った | |
| | | | ◆ | 煙草を吸いに行った | |
| | | | ◆ | 散歩をした | ● |
| | | | ◆ | 子どもの遊び場や動物が沢山いるところがあった | ● |
| | | | ● | キノコ狩りができる | |
| | | | ◆ | サイクリングで通る | |
| | | | ◆ | キノコ狩りに行く | |
| | | | ● | キノコ狩りができる | |
| | Milíčovský les | 30 | ◇ | 遊んだ | |
| | | | ○ | 遊ぶ場所がある | ○ |
| | | | ● | 遊ぶ場所がある | ● |
| | | | ◆ | サイクリングに行く | ● |
| | | | ● | 遊ぶ場所がある | |
| | Milíčovský vrch | 31 | ◇ | 散歩をした | |
| | | | ◆ | 散歩をする | |
| | Milíčovský ryb. | 32 | ◆ | 冬にアイススケートをした | |
| | Michelský les | 33 | ◆ | 散歩をする | |
| | 北東部の森 | 34 | ◇ | 自然センターに学校の見学授業で行った | |
| | | | ◆ | 散歩をした | |
| | | | ◆ | 散歩をする | ● |
| | | | ● | バーベキューができる | |
| | | | ● | 動物が沢山いる | |
| | vodní nádrž Hostivař | 35 | ◇ | 水泳をした | |
| | | | ○ | 水がきれいだった | ○ |
| | | | ◆ | サイクリングに行った | ● |
| | | | ◆ | 夏に水泳をする | |
| | | | ● | 冬にアイススケートができる | |
| | Košíkovské nádrže | 36 | ◇ | アイススケートをした | |
| | v hájku | 37 | ◆ | 散歩やローラースケートで遊んだ | |
| | | | ◆ | プラハ城のライトが見えた | |
| | | | ◆ | 花火大会を見た | ● |
| | | | ● | 眺めが良い | |
| | | | ● | 晴れの日の見晴らしが良い | |
| | 全体 | － | ● | 自然が多いのが良い | ● |
| | | | ● | 自然が多い | ● |
| | | | ● | 森の景色が良い | |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　※表中の番号は図4-1と対応

写真 4-5　Miličovský ryb. (32)
(　) 内の番号は図 4-1 と対応

### ４．１．２．７　JM 全体、その他

インタビュイーの発言を表 4-8 に示す。地下鉄 Háje 駅の歩道橋はチェコスロバキアの映画「Vesničko má středisková（Jiří Menzel 監督、1985 年、邦題スイート・スイート・ビレッジ）」の撮影に使われており、そのことを指摘する住民がいた。また、生活に必要な施設が出来、中心部に行かなくても良くなったという人や、中心部に比べて自動車の量が少ない、住宅の周りが静かであることをメリットとして挙げる人がいた。11 区のことが好きである、今後も住み続けたい、全体的によくなったという声が聞かれ、全体的な評価は総じて開発当初より高まっているとみられる。

### ４．２　Jižní Město の民主化後の変化、認識されていた価値と地域再生に対する取り組み主体

インタビュイーの発言の対象物とその評価について、表 4-9 にまとめた。JM で日々の生活を送ってきた住民は、開発地周辺の自然など、開発以前から存在していたものも地域の一部として捉え、開発当初から価値として認識していた。それと同時に、JM 内部においても交通アクセスの良さや公共施設と住宅棟との近接配置が評価されており、これまで一般に言われた、画一的であるといった特徴だけでは捉えることのできない、地域の利便性などの価値も認識していたことが確認された。

また、民主化後には、それまで進んでいなかった JM 内部のオープンスペースの整備や商業施設の新規開発など、地域に関わる主体の取り組みによる改善が多数指摘されており、それらが住民の評価につながっているケースもみられた。

**表 4-8　JM 全体、その他についてのインタビュイーの発言**

| 話題の対象 | | 番号 | インタビューで指摘された点（プラスの評価には下線） | | 価値評価 |
|---|---|---|---|---|---|
| JM全体 | 環境 | – | △<br>◆<br>●<br>●<br>▲ | どこも汚かった<br>居住者とのやりとりで、地域に対する満足度が高いと感じている<br><u>他と比べてかなり良いと思う</u><br><u>特に好きな場所はないが環境には満足している</u><br>老人ホームの数を増やしてほしい | ● |
| | 日常のメンテナンス | – | ●<br>▲<br>▲ | <u>犬の糞を掃除する機械が面白い</u><br>犬の糞を片付けない人が多い<br>指定のゴミ捨て場以外のゴミ捨て場にゴミを捨てる人がいる | ● |
| | 治安 | – | ▲<br>▲ | 良くはなってきているが、夜は泥棒が心配<br>歩道の防犯カメラを増やしてほしい | |
| | イベント参加 | – | ◆<br>▲ | 公園などで行われるスポーツイベントに参加<br>皆でやるようなイベントを増やしてほしい | |
| | サイクリングロード | – | ◇<br>○<br>◆<br>●<br>●<br>● | サイクリングをした<br><u>サイクリングができる</u><br>自転車に乗って遊んでいた<br><u>サイクリングができる</u><br><u>サイクリングができる</u><br><u>中心部まで行ける</u> | ○<br>●<br>● |
| その他 | 地下鉄Háje駅の橋 | 38 | ◇ | チェコの映画に使われた | |
| | ギャラリー | 39 | ◆ | よく行く | |
| | JM開発以前からの住宅地 | 40 | ◆ | 散歩をする | |

-1989年における　◇：記憶 ○：価値 △：問題点
1990-2000年における ◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点
2001年-における　◆：記憶 ●：価値 ▲：問題点　　※表中の番号は図4-1と対応

表 4-9　インタビュイーの発言の対象物とその評価

| | | a. -1989 | | | b. 1990- | | | c. 2000- | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| JM外部の緑地 | Kunratický les | | | ◆ | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | Milíčovský les | | | ◆ | | | | | ● | ◆ |
| | Milíčovský vrch | | | ◆ | | | | | | ◆ |
| | Milíčovský ryb | | | | | | ◆ | | | |
| | 北東部の森 | | | ◆ | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | vodní nádrž Hostivař | | ● | ◆ | | ● | ◆ | | ● | ◆ |
| | Košíkovské nádrže | | | ◆ | | | | | | |
| | 周辺全体 | | | | | | | | ● | |
| JM内部の緑地 | Centrální park | | | ◆ | | | | × | ● | ◆ |
| | Chodovská tvrz公園 | | | | | ● | ◆ | | ● | |
| | 住宅周辺の公園 | × | | ◆ | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | グラウンド | | | ◆ | | | ◆ | | | |
| | v hájku | | | | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | その他の緑地 | | | ◆ | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | 全体 | × | | | | | | × | ● | ◆ |
| 交通機関 | 地下鉄 | | ● | | | ● | | | ● | |
| | バス | | ● | ◆ | | | | | ● | ◆ |
| | 電車 | | ● | | | ● | | | ● | |
| | 車 | | ● | | | ● | | | ● | |
| 娯楽 | サイクリング | | ● | ◆ | | ● | ◆ | | ● | |
| | 全体 | × | | | | | | | | |
| | 映画館 | | | | | | ◆ | | | ◆ |
| | Chodovská tvrz | | | | | | ◆ | | ● | |
| | クライミングセンター | | | | | | | | | ◆ |
| | クラブ | | | | | | | | ● | ◆ |
| | バー | | | | | | | | ● | ◆ |
| 商業 | スーパー | | | ◆ | | | ◆ | | | ◆ |
| | Opatovの商店街 | | | | | | | | | |
| | レストラン | | | | | ● | | × | ● | ◆ |
| | 住宅棟の店舗 | | | | | ● | ◆ | | ● | ◆ |
| | Háje駅前の店舗 | | | | | | | | | ◆ |
| | ビール醸造所 | | | | | | | | ● | ◆ |
| | Opatov駅前の店舗 | | | | | | | | | ◆ |
| | オフィス開発 | | | | | | | | ● | |
| | オフィス地域 | | | | | | | | | ◆ |
| | Centrum Chodov | | | | | | | | ● | ◆ |
| 公共施設 | 小学校 | | | | | ● | | | ● | ◆ |
| | 病院 | | | | | | | × | ● | |
| | 幼稚園 | | ● | ◆ | | | | × | ● | |
| | 教会 | | | | | | | | ● | |
| | 文化センター | | | | | | | | | ◆ |
| | カーリングホール | | | | | | | | | ◆ |
| 住宅 | 色 | × | | | | | | × | ● | ◆ |
| | 設備 | × | | | | | | | | ◆ |
| | 共用部分改修 | | | | | | ◆ | | ● | ◆ |
| | 室内改修 | | | | | | | | | ◆ |
| | 静かさ | | | | | | | × | ● | |
| | 家賃 | | | | | | | | ● | |
| | 眺望 | | | | | | | | ● | |
| 人間関係 | 小学校の友達 | | | ◆ | | | ◆ | | | ◆ |
| | 同じ住宅棟の住人 | | | | | | ◆ | | | ◆ |
| | 近所の人 | | | | | | | | | ◆ |
| | 共通の趣味を持つ人 | | | | | | | | | ◆ |
| その他 | 環境全体 | × | | | | | | | ● | ◆ |
| | 地下鉄Háje駅の橋 | | | ◆ | | | | | | |
| | 郵便局 | | | ◆ | | | | | | |
| | 開発以前の住宅地 | | | | | | | | | ◆ |
| | イベント参加 | | | | | | | × | | ◆ |
| | 日常のメンテナンス | | | | | | | × | ● | |
| | 駐車場 | | | | | | | × | | |
| | 歩道 | | | | | | | × | | |
| | 老人ホーム | | | | | | | × | | |
| | 治安 | | | | | | | × | | |

◆：個人的な記憶　●：高評価　×：低評価あるいは改善要求

# 第５章　オストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区における社会主義時代の住宅開発地の現在の価値

## ５．１　プラハ市の事例に対してのオストラヴァ市の位置づけ

プラハ市での事例は、比較的、経済状況が良好であり、目立った人口の減少なども見られない地域であるという特徴がある。特にプラハ 11 区では区行政が積極的に独自施策の提案を行うなど、相対的に恵まれた条件にあり、居住者の社会的立場も主に中間層以上であると考えられる。しかし、全ての社会主義時代の住宅開発地について、積極的に地域再生が行われているわけではなく、都市の居住者の生活水準も様々であることから、社会主義時代の住宅開発地は様々な立場の居住者の住まいとしての役割も果たしていると考えられるが、この点について、プラハでの事例調査においては十分に明らかにされていない。そこで、プラハとは異なる都市背景を持つオストラヴァ市を調査対象とし、より多様な社会層の市民の生活の場となっている社会主義時代の住宅開発地の民主化以降の変化と、そこに暮らす住民の評価を明らかにする。

### ５．１．１　オストラヴァ市の開発の歴史

オストラヴァ市は、プラハ、ブルノに次いでチェコで三番目の規模を持つ都市である。表 5-1 に示すように、石炭の発展によって開発が始まり、社会主義体制下に産業の発展とともに大規模な住宅開発地が建設されたが、近年、炭鉱の閉鎖とそれに伴う工業の衰退によって雇用機会の喪失や人口減少に直面している（表 5-2）。

### ５．１．２　オストラヴァ市内の基本情報

オストラヴァ市アーカイブに保管されていた地域計画図をもとに作成したオストラヴァ市内の工業地域と市街化地域の変遷を図 5-1 に示す。市の中心市街地は Moravská Ostrava a Přívoz 地区の赤く塗られた部分であり、その北部に中央鉄道駅がある。その鉄道に沿って南下した線路東側にオストラヴァ市役所や旧市街が存在するが、現在は空き店舗が散見され [(1)]、休日の人通りも多いとは言い難い状況となっている（写真 5-1、写真 5-2）。さらに旧市街から南に進むと Vítkovice の工業地域があり、ここにある製鉄産業施設は Ostrava 市内の有名な観光施設の一つとなっている（写真 5-3）他、中心市街地から少し離れた地域にも工業地域が複数存在している（写真 5-4）。

図 5-2、図 5-3、図 5-4、表 5-3 はそれぞれ、オストラヴァ市における教育水準の低い失業者の分布、犯罪発生度合いの高さ、オストラヴァ市とその周辺の土地価格、オストラヴァ市内の地区の人口増減率を示している。これらの図は後述のインタビュー内容の考察に用いるが、オストラヴァの基本情報の一部としてここに掲載する。

### ５．１．２　オストラヴァ市における調査対象地の選定

オストラヴァ地方では、1955 年から 1995 年の間に建てられたアパートメントの住戸のうちの 70％

(1) オストラヴァ市役所担当者へのインタビューによると、賃料の高さが原因で新規テナントが入らないとのことであった。

以上がプレハブパネル技術によるものであり[(2)]、オストラヴァ市内には主に 3 つの社会主義時代に形成された住宅開発地（Fifejdy、Poruba、Ostrava-Jih）が存在する（表 5-4、図 5-1 の点線で囲われた部分）。図 5-1 は 1926 年、1963 年、2014 年の Územní Plán（Land Use Plan）をもとに作成したものであるが[(3)]、社会主義体制下の 1963 年時点で、Poruba と Ostrava-Jih の大規模な開発計画がなされていたことが分かる。これらの地域が住宅開発地として選ばれた理由は、工業地域との立地関係による。産業施設で生

**表 5-1　オストラヴァ市開発の歴史**

| 年 | オストラヴァでの主な出来事 | |
|---|---|---|
| 1763 | 石炭が発見される | ① |
| 1787 | 石炭の利用が始まる | |
| 1828 | Vitkoviceでの錬鉄（後に鉄）業が設立される | |
| 1847 | Ferdinands' Northern Railwayがオストラヴァまで延長される。このことはオストラヴァの工業化を助け、労働人口の移動と、それにより起こる都市化を容易にした | |
| 1918 | チェコスロヴァキア共和国が設立される | |
| 1924 | Greater Moravian Ostrava地域が成立する | |
| 1941 | ナチスの占領下に入る | |
| 1945 | 第二次世界大戦後、独立回復 | |
| 1948 | 社会主義体制確立 | ② |
| 1949-51 | Nová Huť（"New steel mill"―現Arcelor Mittal company）が設立される | |
| 1953 | 西のPorubaと南のOstrava-Jih（Stalingrad―現Zábřeh）地域で、New Ostravaと呼ばれる新しい地域の開発が始まる。それらは両地域それぞれに、1980年代には居住者が100,000人以上に達した | |
| 1957-76 | 社会主義体制下において大きな地域的発展が起こり、新規の住宅開発が行われる | |
| 1989 | ビロード革命により共産主義体制終結 | |
| 1993 | スロヴァキアと分離・独立<br>EUの支援により、Regional Development Agencyが設立される | ③ |
| 1994 | 市内の全ての炭鉱が閉鎖される | |
| 1998 | 海外直接投資(FDIs)を引き付けるための地方的マーケティングが始まる | |
| 2004 | EU加盟 | |
| 2008 | オストラヴァへの新しい高速道路が建設される | |

**①炭鉱・重工業による都市の開発期**
**②工業の発展に伴う大規模な都市の発展期**
**③新しい経済政策への転換期**

**Rumpel, P. et al. (2010). Urban shrinkage in Ostrava, Czech Republic, D4 Comparable research report. と Rumpel, P., & Slach, O. (2012). Governance of shrinkage of the city of ostrava, European Science and Art Publishing. をもとに筆者作成**

**表 5-2 オストラヴァ市とプラハ市の経済状況の比較**

| | プラハ市 | オストラヴァ市 | チェコ共和国 |
|---|---|---|---|
| 面積[$km^2$] | 496 | 332 | 78,867 |
| 人口（2014）[人] | 1,259,079 | 325,640 | 10,538,275 |
| 人口増減率（2007-14)[%] | 103.9 | 96.7 | 101.5 |
| 失業率(2014)[%] | 2 | 8.3※ | 5.9 |
| 1人当たりGDP（2012)[CZK] | 762,956 | 319,314※ | 365,955 |

**※オストラヴァの属するモラヴィア・スレスコ州のデータ**

**（チェコ統計局のデータをもとに筆者作成）**

(2)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava.

(3)1926 年と 63 年の Územní Plán はオストラヴァ市アーカイブ所蔵、2014 年のものはウェブサイト (https://uzemniplan.ostrava.cz/　最終閲覧日 2016.04.21) から閲覧可能である。

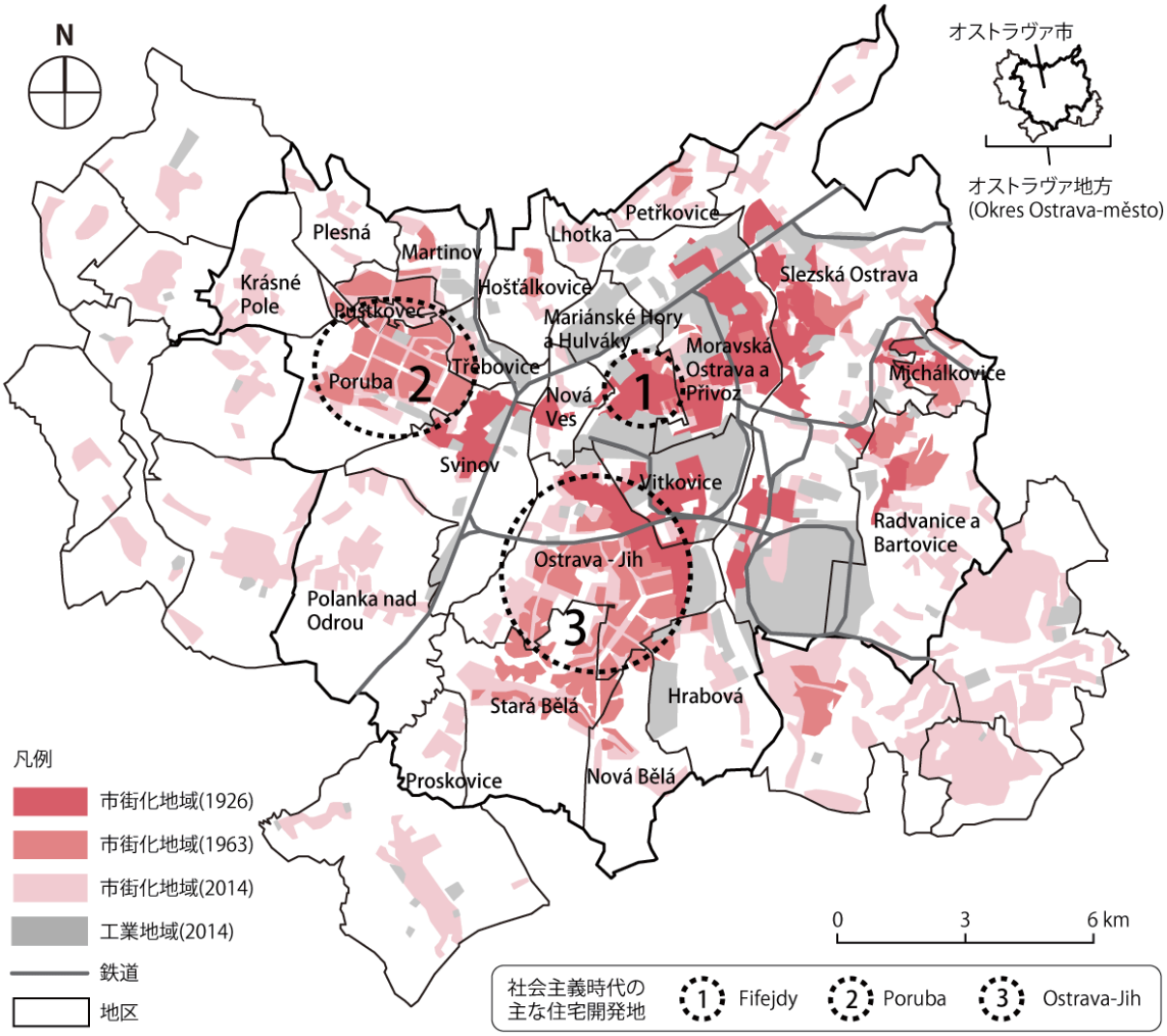



図 5-1　地域計画図による工業地域と市街化地域
（オストラヴァ市アーカイブ資料をもとに筆者作成）

写真 5-1　市内中心部の空き店舗
（2015 年　筆者撮影）

写真 5-2　人通りの少ない旧市街
（2015 年　筆者撮影）

写真 5-3　Vítkovice の製鉄産業施設
（2015 年　筆者撮影）

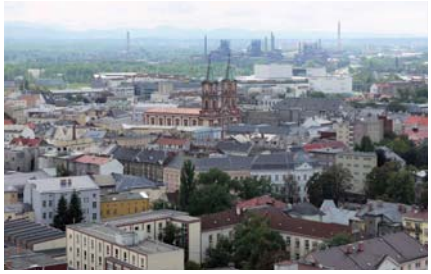


写真 5-4　市街地とその奥に見える工業地域
（2015 年　筆者撮影）

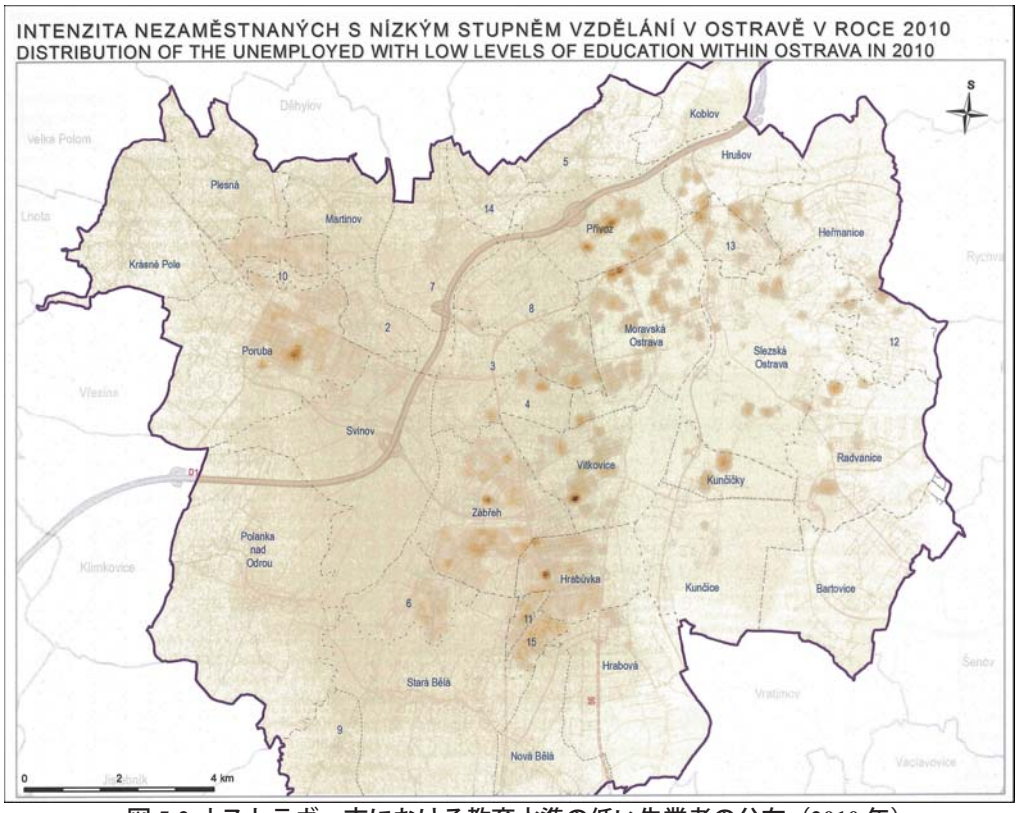



**図 5-2 オストラヴァ市における教育水準の低い失業者の分布（2010 年）**

**（出典：Hruška, L., Kukuliač, P. a kol. (2011). Socioekonomický Atlas Ostravy, Accendo-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s.） ※色の濃い地域ほど度合いが大きい**

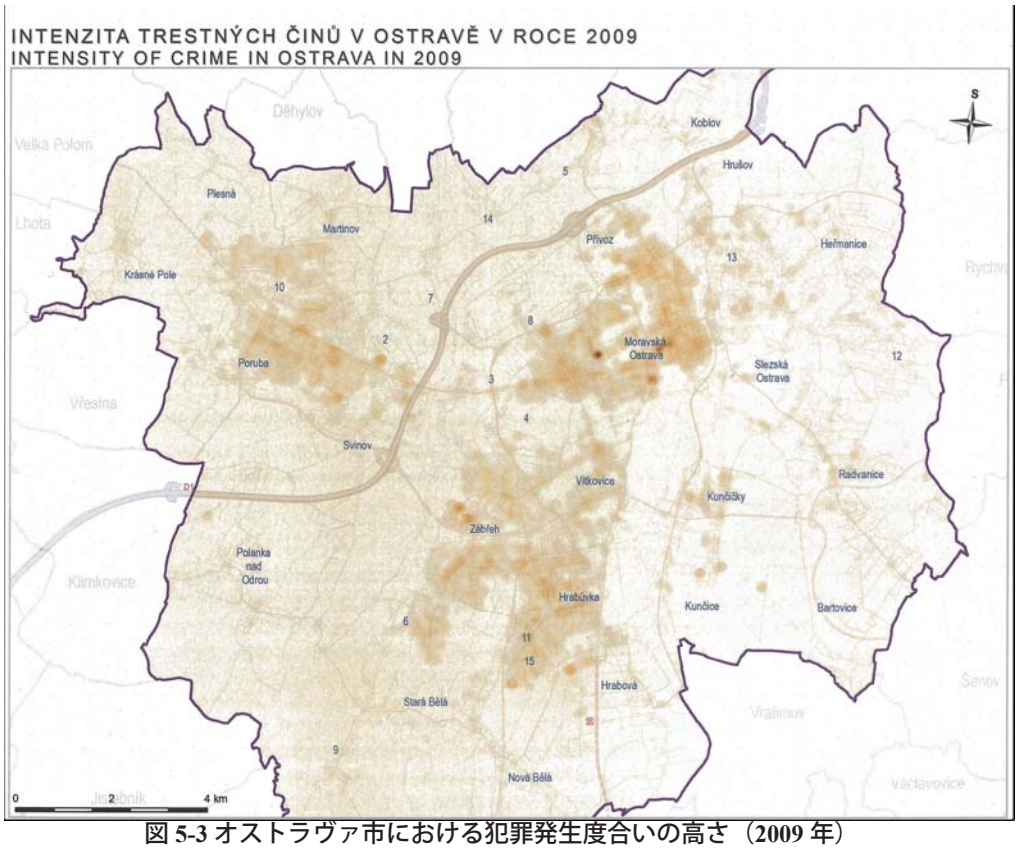



**図 5-3 オストラヴァ市における犯罪発生度合いの高さ（2009 年）**

**（出典：Hruška, L., Kukuliač, P. a kol. (2011). Socioekonomický Atlas Ostravy, Accendo-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s.） ※色の濃い地域ほど高い**

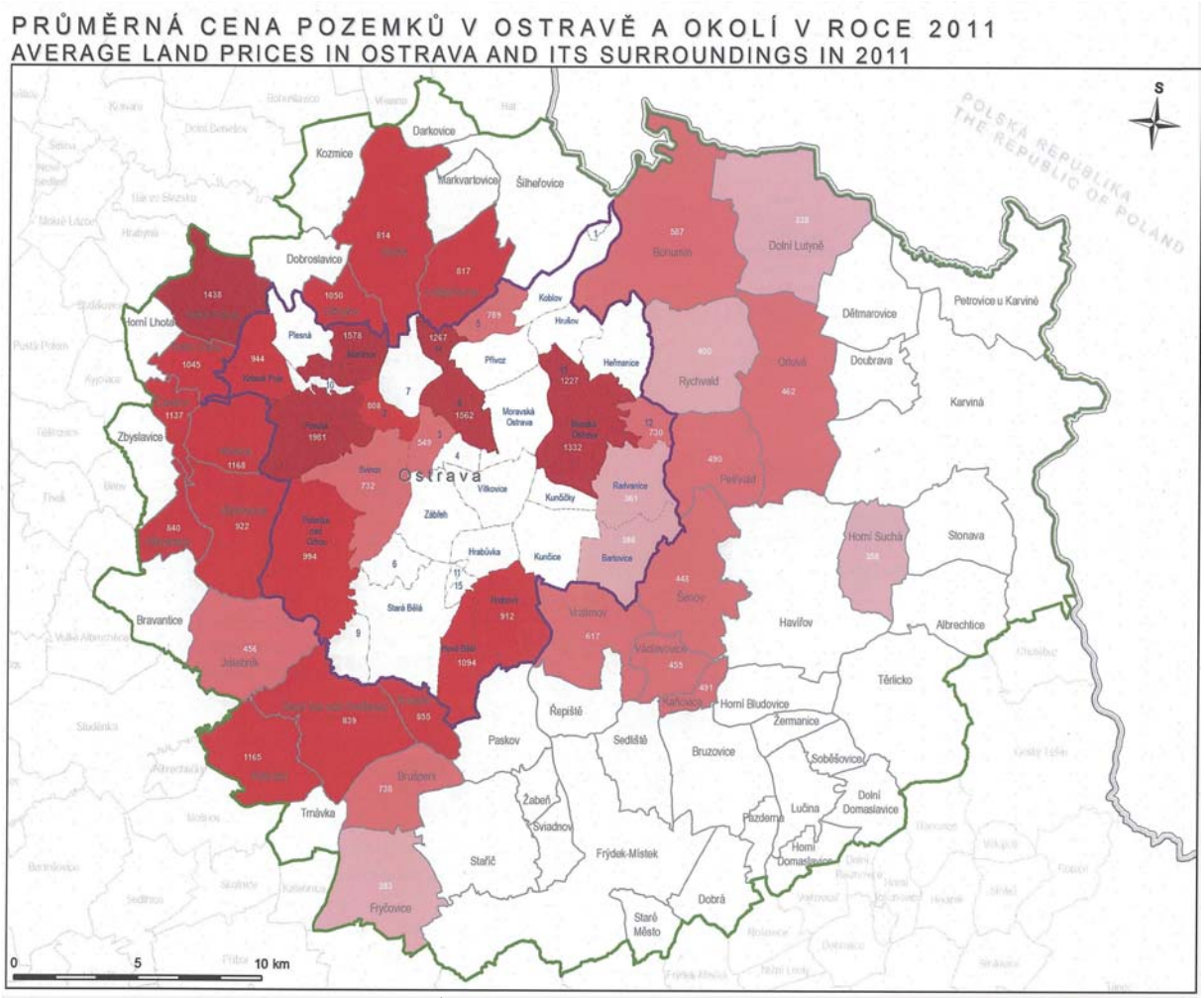



図 5-4 オストラヴァ市内とその周辺部の平均地価価格（2011 年）
（出典：Hruška, L., Kukuliač, P. a kol. (2011). Socioekonomický Atlas Ostravy, Accendo-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s.） ※色が濃い地域ほど地価が高い。白地はデータなし

表 5-3 オストラヴァ地方の人口増減率（2008-1991 年）

*Figure 43 Population development in particular city districts of Ostrava*

| City district | Size km² | Population | | | | | | Difference 2008–1991 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1961 | 1970 | 1980 | 1991 | 2001 | 2008 | |
| Hošťálkovice | 5.29 | 1,634 | 1,620 | 1,611 | 1,538 | 1,511 | 1,572 | +34/+1 % |
| Hrabová | 9.19 | 4,571 | 3,946 | 3,544 | 3,446 | 3,433 | 3,779 | +333/+11 % |
| Krásné Pole | 6.30 | 1,643 | 1,762 | 1,966 | 1,898 | 2,101 | 2,448 | +550/+29 % |
| Lhotka | 2.13 | 1,059 | 997 | 1,009 | 941 | 1,004 | 1,142 | +201/+21 % |
| Mariánské Hory and Hulváky | 6.17 | 19,780 | 14,119 | 16,152 | 14,542 | 12,998 | 13,165 | -1377/-10 % |
| Martinov | 4.08 | 710 | 869 | 872 | 1,109 | 1,093 | 1,126 | +17/+1 % |
| Michálkovice | 2.89 | 4,766 | 3,599 | 2,965 | 2,466 | 2,836 | 3,126 | +660/+27 % |
| Moravská Ostrava and Přívoz | 13.85 | 59,319 | 50,086 | 50,395 | 46,397 | 43,428 | 42,538 | -3859/-9 % |
| Nová Bělá | 6.88 | 1,437 | 1,334 | 1,406 | 1,460 | 1,565 | 1,702 | +242/+16 % |
| Nová Ves | 3.00 | 1,666 | 1080 | 779 | 640 | 603 | 676 | +36/+5 % |
| Ostrava-Jih | 16.95 | 33,413 | 70,748 | 90,109 | 118,806 | 118,094 | 116,945 | -1149/-1 % |
| Petřkovice | 3.90 | 3,236 | 2,891 | 2,846 | 2,659 | 2,783 | 2,960 | +301/+11 % |
| Plesná | 4.84 | 992 | 979 | 996 | 1,001 | 1,098 | 1,222 | +221/+22 % |
| Polanka nad Odrou | 17.22 | 3,815 | 3,792 | 4,032 | 3,934 | 4,224 | 4,603 | +669/+17 % |
| Poruba | 12.78 | 42,575 | 83,196 | 93,667 | 83,982 | 74,980 | 71,788 | -12194/-15 % |
| Proskovice | 3.43 | 775 | 775 | 954 | 1,052 | 1,125 | 1,199 | +147/+14 % |
| Pustkovec | 1.08 | 697 | 653 | 824 | 999 | 1,115 | 1,216 | +217/+22 % |
| Radvanice and Bartovice | 15.18 | 9,387 | 7,588 | 6,510 | 5,773 | 6,284 | 6,755 | +982/+17 % |
| Slezská Ostrava | 42.68 | 36,731 | 27,537 | 23,534 | 19,466 | 19,484 | 21,349 | +1883/+10 % |
| Stará Bělá | 13.66 | 2,843 | 2,884 | 3,013 | 2,989 | 3,233 | 3,623 | +634/+21 % |
| Svinov | 11.70 | 5,088 | 3,904 | 3,572 | 3,379 | 4,536 | 4,516 | +1137/+33,5 % |
| Třebovice | 3.41 | 1,253 | 1,540 | 1,762 | 1,620 | 1,698 | 1,836 | +216/+13 % |
| Vítkovice | 7.38 | 16,907 | 11,272 | 9,555 | 7,292 | 7,518 | 7,798 | +506/+7 % |
| Ostrava - total | 214.20 | 254,297 | 297,171 | 322,073 | 327,389 | 316,744 | 317,086 | -10303/-3 % |

Source: City of Ostrava

（出典：**Rumpel, P., & Slach, O. (2012). Governance of shrinkage of the city of ostravaEuropean Science and Art Publishing.**）

じた煙は風で東に運ばれるので、大気汚染の少ない西側の地域が選ばれた[4]。なお、Fifejdy は 1926 年時点ですでに市街化地域に定められていることから、社会主義時代の住宅開発以前に市街地が存在し、それを建て替えて住宅開発を行った可能性が考えられる。また、Poruba はチェコ国内で最も記念碑的な社会主義レアリズムの住宅開発地として、国の歴史的・文化的遺産の保護を定める法律に従って 2003 年にメモリアルゾーンに指定されている[5]。

表 5-4 より、Fifejdy、Poruba では 1980 年には主な建設を終えているのに対し、Ostrava-Jih は 1955 年に Zábřeh 地域の開発が始まってから 92 年に Dubina 地域の開発を終えるまで、開発期間は 38 年に及んでいることが分かる。表 5-5 に示す通り、社会主義時代の住宅開発地の特徴はその開発時期によって異なるため、開発地内にその違いが表れており、その生活環境の差が住宅価格や家賃に反映されていると考えられる。すなわち、より多様な社会層の住民が生活していると考えられる住宅開発地 Ostrava-Jih を含む Ostrava-Jih 地区を調査対象地とした。

### ５．１．３　調査の手順

調査は主に 3 つの手順によって行った。まず、アーカイブ資料分析や現地踏査によって、Ostrava-Jih 地区内の各地域の特色を把握する。次に、Ostrava-Jih 地区に関わる行政関係者へのインタビューによって、地域再生に対する取り組みと民主化後の変化について把握する。最後に Ostrava-Jih 地区住民への

**表 5-4 オストラヴァ市内の主な住宅開発地**

| | 地域 | 人口 | 住戸数 | 建設期間 | 住宅の階数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Fifejdy | 23,268 | 8,123 | 1970−80 | 8−12,(16) |
| 2 | Poruba | 56,035 | 22,237 | 1950−80 | 8−10 |
| | Pustkovec | 24,277 | 8,285 | 70−80 | 8−12,(16) |
| 3 | Hrabůvka | 35,071 | 13,601 | 1960−70 | 4,12−14,(16) |
| | Výškovice | 14,035 | 5,144 | 1965−75 | 4,8−12,(16) |
| | Zábřeh | 21,581 | 7,638 | 1955−65 | 4−5 |
| | Starý Zábřeh | 18,664 | 5,722 | 1985−89 | 8−12,(16) |
| | Dubina+Bělský Les | 18,601 | 4,982 | 1985−92 | 12,(16) |

住宅開発地名　1：Fifejdy　2：Poruba　**3：Ostrava−Jih**

**Kallabová, E.& Bílek, J. (2006), "The Histrical Background and Current Situation of Mass (Industrial) Forms of Housing in the Ostrava Region (Czech Republic)", Moravian Geographical Reports, Vol.14, No.2, pp.27-42. の表をもとに作成**

**表 5-5　住宅開発地の開発時期別の特徴**

| 開発時期 | 住宅開発地の特徴 |
|---|---|
| 1950年代 | レンガ造り2階建てで、どちらかといえば小さな住戸（2部屋とキッチン）が建設され、生活環境はよく、社会的インフラも考慮されていた。 |
| 1970年代 | 殆どの高層（15階建ても例外的ではない）プレハブ住宅と、最大4−5階建てのプレハブ住宅の団地において、2−3部屋とキッチンの住戸が建設された。環境の質は1950年代よりも低い（緑地と公共空間が十分ではない）が、ヘルスセンターや託児所、幼稚園、学校といった社会的インフラは備わっていた。 |
| 1980年代 | 共産主義時代の経済的薄弱と投資削減の必要性のため、4部屋住戸が建てられたものの、住宅団地の建設は最低の質であった。構築環境を無視した、並外れた人口密度、緑地や公共空間といったアメニティの不在、不十分な社会的インフラが特徴である。 |

**Rumpel, P., Slach, O. (2012), "Governance of shrinkage of the city of Ostrava", European Science and Art Publishing. をもとに作成**

(4) オストラヴァ市役所担当者へのインタビューによる。

(5)Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava.

インタビュー調査を行い、地域の現状に対する住民の評価を把握する。これら 3 つの調査結果をもとに、Ostrava-Jih 地区内の民主化後の変化と現在の住民評価についての考察を行う。

### 5．2　資料調査による Ostrava-Jih 地区内の各地域の特色

Ostrava-Jih 地区は Hrabůvka、Výškovice、Zábřeh、Dubina、Bělský les 地域に分けられる（図 5-5）。この地域区分を基準として、開発時期、空間構成、年齢別人口の割合、住宅所有者の割合について整理する。

#### 5．2．1　開発時期

Ostrava-Jih 地区内の市街化の順序について、オストラヴァ市アーカイブに保管された 3 枚の地図のデジタルデータを用いて図 5-6 を作成した。地図に年号の記載がなかったため正確な時期は不明であるが、開発の順序を把握することは可能である。また、開発計画図面については、地域内の更に部分的な図面のみアーカイブに保管されていることが確認された [(6)]。

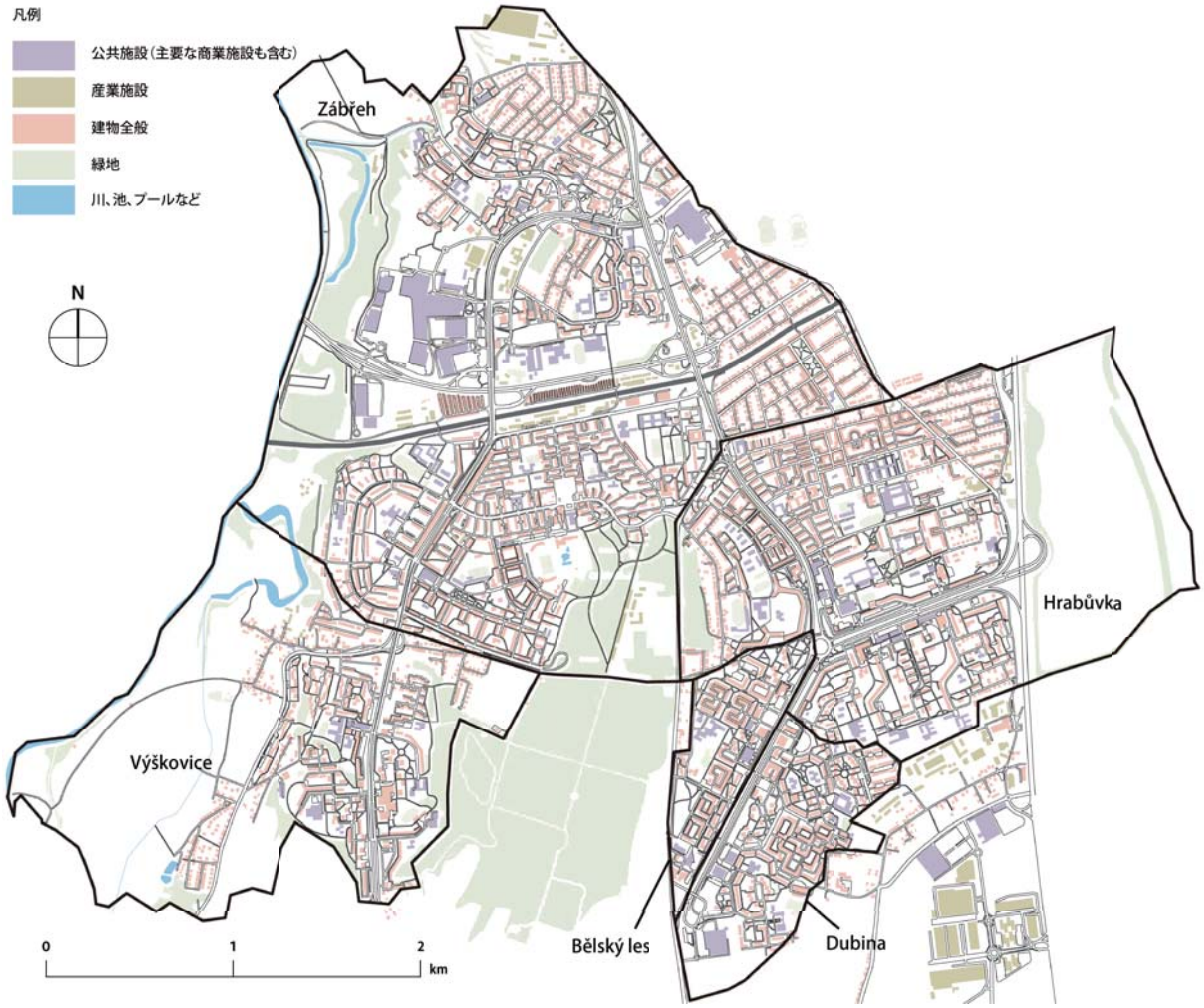



**図 5-5　Ostrava-Jih 地区内の地域区分と市街化の状況（筆者作成）**

(6) オストラヴァ市アーカイブの暫定目録（1998 年）をもとに、Ostrava-Jih 地区の開発計画に関すると考えられる資料を探したが、図 5-5 に点線で示した以外の箇所についての開発計画図は確認することが出来なかった。

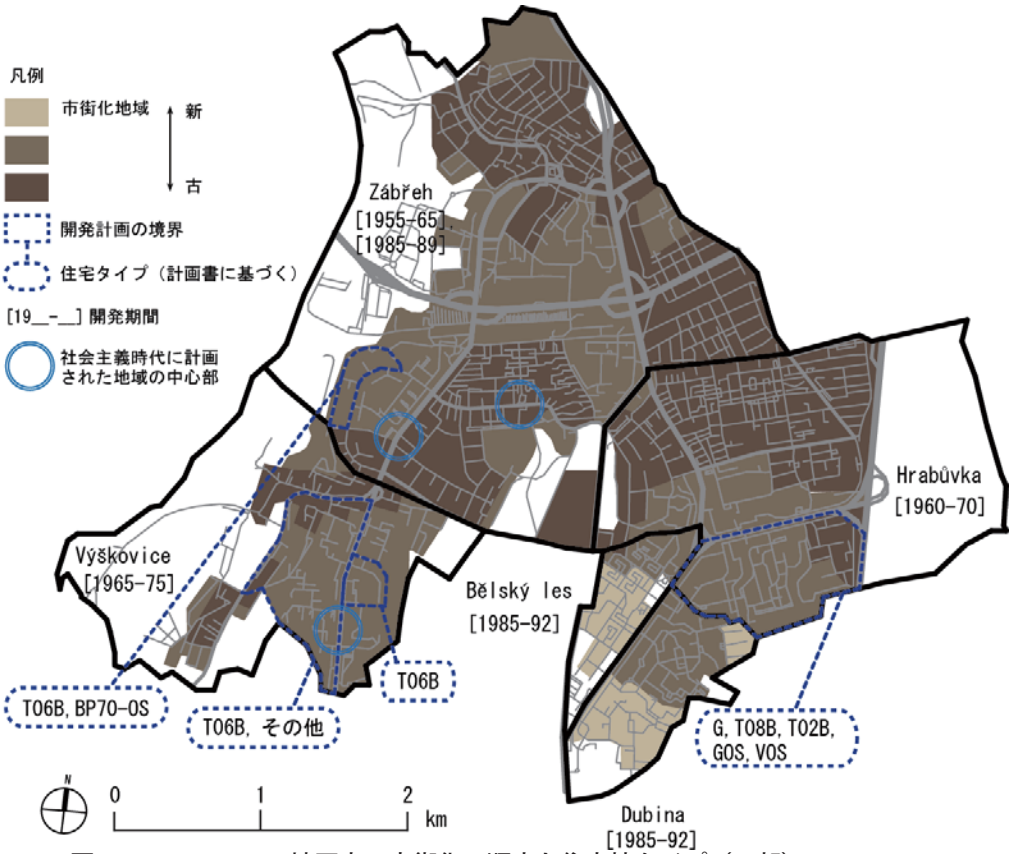



図 5-6　Ostrava-Jih 地区内の市街化の順序と住宅棟タイプ（一部）

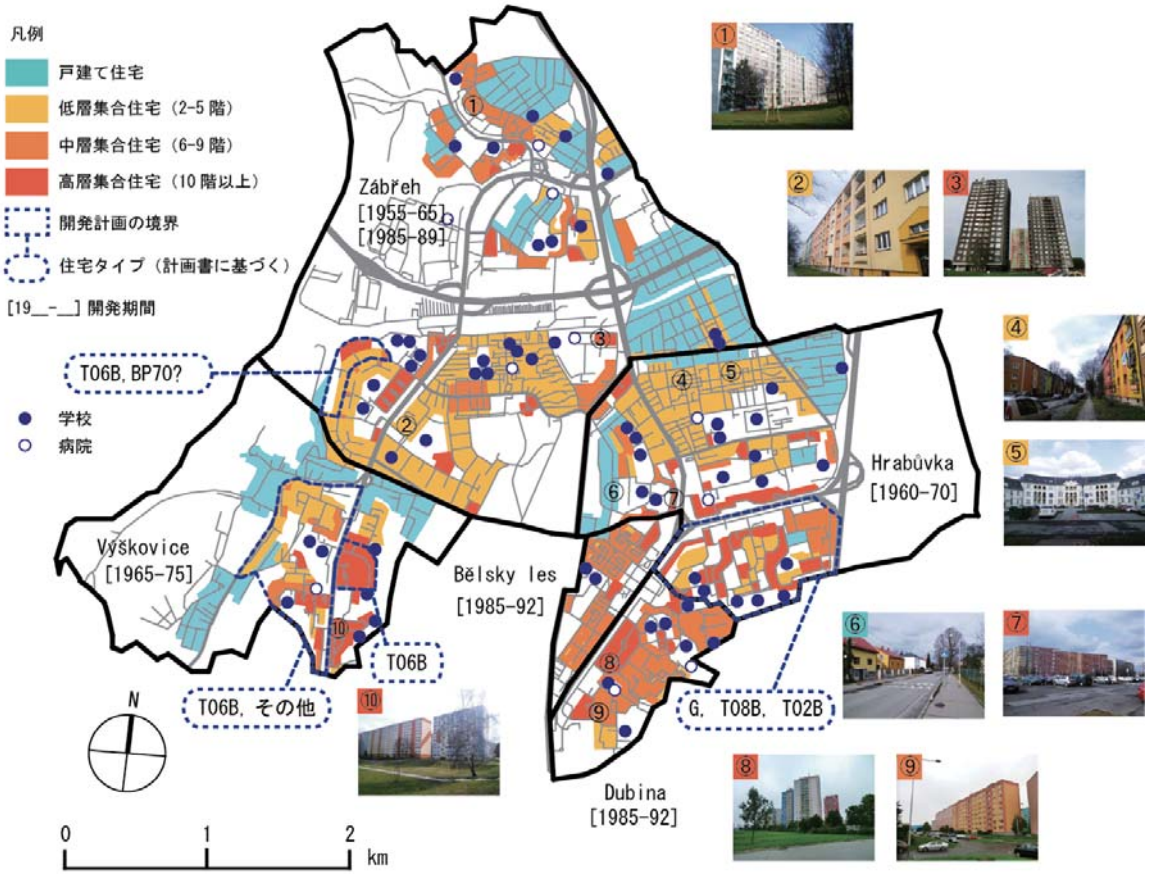



図 5-7　Ostrava-Jih 地区内の住宅棟階数による分類と公共施設の分布

### 5．2．2　空間構成

図 5-7[7] は Ostrava-Jih 地区内の住宅棟階数による分類と公共施設の分布を示す。図 5-1、図 5-6、図 5-7 より、戸建て住宅は社会主義時代の住宅開発初期には既に存在していたこと、低層住宅中心ゾーンは開発初期に建設されたことが分かる。表 5-5 で指摘されている、学校や病院といった社会的インフラの充実度の開発時期による違いについては、現状において大きな地域差は見られない様に思われるが、Ostrava-Jih 全体に渡って多くの学校・病院は集合住宅ゾーンに位置しており、戸建ての住民にもサービスを提供していると考えられる。

### 5．2．3　年齢別人口の割合

Ostrava-Jih 地区内の各地域の現在の年齢別人口の割合を図 5-8 に示す。図 5-8 より、比較的開発時期が早かった Hrabůvka、Výškovice、Zábřeh の 3 地域、Ostrava 全体と比較して、開発時期の遅かった Dubina、Bělský les 地域は 39 歳以下の割合が高く、居住者層に特徴がみられる。

### 5．2．4　住宅所有者の割合

次に Ostrava-Jih 地区の現在の地域別住宅所有者の割合（表 5-6）をみると、Dubina のみ協同組合の所有率が最も高く、他地域では個人所有の割合が最も高い。また、個人所有の割合が 50% を超える Výškovice、Zábřeh、Hrabůvka はその他の 2 地域よりも年齢層の高い地域（図 5-8）と一致する。

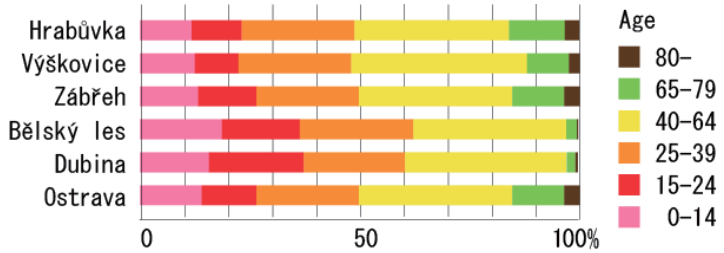



**図 5-8　各地域の年齢別人口の割合 (2009)**

**（Hruška, L., Kukuliač, P. a kol. (2011). SOCIOEKONOMICKÝ ATLAS OSTRAVY, ACCENDO-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s. の表をもとに筆者作成）**

**表 5-6　Ostrava-Jih 地区の地域別住宅所有者の割合**

| 地域名 | RPG（民間不動産会社） | | 市（Statutární město、憲章都市） | | 協同組合（Družstvo） | | 企業（Obchod. společnosti） | | 個人（Individuální） | | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 住宅数 | [%] | 住宅数 | [%] | 住宅数 | [%] | 住宅数 | [%] | 住宅数 | [%] | |
| Bělský les | 0 | 0.0 | 41 | 19.7 | 73 | 35.1 | 6 | 2.9 | 88 | 42.3 | 208 |
| Dubina | 0 | 0.0 | 27 | 10.4 | 222 | 85.7 | 2 | 0.8 | 8 | 3.1 | 259 |
| Hrabůvka | 35 | 2.4 | 145 | 9.9 | 428 | 29.3 | 90 | 6.2 | 763 | 52.2 | 1461 |
| Výškovice | 13 | 1.5 | 9 | 1.0 | 209 | 23.9 | 24 | 2.7 | 620 | 70.9 | 875 |
| Zábřeh | 68 | 3.1 | 161 | 7.3 | 525 | 23.9 | 55 | 2.5 | 1388 | 63.2 | 2197 |
| 全体 | 116 | | 383 | | 1457 | | 177 | | 2867 | | 5000 |

※[%]＝それぞれの地域の各所有者の住戸数/地域内全体の住戸数×100

※ ▒▒ は各地域において最大の割合を示す

**（Hruška, L., Kukuliač, P. a kol.(2011). SOCIOEKONOMICKÝ ATLAS OSTRAVY, ACCENDO-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s. の表をもとに筆者作成）**

(7) 調査は Google map の利用と現地踏査によって行った。なお、着色されていない部分は公共施設、商業施設、緑地等住宅以外の地域に該当する。

### 5．3　Ostrava-Jih 地区に関わる行政による社会主義時代の住宅開発地再生施策と民主化後の変化

ここでは、Ostrava-Jih 地区にかかわる行政による社会主義時代の住宅開発地再生施策と民主化後の変化について、地域関係者へのインタビューを行った内容についてまとめる。

#### 5．3．1　オストラヴァ市の方針

オストラヴァ市役所担当者へのインタビュー[8]によれば、住宅政策については市は特別なことは行っておらず、現在取り組むべき問題として認識しているのは、社会的弱者についてであり、現時点では対処法を検討中とのことであった。また、最も重視しているのは新しい雇用機会を生み出すことであり、工業地域の再生は市が中心となって行っている、とのことであった。また、都市計画について、区行政との関係を尋ねると[9]、それは主に市の担当であり、区行政との関係は特にない、とのことであった。

これらのことから、オストラヴァ市においては社会主義時代の住宅開発地再生に対する行政の積極的介入は行われていないと考えられる。

#### 5．3．2　Ostrava-Jih 地区の民主化後の変化

表 5-7 は Lubor Hruška 氏（PROCES）へのインタビュー[10]より得られた情報をまとめたものである。内容については、住民インタビューの結果と合わせて後述する。

**表 5-7　Hruška 氏へのインタビューより得られた情報**

| | インタビュー内容のまとめ |
|---|---|
| ① | Hrabůvka内のJubilejní地域は元々はロマ人と所得のとても低い人たちばかりが住んでおり、失業率も非常に高かったが、2000年頃から再生が始まり、今はお金持ちの人たちが入ってくるようになった。代わりに元々住んでいた人たちは、Čujkovova地域の狭くて家賃が安いアパートに移動した。 |
| ② | Ostrava-Jih地区で一番の問題は労働者のための宿泊施設(チェコ語でubytovna、hotelový dům などと呼ばれる)であり、低所得の家族世帯が住んでいるが、住環境が悪い。オストラヴァ市全体では5000人程度がこの様な施設に住んでいるが、そのうち約3500人がOstrava-Jih地区内に住んでいる。 |
| ③ | Ostrava-Jih地区全体の問題は、中心が無いことと、各地域に交通の連絡はあるものの、地域同士が接続していないことである。元々の計画では、Bělský les（森）の周りに全ての中心施設を入れる予定であったが、実際には何も実現しておらず、社会主義時代の規則に従って、既存の開発地域に施設を増やすことになった。 |
| ④ | 将来的なOstrava-Jih地区の展望としては、周りに産業施設が沢山あり、その労働者が沢山住んでいるのに加え、最近では医者など、高所得者も来るようになっているので、再生すればチャンスがあると考えている。今はオストラヴァ市人口の約三分の一がOstrava-Jih地区に住んでいる。住環境レベルは高いとは言えないが、アパートが安いので若者に魅力のある地域になっている。最近の2、3年は郊外化の割合が下がってきて、町の中にアパートを欲しがる人が増えてきている。 |

(8) インタビューは 2014 年 9 月 2 日、市役所担当者 3 名（チェコ語 - 英語通訳者 1 名を含む ) に対して行った。

(9) 第 2 章で述べた様に、プラハ市の場合、土地利用を定める Územní Plán は市によって定められており、オストラヴァ市も同様に、市が定める Územní Plán が存在する。また、プラハ市の社会主義時代の住宅開発地の再生施策に関する市と区の役割を参考に、今回、区行政へも再生施策に関するインタビューを試みたが、区行政担当者からは、詳細は市行政に聞いてほしい、との回答を受けた。このことからも、都市計画に関しては市行政が主体となっていると考えられる。

(10)Hruška 氏は Strategy of housing policy Ostrava を作成している行政関連企業 PROCES (Centre for Municipal and Regional Development, Ltd.) の副社長である。インタビューは 2015 年 3 月 17 日、チェコ語 - 日本語通訳者 1 名を介して行った。

## ５．４　Ostrava-Jih 地区住民インタビューによる地域の価値と地域住民の取り組み

ここでは、これまで行ってきた資料調査と行政関連企業へのインタビューで確認された Ostrava-Jih 地区内の地域差を踏まえながら、Ostrava-Jih 地区住民へ行ったインタビューについてまとめる。

### ５．４．１　インタビューの方法

チェコにおいて、地域住民への居住地域に関するインタビュー調査は一般的ではないため、紹介者を介さずにインタビューに応じてもらうことは困難であると判断し、研究関係者に知り合いの紹介を依頼した。同時に、居住地近隣の話を広く得るため、居住地域が偏らない様配慮し、長時間のインタビューは断られる可能性が高いということであったため、インタビュー時間は 1 時間程度と設定した。その結果、最終的に Ostrava-Jih 地区住民 14 名へのインタビューを行うことができた（表 5-8）。インタビューは 2015 年 9 月 27 日～ 30 日の 4 日間、1 人または家族単位で、チェコ語 - 日本語通訳者を介して行った（写真 5-5）。質問事項は、Ostrava-Jih 地区に住み始めた時点から現在までの時系列に沿って、

**表 5-8　インタビュイーの基本情報**

| | 居住者 | | | | 住宅 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 性別 | 年齢 | 居住歴 | 職業 | 所有 | 分類 |
| A−1 | 女 | 52 | Zábřeh 1963− | 旅行会社勤務 | 協同組合 | 低層 |
| A−2 | 男 | 54 | Zábřeh 1961− | ソフトウェア関係企業勤務 | | |
| B | 女 | 36 | Zábřeh 2005− | 旅行代理店勤務 | 個人所有 | 低層 |
| C | 女 | 27 | Zábřeh 1988− | 大学職員 | 協同組合 | 中層 |
| D | 女 | 29 | Dubina 1986− | 公務員 | 協同組合 | 中層 |
| E−1 | 女 | 62 | Dubina 1991− | 無職（元食品会社） | 協同組合 | 高層 |
| E−2 | 女 | 29 | Dubina 1991−2013<br>Hrabůvka 2014− | 会社員 | 賃貸 | 低層 |
| F | 女 | 38 | Zábřeh 1977−1999<br>Hrabůvka 2000−05<br>Zábřeh 2006− | パソコン関連企業勤務 | 協同組合 | 低層 |
| G | 女 | 63 | Výškovice 1990−2010<br>Zábřeh 2012− | 無職（元公務員） | 協同組合 | 高層 |
| H | 女 | 35 | Výškovice 1990−2010<br>Zábřeh 2014− | イベント企画会社勤務 | 協同組合 | 低層 |
| I | 女 | 30 | Zábřeh 1985−2007<br>Hrabůvka 2008− | シェフ | 協同組合 | 低層 |
| J | 女 | 35 | Zábřeh 1980−2005<br>Hrabůvka 2006/7− | 大学のPRマネージャー | 個人所有 | 中層 |
| K | 女 | 36 | Zábřeh 1979−2005<br>Výškovice 2006− | 学校教師 | 個人所有 | 中層 |
| L | 女 | 28 | Výškovice 2009−11<br>Zábřeh 2012− | 広告会社勤務 | 賃貸 | 低層 |

低層：2−5階建て集合住宅　中層：6−9階建て集合住宅　高層：10階以上の集合住宅
注）A−1とA−2は夫婦、AとCは親子、E−1とE−2は親子、GとHは親子

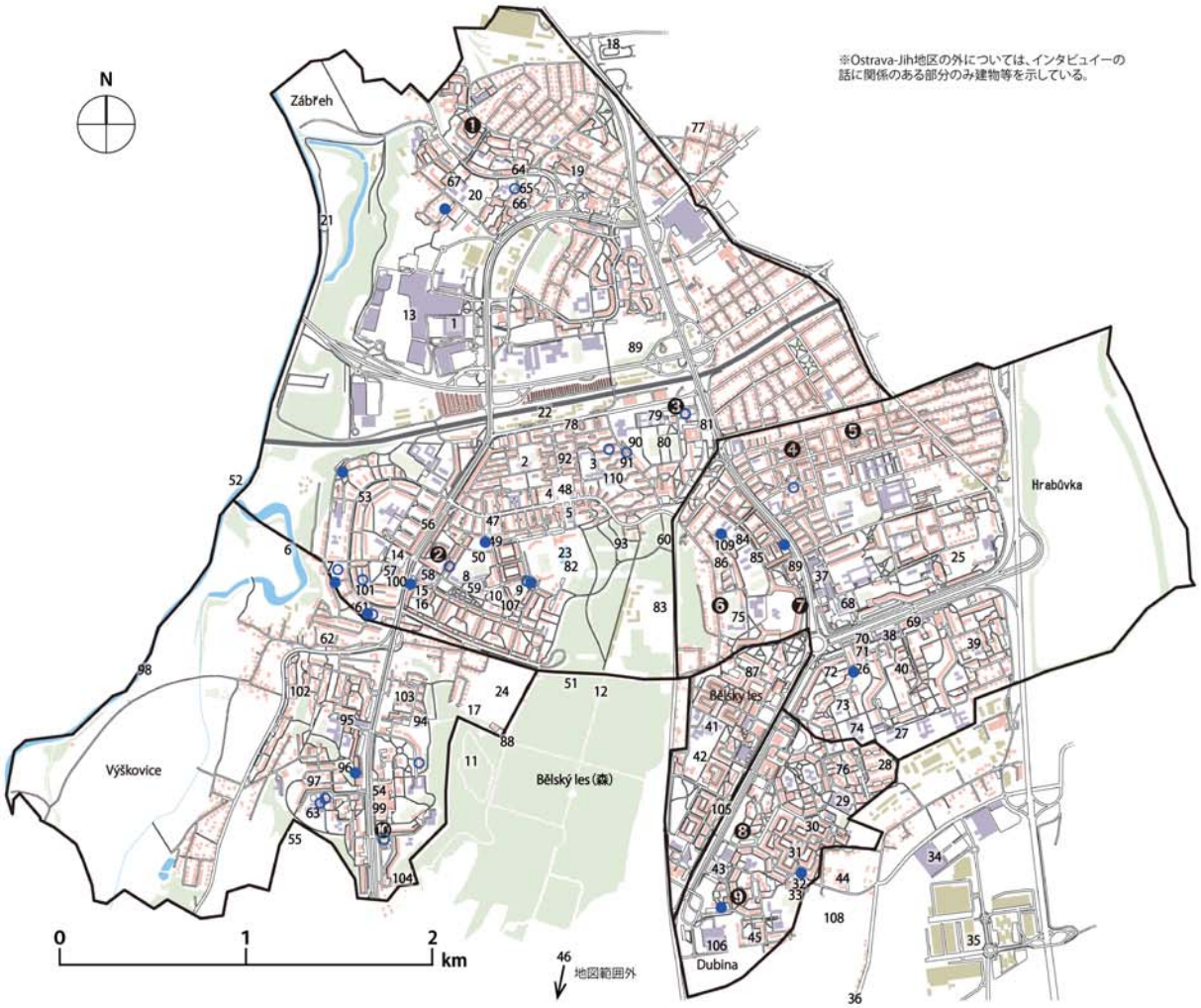
写真 5-5　インタビューの様子

Ostrava-Jih 内の地域区分

インタビュイーの日々の生活の様子や地域に対する印象、住環境改善のための取り組みなどについて話してもらった。話題については、話が途切れることが無いように予めいくつかの質問を用意したが、話の途中でインタビュイーが思いついたこと等も自由に話してもらった。また、インタビュイーが地域に対して何らかの特別な行動を行っていた場合（住宅棟の組合長、共同スペースの管理係等）については、その状況に応じて質問を加えた。

また、インタビュイーの話に出てきた場所についての曖昧さを可能な限り解消するため、インタビュー時には Ostrava-Jih 地区とその周辺部の地図を用意し、インタビュイーが特定の場所を指摘する度に本人に確認しながら、地図に記入した。また、話題に上った場所については、後日現地踏査を行い、可能な限り、位置情報や現在の状況についての事実関係を確認した。

インタビュイーの発言をまとめたものを図 5-9 に示す。この結果を、地域ごとに空間構成等が異なることを考慮し、地域別に分析する。




各地域の住宅棟の例

1 お店
2 病院
3 小学校
4 市場
5 お店
6 池
7 遊び場
8 小学校
9 遊び場
10 お店
11 ジョギングコース
12 Bělský les (森)
13 ショッピングモール
14 お店
15 遊び場
16 幼稚園
17 自転車の障害物コース
18 ローラースケートコース
19 レストラン
20 陸上トラック
21 川沿いの道
22 病院
23 プール
24 野原
25 元幼稚園
26 レストラン
27 ギムナジウム
28 遊んでいた場所
29 小学校
30 建物が灰色のエリア
31 遊んでいた場所
32 スーパー
33 喫茶店
34 スーパー
35 ビジネスエリア
36 新築の一軒家群
37 商店街Broadway
38 商店街Špaliček
39 ボーリング場（正確な場所は不明）
40 レストラン
41 幼稚園・小学校
42 遊び場
43 スポーツセンター
44 新しくできた住宅群
45 新しくできた住宅群
46 プール
47 クラブ活動をしていた場所
48 貧しい人のための寮
49 スーパー
50 元幼稚園
51 森の中の公園
52 川沿いの道
53 コンビニ
54 商店街Odra
55 森
56 商店街Kotva
57 ディスコ
58 映画館
59 遊び場
60 サイクリングパーク
61 スーパー
62 レストラン
63 元小学校
64 元スーパー
65 遊び場
66 スーパー
67 小学校
68 病院
69 スーパー
70 商店街Venuše
71 スーパー
72 遊び場
73 幼稚園
74 小学校
75 専門学校
76 遊び場
77 元ロッククラブ
78 遊んでいた場所
79 元病院
80 サッカーグラウンド
81 道路を挟んで唯一の一軒家
82 遊び場
83 遊び場予定地
84 幼稚園
85 小学校
86 遊び場
87 元公園
88 森と野原
89 遊び場
90 遊び場
91 遊び場
92 ロマ人が増加したエリア
93 レストラン
94 幼稚園
95 スーパー
96 遊び場
97 遊び場予定地
98 川沿いの道
99 スーパー
100 住宅
101 スーパー
102 住宅エリア
103 住宅エリア
104 喫茶店
105 新しい住宅
106 スーパー
107 遊び場
108 栗の木
109 遊び場
110 幼稚園

○ インタビュイーの以前の家
● インタビュイーの現在の家

**図 5-9　Ostrava-Jih 住民へのインタビューで指摘された場所**

### ５．４．２　住宅・地域に対するインタビュイーの認識と特色ある場所や取り組み

ここでは、インタビューの結果を、地域ごとに空間構成等が異なることを考慮し、地域別に分析する。

#### ５．４．２．１　Zábřeh 地域

Zábřeh 地域において指摘された箇所を、図 5-10 と表 5-9 に示す。

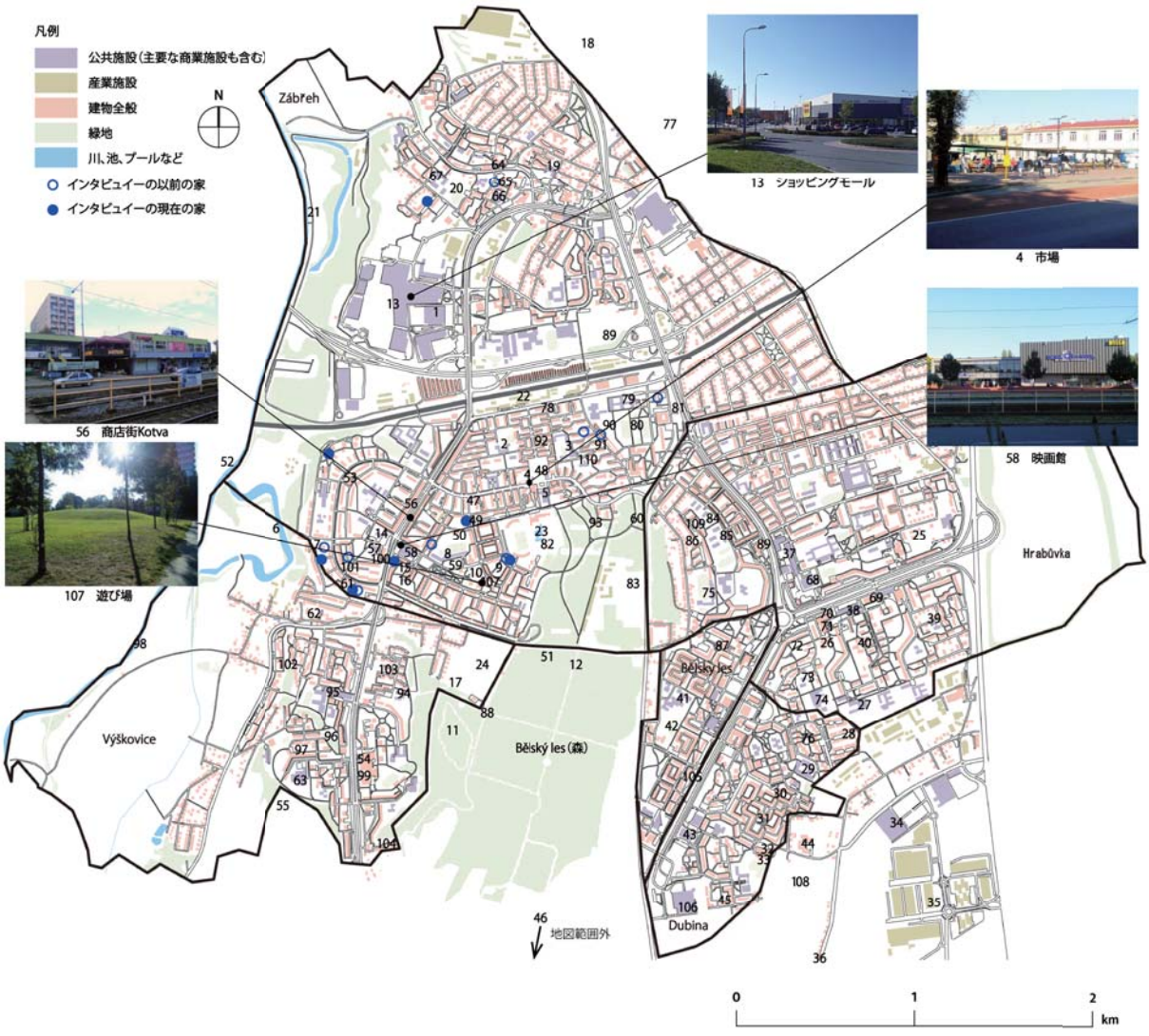
地域内の子どもの遊び場としては、住宅開発時に掘った土を集めてできた人工的な丘（図 5-10-49）が指摘された他、家の近くにある遊具付き公園で遊ぶという話が複数聞かれた。最近新しくロープの遊具がある遊び場が出来た（図 5-10-59）、との話があった一方で、昔遊んでいた遊び場は、今はもうないとの発言もあった。

複数のインタビュイーが指摘したのは、2000 年前後に開発が始まったという大規模ショッピングセンター Shopping Park であり、Zábřeh 地域外に住むインタビュイーからも利用されていた（図 5-10-13）。その他、社会主義時代からあった商店街 Kotva や家の近くのスーパーなど、買い物ができる施設は複数指摘された。飲食についてはあまり外食をしないというインタビュイーも複数いたが、ビールやケーキがおいしいなど、近所でお気に入りの店を見つけているインタビュイーもみられた。また、Zábřeh 地域の外になるが、すぐ近くにあったロッククラブについて、当時地域で唯一のロッククラブとして一つのコミュニティーが出来ていたことを懐かしく語ってくれたインタビュイーもいた。

公共交通システムについては、社会主義時代からバス、トラムがあって全く同じ、との指摘がなされた他、便利である、と評価されていたが、路上駐車については不満が指摘された。

また、10~5 年程前から貧しい人のための寮が出来、問題のある住民やスリが増えた、との指摘がなされた（図 5-10-48）。具体的な場所は指摘されなかったが、Zábřeh 地域に住むインタビュイーで「貧しい人のための寮ができたことで、この地域に悪い影響を与えている。周りのアパートの値段が下がった」「理由は分からないが、2 年前位からホームレスが増えた」との意見もあった。

建物、道路全般に関しては、建物や道路が改修によってきれいになった、との指摘が複数なされた。建物については「前の灰色と比べてきれい」、「この建物（＝灰色）が醜いので壊してほしい」、との指摘もあり、灰色の建築物に対して批判的な意見が聞かれた。




1 お店
2 病院
3 小学校
4 市場
5 お店
6 池
7 遊び場
8 小学校
9 遊び場
10 お店
11 ジョギングコース
12 Bělský les（森）
13 ショッピングモール
14 お店
15 遊び場
16 幼稚園
17 自転車の障害物コース
18 ローラースケートコース
19 レストラン
20 陸上トラック
21 川沿いの道
22 病院
23 プール
24 野原
25 元幼稚園
26 レストラン
27 ギムナジウム
28 遊んでいた場所
29 小学校
30 建物が灰色のエリア
31 遊んでいた場所
32 スーパー
33 喫茶店
34 スーパー
35 ビジネスエリア
36 新築の一軒家群
37 商店街Broadway
38 商店街Špaliček
39 ボーリング場（正確な場所は不明）
40 レストラン
41 幼稚園・小学校
42 遊び場
43 スポーツセンター
44 新しくできた住宅群
45 新しくできた住宅群
46 プール
47 クラブ活動をしていた場所
48 貧しい人のための寮
49 スーパー
50 元幼稚園
51 森の中の公園
52 川沿いの道
53 コンビニ
54 商店街Odra
55 森
56 商店街Kotva
57 ディスコ
58 映画館
59 遊び場
60 サイクリングパーク
61 スーパー
62 レストラン
63 元小学校
64 元スーパー
65 遊び場
66 スーパー
67 小学校
68 病院
69 スーパー
70 商店街Venuše
71 スーパー
72 遊び場
73 幼稚園
74 小学校
75 専門学校
76 遊び場
77 元ロッククラブ
78 遊んでいた場所
79 元病院
80 サッカーグラウンド
81 道路を挟んで唯一の一軒家
82 遊び場
83 遊び場予定地
84 幼稚園
85 小学校
86 遊び場
87 元公園
88 森と野原
89 遊び場
90 遊び場
91 遊び場
92 ロマ人が増加したエリア
93 レストラン
94 幼稚園
95 スーパー
96 遊び場
97 遊び場予定地
98 川沿いの道
99 スーパー
100 住宅
101 スーパー
102 住宅エリア
103 住宅エリア
104 喫茶店
105 新しい住宅
106 スーパー
107 遊び場
108 栗の木
109 遊び場
110 幼稚園

図 5-10　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話（写真はすべて筆者撮影）

**表 5-9　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話 (1)**

Zábřeh
※1:各発言をしたインタビュイー
※2:■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊び場 | A-2 | | 9 | 子どもの頃よく行ったのは家の近くの遊び場。 |
| | B | | 15 | 家の前の遊具付き公園。子どもが自転車とかスクーターで遊ぶ。子どものための遊び場を増やしてほしい。 |
| | C | | 9,23 | 家の近くの遊具付き公園。今はプールになっているけれど、昔はサッカー場だったところ。 |
| | C | | 107 | 学校の近くに小さな丘があるが、これは建物を建てる時に掘った土でできた人工的な丘。冬はここでそりすべりをして遊んだ。 |
| | F | | 47 | 家の周りで、友達と遊んでいた。鬼ごっことか、かくれんぼ、ボール遊び、自転車、テニスの壁打ちなど。友達とはクラブ活動をしたりしていた。例えばオウムを飼ったり、卓球をしたり。 |
| | H | | 52 | Odra川の辺りに犬の散歩に行った。 |
| | H | | 58,59<br>60 | Kino Lunaの前にある遊び場は子どもに良い。最近新しくできたロープの遊具がある遊び場にも良く行く。それからBělský lesのサイクリングパーク(※地域的にはZábřeh内にある)。 |
| | I | | 65 | 建物の前に遊び場があった。今はもうない。サッカー、バレーボール、ハンドボールなどのボール遊びやゴムとび、冬は雪合戦をして遊んだ。 |
| | J | | 80,81<br>78 | 家の近くのスタジアム。近所の友達の家。この地域唯一の一軒家。元々は道路の反対側の地域と同じグループだったけど、道路ができた時にここだけ分断された。後は、学校の近くで学校の友達と遊んだ。 |
| | J | | 83,59<br>82,23 | こっちにも大きな遊び場を作るという約束があったが、結局何も作られていない。5年前から約束している。この近く(Hrabuvka)にはないので、たまにZábřehのロープ遊具のある遊び場まで行くけど、遠い。あとは、最近小さい子どものための新しい遊び場ができたけど、遠すぎる。もっと近くに作ってほしい。プールも新しく作られたけど、屋外だけ。役所は室内プールも作ると約束したけど、まだできていない。テニスコートの裏にも新しい遊び場ができたけど、テニスコートが開いている時間しか使えないし、隠れているので知らない人は見つけることができない。 |
| | K | | 90,91<br>89 | 家の周りの遊び場。友達とサッカー、ゴムとび、木登りなどをして遊んだ。それから、こっちの芝生ところで冬はそりすべり、夏はインディアンごっこをして遊んだ。自分で「カエルの山」という名前をつけた。カエルが居るわけじゃないけど、テレビの影響で。 |
| | K | | 59 | 学校の近くにロープの遊具がある遊び場がある。 |
| 自然、緑 | C | | 82 | 子どもの頃、森でも遊んでいた。森にも子どものための遊具があったし、自転車にも乗っていた。一番良いところは森の中。遊び場があって、そこで色々な楽しい思い出ができた。背の高い遊具に、だれが一番早く登れるかなどの競争をしたりして遊んでいた。 |
| | C | | 21,20 | 川沿いの道を散歩する。ここに陸上トラックがあって、ジョギングをする。 |

表 5-9　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話 (2)

Zábřeh
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| スーパー、ショッピングセンター、商店街など | A-2 | | 10,5,4,56 | 小さな買い物センターがあり、そこに行っていた。今もある。こっちには大きなお店もある。近くにある市場では新鮮な野菜などを売っている。野菜はほとんどポーランドからの輸入だけど。それから、Výškovickáの商店街Kotova。 |
| | A-1,A-2 | | 1,4 10 | 買い物は昔と同じように一番近い店に行くけど、大きな買い物はKauflandに行く。昔はこういう大きなショッピングセンターは無かった。小さいお店と市場は昔と同じ。 |
| | B | | 14 | Hruškaというスーパーに行く。 |
| | B | | 13,14 | ここにはお店、レストラン、教会がある。特別なスポーツ用品や家具などは、Shopping Parkという大きなショッピングセンターに行く。子どもはIkeaのレストランのミートボールが好き。 |
| | C | | 13 | 買い物はショッピングセンターですることが多い。小さい買い物でも、家から近いのでここに行く。 |
| | C | 変化 | 13 | ショッピングセンターは90年代にできた。中心部に行かなくても大きな買い物ができるので良い変化だと思う。 |
| | F | | 49,56 1 | 家の近くのスーパー、Hruška、KotvaのBIO食品店、Kauflandで大きな買い物。 |
| | G | | 56,53 | 買い物はKotvaの商店街。家の近くのコンビニ。 |
| | H | | 13,61 | Shopping Parkへは、大きな買い物をしに。家から歩いて行ける。日常の買い物はBilaと、Hruška。郵便局も近くにある。Hruškaはこっちにもある。 |
| | I | | 64,66 1 | 買い物は、KornaとHruška。Kornaはもうない。後はKauflandができたので、そこに買い物に行ったりしていた。Shopping Parkの中でも、Kauflandが最初にできた。大体15～18年前位。今も両親がZábřehに住んでいるので、Zábřehに行くときはショッピングパークによる。 |
| | K | | 13 | Shopping Parkはたまに行く。 |
| | L | | 13, 101 | 大きな買い物はShopping Parkで、1か月に1回くらい。日常の買い物は近所のHruška。 |
| | L | 変化 | 13 | Shopping Parkもお店が増えて大きくなった。 |
| 飲食、娯楽施設など | C | | 19 | ここにいいレストランがある。高級なレストランで、元々シャトーだった建物を改修している。自家製ビールがあって、よく飲みに行く。 |
| | F | | | レストランにはあまり行かない。 |
| | G | | | レストランには行かない。 |
| | H | | 58 | Kino Lunaのところにあるケーキ屋さんは美味しい。最近できた。 |
| | H | 変化 | | 映画館が改修されて、新しいお店も沢山出来て、より便利になった。 |
| | K | | 93 | レストランはあまり行かなかった。両親の好きなレストランはオストラヴァにはなくて、少し離れた村にあったので、誕生日の時などはそこに行った。この地域でなら、minigolf(レストラン)。 |
| | L | | 57 | 最初の4年間はずっと同じ友達と一緒に住んでいて、その友達とディスコやレストランに行った。 |
| | L | | | ディスコはちょっとうるさいけど、自分の家からは離れているのでそんなに問題ではない。ただ、朝歩いているとたまに割れたビール瓶が散らばっていたりするのは危ない。 |
| Zábřeh地域周辺の飲食、娯楽施設など | J | | 77 | この辺りで最初のロッククラブができた。Sklep（地下室）という名前で、本当に地下にあった。高校の時の同級生と一緒に行っていて、小学校の同級生と再会したりした。唯一のロッククラブだったから、みんなここに行っていた。ほとんど毎日行っていた。今はクラブは沢山あるけど、元々はここだけ。今でもこのころ知り合った人たちと付き合いがある。スケートボードをやっている人とか、壁に絵をかく人とか。一つのコミュニティーになっていて、Stodolní通り（中心部）の近くにあるもう一つのクラブにも、90年代半ばから今まで通っているので、今でも良く会う。Facebookにもコミュニティーのページがって、たまに昔の写真がアップされる。90年代の写真なので、みんなで昔の髪型を笑ったりしている。 |
| | K | | 77 | ロッククラブSklep。 |

表 5-9　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話 (3)

Zábřeh
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 公共施設（病院、幼稚園、小学校など） | A-2 | | 2 | ここにかかりつけ医がいるけど、みんな元気なのであまり行かない。 |
| | A-2 | | 3,8 | 小学校は、こことここの2つ。歩いて5分のところにある。 |
| | B | | | 幼稚園や病院は満足しているけど、遊び場については6-7歳以上の子ども向けなので、もっと小さい子ども向けの遊び場があまりないことが不満。ロープの遊具などは小さな子どもには危ない。 |
| | B | | 16,8 | ここが（子どもの）幼稚園で、こっちが小学校。 |
| | C | | 22 | かかりつけ医はここにいる。今の家を選んだのは、幼稚園や小学校、ショッピングセンターが近いから。 |
| | F | | 8,50 | 幼稚園、小・中学校は家の近く。幼稚園は今はない。 |
| | G | | | 病院などの公共施設についても全部満足。 |
| | J | 変化 | 48 | 通っていたのは外国語が学べる、オストラヴァでも一流の小学校で、他の地域からも子どもが通っていた。最初はロシア語、5年生からそれに加えて英語、6年生からロシア語の代わりにドイツ語。入学には選抜試験があった。前はとてもいいところだったけど、今は近くに貧しい人のための寮ができて、そこが出来てからは治安が悪化した。母も同じ通りに住んでいたけど、それが理由で引っ越した。今はその小学校にも貧しい家族の子どもが通うようになったので、勉強のレベルも下がって、一流ではなく、普通の小学校になった。 |
| | K | | 110,3 | 通っていた幼稚園と小学校はこことここ。 |
| | K | | 8 | 子どもの小学校はここ。 |
| スポーツ施設 | G | | | 高齢者向けの運動器具を公園においてほしい。健康維持のためのエクササイズの器具。Hrabůvkaにはあるけどzábřehにはないので、ここにも作ってほしい。 |
| 交通機関、他地域へのアクセス性 | A-2 | 変化 | | 昔と全く同じ。トラム、バスも増えたり減ったりしていない。 |
| | B | 変化 | | バス停が広くなって、ベビーカーの上り下りが便利になった。 |
| | C | | | 自分の職場のPorubaとも、主人の職場の中心部とも結構近い。特にここからは、前の家(同地域内)に比べるとより便利になった。通勤時間も短い。 |
| | F | | | 他地域へのアクセスの利便性は良い。車を使っている。 |
| | G | | | 交通には満足している。近くをバスもトラムも通っているので便利。 |
| 駐車場 | G | | | 一つ改善してほしい点は、昔はそんなことはなかったけど、今は家の前の通り(Volgogradská)に車が両側に沢山止まっている。その駐車のせいで女の子が事故で亡くなった。車の陰から出てくるのが見えなくて。駐車の問題を解決してほしい。 |
| 地域のイベント | B | | 14 | 子ども用のイベントに参加する。ミクラーシュの日など、たまに教会でのイベントに参加する。 |
| | L | | 19,5 | たまにイベントをやっている。ビールのお祭りに参加した。別のところでもイベントがあったけど、仕事があって参加できなかった。一番面白いイベントは中心部でやっているので、そっちに行く。 |

**表 5-9　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話 (4)**

Zábřeh
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 近所付き合い | A-1 | | | 学校とか、隣に住んでいる人など沢山友達がいた。 |
| | A-1 | 変化 | | 昔は同じ建物の人はみんな一つの家族のようにして住んでいたけれど、今はそうではない。以前は人づきあいはもっと温かかった。今は同じ建物でも知らない人もいる。昔は同じ建物の人たちはみんな一緒に建物の外で植物を植えたり、掃除をしたりしていたが、今はしない。 |
| | B | | | 最初の頃引っ越した頃は誰も知らなかった。子どもの遊び場や、幼稚園で知り合いができた。6家族くらい。 |
| | C | | | 最初の小学校の時（6-8歳）は、本当に近くに住んでいた子どもたちと友人だったが、二番目の小学校（外国語が学べる特別な学校、9-15歳）に行くようになってから、いろんなところから来る子と友達になった。 |
| | C | | | まだない。将来的に、子どもが生まれてから子どもを通じて付き合いができたらいいと思う。 |
| | F | | | ある。同じ建物に住んでいる人たちは、例えば子どもが生まれたときは、ほとんどの人が遊びに来て、プレゼントをくれた。隣の建物の人とも、挨拶だけじゃなくて雑談をしたりする。自分はこの地域に生まれたが、知り合いも沢山いて、都会なのに村のような人間関係がある。ほとんどの人は長く住んでいる。新しく来る人は大体賃貸。 |
| | I | | | 小学校は別だけど、同じ建物に住んでいる友達がいた。中学校・高校は料理の専門学校にいった。 |
| 空気 | C | | | 空気をきれいにしてほしい。 |
| | F | | | 昔とは比べられないけど、Porubaと比べると空気が悪い。埃が多い。特に冬は汚れがひどいので、外に出かけない方が良い。空気をきれいにしてほしい。 |
| 建物、道路全般 | B | 変化 | | 周りの建物は色が塗られて、前の灰色と比べてきれい、鮮やかになった。改修も進んだ。 |
| | C | 変化 | | 建物がきれいになった。トラム停留所からの地下通路はまだだけど、他の道路は改修されたのも良い。 |
| | C | | | トラムの停留所からの地下道があまりきれいではないので、変えてほしい。 |
| | F | 変化 | 48 | 良くなったところは、スポーツ施設や文化的な施設が増えたこと。小さな専門店も増えた。自転車のための道が増えたこと。 |
| | L | 変化 | 14,56 | 6年前と比べて、色んな建物が改修されてきれいになった。例えば、この建物は半年位前に改修された。Kotvaの商店街もきれいになった。 |
| | L | | 100 | この建物が醜いので壊してほしい。 |
| | K | 変化 | 92,48 | ロマ人の数が増えた。前は一つの建物に住んでいたけど、最近そういう建物の数が増えた。広場の建物が改修されてきれいになった。 |
| | K | | | 歩道や階段を整備してほしい。 |
| （周辺地域） | C | 変化 | (18) | ローラースケート場ができた。 |
| 治安 | F | 変化 | 48 | 元々は安全な地域だったけど、今はそんなに安全ではない。問題がある住民や、スリが増えた。家賃が払えない人のための特別な寮ができた。5年前から。Ostrava-Jih全体じゃなくて、具体的にこの地域だけ。安全面を改善してほしい。 |
| Ostrava-Jihの中で好きなところ | B | | 14 | 子どもの遊具付き公園。 |
| | C | | 21 | 川の近くの地域。もうすぐ自然保護地域になる予定。 |
| | H | | 60,52 | 一番好きなのはBělský les(※地域的にはZábřeh内)。サイクリングロードもいい。川の向こうにある池も好き。私たちはスポーツ家族なので、運動とビールが好き。映画館もいいけど、4人で行くとちょっと高い。 |
| | L | | 58 | 映画館も好き。 |
| | C | | (18) | 2年前にできたローラースケート用の特別な施設も良い。ローラースケートをよくするので。 |

表 5-9　Zábřeh 地域に関するインタビュイーの話 (5)

Zábřeh
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

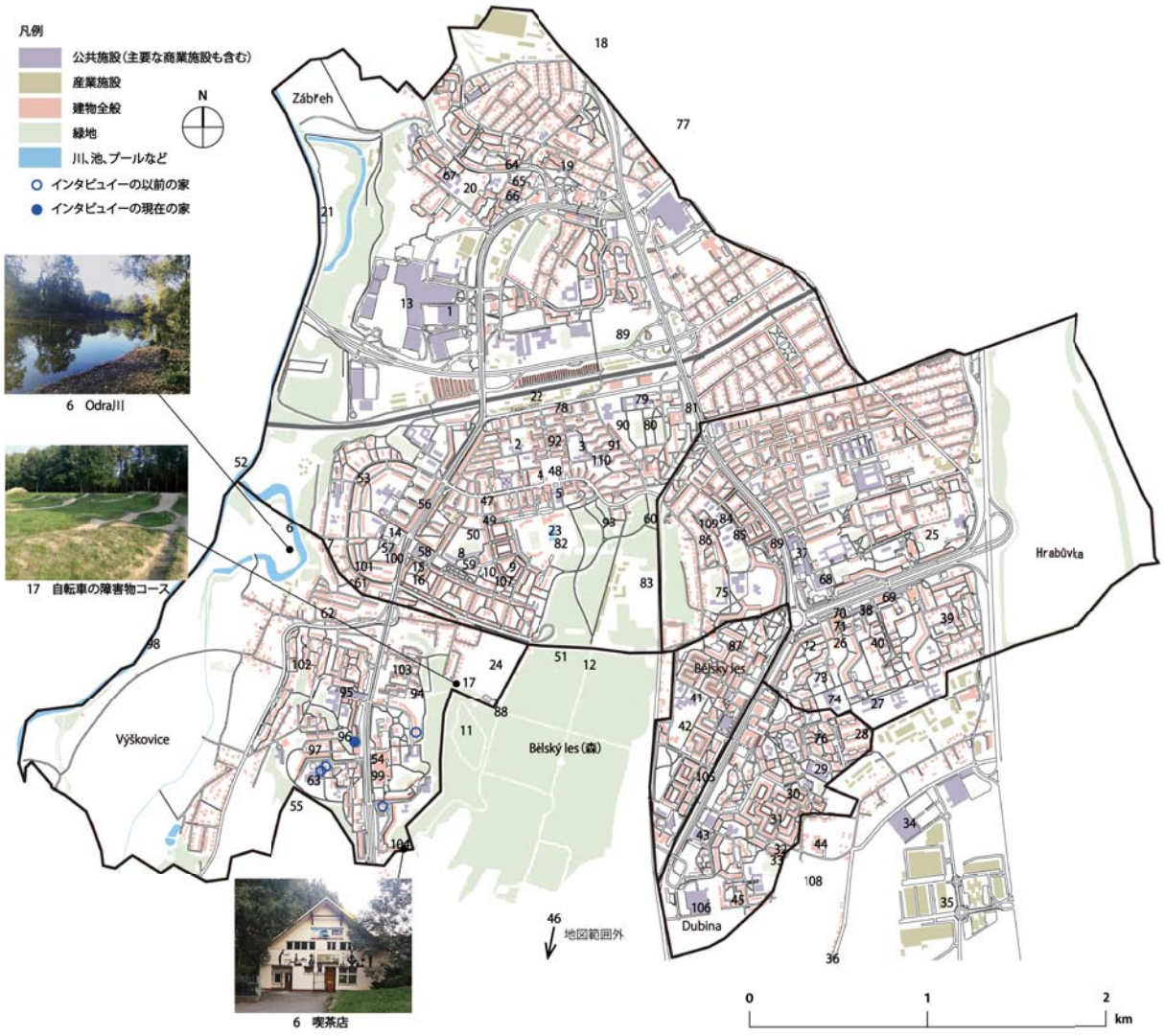
| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 居住継続の希望 | A-1, A-2 | | | 住み続けたい。 |
| | B | | | 今はここに住み続けたいが、もしかしたら将来主人の親の家をもらうかもしれない。それはどうなるか分からない。 |
| | C | | | 住み続けたい。本当は嫌だけど、主人の両親の家が離れた村があるから、年を取った時に両親の面倒を見るために将来的に引っ越さないといけないかもしれない。 |
| | F | | | 後5年間は住み続けたい。お金が貯まったら近くの村に引っ越したい。動物と自然が好きなので。 |
| | G | | | 住み続けたい。前住んでいた村に比べてとても便利。村では車がないとどこにも行けなかったので、こっちの方が便利。 |
| | H | | | まあ、住みたい。 |
| | L | | 103, 102, 35 | 低層の住宅に住みたい。高層は嫌。でも、低層は人気があるので中々見つからない。今住んでいる地域のアパートは部屋数が少ないので、他の地域がいい。ここは低層住宅が並んでいて、住むのに一番いいと思う。こっちはバス停はあるけど、トラム停留所から遠い。Porubaでも良いけど、Porubaの方が値段が高い。Dubinaには広くて安いアパートがあるけど、Dubinaは嫌。Dubinaに比べるとこっちの方が学校も良いし、Dubinaには犯罪のイメージがある。新しくできたきれいなアパートもあるけど、そっちはすごく高い。この地域なら4つの部屋で70万コルナくらいのアパートがあるので、そういうのが見つかれば買う。仕事にはトラムで行くので、トラムの停車場の近さも大事。彼氏は車を持っているけど、職場は別々だし自分は持っていないのでもう一台車が欲しい。今は働いているけど、もっとお金を稼ぎたいので、別の仕事があるなら別の都市に引っ越してもいいけど、今はこれで満足している。自分の職場のMariánské Horyまではトラムで30分で行ける。 |
| Ostrava-Jih内の地域差 | C | | | Zábřeh内の2か所の家に住んでみての比較として、家そのものは、昔は狭くて弟と一つの部屋をシェアしていたけど、今は広くなって、子どもが二人いても別々の部屋で過ごせる。洗面所が広い。前の家の方が、トラムの停留所やバス停から遠かったので、周りに自然が多かった。今の家はトラムやバスの停留所から近いので音はうるさいけど、夜は安全な気がする。前の家は停留所から遠くて、暗いところも通っていたので、歩くとちょっと危ないと感じた。住んでいる人の世代的な違いなどの地域差は特に感じない。 |

#### ５．４．２．２　Výškovice 地域

Výškovice 地域において指摘された箇所を、図 5-11 と表 5-10 に示す。

Výškovice では、住宅地の西に位置する Odra 川とその周辺の緑地について、複数のインタビュイーがサイクリングや散歩などのレクリエーションを行う場所として利用すると述べた他、家から近くアクセス性が良いことが指摘された。Ostrava-Jih 地区の中で好きな場所として挙げるインタビュイーも複数いた（図 5-11-6）。子どものころの思い出でも、Odra 川で冬にスケートをした、父親と自転車で行ったなどの発言があり、子どもの遊び場としても利用されている様である。その一方で、家の前の遊び場については社会主義時代の古い遊具があり使えるが、他の遊び場所を作る予定が実現していないという話もあり、遊具については現在整備が間に合っていない可能性がある。

商店街 Odra は現在建て替え中で利用できないが、社会主義時代からあり、引っ越し当時は何でもあってとても便利だった、との声が聞かれた（図 5-11-54）。また、商店街の他にも、ビールのおいしいレストランや、学生のたまり場となっている独特の東洋的な雰囲気をもつ喫茶店（チェコ語で čajovna）などが、よく利用する / した商業施設として指摘された（図 5-11-104）。




1 お店
2 病院
3 小学校
4 市場
5 お店
6 池
7 遊び場
8 小学校
9 遊び場
10 お店
11 ジョギングコース
12 Bělský les（森）
13 ショッピングモール
14 お店
15 遊び場
16 幼稚園
17 自転車の障害物コース
18 ローラースケートコース
19 レストラン
20 陸上トラック
21 川沿いの道
22 病院
23 プール
24 野原
25 元幼稚園
26 レストラン
27 ギムナジウム
28 遊んでいた場所
29 小学校
30 建物が灰色のエリア
31 遊んでいた場所
32 スーパー
33 喫茶店
34 スーパー
35 ビジネスエリア
36 新築の一軒家群
37 商店街Broadway
38 商店街Špalíček
39 ボーリング場（正確な場所は不明）
40 レストラン
41 幼稚園・小学校
42 遊び場
43 スポーツセンター
44 新しくできた住宅群
45 新しくできた住宅群
46 プール
47 クラブ活動をしていた場所
48 貧しい人のための寮
49 スーパー
50 元幼稚園
51 森の中の公園
52 川沿いの道
53 コンビニ
54 商店街Odra
55 森
56 商店街Kotva
57 ディスコ
58 映画館
59 遊び場
60 サイクリングパーク
61 スーパー
62 レストラン
63 元小学校
64 元スーパー
65 遊び場
66 スーパー
67 小学校
68 病院
69 スーパー
70 商店街Venuše
71 スーパー
72 遊び場
73 幼稚園
74 小学校
75 専門学校
76 遊び場
77 元ロッククラブ
78 遊んでいた場所
79 元病院
80 サッカーグラウンド
81 道路を挟んで唯一の一軒家
82 遊び場
83 遊び場予定地
84 幼稚園
85 小学校
86 遊び場
87 元公園
88 森と野原
89 遊び場
90 遊び場
91 遊び場
92 ロマ人が増加したエリア
93 レストラン
94 幼稚園
95 スーパー
96 遊び場
97 遊び場予定地
98 川沿いの道
99 スーパー
100 住宅
101 スーパー
102 住宅エリア
103 住宅エリア
104 喫茶店
105 新しい住宅
106 スーパー
107 遊び場
108 栗の木
109 遊び場
110 幼稚園

図 5-11　Výškovice 地域に関するインタビュイーの話（写真はすべて筆者撮影）

**表 5-10　Výškovice 地域に関するインタビュイーの話**

Výškovice
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| Ostrava-Jihに引っ越してきた頃の、地域に対する印象 | G | | 54 | その時は、とても心地よくて便利なところだった。Odraという商店街に美容院やレストラン、郵便局など何でもあったのでとても便利だった。文化センターもあった。今年なくなった。新しいショッピングセンターを建てる予定はあるけど、今はちょうど何もない。 |
| 自宅 | K | | | 建物の一部は個人所有、残りは協同組合所有なので、住んでいる人が2つのグループに分かれていて、改修の時に別々の会社を希望したので、結局別々に改修した。今は断熱の改修がしたいと思っているけど、意見がまとまっていないのでできない。 |
| 子どもの遊び場 | C | | 24,6 | ここで、秋には家族と凧上げをした。冬には、凍った川でスケートをした。 |
| | F | | 6 | 川のところに、お父さんと自転車で行った。 |
| | K | | 96,97 | 子どもが、家の前で遊ぶ。砂場と、社会主義時代のちょっと古い遊具がまだあって、使える。他の場所で新しい遊具を作るという予定があるけど、まだ実現していない。新しく作る予定の遊び場を作ってほしい。 |
| 自然、緑 | A-1 | 変化 | | 森は今と比べてきれいに手入れされていなかった。今は手入れされて公園みたいになっているが、昔は本当に森、という感じだった。 |
| | A-1 | | 6 | 家から歩いて10分で川と森へ行けた。 |
| | A-2 | | 6 | 子どもの頃よく行ったのは森。 |
| | G | | 6 | 池の近く、川沿いで自転車に乗っている。 |
| | K | | 98 | 自転車で川の近くを走る。 |
| | L | | 6 | 彼氏と付き合い始めてからは、一緒に散歩したり、自転車に乗ったりしている。 |
| | G | | 52 | Odra川の近くに行く。 |
| | G | | (55) | 近くの森に行く。 |
| スーパー、ショッピングセンター、商店街など | K | | 95,99 | 日常の買い物はAlbert、Hruška。アクセス性などについては、まあ満足。 |
| 飲食、娯楽施設など | C | | 104 | Porubaの近くで喫茶店(チェコ語でčajovnaと呼ばれる、独特な東洋的な雰囲気のお店。アジアのお茶や食事、水タバコなどが出される。中高生が良く行く)などに行っていた。Ostrava-Jihにもあって、とても人気。今は前と少し変わったけど、でも良いところ。 |
| | F | | 104 | 大学生の頃は、ここのčajovnaなどに行っていた。 |
| | H | | 62 | このレストランは、ビールを飲みに。夫がここのシュニッツェルが好き。 |
| 公共施設（病院、幼稚園、小学校など） | H | | 63 | 小学校は家の近く。 |
| | K | | 94 | 子どもの幼稚園はこっち。 |
| 空気 | K | | | 空気をきれいにしてほしい。 |
| 建物、道路全般 | L | 変化 | 54 | 前に住んでいたVýškoviceの、社会主義時代の店やレストランがあったOdraの建物が今取り壊されているのも、代わりにもっときれいな新しいものを建てる予定があるので、良いことだと思う。 |
| Ostrava-Jihの中で好きなところ | A-1 | | 6 | 川の近くにサイクリングコースがあって、散歩に良い場所。 |
| | A-2 | | 62 | それからホスポダ（居酒屋）。ビールが美味しい。ずっと昔から行っている。 |
| | B | | 17 | 自転車のための障害物コース。 |
| | K | | | 自然の近さ。森や川があって、山にもすぐ行ける。 |
| | L | | 6 | 元々Beskybyの山の近くで生まれたので、自然に親しんでいる。遠くの町に自転車で出かけることもあるけど、Ostrava-Jihの中では川とBělský les。 |
| 居住継続の希望 | K | | | 今は住み続けたいけど、将来は一軒家か、もっと広いアパートが欲しい。それはOstrava-Jihでも良いし、村でもいい。村だと庭があるので良いが、別になくてもいい。 |

#### ５．４．２．３　Hrabůvka 地域

Hrabůvka 地域において指摘された箇所を、図 5-12 と表 5-11 に示す。

Hrabůvka に住むインタビュイーの 1 人から、公園の砂場とサッカーゴールを同じ建物の居住者同士で協力して手作りした、という話が聞かれた。古い金属の遊具を撤去した後、遊具が無くなったため、自分たちで作ったという。この公園は子どもたちの遊び場としてにぎわっており、近所付き合いが非常に強いという話があった（図 5-12-109）。また、このインタビュイーは、家の近くにはないので、時々 Zábřeh のロープの遊具がある遊び場まで行くけれど遠いので、もっと近くに作ってほしいとも語り、他に子供の遊び場について語ったインタビュイーは、子どもと遊ぶのは、家の近くの砂場、と指摘していることから、Hrabůvka 地域の公園の遊具整備は、あまり行われていない可能性が考えられる。

また、Hrabůvka には商店街 Broadway をはじめとしてレストランやディスコ、カジノなどといった商業施設が多く集まっていることが指摘されたが、それらの施設に対して多すぎる、安全な気がしないなどの発言もみられた（図 5-12-37）。病院、幼稚園、小学校など公共施設については家からすぐ近くにあり、便利であるとの指摘があった。

1 お店
2 病院
3 小学校
4 市場
5 お店
6 池
7 遊び場
8 小学校
9 遊び場
10 お店
11 ジョギングコース
12 Bělský les（森）
13 ショッピングモール
14 お店
15 遊び場
16 幼稚園
17 自転車の障害物コース
18 ローラースケートコース
19 レストラン
20 陸上トラック
21 川沿いの道
22 病院
23 プール
24 野原
25 元幼稚園
26 レストラン
27 ギムナジウム
28 遊んでいた場所
29 小学校
30 建物が灰色のエリア
31 遊んでいた場所
32 スーパー
33 喫茶店
34 スーパー
35 ビジネスエリア
36 新築の一軒家群
37 商店街Broadway
38 商店街Špalíček
39 ボーリング場（正確な場所は不明）
40 レストラン
41 幼稚園・小学校
42 遊び場
43 スポーツセンター
44 新しくできた住宅群
45 新しくできた住宅群
46 プール
47 クラブ活動をしていた場所
48 貧しい人のための寮
49 スーパー
50 元幼稚園
51 森の中の公園
52 川沿いの道
53 コンビニ
54 商店街Odra
55 森
56 商店街Kotva
57 ディスコ
58 映画館
59 遊び場
60 サイクリングパーク
61 スーパー
62 レストラン
63 元小学校
64 元スーパー
65 遊び場
66 スーパー
67 小学校
68 病院
69 スーパー
70 商店街Venuše
71 スーパー
72 遊び場
73 幼稚園
74 小学校
75 専門学校
76 遊び場
77 元ロッククラブ
78 遊んでいた場所
79 元病院
80 サッカーグラウンド
81 道路を挟んで唯一の一軒家
82 遊び場
83 遊び場予定地
84 幼稚園
85 小学校
86 遊び場
87 元公園
88 森と野原
89 遊び場
90 遊び場
91 遊び場
92 ロマ人が増加したエリア
93 レストラン
94 幼稚園
95 スーパー
96 遊び場
97 遊び場予定地
98 川沿いの道
99 スーパー
100 住宅
101 スーパー
102 住宅エリア
103 住宅エリア
104 喫茶店
105 新しい住宅
106 スーパー
107 遊び場
108 栗の木
109 遊び場
110 幼稚園

**図 5-12　Hrabůvka 地域に関するインタビュイーの話（写真はすべて筆者撮影）**

**表 5-11　Hrabůvka 地域に関するインタビュイーの話 (1)**

Hrabůvka
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊び場 | I | | 72 | 子どもと遊ぶのは、家の近くの砂場。 |
| | J | | 109, 84,85 | 息子は6歳。この建物には沢山子どもがいる。この近くには遊び場がなくて、砂場もなかった。役所の人が来て公園が欲しいか聞かれたので、「小さな子どもが沢山いるので砂場が欲しい」といったけど、結局何もできなかった。それで、住んでいるお父さんたちが集まって自分たちで作った。なぜ自分たちで作らないといけなかったのか、という不満がある。役所が最低限してくれるのは、毎年砂を交換してくれることだけ。砂場自体は自分たちで作った。後で子どもたちが大きくなってから、サッカーのゴールも作った。役所は古い金属の遊具を撤去した後、新しい遊具を作ってくれなかった。近くに他の遊び場がないので、近所の子どもはこの砂場かサッカーゴールを使って遊ぶ。天気のいい日は40人くらいいる。子どもを家から見守れるのと、車が来ないのは良いけど、40人いるとうるさいこともある。子どもが通っている幼稚園と小学校。幼稚園にはちょっとした遊具があるけど、小学校には何もない。この地域には幼稚園、小学校が沢山あるのに、遊具付き公園がないのが不思議。あとは、Belsky lesに最近小さい子どものための新しい遊び場ができたけど、遠すぎる。もっと近くに作ってほしい。 |
| | J | | 109 | （自分たちで作った遊具について、役所に許可を取るなどの手続きは）何もしていない。ただ、建物のみんなで決めて、お金を集めて作った。元々は今より大きく作っていたけど、木が朽ちてきて、役所が修理してくれたけど、少し小さくなった。 |
| 自然、緑 | I | 変化 | | 緑が増えている。 |
| | J | 変化 | 12 | 良くなったところは、緑が増えていること。 |
| スーパー、ショッピングセンター、商店街など | I | | 71,69 | 日常の買い物は家の近くのHruškaと、Albert。 |
| | J | 変化 | 37 | 商店街Broadwayも、以前は買い物に良い場所だったけど、今は問題のある人が集まっていてうるさいし、安全な気がしない。 |
| 飲食、娯楽施設など | D | | 26 | ギムナジウムの高学年になると友達とレストランで喋ったりしていた。 |
| | E-1 | | 40,26 | La VIDAというレストラン。それからŠkolka。 |
| | E-2 | | 38,37 39 | 学生の頃、Špalíčekの商店街にも行った。ここには小さいお店が沢山ある。例えばペットショップとか。あとBroadway。ここにも小さなお店やレストランがある。このあたりでボーリングをしたり。今は会社の人と別の場所にボーリングに行く。 |
| | I | | 70 | Venušeのレストラン。結婚後によく行く。 |
| | I | | 37 | Broadway商店街。レストランやディスコがある。大体この地域にいた。同級生は中心部のStodolní通り（バーや居酒屋が集まっている通り。チェコでは有名な観光地だが、たまにそこで暴力的な事件などがある）に出かけていたが、自分は怖かったのでここが良かった。 |
| | I | | | 家の周りに居酒屋とカジノが多すぎるので減らしてほしい。 |
| | K | | 70 | Venušeの居酒屋。 |
| | L | | 38 | 最初の頃は、ディスコ。半年間、週末にディスコでアルバイトをしていた。 |
| 公共施設（病院、幼稚園、小学校など） | D | | 25,27 | 幼稚園はHrabůvkaにあったけど、今はピザ屋になって、もうない。通っていたギムナジウムはここ。 |
| | E-2 | | 27 | 中高がギムナジウム。 |
| | I | | 68,73 74 | 病院、幼稚園、小学校が家のすぐ近くで、それはとても便利。 |
| | J | 変化 | | 自分の息子（1年生）が通っている小学校にロマ人の子どもが多くて、彼らはあまり勉強しないので、全体のレベルが下がった。 |
| | K | | 27 | 通っていたギムナジウムはここ。 |
| 地域のイベント | I | | 70 | Venušeの一部でいろんなイベントがある。例えば子どものためのイベント。幼稚園や小学校のイベントがあったら参加する。ミクラーシュの日のお祝いなど。Ostrava-Jihじゃないけど、Ostravaの動物園にいったりもする。 |

表 5-11　Hrabůvka 地域に関するインタビュイーの話 (2)

Hrabůvka
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 近所付き合い | I | | | 前の小学校や高校の時の友達はみんな引っ越して会うことは出来ないけど、Facebookで連絡を取り合っている。近所付き合いはあまりない。 |
| Ostrava-Jihの中で好きなところ | E-1 | | 26,40 | レストランが好き。 |
| | J | | 109 | 家の前の遊び場。子どもたちの両親が外のベンチで出会っていろんな話をしたり、子どもの誕生日のお祝いでグリルで肉を焼いたり。近所付き合いが強い。 |
| 居住継続の希望 | E-2 | | | 村か小さな町に引っ越したい。オストラヴァの近くの村がいい。 |
| | I | | | はい。便利だし、トラムでどこにでも行けるので満足。病院、お店も近いし。 |
| | J | | | 下の子どもが小学校に上がる前（5年以内）に一軒家に引っ越したい。夫はもっと山の方に住みたがっているけど、自分はもっとOstravaの近くの郊外に一軒家が欲しい。義理の妹は、以前Venušeに住んでいて、すごく地域が大好きで引っ越ししたくないとずっと言っていた。でも結婚して子どもが生まれてから郊外の小さな町に引っ越して、そこで村みたいな生活を始めてから、もうここには戻りたくないといっている。あんなに好きだったのに。ただ、自分は町のバスが通っていない（バスはあるけど、町のバスではない）のは不便で嫌なので、町のバスが通っているところがいい。 |

#### ５．４．２．４　Dubina+Bělský les 地域 (11)

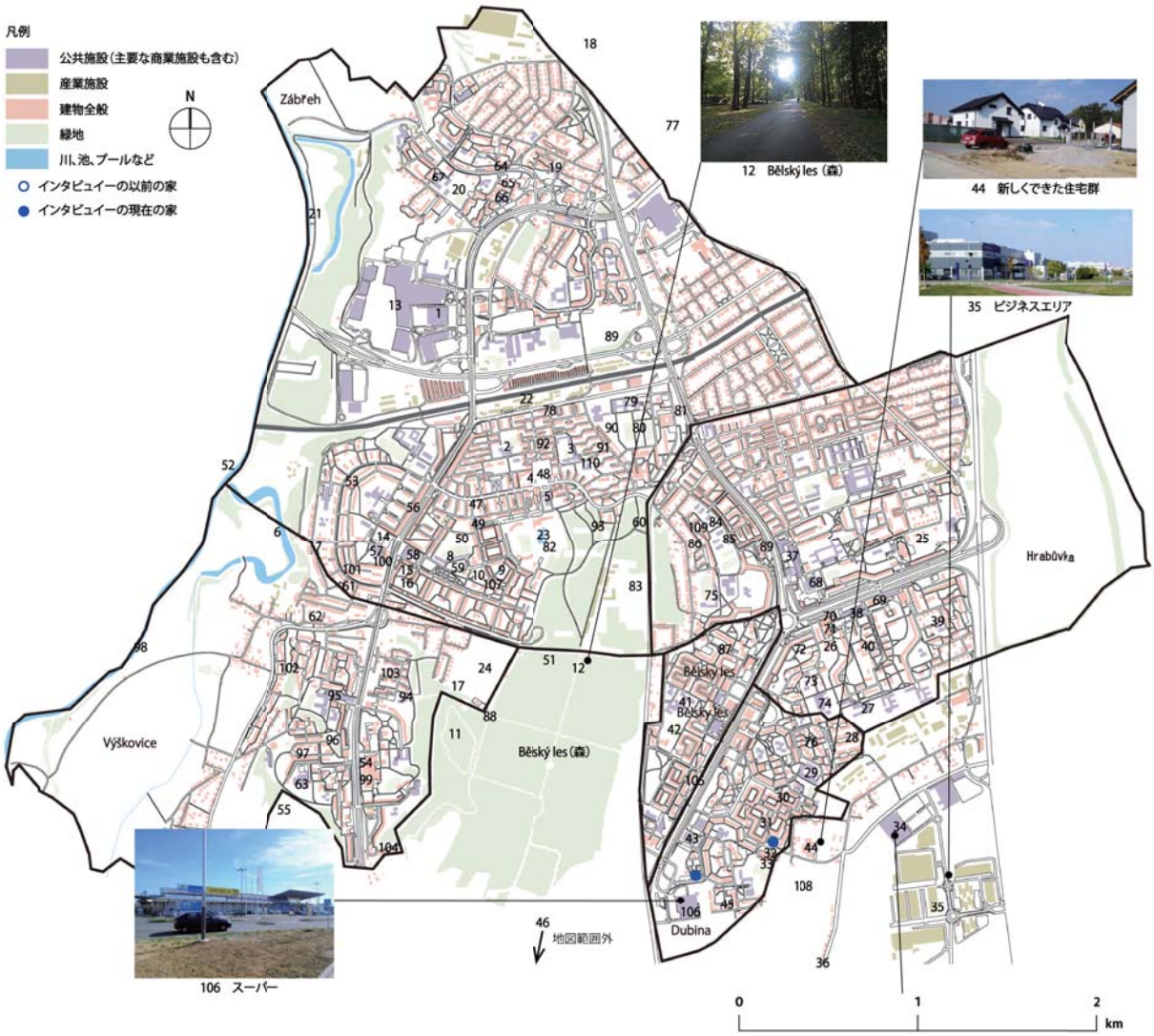
Dubina+Bělský les 地域において指摘された箇所を、図 5-13 と表 5-12 に示す。

Dubina 地域の子どもの遊び場については、昔はちゃんとした遊び場はなかった、との意見が複数のインタビュイーから聞かれたが、今は増えた、との意見もあった。

Dubina とその周辺地域においては、新しい住宅や工業地域が出来たとの指摘がなされており（図 5-13-35、44）、2000 年前後にスーパーマーケット Intersuper や Tesco が建設されたとの指摘もある（図 5-13-34、106）。カフェやレストランも話題に上がったが、映画館や劇場などの文化施設がないことを指摘するインタビュイーもいた。

Bělský les の森は、Ostrava-Jih の中の好きな場所として、複数のインタビュイーから指摘された。ジョギングやキノコ狩り、犬の散歩など日々のレクリエーションのために利用されていた他、森の中にはレストランやクロスカントリーのコース、ジョギングコースなどがあり、昔と比べると整備されているとのことから、全くの自然ではなく、人工的な整備がなされていることが伺える（図 5-13-12）。

(11) ここでの Bělský les は、地域名としての Bělský les と森の名前としての Bělský les を合わせたものとする。




1 お店
2 病院
3 小学校
4 市場
5 お店
6 池
7 遊び場
8 小学校
9 遊び場
10 お店
11 ジョギングコース
12 Bělský les（森）
13 ショッピングモール
14 お店
15 遊び場
16 幼稚園
17 自転車の障害物コース
18 ローラースケートコース
19 レストラン
20 陸上トラック
21 川沿いの道
22 病院
23 プール
24 野原
25 元幼稚園
26 レストラン
27 ギムナジウム
28 遊んでいた場所
29 小学校
30 建物が灰色のエリア
31 遊んでいた場所
32 スーパー
33 喫茶店
34 スーパー
35 ビジネスエリア
36 新築の一軒家群
37 商店街Broadway
38 商店街Špalíček
39 ボーリング場（正確な場所は不明）
40 レストラン
41 幼稚園・小学校
42 遊び場
43 スポーツセンター
44 新しくできた住宅群
45 新しくできた住宅群
46 プール
47 クラブ活動をしていた場所
48 貧しい人のための寮
49 スーパー
50 元幼稚園
51 森の中の公園
52 川沿いの道
53 コンビニ
54 商店街Odra
55 森
56 商店街Kotva
57 ディスコ
58 映画館
59 遊び場
60 サイクリングパーク
61 スーパー
62 レストラン
63 元小学校
64 元スーパー
65 遊び場
66 スーパー
67 小学校
68 病院
69 スーパー
70 商店街Venuše
71 スーパー
72 遊び場
73 幼稚園
74 小学校
75 専門学校
76 遊び場
77 元ロッククラブ
78 遊んでいた場所
79 元病院
80 サッカーグラウンド
81 道路を挟んで唯一の一軒家
82 遊び場
83 遊び場予定地
84 幼稚園
85 小学校
86 遊び場
87 元公園
88 森と野原
89 遊び場
90 遊び場
91 遊び場
92 ロマ人が増加したエリア
93 レストラン
94 幼稚園
95 スーパー
96 遊び場
97 遊び場予定地
98 川沿いの道
99 スーパー
100 住宅
101 スーパー
102 住宅エリア
103 住宅エリア
104 喫茶店
105 新しい住宅
106 スーパー
107 遊び場
108 栗の木
109 遊び場
110 幼稚園

**図 5-13　Dubina+Bělský les 地域に関するインタビュイーの話（写真はすべて筆者撮影）**

**表 5-12　Dubina+Bělský les 地域に関するインタビュイーの話 (1)**

Dubina
※1:各発言をしたインタビュイー
※2:■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊び場 | D | | 29,31 | ちゃんとした遊び場はなかったけど、ちょっとした砂場はあった。休日は、良い天気の時は、この辺じゃなくて、おばあさんの持っている庭に家族で出かけた。ギムナジウムの低学年の頃はこの辺の遊具で遊んだ。 |
| | D | 変化 | | 昔と比べて今の方が、遊び場が増えた。インディアン公園(特別な遊具がある)とか。社会主義時代にはなかった。 |
| | E-1 | | | 子どものための遊び場は何もなかった。 |
| | I | | 76 | 子どもと遊ぶのは、学校の近くのインディアン風公園。 |
| 自然、緑 | D | | | 緑をもっと増やしてほしい。 |
| | E-1 | 変化 | | 緑が増えた。公園はないけど、建物の周りの木が増えた。 |
| | E-2 | | (108) | ここに昔栗の木があって、子供の頃栗を拾いに行った。今はあるか分からない。多分減ったけどまだあるのでは。 |
| スーパー、ショッピングセンター、商店街など | D | | (34) | 家から歩いて10分くらいでTescoもある。2000年頃出来たと思う。 |
| | I | | (34) | 大きな買い物の殆どはTescoに行く。 |
| | D | | 32, 106 | 家の近くのHruškaというスーパーが一番古くて、多分90年代初め頃にできた。トラムの終点にはIntersuperがある。2000年頃出来たと思う。 |
| 飲食、娯楽施設など | D | | 33 | 友達とレストランに行く。近くにあるフランス風喫茶店Provenceにはよく通う。 |
| | E-2 | | 33 | カフェProvence。3年前に出来た。 |
| | E-1, E-2 | | | 映画館や劇場などの文化施設がDubinaにはないので、欲しい。居酒屋しかない。 |
| 公共施設(病院、幼稚園、小学校など) | D | | 29 | 通っていた小学校はここ。 |
| 近所付き合い | D | | | 小学校の頃は同じ建物に友達がいた。子どもの頃に比べるとあまりない。友達は色んなところに引っ越して減った。 |
| | E-1 | | | 同じくらいの時期に引っ越してきた人は良く知っていて、ずっと前から近所づきあいがある。後から引っ越してきた人については良く知らない。特に同じ階に住んでいる人は良く知っている。ずっと住んでいる人は3分の1くらい。3分の2の人は新しく来た人で、賃貸で住んでいる。 |
| 建物、道路全般 | D | | 30 | この辺の地域は建物に色が塗られて鮮やかになったけど、この辺りはまだ灰色なので、色を塗ってほしい。 |
| | E-1 | 変化 | | Dubinaの変化は、新しい建物が増えた。住宅と、スポーツセンター。スポーツセンターは10年前に出来たけど、行ったことはない。私たちはプールが好きだけど、プールがないから。 |
| | D | 変化 | (35), (36), (34) | この工業地域は新しく出来た。昔は野原だった。ここの通りの一軒家も新しくできた。個人的には緑が少なくなって残念。客観的に言えば、雇用機会が増えるのはいいことだけど、自分は別にそこで働いていないので。テスコは良い。 |
| Ostrava-Jihの中で好きなところ | D | | | 自分の家が一番。他の地域と比べると周りに緑が少ないことは不満。 |
| 居住継続の希望 | E-1 | | | 多分Dubinaに住み続けるけど、もし宝くじに当たったとしたら自分の一軒家がほしい。自分が生まれたPorubaの近くにある、自然が多いところに引っ越したい。 |

**表 5-12　Dubina+Bělský les 地域に関するインタビュイーの話 (2)**

Bělský les
※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊び場 | E-1 | | 12 | 森の中の遊具があるところ。冬はそり遊び。オストラヴァじゃないけどPolankaという地域。川沿いに馬が沢山いて、牧場がある。それからProskoviceの自然保護区。遠くまで遊びに行くことが多かった。Dubinaには自然がなかった。 |
| | E-2 | | 42 | 小学校の近くの遊び場。子どもの頃は他の子とよく喧嘩をしていた。 |
| | F | | 51 | 森の公園におばあちゃんと行った。 |
| | H | | 55 | 森に犬の散歩に行った。森で友達と遊んだりもした。木の枝で小さな家を作ったり、犬の散歩を一緒にしたり、自転車に乗ったり、ローラースケートをしたり。 |
| | J | | 88 | 5歳の時両親が離婚して、父と一緒に住んでいた。父は後でDubinaに引っ越した。親戚のところに遊びに行くくらいで、家族で出かけることはあまりなかった。高校は女子高。その時はショッピングパークなどもなかったので、家族で出かけるより友達といることが多かった。天気のいい時には森に出かけた。ここにあるレストランKolibaがあって、ここの近くを散歩していた。あとは友達の家、Poruba。 |
| 自然、緑 | F | | 12 | 高校時代、犬を飼っていたので、Bělský lesで犬の散歩をした。仕事を始めてからも、友達と山に行ったり、自転車に乗ったり、犬の散歩をしたり。 |
| | G | | 12 | Bělský lesの森に行く。冬はスキー、夏は自転車。Bělský lesの中にクロスカントリーのコースがある。最近は地球温暖化で雪が降らないからスキーは出来ない。 |
| | J | 変化 | 12 | Bělský lesも前と比べると整備されてきれい。 |
| | K | | 11 | 森でジョギングをする。森の中にもっと照明をつけてほしい。夜でもジョギングできるように。森の北東部分の道にはあるけど、こっちにはまだない。 |
| | L | | 12 | 最初の頃は、森でジョギング。彼氏と付き合い始めてからは、一緒に運動したり、散歩したりしている。 |
| 飲食、娯楽施設など | H | | 60 | Bělský lesのサイクリングパーク。 |
| 公共施設（病院、幼稚園、小学校など） | E-2 | | 41 | 幼稚園と小学校は同じところ。 |
| Ostrava-Jihの中で好きなところ | A-1 | | 12 | Bělský lesが一番好き。好きな池もあるけどそれはOstravaではない。ここでリラックスもできるし、スポーツもできる。秋には森にキノコ狩りに行く。今もちょうどその季節。 |
| | A-2 | | 11 | 好きな場所は、Bělský lesのジョギングコース。 |
| | E-1 | | 12 | Bělský lesが好き。 |
| | F | | 51 | 森が近いのがいい。 |
| | I | | 12 | Bělský les。子どもと一緒にリラックスするのが好き。森も前と比べると手入れがされてきれいになった。子どもは葉っぱや松ぼっくりを拾うのが好き。 |
| | L | | 12 | 元々Beskybyの山の近くで生まれたので、自然に親しんでいる。遠くの町に自転車で出かけることもあるけど、Ostrava-Jihの中では川とBělský les。 |

### ５．４．２．５　オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区

オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区、地区内の複数地域に関するインタビュイーの話を表 5-13 に示す。オストラヴァ市は社会主義時代に発展した工業都市であり、インタビューの中で工業都市であることに関連する地域の捉え方が見られるのではないかと考えられたが、炭鉱や黒い、というイメージを抱いていたインタビュイーもいた一方で、工業都市であることについては特に言及しなかったインタビュイーもいた。また、空気の悪さが複数のインタビュイーから指摘された一方で、オストラヴァ市内において自然が多い地域であるとの指摘もあった。更に、Ostrava-Jih 地区以外で出かける場所として Beskyby 山や Poruba が指摘されたこと、市中心部の求心力の低下が指摘されたことなどから、工業都市オストラヴァ市内の一地区としての Ostrava-Jih 地区、という枠組みに限らず、各インタビュイーの生活圏に応じて、Ostrava-Jih 地区内、Ostrava-Jih 地区と周辺の村や山、Ostrava-Jih 地区と Poruba など、自身の属する地域の捉え方も異なっていると考えられる。

**表 5-13　オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区、地区内の複数地域に関するインタビュイーの話 (1)**

※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | 地域 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活全般について | 全体 | A-2 | 変化 | | 一般的に言えば、自由のレベルが増えた。表現の自由、思想の自由、海外旅行もできるようになった。個人的に一番強い印象は、洗濯機が自動じゃなくて、4人兄弟で洗濯するのがとても辛かったけど、今は全部自動で楽になった。そういう技術の進歩。 |
| | | A-1 | 変化 | | 自由が一番大きい。自分の子どもを、社会主義時代には育てたくないし、想像もできない。自分の意見が言えないのが想像できない。個人的には、社会主義時代に親戚がアメリカに引っ越したせいで、その罰として大学に行けなかった。もちろんお店の商品が増えたこともあるけど、それよりも自由が一番大事だと思っている。 |
| スーパー、ショッピングセンター、商店街など | 全体 | A-2 | 変化 | | お店の印象は、今と昔で全然違う。比べることもできない。昔は肉は木曜日だけ、一部の果物や野菜はクリスマスしかなかった。たまにはあったけど、そんなときは行列ができてみんな並んでいた。パンとかは毎日買うことができたけど、珍しいものはそうではなかった。チーズやヨーグルトは種類が1つしかなかった。洋服もあまりなくて、大体みんな家で作った。特に子ども服は。 |
| Ostrava-Jihに引っ越してきた頃の、地域に対する印象 | Ostrava-Jih全体 | B | | | 生まれた場所がとても小さな村で、40人の人しかいなかったので、とても大きな都会、という印象。トラムや沢山の人が怖くて、圧倒された印象があった。引っ越す前のイメージは特になかった。生活に関しては、すごく楽になった。村には店もなかったが、ここには店がちゃんとあるし、交通も便利。生活の質が上がった。 |
| | | E-1 | | | 引っ越す前の印象はひどかった。生まれてから40歳までずっとPorubaに住んでいたので、別のところに住むのはどんなところでも嫌だった。一カ月の間、トラムの中で泣いていた。今はもう慣れた。引っ越し後も、やっぱり嫌だった。Porubaと比べて、その時はまだ店もなかった。1991年時点ではHruškaが唯一のスーパーだった。靴などの買い物はHrabůvkaまで買いに行かなければならなかった。今はもうDubinaに全部ある。 |
| | | H | | | その時は子どもだったけど、プラハから引っ越して来て、黒いオストラヴァという固定観念があって、あんまりいいイメージはなかった。汚い、黒い、というイメージ。今でもそういう固定観念がある。引っ越してから、印象は結構変わった。実はいいところだった。自然環境よりも人間環境の方が大事だと思っていたので、友達がすぐできたのが良かった。子どもの頃は自然環境には興味がなくて、友達ができたことがうれしかった。友達は同じ建物の、同じ階の子。 |
| | | J | | | 子どもの頃だからあまり判断できないかもしれないけど、お店、病院など何でも近くて便利で、地域に問題もなくて満足していた。同じ建物（18階建）の17階に住んでいた友人は高層なのが嫌だと言っていたけど、自分の住戸は6階だったので大丈夫だった。友達の家に遊びに行ったときは、ちょっと高すぎると思った。車はなかったけど、トラムやバスが便利だった。母はVítkoviceで働いていたけど、家の近くのバス停からバスで10分で行けたので、とても便利だった。中心部にある高校に行くのにも便利だった。高校は途中からビジネスが学べる高校に変わった。 |
| | | L | | | 印象はそんなに考えたことはない。大学生の時は他の人と一緒に部屋を借りていて、ここの家賃が安かったのでここにした。中心部の方は2倍くらい高かった。まちの雰囲気などは気にしなかった。 |

表 5-13　オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区、地区内の 2 地域に関するインタビュイーの話 (2)

※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | 地域 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊び場 | Výškovice →Zábřeh | H | | | 高齢者向けでも子ども向けでも、もっと運動施設が増えたらいいと思う。子ども向けの遊び場は、社会主義時代には結構あって、金属でできていた。それが今は壊されて、昔と比べて今は子どもも多くないので新しい遊具が作られていない。今子どもの遊び場があまりないので、元々の遊具の代わりに新しいものを作ってほしい。ベンチと、犬の糞を処分するためのゴミ箱も足りない。 |
| | Hrabůvka→ Zábřeh | I | 変化 | | 子どもの遊び場も増えているけど、それはHrabůvkaの方だけ。Zábřehの方はあまり増えていない。 |
| 自然、緑 | 郊外 | G | | | 近くの村や、時間があれば車で山まで行く。 |
| | Výškovice →Zábřeh | G | 変化 | | 25年前と比べて良くなったところは緑、木の数が増えたこと。 |
| 飲食、娯楽施設など | Zábřeh→ Hrabůvka | J | 変化 | | 良くなったところは、店、レストラン、サービス施設が増えたところ。 |
| | 郊外 | K | | | Beskybyの山まででかけたりもした。山にコテージがあって、友達と行った。 |
| 公共施設（病院、幼稚園、小学校など） | Zábřeh→ Výškovice | H | 変化 | | 病院などのサービスはよくなった。 |
| | 中心部 | K | | | 大学は、医者になるための勉強をしに半年程度České Budějoviceに行った後、やっぱり教師になりたくてOstravaに戻ってきた。大学はOstrava中心部。 |
| スポーツ施設 | Jih全体 | A-2 | | | スイミングプールがほしい。今は屋外で夏だけなので、屋内プール。予定は |
| | | E-1, E-2 | | | Stará Bělá のプールは屋外なので、室内プールがほしい。 |
| | Stará Bělá | E-1 | | 46 | 子どもの頃、夏はプールに行っていた。 |
| | | L | | 46 | 夏はプールに行く。 |
| 地域のイベント | Zábřeh→ Výškovice | K | 変化 | | イベントも増えた。 |
| | Výškovice →Zábřeh | L | 変化 | | 家の周りもだんだん改修されてきれいになったり、イベントも増えているので、ちょっとにぎやかになっていると思う。 |
| 近所付き合い | Výškovice →Zábřeh | G | | | あまりない。一人でいるのが好きなので、他の人とはあまり交流しない。内向的な性格。 |
| | Výškovice →Zábřeh | H | | | 沢山ではないけど、近所に知り合いはいる。子どもの幼稚園の友達とか。建物の住人とは挨拶ぐらい。1年前まで住んでいたアパートで、隣の人とは友達のような関係だったけど、段々色んな頼みごとをされるようになったので、今は近所付き合いに積極的ではない。 |
| | Zábřeh→ Výškovice | K | | | 昔は休日を一緒に過ごすなど、近所付き合いが結構あった。今は同じ建物の中で2家族と付き合いがあるけど、遊びに来たりはしない。道を渡ったところには友達が住んでいるけど、近所とは言えない。同じ建物の家族とは、子どもを通じてや、建物の改修を通じた話し合いで知り合った。 |
| 空気 | オストラヴァ全体 | J | | | オストラヴァ全体の空気がきれいになってほしい。この地域は町の中心部やもっと遠いところから汚れた空気が来ていて、汚れがひどい。 |
| 建物、道路全般 | Výškovice →Zábřeh | G | 変化 | | 25年前と比べて良くなったところは、建物が灰色から鮮やかな色になったこと。 |
| | Zábřeh→ Hrabůvka | J | 変化 | | 良くなったところは、歩道がちゃんと手入れされていること。 |
| 治安 | Zábřeh→ Hrabůvka | I | 変化 | | 悪くなったのは、ホームレスの数が増えたこと、犯罪率が上がったこと。 |
| | | J | 変化 | 37,12 | 治安が悪くなった。Vítkoviceや中心部にいたロマ人が引っ越してきた。もちろん問題のないロマ人もいるけど、問題のある人も来た。特に貧しい人のための寮が5つ位ある。この広場にも、貧しい人のための寮が出来て、以前はきれいで安全な場所だったのにそうではなくなった。変化が始まったのは10年位前から。元々は組合の人たちが自分たちで作ったからとても幸せで、とてもいい地域だった。共産主義時代に市からこの地域のアパートを指定されると、みんな喜んだし、うらやましがられた。寮が出来てからは違う。元々Vítkoviceにいたけど、政治的、経済的理由で無理やりこっちの地域に移された。多分中心部で高い建物を売りたくて、問題のある人たちをこっち移しているんだと思う。 |
| | | J | | | 貧しい人のための寮がなくなってほしい。寮があるだけで、地域全体に悪い影響がある。 |

表 5-13　オストラヴァ市全体、Ostrava-Jih 地区、地区内の 2 地域に関するインタビュイーの話 (3)

※1：各発言をしたインタビュイー
※2：■＝社会主義時代の話/　■＋変化＝社会主義時代から民主化後の変化/　変化＝民主化後の変化
※3:地図上の番号

| 話題 | 地域 | ※1 | ※2 | ※3 | 詳細な話 |
|---|---|---|---|---|---|
| 治安 | Výškovice →Zábřeh | G | 変化 | | 悪いところは、若い世代がうるさいことと、ごみの片づけをしないこと。ホームレスが近くの森に棲んでいる。それも以前は無かった。ホームレスは夜にゴミ箱からいろんなものを取って周りにごみを散らかしたりする。それは2年前くらいから。なんでか理由は分からないけど、増えた。 |
| | | H | 変化 | | 貧しい人のための寮が、この地域に悪い影響を与えている。寮ができたことで、周りのアパートの値段が下がった。 |
| Ostrava-Jihの外 | | A-1 | | | Vítkoviceは仕事場だったので普通の人は入れなかったけど、一年に一回、5月１日だけ市民が見学に行けるお祭りみたいなのがあった。5月１日だけ仕事を見ることができたが、とても難しくてつらそうな仕事だった。 |
| | | A-2 | | | 中心部については、昔の印象は全部灰色。緑とか、鮮やかな色は無かった。 |
| | | B | | | 中心部へは、あまり行かない。ベビーカーが大変なので、あまり遠い所にはいけない。中心部に行くときはベビーカーに必要な設備があまりないので、段差の移動などが大変。 |
| | | C | | | 高校はPorubaにあったので、この近所ではあまりでかけなかった。 |
| | | D | | | 職場が中心部にあるので、この辺では出かけなくなった。休日も、あまりどこにも出かけない。二週間前に動物園に行ったけど。 |
| | | E-1 | | | 中心部にある二つのショッピングセンターには行く。レストランはPorubaかTřeboviceに行く。職場がTřeboviceだったので。カラシと酢を作っている会社で、品質チェックをする仕事をしていた。 |
| | | F | | | 高校はPorubaにあった。大学は中心部にあった。 |
| | | F | | | 中心部へは、前は週に一回水泳に行っていたけど、今はPorubaのプールに行くのであまり行かない。プールが開いている時間の都合で変えた。 |
| | | F | | | 高校時代は週末にbeskydyという山まで行ったり、バレーボールやハンドボールなどのスポーツをしていた。大学生の頃は、Porubaのčajovnaに行ったり、Porubaにある大学寮の大学のクラブにいったりしていた。 |
| | | H | | | 中学校は外国語学校で中心部、高校はPoruba。学生の頃は中心部のお店に良く行った。ケーキ屋さんとか。 |
| | | I | | | おばあさんがいたのでたまにPorubaには行った。 |
| | | L | | | 遊びに行く時は大体中心部。 |
| オストラヴァ全体 | | A-1 | | | プール以外は必要なものは全部そろっていて、楽な生活。友達も近くにいるし、仕事場への交通も便利。町全体としてはBeskydy山が近くて、車で一時間で行ける。一番問題なのは、空気が悪いこと。今から、秋冬が一番ひどい。 |
| | | A-2 | | | 中心部がもっとにぎやかになってほしい。店が閉まってから誰もいなくてさみしい場所になっている。近くに大きなショッピングセンターができてから、小さいお店がなくなって中心部がさみしくなった。あと、空気がきれいになってほしい。 |
| | | B | | | もっとベビーカーにやさしい交通機関、特別なトラム（低床式）を増やしてほしい。他はすべて満足している。 |
| | | L | | | オストラヴァに来てからここに慣れるのに時間がかかったけど、今はここに住んでいるのを自慢している。チェコの中で一番ユニークだと思う。炭鉱で働く人の特徴で、よくお酒を飲む。言葉使いも違う（母音を短く発音するので、早口に聞こえる）。トラムの中で大声でしゃべったり、問題のある人は多いけど、都会はどこでも問題のある人はいる。今はもう慣れた。沢山の友達が出来て、悪い人ばかりじゃなくて、優しい人や賢い人も沢山いると思う。 |
| Ostrava-Jih内の地域差 | Dubina→ Hrabůvka | E-2 | | | 昔住んでいたDubinaと比べると、今住んでいるHrabůvkaの方が高齢者が多くて穏やかで、緑がある。アパートは前より小さい。 |
| | Výškovice →Zábřeh | H | | | 以前住んでいたVýškoviceと現在住んでいるZábřehを比べると、Výškoviceの方が坂があるから、空気がきれい。Zábřehの方が埃が多い。逆に、Zábřehの良いところは、サービス施設が多くて便利なところ。 |
| | Zábřeh→ Výškovice | K | | | VýškoviceとZábřehを比べると、Výškoviceの方が建物が高くて密度が高い。人が多くて、匿名性が高い。その一方で、川も近くて自然が多い。 |
| 他の地域と比較したときのOstrava-Jih | | G | | | Porubaもそうだけど、自然が多くて子どもにいいところだと思う。オストラヴァ |
| | | L | | | これまでに住んできた地域と比べて、Ostrava-Jihが一番いい。自然が多くて、便利だから。お店も沢山あるし、医者も近い。前住んでいたFyfejdyには自然がないし、Heřimaniceは中心部から離れていてバスも一本しかないし、お店も少ないから不便だった。Ostrava-Jihは自然もお店も両方あるから良い。Ostrava-Jihの中でも、HrabůvkaよりもZábřehの方が自然が多くて良い。 |

### ５．４．２．６　住宅

住宅に関するインタビュイーの発言を表 5-14 に示す。住宅については、現在の住宅に満足している人（表 5-14- ③）、改修がうまく行った人（表 5-14- ①）がいた一方で、改修トラブルがあった人（表 5-14- ②）、居住者間の合意形成の問題で改修が進んでいない人（表 5-14- ⑥、表 5-14- ⑦）もいた。また、Dubina 地域の住宅について、あまり良くないという評価（表 5-14- ⑧）や、アパートは広いが地域のイメージが良くない（表 5-14- ⑤）といった評価をするインタビュイーもいた。

また、あるインタビュイーは、住宅棟の共有スペースの管理をアルバイトとして行っており、階段室に植物、絵などを飾ったり、掃除を行ったりしていた。一般的には管理会社に任せているところが多いとのことであり、他のインタビュイーの住宅棟にはこのような目立った装飾は見られなかったが、居住者間で同意が得られれば共有スペースの管理を独自に工夫することが可能であるようである（表

**表 5-14　住宅に関するインタビュイーの発言**

| | 住宅に関連するインタビュイーの話 | *1 | *2 | *3 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 建物の全体改修後は結構満足している。改修は早く済んで問題はなかった。キッチンは狭いので、自分でキッチンを広くするための改修をしたいと思っている。来年の予定。 | 低 | 協 | |
| ② | 8年前の改修は、ここに住んでいる人みんなで屋根と窓を改修することを決めた。具体的な会社は、住んでいる人ではなく、組合の偉い人が決めた。Ostravaで一番大きい組合で、この建物だけでなく、2万人の組合員がいる。屋根と窓そのものは問題なかったが、設置する会社が上手くなくて、カビが発生したり、すきま風が入ってくるなどの問題があったけれど、その会社がもう存在しないので、文句も言えない。今やっている基礎の改修は、ここに住んでいる人たちが自分たちで会社を選んだ。自分が建物の組合長をやっているので、良い会社を探した。8年前の改修は組合にお金を借りてやったから決められなかったけれど、今の改修は自分たちでお金を貯めたので、自分たちで決めることができた。今回は、前の失敗を繰り返さないように、改修の会社だけじゃなくて、その出来をチェックする機関も雇っている。<br>住宅改修の同意形成について、一番の問題は、住民が会議に対して興味がないこと。住んでいる人の半分以上が参加しないと会議で決定できないが、参加者が少ない。この家は60年前に建てられたけれど、断熱改修もしていない。住んでいる人の一部は高齢者で、もう先も長くないので何もしたくない、という人もいる。窓の修理も良くなかったので失望している。 | 低 | 協 | Z |
| ③ | Výškoviceに住んでいたころも、同じような高層アパートに住んでいた。その時も一番上の階に住んでいた。高いところが好き。同じ12階に住んでいる人はエレベーターが怖いから、いつも歩いて上り下りしている。30年間ずっとそう。自宅については、100%満足。何も変えたくない。高いところが好きなのは、眺めが良いから。 | 高 | 協 | |
| ④ | （共用スペースに植木鉢が置いてあったり、小さな絵が飾ってあったりして手入れされていたので質問したところ、）アルバイトとして、私がやった。丁度昨日掃除した。社会主義時代の頃は、共用廊下は毎週別の家族が掃除をしていて、多分今もそういうところもあるけど、大体は管理会社に任せているところが多い。この建物では私がやっている。それは協同組合の話し合いで決めた。 | 低 | 協 | |
| ⑤ | 低層の住宅に住みたい。高層は嫌。でも、低層は人気があるので中々見つからない。今住んでいる地域のアパートは部屋数が少ないので、他の地域がいい。Porubaでも良いけど、Porubaの方が値段が高い[注10)]。Dubinaには広くて安いアパートがあるけど、Dubinaは嫌。Dubinaに比べるとこっちの方が学校も良いし、Dubinaには犯罪のイメージがある。新しく出来たきれいなアパートもあるけど、そっちはすごく高い。 | 低 | 賃 | |
| ⑥ | 建物の一部は個人所有、残りは協同組合所有なので、住んでいる人が二つのグループに分かれていて、改修の時に別々の会社を希望したので、結局別々に改修した。今は断熱の改修がしたいと思っているけど、意見がまとまっていないのでできない。 | 中 | 個 | V |
| ⑦ | 不満なところが多い。まだ断熱改修されていないので、建物全体が寒い。組合の建物なので、反対が多いと改修できない。前住んでいた人の背が高くて、キッチンの家具の背が高いのでそれを変えたい。食洗機などの家電もそろえたい。 | 低 | 協 | H |
| ⑧ | 社会主義時代の最後の時期だったので、あまり良くなかったけど、組合で家を買うのはとても安かった。 | 高 | 協 | D |

*1分類/ 低：低層住宅　中：中層住宅　高：高層住宅
*2所有/ 組：協同組合　個：個人所有　賃：賃貸
*3地域/ Z：Zábřeh V：Výškovice　H：Hrabůvka　D：Dubina

5-14- ④)。

### 5．4．3　得られたデータの考察

Zábřeh 地域における貧しい人のための寮の建設や、治安が悪くなったというイメージの変化は、2000 年ごろから始まった Jubilejní 地域の再生施策によって Čujkovova 地域に引っ越してきたという、低所得者層の流入との関連が考えられる。また、Ostrava-Jih 地区内のそれ以外の地域にも、低所得者層用の宿泊施設が多数存在しており、そのことが周囲に影響を与えていると考えられる。

オストラヴァ市アーカイブに保管されていた、社会主義時代の開発時に計画されていた地域の中心部は市場、商店街 Kotva、商店街 Odra として実現されたと考えられ、開発当初から近隣住民に対して、日常生活に必要なサービスが提供されていたと考えられる。また Hrabůvka 地域で指摘された商店街 Špalíček についても、地域計画図の中にレストラン、スーパー、郵便局などの施設名が書き込まれており、社会主義時代の計画によって実現した可能性が高い。これに対して Dubina+Bělsky les 地域では中心施設の開発が実現しなかったこと、90 年代初めに出来たスーパーが一番古いとの発言や、他地域へ買い物へ行っていたという発言から、Dubina 地域のサービス施設は開発当初、他地域よりも限定的であったと考えられるが、2000 年以降の大型スーパーやショッピングセンター開発によって、利便性は向上していると考えられる。

公園や緑地については、Zábřeh 地域において遊具付き公園が整備されていること、Výškovice 地域と Bělský les 地域では自然が近くにあること、Dubina 地域では民主化以降遊び場が増えたことが指摘された。Bělský les（森）は、社会主義時代に中心施設開発が実現しなかったことで周辺地域の利便性が低下した一方で、結果的に残された自然が、複数の住民から評価されていた。Hrabůvka 地域では公園の未整備が指摘されていたものの、あるインタビュイーは、行政の施策に頼らず住民達自身で遊具を作るという、公共空間改善のための取り組みに積極的に取り組んでおり、またその結果、地域で好きな場所はその公園である、という愛着を生み出していた。

## 5．5　オストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区内の民主化後の変化と認識されていた価値

Ostrava-Jih 地区関係者へのインタビューの結果より、地区内の民主化後の変化、認識されていた価値と地域再生に対する取り組み主体についてまとめる。

### 5．5．1　Ostrava-Jih 地区内の民主化後の変化

これまでの考察を踏まえると、社会主義時代の開発当初の様子は、開発時期の遅い Dubina 地域において、商業施設や公園の不足、住宅の質の悪さがインタビュイーの発言からも伺えた。しかし、民主化以降、Ostrava-Jih 地区内の各地域間、そして地域内において、更に差異が生じていたことが明らかになった。それは開発時期の早かった地域の高齢化、住宅所有者の変化、商業施設の開発による利便性の改善や遊具付き公園の増加、政策による住宅の高級化やそれに伴う低所得者層の転居、居住者の自主的な公共空間改善の取り組み等によるものである。

### 5．5．2　Ostrava-Jih 地区において認識されていた価値

住民へのインタビューでは、住宅地周辺の川や森といった自然の豊かさが指摘された一方で、住宅

地内の商業施設や公共施設へのアクセス性の良さが評価されており、そのどちらの要素も有していることがOstrava-Jih地区共通の強みと考えらえる。また、家賃や住宅価格が安いこと[12]が居住を決定する上で重要なポイントとなっていたインタビュイーも複数いた。更に、行きつけの居酒屋やレストラン、家の前の遊び場等、日常生活の一部として思い入れの深い場所も指摘され、それらがインタビュイーそれぞれにとっての魅力となっていたことも、Ostrava-Jih地区全体に共通していた。

### 5.5.3 考察

住民インタビューで現在のOstrava-Jih地区に共通する強みが指摘された一方で、民主化後、プラハの事例とは異なり、局地的な差異が生じることによって地域内部の実情は複雑化しているといえる。同時に、市の人口減少が進む中で、Ostrava-Jih地区の人口減少率は比較的低いが[13]、これは5.5.2で述べたOstrava-Jih地区のメリットが住民の減少を抑制しているとも考えられる。また、今後も高所得者、産業施設で働く人々、若者など様々な人々に住居を提供する地域として期待されていることから、複雑化は更に進む可能性がある。また、インタビュー調査において、低所得者層の人のための寮の存在が悪い印象と結びついているとみられる意見も複数聞かれ、この状態を放置することは、住民間の関係性の悪化に繋がる可能性が考えられる。これらの状況を踏まえ、住民の地域に対する評価を高めるためには、改修等の物理的な再生に対する補助金だけでなく、インタビュー調査で聞かれたような、まとまった資金を用意せずとも実現可能な、居住者間での地域改善のための積極的な取り組みや、そこから生じる居住者同士の交流を助けるような仕組みが必要である可能性が考えられる。

また、オストラヴァ市内の状況を踏まえると、人口減少が進んでいる地域の一つとしてPoruba地域があげられる。こちらは社会主義時代初期の住宅開発地であり、その歴史的・文化的価値が一般的に認められている地域であるが、居住者の高齢化とそれに伴う出生率の低さが指摘されている[14]。さらに、インタビュイーの中には、住むのならPoruba地域もいいけれど家賃が高い、との話もあったことから、高齢化と地価の高さが人口減少の原因の一部となっていると考えられる。図5-2からは、社会的立場の弱い人々の分布が読み取れる。点として集中している箇所は貧しい人のための寮と考えられる（Zábřeh地域におけるインタビュイーの発言と一致する）が、社会主義時代に建設された住宅開発地内のみに集中している訳ではないことが読み取れる。これらのことから、Ostrava-Jih地区は、オストラヴァ市内の住宅開発地の中でも、多様な社会的立場の人々の受け皿として、大きな役割を果たしている地域であると考えられる。

(12) 図5-4において、オストラヴァ市とその周辺の平均土地価格に関するデータが掲載されているが、最も高額なのはPoruba（1981 CZK/$m^2$）である。なお、Ostrava-Jih地区についてはデータ無しとなっている。

(13) 表5-3によれば、Ostrava-Jih地区の1991年-2008年にかけての人口減少率は-1%であり、住宅開発地Fifeydyのある Mariánské Hory a Hulváky地区(-10%)、Porubaのある Poruba地区(-15%)と比較して低いといえる。

(14)Rumpel, P., & Slach, O. (2012). Governance of Shrinkage of the City of Ostrava, European Science and Art Publishing.

# 第６章　得られた知見と考察

## ６．１　各章より得られた知見のまとめ

まず、各章で得られた知見をここでまとめる。

### ６．１．１　第２章より得られた知見

第２章では、チェコ共和国の基本的な社会背景と、社会主義時代の住宅開発地に関する政策を把握するため、既往研究論文、文献をもとに社会主義体制転換時の土地・財産の国有化、社会主義体制下における住宅開発地、社会主義体制終結後の財産の返還と私有化・民営化についてまとめた。

社会主義時代に建設された国有の集合住宅は、民主化に際して一旦所有権が国から自治体に移り、そこから集合住宅入居者等に売却されたことが分かった。売却方法については自治体ごとに異なっていることから、社会主義時代の集合住宅の現在の所有者の割合については、自治体毎に違いがあると考えられる。

プラハ市には 54 の住宅開発地が存在しており、中でも Severní Město、Jiřní Město、Jihozápadní Město の 3 つの大規模住宅開発地等が建設された 60 年代は、建築の自由度が高かったことが分かった。また、1968 年のプラハの春に至る検閲制度の廃止や言論の自由の保障、その後の 1968 年プラハの春以降の監視体制の強化という政治的な流れも踏まえると、60 年代に開発計画が作成された住宅開発地は、社会主義時代全体を通じて、各開発に独自性がみられる可能性が最も高かった時期に含まれると考えられる。

プラハ市行政担当者へのインタビューからは、プラハ市の政策として 2001 年に社会主義時代の住宅開発地の調査事業が行われていたことと、地域再生には区の政策が重要な役割を果たしていることが分かった。そこでプラハ 11、13 区に着目したところ、区レベルでは地域の再生施策に対して独自の姿勢をとっており、地域ごとに異なる実態に対応した施策につながる可能性があることが分かった。

プラハ市、プラハ 11、13 区役所においてプレハブ住宅開発地に対する物理的問題点が認識されていた一方で、住宅ストック活用に対する抵抗感を示す意見は聞かれず、建築物や計画案の優れた点も指摘されており、いずれの立場においても社会主義時代の建築物や計画案の良いところは残し、活かしていこうとする方針は共通していた。

プラハ 11 区の JM に対する優れた点として、プラハ市中心部や JM 内の公共施設へのアクセス性の良さ、社会主義時代以前の建築物が保存されていること、公共施設が充実していること、プレハブ建築物のリノベーション・住宅改修が行われていることが指摘された。問題点としては、JM 内の中心部が未完成であること、駐車場が不足していること、職場が不足していること、住民の反対による計画の中止･変更･非効率的な建設が行われていることが指摘された。また、JM の将来の方針として、生活、仕事、娯楽のための環境が整った、独立した地域を作ることが掲げられていた。

### ６．１．２　第３章より得られた知見

第３章では、社会主義時代にチェコ国内で発行された建築分野の公式機関紙「ARCHITEKTURA ČSSR/ČSR」を時系列に沿って読み解くことで、実際に行われていた住宅開発地に対する提案と、その実現後の議論についての流れを明らかにした。

1967 年の記事では、JM 開発のためには、コンペが開催されており、複数の建築家グループが独自のアイデアを競う場があったと同時に、その審査結果と各案に対する批評が公開されていたことが分かった。また、Krásný らの多様な高さの住宅を配置した案に対する評価から、住宅供給はその効率性だけでなく、周辺環境との調和が考慮されていたことがうかがえる。

1969 年の記事では、住居地域は現在の JM I 地域のみに計画されていた。さらに JM I 内には 3 つの居住グループが設定されたが、このグループ分けには交通計画との関係性も配慮されており、地下鉄駅の延長、バスの交通網について言及されていた。地下鉄駅については実際に実現したことが確認できるほか、現在、交通の利便性が区行政によって評価されている。また、地域計画は地域ごとに細分化され、各プランの作成に対して、この段階で既に多くの専門家チームが関わっていたことも分かる。

1973 年の記事からは、ローカルセンターのコンセプト変更や経済的な理由から、住宅と住居地域の設計が変化したこと、歩行者と車の関係性や公共空間の造形芸術について考慮されていたことが分かる。第 5 グループの町全体（※ JM 全体のことと考えられる）の中心部については、区行政から中心部が未完成であるという指摘があり、航空写真からも大きな建築物が建てられていないことが確認できた。歩行者用立体通路については、区行政によって問題点として認識されており、JM 内で立体通路が作られた場所はあるものの、現在評価はされていないと言える。住宅デザインについては、地域計画のコンセプトに沿う住宅の提案がなされると同時に、経済面での効率化も図られていた。

1978 年の記事では JM II という表記が使用されるようになっており、この段階で JM II は現在の JM II の南にある Šeberov まで含めて計画されていたこと、JM I 開発前のコンペ時には計画されていなかった住居地域が JM II 内に描かれていることが分かる。

1981 年の記事では、当初の計画案の人口計画が更に増大し、JM II 内に住居地域が計画されるという、コンセプトの大幅な変更が行われているが、JM II の中で商業施設や公共施設が計画され、JM I との関わりは述べられていないことから、高速道路 D1 を隔てて、JM I とは切り離されて設計されていると言える。Horní Kunratice と Horní Roztyly の 8/12 階建ての住居グループと Horní Roztyly の 4-8 階建の住居地域については現在実現されていることが確認できるが、Horní Kunratice の森に近い部分については 89 年以降に開発が行われていることが確認された。JM II の中心施設が計画されていた Budovatelů 駅（現在の Chodov 駅）周辺については、現在は大型ショッピングセンターが建てられており、これが商業施設としての役割を果たしているが、それ以前には中心部は完成していなかったと思われる。社会主義時代に計画されていた地下鉄駅については、配置は現状と同じであるが、駅の名前（kosuminatů/ 宇宙飛行士、Družby/ 友情、Budovatelů/ 建設者、Primátora Vacka/Vacek 市長）については、現在は地域名に変更されている。

1982 年の記事では、国内全体の状況を総括して、住宅設備に関しては住民から高い評価を得られたことを指摘している一方で、職場や、文化施設・広場といった公共空間の不足が挙げられている。この点に関して JM をみると、中心部の施設や職業施設についての開発計画は ARCHITEKTURA ČSR に記事が掲載されている一方で、現状をみると、中心部が完成していないこと、緑地が計画通りに完成していないこと、職場が住宅地から離れていることが指摘されている。これらのことは、開発当初から関心の対象でありながらも計画案が十分に実現できなかったが、現在も区行政がそれを問題点として引き継ぎ、改善に取り組んでいるとみなすことが出来る。

JM I の社会主義体制下における開発が終了した後の 1988 年時点においては、開発当初の計画案については好意的に述べられている一方で、現実には空間のコンセプトについて、当初案が十分に活かされなかったという結論に至っていることが分かった。

### 6．1．3　第 4 章より得られた知見

第 4 章では、プラハ市プラハ 11 区 JM の住民に対して行ったインタビュー調査についてまとめた。

JM で日々の生活を送ってきた住民は、開発地周辺の自然など、開発以前から存在していたものも地域の一部として捉え、開発当初から価値として認識していた。それと同時に、JM 内部においても交通アクセスの良さや公共施設と住宅棟との近接配置が評価されており、これまで一般に言われた、画一的であるといった特徴だけでは捉えることのできない、地域の利便性などの価値も認識していたことが確認された。

また、民主化後には、それまで進んでいなかった JM 内部のオープンスペースの整備や商業施設の新規開発など、地域に関わる主体の取り組みによる改善が多数指摘されており、それらが住民の評価につながっているケースもみられた。

### 6．1．4　第 5 章より得られた知見

第 5 章では、プラハとは異なる都市背景を持つオストラヴァ市を調査対象とし、より多様な社会層の市民の生活の場となっている社会主義時代の住宅開発地 Ostrava-Jih 地区の民主化以降の変化と、そこに暮らす住民の評価を明らかにした。

Ostrava-Jih 地区の社会主義時代の開発当初の様子は、開発時期の遅い Dubina 地域において、商業施設や公園の不足、住宅の質の悪さがインタビュイーの発言からも伺えた。しかし、民主化以降、Ostrava-Jih 地区内の各地域間、そして地域内において、更に差異が生じていたことが明らかになった。それは開発時期の早かった地域の高齢化、住宅所有者の変化、商業施設の開発による利便性の改善や遊具付き公園の増加、政策による住宅の高級化やそれに伴う低所得者層の転居、居住者の自主的な公共空間改善の取り組み等によるものであった。

住民へのインタビューでは、住宅地周辺の川や森といった自然の豊かさが指摘された一方で、住宅地内の商業施設や公共施設へのアクセス性の良さが評価されており、そのどちらの要素も有していることが Ostrava-Jih 地区共通の強みと考えらえる。また、家賃や住宅価格が安いことが居住を決定する上で重要なポイントとなっていたインタビュイーも複数いた。更に、行きつけの居酒屋やレストラン、家の前の遊び場等、日常生活の一部として思い入れの深い場所も指摘され、それらがインタビュイーそれぞれにとっての魅力となっていたことも、Ostrava-Jih 地区全体に共通していた。

## 6．2　社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化

ここでは、時代の移り変わりの中の居住史の集積と、地域に関わる複数主体による居住史の集積の 2 つの視点から、社会主義時代のプレハブ住宅開発地の再価値化について考察する。

### 6．2．1　時代の移り変わりからみる社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化

社会主義時代の住宅開発地は、本来計画されていた中心部や公園といった、住宅棟以外の住居環境

が経済的理由などから実現しなかったことがイメージの悪さへと結びついたと考えられ、問題の要因は「社会主義時代の住宅開発地であること」ではなく、「社会主義時代後期の政治・経済的に不安定な状況が、大量生産可能な住宅棟以外の建設を不可能にしたこと」にあったのではないかと考えられる。また一方で、その利便性や機能性など実用的な面においては、当時の最新設備や研究的関心を取り入れたものであり、その全てが成功したとはいえないものの、住民の評価を得ている点も指摘されており、快適な住環境の追求のために一定程度の貢献を果たしたということについては、評価されるべき部分があるのではないかと考えられる。さらに民主化後、開発当初は不足していた商業施設や娯楽施設など、住宅棟以外の周辺環境が整備されてきている。開発には賛否があるものの、これまでに不足していた施設などの整備によって利便性が向上すれば、地域として新たな価値が生じる可能性が考えられる。また、価値評価に結びついていた住民の地域に対する思い出や愛着は政治体制の転換の中でも途切れることなく継続しており、その集積は今後も継続すると考えられる（図 6-1）。

### 6．2．2　複数主体による社会主義時代のプレハブ住宅開発地 JM の居住史集成的再価値化

本研究で扱った、社会主義時代の地域開発主体、地域の行政関係者、現在の地域住民の評価について整理する。政治体制の転換により開発に関わる主体が国家から地方行政や民間企業に移行し、住宅の所有者も多様化した。そのような背景の中で、社会主義時代の地域開発主体によって生み出された交通インフラシステムは行政関係者・地域住民から評価されており、現在の地域の価値として認識されていた。また地域の中心部や公園が社会主義時代に未開発であったことについては、現在区行政が課題として取り組んでおり、地域開発主体の意志を引き継いでいる。さらに、区行政による公園の整備については、住民から以前より良くなった、との評価が複数得られた。住宅改修については、一つの住宅棟の所有権が複数主体に分割され、住宅改修の同意形成に時間がかかるとの意見も聞かれた。

地域への関わり方が異なる主体間の取り組みや評価には関連性がみられると同時に意見の違いがトラブルにつながる場合もある。独断的ではない地域の価値の向上のためには、複数主体間において、それぞれの目指す将来像の共有が重要であると考えられる。

## 6．3　プラハ 11 区 Jižní Město の社会的位置づけからみた、Jižní Město に対するこれまでのイメージとその要因

一般に画一的という言葉で表現される社会主義時代の住宅開発地であっても、その開発の経緯を見ると、計画時には開発地の周囲との関係性や、地形が考慮されていたことが分かった。さらに、プレハブ住宅そのものに対しても、時代・地域が異なるとそれぞれの状況に応じて進化・あるいは多様化した形が開発されていたことが明らかになった。

社会主義時代の JM は、プラハ市でも有数の大規模住宅開発地の 1 つであり、地域特性や中心部との関係性などが創意工夫されたコンペ勝利案が存在していたにも拘わらず、経済的な理由などから設計の変更を強いられた住宅開発地であった、と言え、この物理的存在感の大きさによる認知度の高さと、コンペ案の変更による当初案の破綻が、JM に対しての、他の住宅開発地よりもさらに悪いイメージの一般的な認知へと繋がり、それが現在の JM のイメージにも影響を与えている可能性が考えられる。その一方で、民主化以降は住宅開発地の再生に対してプラハ市行政・プラハ 11 区行政による施策が積極的に実施されており、商業施設や緑地の充実など、開発当初と比較して、現在の状況をより良いと

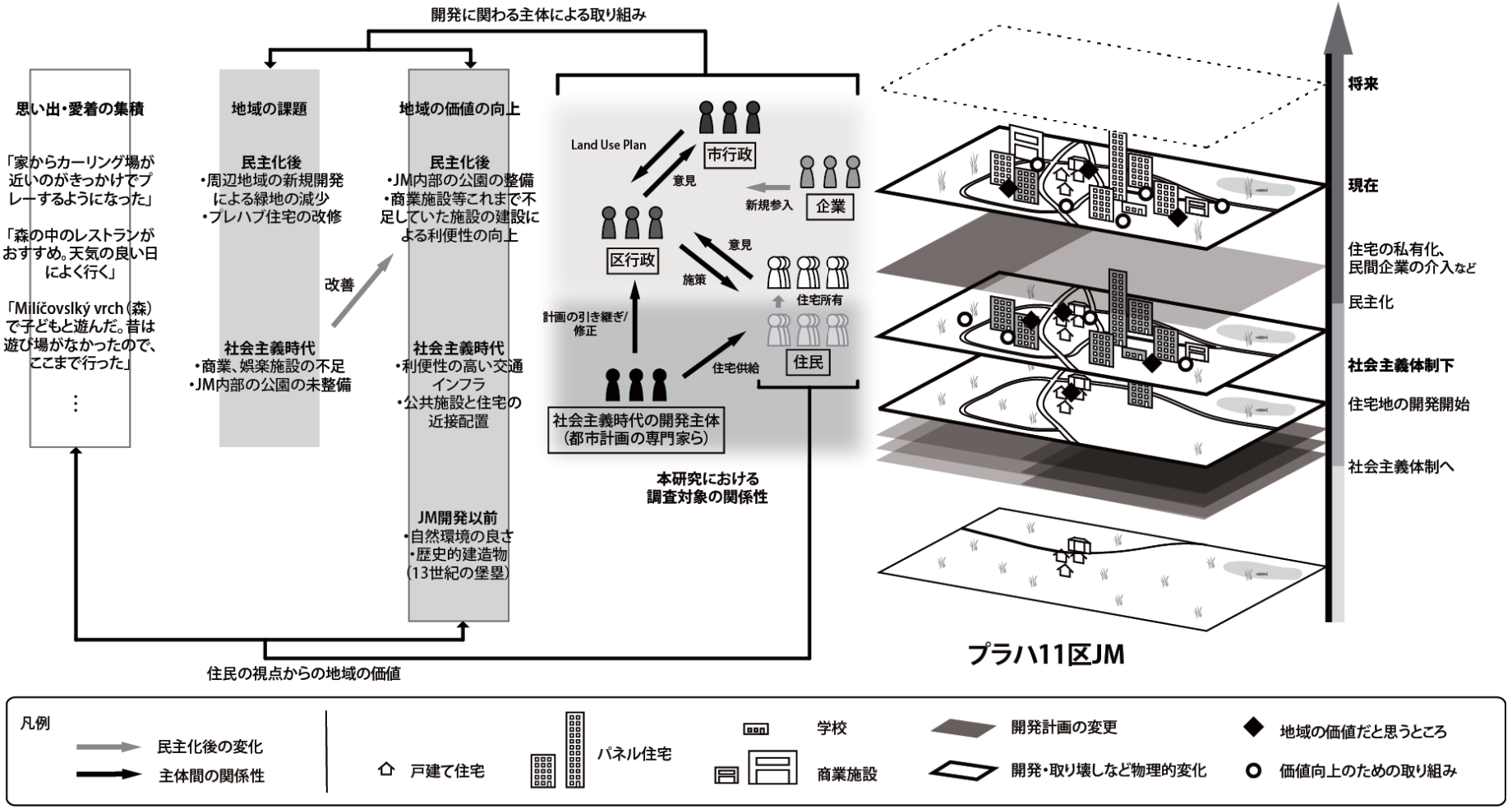



図 6-1　JM における時代の移り変わりの中での地域の価値の集積

評価する住民も複数見られた。

### 6．4　Jižní Město の開発計画と現在の価値の関係性からみた、Jižní Město における価値の積み重ねと価値付けの理由

インタビューにおいて、空間の用途によって、インタビュイーに利便性や安全性を提供するなど、直接的な有用性をもたらすこと以外の理由から、良いと評価された点が複数挙げられた。それらが評価された理由として、思い出と結びつくため、個人の好みに適合するため、本人も理由が分からない、の3つが考えられる(表6-1)。このことから、直接的な利益を得られるものでなくとも、強い思い出の残っている空間や、自分の好みに適合するものが価値として捉えられていると考えられる。また、本人にも理由が分からないものについては、個人的な観点とは異なる視点、例えば、インタビュイーが評価の対象物を世間的に評価されていると認識しており、一般的な意見として良いと考えられる点を指摘した可能性が考えられる。

現在地域の価値として捉えられていることは、民主化以降の地域再生施策によるもののみでなく、開発当初からの時間の積み重ねの中に存在していると言え、これまで一般的に、画一的であるとしてネガティブに語られてきた社会主義時代の住宅開発地の中にも、一般に十分共有されていたとは言い難い価値が存在していることが明らかになった。本研究で扱ったチェコ共和国プラハ市プラハ 11 区 JM は、他の社会主義時代の住宅開発地と比べて、相対的に恵まれた状況の事例ではあるが、この結果を通して、量産型住宅開発地についても、その開発当初からの歴史をたどることで、地域独自の価値を見出すことが出来るという可能性を示唆すると考えられる。また、社会主義時代に実現しなかった公共施設や商業施設、緑地などの公共空間の改善への取り組みがみられると同時に、日常生活の中で地域での思い出も育ってきており、今後これらの取り組みや思い出が将来の価値に繋がっていく可能性が期待できる。

### 6．5　Jižní Město とオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区の事例にみる社会主義時代の住宅開発地の現状の多様性を踏まえた、地域の特徴に応じた今後の社会主義時代の住宅開発地の多様な在り方の可能性についての考察

JM については、プラハ 11 区行政は現在十分とは言えない中心部や職場を作ることを計画しており、開発当初目指された自己充足的な町という全体像を引き継ぎながら、地域再生のための積極的な取り

**表 6-1　JM での住民インタビューにおいて見られた空間の用途に応じた判断基準によらない評価の例**

| | 指摘の対象 | 関係する発言 |
|---|---|---|
| 有用性があるもの | 地下鉄 | 駅から自宅、町の中心、友人宅までのアクセスが良い。 |
| | 小学校 | 家から近い。家から子どもを見守ることができる。 |
| 思い出と結びつくもの | Kunratický les | (地域で一番良いと思うところとして指摘して)子どもが小さいころ、遊びに行った。キノコ狩りもできる。今は他の場所に行くが、昔よく行っていた。 |
| | 北東部の緑地 | 子どもが小さいときによくベビーカーを押して行っていて、一番いい思い出がある。 |
| 個人の好みに適合するもの | 森と住宅地の関係 | 森と住宅地がすぐ近くにある対比が面白い。 |
| | 小学校 | 壁が赤いのが、最初は変だと思っていたけど、子どもが満足していたので今は気に入っている。 |
| 本人も理由が分からないもの | Chodovská tvrz | 理由は特にないが、良い。時々仕事の関係でコンサートに行くが、クラシックはあまり好きではない。 |
| | Centrární Park | 理由は特にない。 |

組みを行っている。それは行政関係企業の住宅管理会社設立や地域イベントの実施などとも結びつき、地域再生を促進する主体として大きな役割を担っていると考えられる。その一方で、区行政主催のイベントが政治活動と結びつくなど政治的な対立が行政施策に影響を与えているという声も、行政担当者より聞かれた。現在、発表者は区行政主催の地域イベントに参加してワークショップを運営するといった実践を行っているが（補章参照）、これは行政主導の地域再生が進められる中で、政治的立場に影響されない主体として、第三者的な立場で地域再生に関わるという意義があると考えている。

Ostrava-Jih 地区については、社会主義時代の開発当初の様子は、開発時期の遅い Dubina 地域において、商業施設や公園の不足、住宅の質の悪さがインタビュイーの発言からも伺えた。しかし、民主化以降、Ostrava-Jih 地区内の各地域間、そして地域内において、商業施設の開発による利便性の改善、政策による住宅の高級化やそれに伴う低所得者層の転居、居住者の自主的な公共空間改善の取り組みなどから、状況は複雑化している。また、インタビュー調査において、低所得者層の人のための寮の存在が悪い印象と結びついているとみられる意見も複数聞かれ、この状態を放置することは、住民間の関係性の悪化に繋がる可能性が考えられる。このような状況を踏まえ、住民の地域に対する評価を高めるためには、改修等の物理的な再生に対する補助金だけでなく、インタビュー調査で聞かれたような、まとまった資金を用意せずとも実現可能な、居住者間での地域改善のための積極的な取り組みや、そこから生じる居住者同士の交流を助けるような仕組みが必要である可能性が考えられる。

### ６．６　今後の社会主義時代の住宅開発地の多様な在り方の可能性

本研究で調査を行った、プラハ市プラハ 11 区 JM と、Ostrava-Jih の事例から、社会主義時代の住宅開発地の特色について考察を行う。まず、旧社会主義国を含め、近代の工業化された量産型住宅で形成された住宅開発地についてみれば、合理性の追求という工業化の理由を踏まえて考えても、学校と住宅の近接配置や公共交通システムといった理論的な地域計画が、その利便性から地域の価値に結びつく可能性が考えられる。また、チェコと同様、90 年代前後に社会主義体制が終結した旧社会主義国の住宅開発地について考えると、工業化されたパネル住宅がいち早く完成した一方で、社会主義体制後期の経済的・政治的不安定さがそれ以外の施設・屋外空間の整備を不可能にし、地域の中心施設や緑地が未整備である状況が生じている可能性がある。さらに民主化後についてみれば、地域に関わる主体の地域再生に対する取り組みの違いが、社会主義時代の住宅開発地の現状に大きく関わっていると考えられる。

社会主義時代に目指された、国家主体で計画された思想にもとづくライフスタイルの理想像が無くなった現在、住民の日々の生活のベースとなる住宅開発地の在り方も、現状に応じた姿へと変容している。その変化の中で、誰が積極的な主体となり、どのような将来を目指して地域と関わっていくのかについて、各地域に関わる主体自らがそれぞれの地域の特徴と向き合い、丁寧に考えていく必要があると考える。またその一方で、他者もまた自分と同じように意図をもち、将来像を描いているのにはそれぞれの理由があることを心に留めながら、お互いの意見に耳を傾け、良い方へ向かおうとする努力が必要であろう。本研究で複数の地域関係者の人々から意見をうかがう機会を得たことをきっかけに、より多くの人々の意見を聞き出し、異なる立場の人々の意見を仲介するような取り組みの一端

を担いたいと思い、プラハ 11 区 JM を対象に、住民参加ワークショップを試みた。この試みについては補章として報告する。

### 6.7　今後の課題

研究を進める中で、興味深い知見が得られる可能性が考えられたものの、本論文の目的に直接的に関わらない部分として十分な調査が行えなかった箇所も存在する。例えば、プラハ 13 区の現状についてである。本論文では時代の変化の中の価値の集積に着目するという観点から調査対象地を決定したため、民主化後の変化の大きさが 11 区よりも小さいと思われる 13 区については十分にその内情に触れることが出来なかった。しかし、今回プラハ 11 区 JM の開発関係資料がアーカイブに未整理のまま保管されていたことが明らかになったことより、プラハ 13 区 JZM の開発関係資料についてもアーカイブに保管されたまま十分に整理されていない可能性が考えられる。13 区もまた独自の開発計画に従って住宅開発地が形成されており、その開発の意図や実現の状況を明らかにすることからは、また新たな知見が得られる可能性が考えられる。

住宅改修の状況と住宅所有者違いについても、今回は JM の外観調査と、インタビュイーの発言の一部で触れるのみとなった。しかし、民主化時の住宅所有者の変化や、それによって生じた、一棟の住宅棟を複数の所有者（個人、住宅組合、市など）が所有する複雑な所有権事情については、社会主義時代を経験した住宅開発地の特徴の一つであると言え、そのような複雑な状況の中で改修等における所有者の合意形成をスムーズに進めるための知見を得ることは、今後住宅棟の物理的老朽化が進んでいく中で重要なことであると言える。

今回、チェコ共和国プラハ市、オストラヴァ市において社会主義時代の住宅開発地の再価値化を行ったことで、それぞれの地域において地域関係者から地域の価値を認識していることが明らかになったと同時に、地域関係者の感じている地域の価値を聞き出す一つのプロセスを示した。このプロセスは、チェコ共和国以外の旧社会主義国、あるいは世界各地に存在する量産型住宅開発地において各住宅開発地の再価値化を行う際にも応用できると考えられる。今後、更にチェコ共和国のみに留まらない、社会主義時代の住宅開発地の再価値化についても研究に取り組んでいきたい。そしてその研究を通じて更に、社会主義時代の住宅開発地の特色とは何か、またチェコの住宅開発地の特色とは何かについて、考察を深めていきたい。

# 補章　プラハ市プラハ 11 区 Jižní Město における住民間の価値の共有に向けての実践

## 1　研究の背景とワークショップの目的

本論文の第 1 章から第 6 章までに示した通り、筆者はこれまでプラハ 11 区 JM において、これまで形成されてきた地域の価値に関して、一対一、あるいは一対二の少人数での地域行政・住民に対するインタビューを行ってきた。このことは発言の背景を明らかにしながら一人ひとりの意見を引き出すことができる一方で、話を聞くことが出来る人数には限りがある。そこで、更に多くの住民から地域の魅力を聞き出すと同時に、お互いの考えを共有する機会を創出することを目的として、プラハ 11 区役所担当者の協力を得て、区が行う地域イベント「The days of Prague 11」(2015 年 9 月 17 日 -20 日開催 ) の一部として、ガリバーマップ作成イベント「プラハ 11 区の面白いところ地図」を実施した。

## 2　地域の魅力探しワークショップの実施

ワークショップは 9 月 17 日（木）と 18 日（金）の午後、19 日（土）終日の 3 日間、ダンスや歌が披露されるメインステージの傍を会場として開催された。縦 3m ×横 6m のガリバーマップの周辺には、プラハ 11 区の開発当初から現在までの航空写真や 1968 年時点での開発計画図、これまでの筆者の研究成果をまとめたポスター、日本の団地紹介のポスターを展示した ( 写真 1)。運営は発表者の他に通訳者 1 名が参加してチェコ語での対応を行ったが、各参加者に口頭で手順を説明する手間を省くため、できるだけねらいを簡潔にすると同時に、地図書き込みの手順をチェコ語で示したポスターを用意した（図 1)。記入されたコメントは通訳者を介して日本語に訳し、整理した。

①メインステージ

②航空写真・ポスターの展示パネル
（写真外にも複数設置）

③書き込みの手順を示すポスター

**写真 1　ワークショップの様子**

コメントカードの書き方
・自分の家、学校、職場を探してみましょう
・自分の家の周りのものについてどう思うか書いてみましょう
・あなたのお気に入りの場所や、よく行く場所について書いてみましょう。
なぜそこが好きなのですか？
・地域の今と昔の違いについて書いてみましょう
記入したカードを地図に貼り付けましょう！

**図 1　地図書き込みの指示（※実施時はチェコ語）**

## 3　ワークショップの結果

3 日間で記入されたカードは 397 枚であった[(1)]。子どもたちのグループや若い家族が多かったため[(2)]、書かれたコメントの分析には年齢的な偏りを考慮する必要があると考えられるものの、カードの分布（図 2）を見ると、公園や森といった緑地、学校、商業施設、スポーツ施設など、それぞれが普段から日常的に利用していると思われる場所や施設に多くのカードが集まっていることが分かる。それぞれの場所に対するコメントの内容を見ると、緑地に対しては公園の遊具や動物について（表 1-1-1、表 1-2）、ピクニックやサイクリングなど日常的な利用について（表 1-3、表 1-4）、ピアノや赤いバスといったアート作品の展示について（表 1-5、表 1-6）のコメントなどが見られ、多様な使われ方に対する評価がみられた。特定の場所を自分のものとして特別に捉えた書き込み（表 1-7）もあった。学校に関しては、実際にそこに通っている生徒が、先生や友達、特別活動を魅力として捉えていることが伺えるコメント（表 1-8、表 1-9）が目立った。商業施設については大型ショッピングセンター（表 1-10）や映画館（表 1-11）にコメントが集まった他、ビール醸造所というプラハ 11 区独自の施設も評価されていた（表 1-12）。スポーツ施設については、特に会場の近くに位置する、2014 年に完成した新しいプール施設についてのコメントが多かった（表 1-13）。中世の堡塁である Chodovská tvrz については、その歴史的な建物と中で行われているプログラムの両方が評価されていた（表 1-14-1、表 1-14-2）。住宅に

**表 1　指摘された場所に対するコメントの内容の例**

| 番号 | コメント | 記入者 |
|---|---|---|
| 1−1 | チェコで最初のディスクゴルフが出来る公園。初心者に良い！ | 大人 |
| 2 | 馬などの動物がいる良いところ | 大人 |
| 3 | ピクニックの場所。休憩するのにとても良い | 大人 |
| 4 | 自転車に乗ってここへ来るのが好き。空気がきれい | 子ども |
| 5 | Centrální parkにあるピアノが良い | 大人 |
| 6 | 赤いバスが、毎日15時から15時半まで腕立て伏せしている（※芸術家のアート作品）。雨と猛暑のとき以外。今年は11月までかな　大人にも楽しい経験 | 大人 |
| 7 | 僕の三角（※三角形の土地に対して） | 子ども |
| 8 | Donovaskaの小学校のヨガ授業が素晴らしい | 大人 |
| 9 | 友達と先生が好き。1年生 | 子ども |
| 10 | ここでの買い物と食べ物が好き | 子ども |
| 11 | 良い映画があるのが好き。Cinema Cityは良い。友達と行く | 子ども |
| 12 | 11区独自のビール醸造所があるのがすごい。おいしい料理とおいしいビール、それにお菓子！おいしい！ | 大人 |
| 13 | ウォータースライダーがあるので、プールが好き | 子ども |
| 14−1 | Chodovská tvrzは素晴らしい。古い要塞で、騎士道時代の雰囲気があって、毎年何らかのイベントがあるから | 子ども |
| 14−2 | これから高齢者のための英語の授業が始まる。色々なプログラムとイベントをやっているから好き | 大人 |
| 15 | 家が一番。お父さんとお母さんがいるから | 子ども |
| 16 | ここにきれいな丘があって、ムフロン(※動物)が来ていた | 大人 |
| 17 | ここは昔緑が沢山あった。Opatovを変えないで | 大人 |
| 1−2 | 昔は沼地、今はきれいな公園 | 大人 |

(1)　地域に対する要望や否定的なコメント、落書き、対象地域外の場所についてなど、本ワークショップの趣旨とは異なる記入がなされたカード 59 枚も含まれる。

(2)　実際に記入しているところを見たり、内容から大人が記入したと判断されるカードは 107 枚、小学生以下の子どもと判断されるカードは 165 枚であった。その他のカードについては親子で記入したものか、判断不明であった。

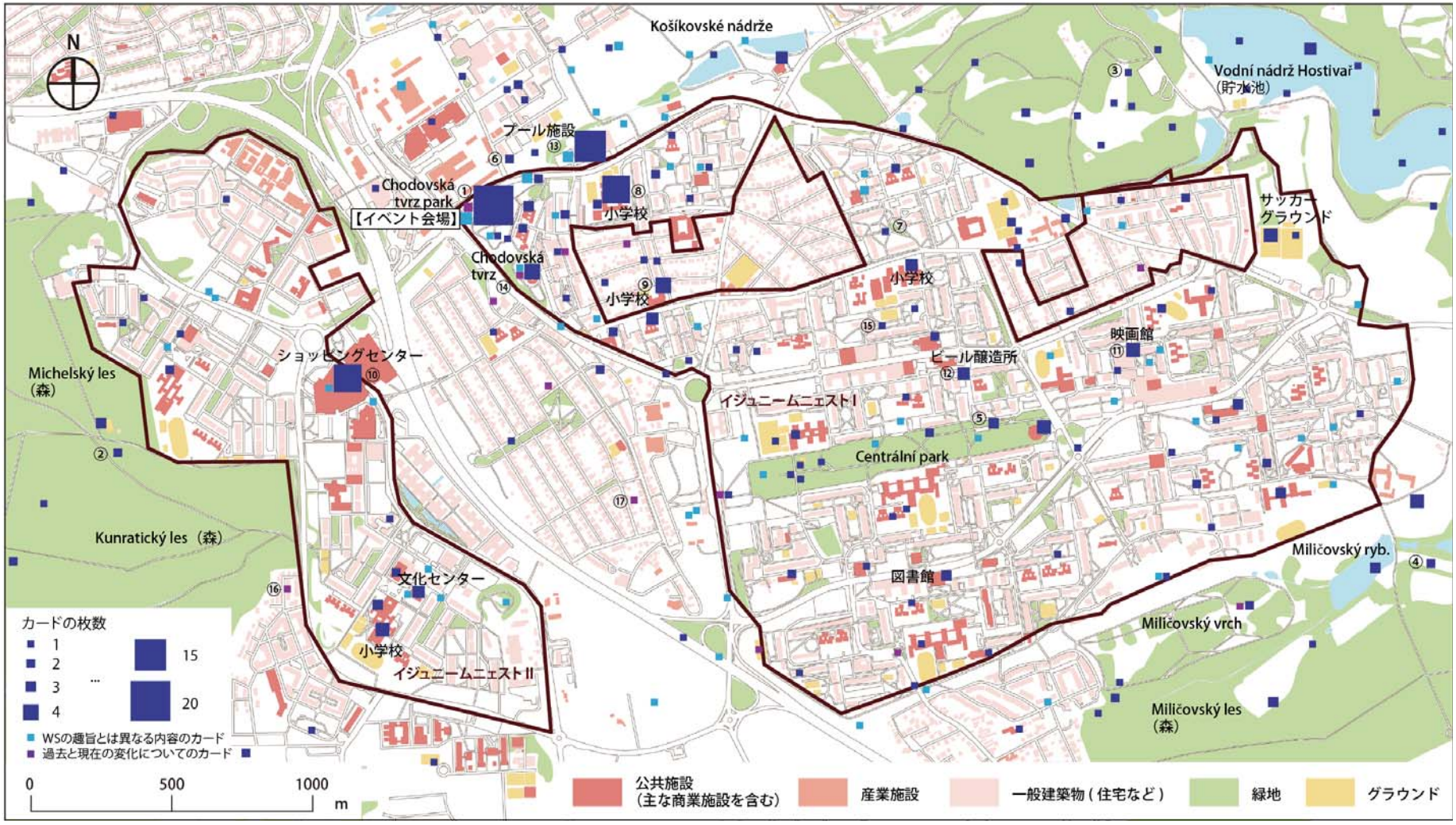



図 2　ワークショップで記入されたコメントカードの分布（図内の番号は表 1 と対応）

ついてのコメントは、その多くが自宅についてであった（表 1-15）。また、住宅開発地の変化について把握するために、今と昔の状況の変化について考えることも促した。このことに関するカードは 13 枚と限られていたものの、プラスとマイナス両方の変化が指摘されており（表 1-16、表 1-17、表 1-1-2）、これらのカードの内容からも緑地に対する関心の高さが伺える。

## 4　今後の展望

社会主義時代の住宅開発地は一般的に画一的といった言葉で語られることが多いが、住宅だけでなく、その周辺環境や住民の生活も含めて地域の魅力を探してみると、住民それぞれの視点から多様な指摘がなされることが示された。また、多くのコメントが集まった緑地や歴史的建造物などに対する評価の高さは、インタビューで得られた結果とも対応が見られた。学校については、インタビューでは家からのアクセス性の良さが指摘されたのに対して、ワークショップでは主に人間関係が魅力の理由となっていた。また、開発当初と現在の航空写真を見比べる住民の姿や、ガリバーマップを見に来た住民同士が会話する姿も見られ、プラハ 11 区住民が自身の暮らす地域について改めて考えたり、他者と意見を交わしたりする機会を提供できたのではないかと考えている。

# 付録

1　**Jižní Město** 住民インタビュー記録
2　**Ostrava-Jih** 地区住民インタビュー記録
3　プラハ **11** 区住民参加イベントのコメントカード一覧

## Jižní Město 住民インタビュー記録
## インタビュイー a

□日時

日にち：2013 年 10 月 22 日（火）

時間：13：00 〜 14：00

場所：Vidimova 通りの区役所

□基本情報

年齢：50 代

性別：女性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修無し

居住地区：JM II - Jih

**□インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）**

Ｔ：いつから現在のお宅にお住まいですか。

Ｉ：1985 年からです。

Ｔ：なぜ引っ越してこられたのですか。

Ｉ:ČKD（チェーカーデー）という会社からもらいました。チェコの機械メーカーです。主人と一緒に引っ越してきました。

Ｔ：それ以前はどこにおられたのですか。

Ｉ：出身は Jihlava で、そこには 19 歳までいました。就職のためにプラハに来ました。ČKD に勤めているときに主人と出会って、結婚しました。丁度子どもが生まれたときに、住宅をもらいました。主人は ČKD に 10 年間勤めると約束していました。今はもう働いていません。私は 85 年の春に引っ越してきて、84 年と 86 年に子どもが生まれました。84 年まで ČKD で、85 年からはプラハ 4 区の区役所で、91 年からここ、プラハ 11 区役所で働いています。

Ｔ：引っ越してきた当時よく行っていた場所はありますか。

Ｉ：Kunratický les（森）に一番よく行っていました。家族で散歩に行っていました。

Ｔ：買い物はどこでされていましたか。

Ｉ：ここですね（家の近くのスーパーを示して）。今は Lidl ですけど、昔は違うスーパーでした。

Ｔ：スーパーの近くにあるこの建物はなんですか（地図の Kult. centrum Zahrada を示して）？

Ｉ:これは文化センターですね。10 年前に出来ました。昔は幼稚園でした。こっちの小学校には息子が通っていました。娘はこっちの幼稚園に通いました。家から学校が近いのはメリットですね。病院も近いし。病院はここです（地図を示して）。ファミリードクターは引っ越して今はここにいます（地図を示して）。

Ｔ：お子さんが 84 年と 86 年に生まれたということは、もう社会人になられる頃だと思いますが、現在も一緒に住んでおられますか。

Ｉ：息子は一人暮らしをしています。運搬会社のボスです。娘は 4 年前にアメリカに行って、 1 か月前に結婚しました。夫はメキシコ人です。今は主人と二人暮らしです。ペットはいませんが、時々 Jihlava に住む母が飼っているネコの世話をします。プラハから 120km くらいのところです。

Ｔ：では、お子さんが小さいときに遊んでいた場所はありますか。

Ｉ：昔はあまり遊び場がありませんでしたね。ここだけ小さい遊び場があって（地図を示して）、あと家の前に砂場があったのと、Kunratický les の中に遊べる場所がありました。あと自然の動物園みたいな、動物がたくさんいるところがありました。

Ｔ：では、今は休日などどこに行かれますか。

Ｉ：文化センター（Kult. centrum Zahrada）によく行きますね。コンサートとか、写真クラブとか、展覧会があります。家から近いんですけど、行く人はかなり少ないですね。

Ｔ：行き始めたきっかけは何ですか。

Ｉ：10、11 年前に家の窓から新しい施設ができているのを見て、行ってみようかなと思いました。文化センターに行ってみたいですか？（※この後、文化センターの見学について日程調整、後日見学の約束）

Ｔ：他によく行く場所やご飯を食べに行く場所はありますか。

Ｉ：後は、学校の図書館にもよく行きます。あと、ここは大きな会社が集まっているところなんですけど、ここにある The Park はよく行きます。大体 9 時から 5 時までは人が多いですけど、その後は誰もいません。仕事から帰る時に通ります。それから、Chodovská tvrz。結婚式とか、コンサートがよく行われています。時々こっち（Chodov の JM 開発前からの

古い住宅地）に散歩に行きます。そこに Hajný さん（※ Zdeněk Hajný）のギャラリー（※ Cesty ke světlu）があるのですが、そこは展示会だけじゃなくてセラピーや心理学のセミナーなどのイベントがあります。Hajný さんの住宅の 2 階が美術館になっています。

Ｔ：それは散歩をしていて見つけたのですか？

Ｉ：Hajný さんが建物を建てるときに区役所に手続きに来たので、その時に知りました。それで行ってみようかと思いました。Hajný さんとは今は友人です。それから、Centrum Chodov でもクリスマスのコンサートとか、ファッションショーなどのイベントがあります。例えば今年の夏は、ダンスがテーマのイベントがありましたね。色んなイベントに参加するのが好きです。主人はあまり好きじゃないみたいですが。主人は住宅の管理をしていて（※ a さんのお宅は個人所有で、建物は個人組合が管理している。a さんのご主人はその組合の組長）、すごく忙しいです。

Ｔ：では、住宅の管理について住民の人から色んな意見を聞いたりされているのですか。

Ｉ：そうですね。住民の意見も違うことが多くて、例えば、エレベーターを修理することについて、1 階や 2 階の住民は使わないので、修理は必要ないという人がいたり、真ん中の階の人が屋根の修理が必要ないと言ったりすることがあります。色々な問題がありますね。住戸数は 105 戸あります。

Ｔ：ファサードの改修はされていますか。

Ｉ：改修に反対する人が多くて、改修はまだしていません。改修するお金を使って旅行に行きたいという意見がありました。主人に任せているので、私はあまり気にしていません。

Ｔ：では、住宅内部の改修はされましたか。

Ｉ：2 年前（2011 年）にキッチンを新しくしました。玄関から場所をとって、少し場所を広くしました。あと引っ越してから 8-10 年後に、壁紙を剥がして色を塗りました。それからバルコニーにガラスの窓をつけました。それも大体 8 年前です。

Ｔ：では新しくされたキッチンがお気に入りの場所ですか？

Ｉ：いえ、リビングが好きですね。

Ｔ：キッチンを改修されたということだったので、料理がお好きかなと思ったのですが。

Ｉ：料理を作るのは好きですね。でももう子どもがいないので。昔は家族のために作っていたので沢山作っていたのですが、今は少ししか作りません。ケーキを作ったりしていました。

Ｔ：では、今と昔を比べて変わったと思うところはどこですか。

Ｉ：昔はこっち（The Park があるオフィス地域）に何もなくて、子どもとよく遊びに行きましたけど、今はビルが沢山建ちましたね。昔ここにトウモロコシが植わっていたのを覚えています。あと、Chentrum Chodov ができる前にここにプールのための大きな穴があったのですが、結局ショッピングセンターができましたね。ビロード革命の後から大分変わってきました。それから、住宅の色が変わりました。バラバラじゃなくて、ブロックごとに色が同じなのに満足しています。

Ｔ：近所の人との交流はありますか。

Ｉ：隣の人と仲良くなりましたが、訪問したりとかはしません。挨拶くらいです。週末は大体みんな出かけるので、会う時間がありません。建物には大体 ČKD の人が住んでいます。大企業だったので。会社は Libeň にあって、そこまでは地下鉄で 1 時間くらいかかります。

Ｔ：では最後に、プラハ 11 区を知らない人に 11 区の良いところを 1 つ紹介するとしたら、どこですか。

Ｉ：一番は Kunratický les です。キノコ狩りもできます（※チェコ人にとってキノコ狩りはメジャーなイベント）。今は Jihlava に行くことが多いですが、昔はよく行っていました。あとは、Chodovská tvrz、文化センターとか。Klíč という雑誌（※プラハ 11 区区役所発行の雑誌）に色んなイベントが載っています。ここの小学校でも色んなコンサートがあります。プラハ 11 区以外に住んでいる人はここを悪くイメージしますけど、11 区に住んでいる人はかなり満足していると思います。私はこっちに来てから色んな人とやり取りをしましたが、そう感じています。

Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー b

□日時

日にち：2013 年 10 月 22 日（火）

時間：10：00 〜 11：00

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：女性

自宅の所有形態：個人所有 ( 賃貸 )

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Opatov - střed

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつ 11 区に引っ越してこられましたか。

Ｉ：2009 年に今の家に引っ越しました。11 区に来たのは 99 年からで、Pištěkova 通り（※ JM I 内の古い住宅地域）に住んでいました。その時はアパートじゃなくて一戸建てでした。2007 年から区役所で働いています。

Ｔ：2009 年に引っ越してこられたのはなぜですか。

Ｉ：離婚して引っ越しました。今は子ども 2 人と暮らしています。実は今日、息子の 1 人が誕生日なんです。12 歳になりました。もう 1 人は、今 9 歳です。

Ｔ：なぜこのアパートに住もうと思ったのですか。

Ｉ：子どもたちの学校が近くにあるからです。他にも住宅の候補はいくつかありましたが、他のところは 1 階だったりしたので、条件を比べて今のところにしました。今は 4 階に住んでいます。

Ｔ：引っ越してこられてから、よく行く場所、お気に入りの場所はありますか。

Ｉ：Centrální park と、家の前の公園によく行きます。子どもの遊び場があるので、子どもが小さいときによく行きました。サイクリングと、ローラースケートをしました。

Ｔ：サイクリングではどこまで行かれるんですか？

Ｉ：サイクリングロードを利用して、Hostivař とか、Šeberov とか。子どもが小さいときには、ベビーカーでよく行きました。

Ｔ：では、休日は何をして過ごされますか。

Ｉ：週末や休暇はプラハを出て旅行に行きます。例えば、チェコの北の方とか。

Ｔ：Háje には大きなバス停がありますが、旅行には利用されますか？

Ｉ：バス停には学校に行く子どもを送るために毎日行きますね。毎日バス停で見送ってから職場に行きます。実は、最近自動車を買って、今週の土曜日に届きます。でも、学校の近くに駐車場がないので、バスも使うと思います。自動車は大きな買い物と病院に行くときに使うつもりです。

Ｔ：病院は家の周りにもいくつかありますが、近くの病院には行かないのですか。

Ｉ：これは子どもの病院、こっちは自分の病院です（地図を示して）。大きい病院は無いので、Krč まで行きます。小さい病院は沢山ありますね。住宅の地階によく歯医者さんが入っています。

Ｔ：よく買い物に行くお店はどこですか。

Ｉ：一番は家から近い Billa ですね。あとは区役所から直接 Albert に行くし、半年に 1 回位は Lidl に行きます。あとは時々 Tesco に行きます。

Ｔ：半年に 1 回の買い物は何を買うんですか？

Ｉ：チェコのヨーグルトがここにしかないので。最近はスーパーより小さなお店を利用します。肉屋さんとか、魚屋さんとか。Opatov の駅にパン屋さんがあります。Háje の駅では肉と野菜、あと銀行もあります。

Ｔ：よく行くレストランはありますか。

Ｉ：レストランにはあまり行かないですね。でもここの中華料理かな。子どもに好き嫌いが多いので、家で自分で作る方が良いんです。

Ｔ：住宅の改修はいつされたのですか。

Ｉ：2009 年（※引っ越してきたとき）にはもう改修が済んでいました。いつ改修されたかは分かりません。あとで調べますね（※インタビュー後、調べていただいたところ、2005 年改修）。

Ｔ：引っ越し後に部屋の改修などはされましたか。
Ｉ:床を新しくしました。壁も新しく塗りました。もともと壁紙が貼ってあったのを剥がして､色を塗りました。寝室は紫、子どもの部屋はオレンジです。トイレなどはすでに改修済みでした。賃貸なので、改修するつもりはありません。
Ｔ：賃貸でも壁や床を塗ることはできるのですか？
Ｉ：塗るくらいは大丈夫です。管理しているところに連絡すれば問題ありません。
Ｔ：引っ越し後に近所の人との交流はありますか。
Ｉ：同じ住宅の人には知り合いはいませんが、隣の建物に同じ職場の人が住んでいて、子どもの小学校も同じです。自分から声をかけて友達を作るのは苦手なので、友達は大体職場の人か子どものお母さんですね。時々さびしく思いました。私はプラハ市外からこっちに引っ越してきたので、友達を作るのは大変でした。18 歳までは Jilemnice という、チェコの北の方にいて、18 歳の時に大学に行くためにプラハに来ました。
Ｔ：18 歳から 99 年にこちらにくるまではどこに住んでおられたのですか。
Ｉ：92 年から 98 年までは Strahov の寮に住んでいました。98 年は Dejvice のアパートに住んでいました。
Ｔ：では、それらと比較してプラハ 11 区はどうですか。
Ｉ：自然が多いのがいいですね。でもプラハ 6（Dejvice）も自然が多いところです。私はどこに住んでも大丈夫です。あまり気にしません。小さな田舎でも大きな町でも。最初は大学を出た後ここに残るつもりはなかったのですが、結婚したので残りました。離婚した時に実家に帰るか迷ったのですが、子どものためにはプラハの方が良いと思い帰りませんでした。将来的にはいつか引っ越すかもしれませんが、今はまだ分かりません。子どもが 18 歳になるまではプラハにいるつもりです。でも今は家賃払いなので将来的にはよくないですね。いつか実家に戻ると思います。
Ｔ：いつか引っ越されるかもしれないとのことですが、将来的に 11 区についてこうなってほしい、という理想はありますか。
Ｉ：Centrální park の改修が終わっていないので、終わってほしいですね。それから大きな病院もほしいですが、場所がありませんね。
Ｔ：では、今後も維持していきたいところはありますか。
Ｉ：自然は守っていきたいですね。あと小学校が沢山あるのも満足しています。でも中学校は 1 つしかありません。それから、お医者さんは 1 つに集めた方が良いと思います。
Ｔ：よくサイクリングに行くとのお話でしたが、冬はどうですか。
Ｉ：冬はあまり出かけませんね。でも Centrální park に小さい丘があって、冬には人工の雪が積もります。夏休みはプラハを出て旅行に行きます。1 か月くらいプラハを出ます。フランスとか、イタリアとか、ウクライナとか。元夫が地域の交通機関に興味があったので、地下鉄に乗ったりトラムに乗ったりしていました。
Ｔ：プラハ 11 区の中で引っ越しをされていますが、引っ越し後に行動範囲は変わりましたか。それとも以前と同じところに行っていますか。
Ｉ：昔はスーパーは家の近くの Albert に行っていたけど、今は変わりましたね。服とか靴は Chodov に買いに行きます。Centrum Chodov にお店がたくさんあるので。
Ｔ：地域のイベントには参加されますか。
Ｉ：区役所からよくイベントの情報が入るので、家に帰る時に公園のスポーツイベントに寄ったりしますね。
Ｔ：そういえば今朝区役所に来る前に駅前の広場で移動遊園地を見たのですが、あれも区役所が関係するイベントですか？
Ｉ：それは関係ないですね。区役所が場所を貸しているだけです。
Ｔ：では最後にプラハ 11 区のイチオシポイントを教えてください。
Ｉ：11 区内に Toulův Dvůr という動物のエコセンターがあるんですけど、そこでよく伝統的なパンの作り方を見せたりとか、色んなイベントが行われています。一番いい思い出があるのは、ここ（JM 北東部の緑地を示す）ですね。子どもが小さいときによくベビーカーで行っていました。色んな動物がいます。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー c

□日時

日にち：2013 年 10 月 22 日（火）

時間：9：00 〜 10：00

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：50 代

性別：女性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Háje - jih

**□インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）**

Ｔ：プラハ 11 区に引っ越してきた年を教えてください。

Ｉ：1979 年です。

Ｔ：何故引っ越してこられたのですか？

Ｉ：他に選択肢がなかったからです。当時住宅をもらうのは非常に大変だったので。当時は組合の建物でしたが、7 年前に購入しました。当時から区役所で働いていて、住宅は区役所からもらいました。区役所で 20 年働く約束をしていました。

Ｔ：引っ越してきた当時の家族構成を教えてください。

Ｉ：当時は一人で、その後結婚しました。78 年に最初の結婚、88 年に二度目の結婚をしました。

Ｔ：引っ越していた当初良く行っていた場所、お気に入りの場所はどこですか？

Ｉ：あまりなかったですね。緑なども何もなくて、行く場所がありませんでした。Milíčovský les（森）は当時からありましたね。Milíčovský vrch は何もなかったけど。いつ頃緑地ができたかは覚えていません。いつのまにかできていた。当時は仕事で Holešovice に行くことが多かったです。ここまでは地下鉄が伸びていなかったので、バスで Kačerov まで行って、地下鉄に乗って Florenc で乗り換えて、大体一時間くらいかかりました。

Ｔ：仕事場がここになったのはいつからですか？

Ｉ：2005 年からです。

Ｔ：88 年にご結婚されたということですが、その頃には 11 区の状況も変わっていましたか？

Ｉ：88 年と 90 年に子どもが生まれたので、生活が変わりましたね。散歩や遊びに行くようになりました。その頃には公園も出来ていました。Milíčovský les の湖でアイススケートをしました。

Ｔ：買い物や、お店については変化がありましたか？

Ｉ：ビロード革命後にはお店が沢山できましたね。それまでは服や靴のお店はなかったので、それらが欲しかったら町の中心部まで行っていました。日用品は近くで買っていました。Penny Market とか、Norma に行っていました。家から近いので。大きな買い物については、Šterbohly まで行っていました。Centrum Chodov ができる前にあった Růže というところにも行っていました。次がプラハの近くにある Průhonice、今は Šterbohly まで行きます。Chodov にはもう行きませんね。Šterbohly の方が慣れているので。

Ｔ：季節ごとの休日の過ごし方を教えてください。

Ｉ：サイクリングに行きます。Hostivařská、Přehrada、Kunratický les、Milíčovský les にも行きました。Průhonice や、ウルタヴァ川にも行けます。町の中心部から自転車をのせて地下鉄でこっちまで来て、遠くまでサイクリングに行く人もいますよ。冬は雪が積もれば Milíčovský les でクロスカントリースキーをします。夫と娘と息子と、家族みんなでします。

Ｔ：近所付き合いはありますか？

Ｉ：友達とまでは言えないけど、階段で挨拶くらいはします。

Ｔ：映画館などの娯楽施設には行きますか？

Ｉ：Galaxie（※プラハ 11 区にある映画館）には行ったことがありません。息子は良く行っていますけど、私は映画は好きではないので。劇場には良く行きます。プラハの中心部まで行きます。

Ｔ：住宅の外観改修については、住宅購入後にされたのですか？

Ｉ：4、5 年前（住宅購入後）にしました。その時新しい窓と、エレベーターもつけました。すべて個人組合で一緒にや

りました。
Ｔ：外観の色も個人組合で決めたのですか？
Ｉ：ここの住宅は 2 つ個人組合があって（※連続する 6 棟のうち 3 棟ずつを地図で示す）、もう 1 つの組合の方が先に青に決めたので、それに従ってこっちも青にしました。あまり誰も気にしませんでした。きれいになればそれで良いです。そういえば、ここにゴミ捨て場があるんですが、他の住宅の人がゴミを捨てに来るのが問題です。彼らも自分たちのを持っているんだけど、少し遠いのでこっちに捨てに来きます。自分たちのゴミ捨て場を使ってほしい。
Ｔ：自宅を購入されたということですが、部屋の改築はされていますか？
Ｉ：この建物は１２階建てなので、駐車場が足りないのが問題ですね。駅の近くに駐車場があるんですけど、うちの家族は２台車を持っているので少し大変です。
Ｔ：引越し当初は何もなかったとおっしゃっていましたが、良くなったところはありますか？
Ｉ：環境がきれいになりました。ビロード革命の前はどこも汚かったです。
Ｔ：では、プラハ 11 区の中で今一番気に入っているのはどこですか？場所じゃなくてもかまいません。
Ｉ：お気に入りの場所はないですね。もう慣れてしまっているので。
Ｔ：将来的に残していきたいところはありますか？
Ｉ：これ以上他の住宅を建てないでほしいですね。人が多いと感じています。
Ｔ：では、これからもっとこうしたい、あるいはしてほしいということはありますか？
Ｉ：レストランとか、特に喫茶店、ケーキ屋さんがほしい。Galaxie の近くにあるイタリアンはあまりよくないですね。ここのイタリアンのレストラン（PALATINO）は、おしゃれで結構いいです。でも、イタリアン以外のお店もほしい。
Ｔ：あと、聞きそびれたのですが、犬はいつ頃から飼い始めたのですか？
Ｉ：3 年前からです。これぐらいの小さい犬です（手で示して）。チワワです。
Ｔ：散歩には行きますか？
Ｉ：行きますよ。この辺と、この辺（地図で 11 区役所の裏の緑地と、Milíčovský les の北側の部分を指して）。小さい犬なので、長時間散歩する必要はないです。
（来客により一時中断）
Ｔ：お子さんの学校は近くですか？
Ｉ：小学校はここ、幼稚園はここです（地図を指して）。近くて良いです。秋に、幼稚園の落ち葉の掃除を保護者が手伝います。幼稚園の先生と友達になって、子供たちも一緒にサッカーをしましたね。子どもが学校に行くときに、いつも窓から「気をつけてね」といって送り出していました。元々は若い人が多かったので、幼稚園も多かったですね。この区役所も、昔は幼稚園でした。今はみんな年をとって、小さい子どもが少なくなったので幼稚園も減りました。ビロード革命の後はお店の数は増えてきましたね。
Ｔ：革命後、住宅の 1 階に小さなお店が入るようになったと聞いたのですが、そのようなお店には行かれますか？
Ｉ：昔隣の建物にあったんですけど、今はなくなりました。コンビニのような小さなお店があって、隣の建物とはつながっていて外に出なくていいので、スリッパで買い物に行ったりしていましたね。
Ｔ：じゃあ、無くなってちょっと残念ですね。
Ｉ：残念ではないですね。新鮮なパンなどちょっとしたものがほしかっただけなので。お店が多いので、競争が激しいです。
Ｔ：では、最後に地域で一番思い出に残っていることとか、ここが一番いい、というポイントを教えてください。
Ｉ：うーん、あまりわかりませんね。
Ｒ：例えばクリスマスのイベントで駅の前にツリーが飾られるとか。
Ｉ：Háje の駅前にツリーが立っていて、クリスマスの屋台もありますけど、そんなに良くないですね。…やっぱり、わからないです。最初はあまり好きではありませんでした。こっちに引っ越してきた時ここはひどくて、住み続けたくないと思っていたけど、引越しのチャンスがなかったのでずっと住み続けてきました。
Ｔ：私もパネルストーリーという DVD を見たんですけど、開発当時工事がなかなか進まずに大変だった様子が良くわかりました。

Ｉ：当時は何もなかったですね。道路はいっぱいありました。
Ｔ：当時に比べたら今は大分良くなりましたね。
Ｉ：木も大きくなりましたしね。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー d

□日時

日にち：2013 年 10 月 22 日（火）

時間：14：00 〜 15：00

場所：Vidimova 通りの区役所

□基本情報

年齢：50 代

性別：女性

自宅の所有形態：協同組合

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM U tvrze

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつプラハ 11 区に引っ越してこられましたか。

Ｉ：1981 年です。

Ｔ：引っ越してこられた理由は何ですか。

Ｉ：父がスロバキアから転勤になったからです。軍隊に勤めていて、国民の住宅として支給されました。

Ｔ：その時の家族構成を教えてください。

Ｉ：父、母、弟、自分の 4 人です。

Ｔ：81 年以降ずっとこの住宅に住み続けておられますか。

Ｉ：両親はずっと住んでいました。私は 89 年から 96 年にかけてスロバキアに行っていました。

Ｔ：引っ越してきた当時のことで、印象に残っていることは何ですか。

Ｉ：一番強く印象に残っているのは、「グレー」だったことです。何でもグレーでした。建物の色だけじゃなく壁もグレーで、床は黄色でした。

Ｔ：建物以外の周辺についてはどうですか。

Ｉ：この建物（地図で 1744 を示して）は無かったですね。あと、こっちの駐車場（地図を示して）のコンクリートの隙間から植物が生え始めたのが印象に残っています。蚊とかもいました。それから昔ここに穴があって、母が落ちたことがありましたね。怪我などはしませんでした。あと、買い物は、一番近いお店のここ。でも当時は Tesco じゃありませんでした。

Ｔ：当時、休日は何をされていましたか。

Ｉ：スキーや水泳をしました。後は、バスや自転車で出かけたり。Košíkovské nádrže でアイススケート、vodní nádrž Hostivař で水泳、Kunratický les（森）で散歩をしていました。

Ｔ：96 年にこちらに戻ってこられたとのことですが、プラハ 11 区でお仕事を始めたのはいつからですか。

Ｉ：98 年からです。でも、その間も両親がいたので時々来ていました。

Ｔ：戻ってこられてからまちの印象は変わりましたか？

Ｉ：建物の再生が始まっていましたね。ファサードの色も変わり始めました。入口の郵便受けなどもきれいになりました。

Ｔ：公園やお店はできていましたか。

Ｉ：戻ってきた時には子どもが 2 人いて、公園に散歩に行っていました。Chodovská tvrz の公園がきれいになっていました。個人的に好きなのは昔の古い建物で、ここの小学校は昔の Chodov のものが残っています。あとはリラックスできる場所が増えました。

Ｔ：お子さんとよく行っていた場所は公園以外にもありますか。

Ｉ：Chodovská tvrz とか、文化センター（Kult. centrum Zahrada）に行きましたね。あと、冬はアイススケート。

Ｔ：今もお子さんと一緒に住んでおられますか。

Ｉ：一緒に住んでいます。父は亡くなりました。母は一年のうち半年をモラビアで、半年をこちらで暮らしています。主人はスロバキアに住んでいるので、今は 3 人で暮らしています。

Ｔ：では、今よく行く場所はどこですか。

Ｉ：昔は工場だったところで、室内で壁のクライミングができる場所 (Free Solo Lezecká stěna) があるんですが、子どもがそこに行っています。そこにあるレストランもおすすめです。後、ここ (Jihoměstský pivovar) も昔は工場（※集中暖

房施設と思われる）だったけど、今はビール醸造所になっています。それから、ここの小学校は 100 年前に建てられたんですけど、今は再生されて環境がすごく良くなっています。雰囲気がいい。それから、新しい遊び場がいろんなところに出来ました。ここ (Chodovská tvrz の公園 ) にはミニゴルフ場もあります。私は犬を飼っているので、よく散歩に行きます。犬は 2 年前から、雑種を 1 匹飼っています。犬の糞の問題はありますね。糞を掃除する特別な機械があるんですけど、それは Jihoměstská majetková a.s. が管理していて、プラハ 11 区役所がお金を出しています。で、その機械が面白いですね。あとは、Centrální park もよく行きます。右半分はできていますが、左半分はまだ未完成で泥だらけです。

Ｔ：では、先ほどレストランの話が出ましたが、他にもよく行くレストランはありますか。

Ｉ：映画館のところも行くし、PALATINO（イタリアンレストラン）も好きです。

Ｔ：ここのレストランは結構家から遠いと思いますが、どうやって知られたのですか？

Ｉ：家から 1km くらいですね。広告を見て知りました。時々自転車にも乗りますが、サイクリングより水泳の方が好きです。大体 Milíchovský les とかに行きます。Kunlatický les の方は丘だからあまり行きません。でも Kunlatický les の中にもいいレストランがあります。あと、職場にいるとき、お昼に時々 Milíčov に散歩に行きます。散歩コースはこう（地図で示す）。ここには羊や馬がいます。小さな動物園で、子どもの教育に使われます。馬は警察が使っています。

Ｔ：仕事場（区役所）まではどうやって通っていますか。

Ｉ：行きは車で、帰りは歩いて帰ります。歩いて大体 30 分くらい。

Ｔ：長く住んでおられますが、近所にお友達はいますか。

Ｉ：隣に住んでいる人は友達です。あと、子どもと同じ小学校の友達の両親。住宅に住んでいる人は結構引っ越したりして変わっていますね。

Ｔ：住宅のファサード改修はいつ頃されたのですか。

Ｉ：4、5 年前にオレンジになりました。色は自分で決めることができなくて、区役所が決めました。満足していない人も多いです。例えば、ある建物の色はピンクなんですけど、ピンクは同性愛者の色でイメージが良くないとか。外観の改修については組合が決めましたが、壁の色は自分で変えました。白と、アプリコット。あとは窓も新しくしました。バルコニーも最初はコンクリートだったけど、カーペットを敷きました。今は花や石を飾っています。室内の改装は全て 5 年前にしました。

Ｔ：ご自宅に色々手を加えていらっしゃいますが、今後も 11 区に住み続けたいとお考えですか。

Ｉ：ずっと住み続けたいですね。子どももかなり気に入っています。

Ｔ：他の人に 11 区の中を紹介するならここ、というイチオシのところはありますか。

Ｉ：Chodovská tvrz の公園がきれいですね。あと Free Solo Lezecká stěna（壁のクライミングができる施設）。それから、この Tererova 通りの住宅は、改修するときに住んでいた人が引っ越しをせずに、建物の壁を切って長くする（※詳細不明）という特別な方法で改修しました。

Ｔ：では、将来的にプラハ 11 区に対してこうなってほしい、というような希望を教えてください。

Ｉ：歩道を改善してほしいです。緑は満足しています。あと、ここととここに老人ホームがありますが、高齢化しているのでもっと増やしてほしい。ここの病院 (poliklinika Opatovská) は外観が面白いです。それからここの学校（Podnikatelská akademie）の壁が赤いのが、最初は変だと思っていたけど、子どもが満足していたので今は気に入っています。太陽エネルギーが使われています。

Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー e

□日時

日にち：2013 年 10 月 24 日（木）

時間：10：30 〜 11：30

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：女性

自宅の所有形態：プラハ市（11 区管理）（賃貸）

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Litochleby

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつから現在のお宅にお住まいですか。

Ｉ：今年の 3 月からです。

Ｔ：それまではどこにお住まいでしたか。

Ｉ：プラハ 4 区の Krč に住んでいました。その前は Kladno、さらにその前はプラハ 13 区の Stodůlky にいました。

Ｔ：では引っ越しの理由を教えてください。

Ｉ：仕事の都合です。区役所からアパートをもらいました。アパートを欲しい人は申し込みをするのですが、沢山申し込む人がいるのでもらうのは難しいです。

Ｔ：以前 Stodůlky に住んでいらっしゃったとのことで、そちらも社会主義時代の住宅地ですが、そこと比べて 11 区はどうですか。

Ｉ：Stodůlky の方がきれいですね。

Ｔ：では、今の家族構成を教えてください。

Ｉ：一人暮らしです。ウサギを飼っています。

Ｔ：ウサギと一緒に外で遊ぶことはありますか。

Ｉ：まだ小さいので外は危ないですね。犬が多いですから。

Ｔ：では、引っ越して来られてから間もないですが、よく行く場所はありますか。

Ｉ：プラハ 11 区以外に行きますね。Ševerov によく行きます。サイクリングをします。

Ｔ：買い物はどうですか。

Ｉ：家からよく行くのはここの Albert( 建物番号 1599) で、仕事のお昼休憩に行くのはこっちの Albert( 建物番号 757) ですね。仕事場から近いので。あと Tesco Jysk にも行きます。クーポンが使えるので Albert に行くことが多いです。

Ｔ：サイクリングに行かれるというお話がありましたが、11 区の周りの森などには行きますか。

Ｉ：夏に vodní nádrž Hostivař で水泳をしました。それから、彼氏が Modřany に住んでいるので Kunratický les のサイクリングロードを通ってそこまで行きます。自転車に乗るのが好きですね。

Ｔ：では、まだ住み始めたばかりですが、近所の方と挨拶するなどの交流はありますか。

Ｉ：時々エレベーターで話をするくらいです。友達とまではいきません。

Ｔ：では、コンサートなどのイベントに参加されたことはありますか。

Ｉ：文化センター（Kult. centrum Zahrada）で、仕事に関係のあるセミナーがよくあります。あとは仕事とは関係ないですけど映画館 (Cinema City Galaxie) にも行きました。1 回だけですけど。

Ｔ：1 回だけ、というのは、映画館があまり良くなかったのですか。

Ｉ：大体友達と町の中心部に行くことが多いです。Háje まで来てもらうのは大変なので。

Ｔ：今住んでいる住宅のファサードは改修していますか。

Ｉ：改修はされていますが、引っ越し前でいつのことかは分からないですね。壁の色の塗り替えはしました。もともとは白い壁だったのに色をつけました。

Ｔ：今後、プラハ 11 区に住み続けたいとお考えですか。

Ｉ：仕事を続けるなら住み続けたいですね。

Ｔ：では、今まで色々なところに住んでおられますが、どこに住みたいというこだわりはありますか。

Ｉ：将来はあまり大きな住宅地には住みたくないですね。プラハ以外の小さな町がいいです。
Ｔ：では、病院などの施設は 11 区内にありますか。
Ｉ：病院は Krč にあります。
Ｔ：レストランには行かれますか。
Ｉ：Háje の駅にある中華料理屋に行きますね。あとは Pražanka（※レストランの名前）。
Ｒ：Pražanka には私たちも行きました。量が沢山出てきますよね。
Ｉ：お昼ご飯がそのまま夜ご飯になりますね。
Ｔ：では、将来こうなってほしいなど、プラハ 11 区に対する希望はありますか。
Ｉ：Centrální park をきれいにしてほしいですね。木も全然植えられていないので。
Ｔ：今は休日などあまり 11 区内で過ごされることはないようですが、もっとこういう場所がほしい、などはありますか。
Ｉ：うーん、そうですね…。環境には大体満足していますが、友達がいるので中心部に行くことが多いです。
Ｔ：では、地下鉄やバスなど交通機関は利用されますか。
Ｉ：自動車はもっていません。地下鉄よりバスの方が好きですね。急ぐときは地下鉄を使いますが、あまり好きではありません。
Ｔ：では、11 区の中で好きな景色はありますか。
Ｉ：11 区より Severov の方がきれいですね。
Ｔ：では最後に、他と比べて 11 区の売りになるポイントはどこだと思いますか。
Ｉ：うーん…（考え込む）。…Chodovská tvrz ですね。近くに公園もあるしレストランもあります。
Ｔ：ちなみに、今まで住んできた中でどこが一番良かったですか。
Ｉ：Stodůlky ですね。Jižní Město よりかなり小さい住宅地で、プラハの郊外にあります。11 区と比べて高い建物が無いのがいいです。建物がサークル状に並んでいて真ん中に広場があるんですけど、こういうまっすぐじゃない並び方が良いと思います。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー f

□日時

日にち：2013 年 10 月 23 日（水）

時間：9：00 〜 10：00

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：男性

自宅の所有形態：個人所有（賃貸）

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Opatov - sever

**□インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）**

Ｔ：いつプラハ 11 区に引っ越してこられましたか。

Ｉ：1978 年です。住宅地はまだ開発中でした。地下鉄もありませんでした。

Ｔ：引っ越しの理由を教えてください。

Ｉ：家族と一緒に引っ越してきました。大きいアパートに住みたかったので。プラハ 11 区が好きです。元々はあまりイメージが良くなかったのですが、良くなっています。昔は普通の住宅というより寮という機能がありました。労働者の人たちが住むような。以前はプラハ 6 区、その前はプラハ 5 区に住んでいました。引っ越してきたときは 1 歳だったので良く覚えていませんが。引っ越してきてからはずっと 11 区に住んでいます。

Ｔ：ご結婚や就職など、生活の変化があった年を教えてください。

Ｉ：結婚はしていません。仕事は 99 年から始めました。

Ｔ：子どもの頃遊んでいた場所を教えてください。

Ｉ：生まれたときはここ（地図を示して）に住んでいました。今の家に引っ越したのは一年半前です。ここの砂場で遊んでいました。もともとは砂場だけでしたけど、今はもっと整備されています。

Ｔ：ご両親とよく出かけたところはありますか。

Ｉ：覚えていませんね。昔は公園なんかもあまりできていませんでした。

Ｔ：通っていた幼稚園を教えてください。

Ｉ：ここ（建物番号 1610）です。昔は全部幼稚園でしたが、今は半分病院になっています。小学校はこっち（建物番号 1554）。元々小学校と幼稚園は区役所から指定されましたが、最近は子どもの数が増えていて、幼稚園が少ないので子どもを入園させるのが大変です。ビロード革命の前は小学校なども自由に選べませんでした。

Ｔ：小学校の頃はどこで遊んでいましたか。

Ｉ：この辺（Sportovní hala JM、小学校の隣を示して）ですね。今はスポーツセンターですけど、昔は運動場でした。それからここの広場。学校からの帰り道だったので。あとは、ここ（JM I 北東部の緑地）。学校から 10 分くらいで行けます。学校で教育施設の見学などにもいきました。自然センターみたいな。vodní nádrž Hostivař にも泳ぎに行きました。その頃は水もきれいでした。

Ｔ：では、中学校・高校の時によく行ったり、買い物をした場所を教えてください。

Ｉ：高校はプラハ 6 区にありました。買い物はここ（Albert、建物番号 1599）と、ここ（現在駐車場施設、建物番号 2236）も昔はお店でした。それから Opatov の商店街。遊びに行くのは 11 区以外に行くことが多かったです。

Ｔ：大学生のころはどうですか。

Ｉ：うーん。（ＪＭ全体の地図を広げて）こっちが Jížní Měst I、こっちは Jížní Měst II で、II の方が新しく開発されました。I が 76 年からで、II は 88 年から。で、ここ（I と II の真ん中）が一番古い Chodov です。大学時代は色んなスポーツをしました。例えばボーリングとか。あとはレストランに行ったり。

Ｔ：おすすめのレストランはありますか。

Ｉ：Háje にあるスポーツバーと、こっちのビール醸造所（Jihoměstský pivovar）。誰かが工場を買ってビール醸造所にしました（※区役所の施策として行われた）。

Ｔ：生まれてから今までで、変わったなと思うことはありますか。

Ｉ：サービスや病院など、何でもそろった独立した地域になりました。プラハの中心部に行く必要がなくなりました。こっ

ちからサイクリングもできるし、電車やバスを使わなくても自転車や徒歩で中心部へ行けます。高級なレストランはないですけど、ふつうのレストランならあります。レストランは家から近くて便利です。まちの中心部に行ったら、夜は大体タクシーに乗らないといけません。夜はちょっと危ないですね。泥棒とか。まあ全体的に言えば状況はだんだん良くなっています。

Ｔ：住宅については改修に関わったりしましたか。

Ｉ：今住んでいるところは賃貸なので改修はできません。元の住宅は住宅協同組合のものでした。元の住宅の方では壁を塗るのと、床を新しくしました。それからパイプの交換と、トイレも新しくしました。

Ｔ：それらの改修に対して意見を述べたりされましたか。

Ｉ：言いましたね。お金は 60％が組合、40％を家族が負担しました。床の色なんかは自由に選べましたが、素材は組合が決めました。組合のメンバーの半分以上が賛成なら改修できる、というのは法律で決まっています。今の住宅も壁は塗りました。あとは新しい家具を入れました。

Ｔ：今後も住み続けたいとお考えですか。

Ｉ：小さいアパートなので、将来的には引っ越したいと思っています。でも 11 区には住み続けたいです。愛着を持っていますので。私は実際にここに住んでいるので、他の区役所の人と考え方が違うと思います。

Ｔ：家以外にも、地域の中で愛着を感じる場所はありますか。

Ｉ：とくにレストランが好きですね。それから、vodní nádrž Hostivař。冬はアイススケートもできます。時々混んでいます。プラハ市外に出かけることもかなり多いです。

Ｔ：では、将来的にこうなってほしい、という希望はありますか。

Ｉ：緑を増やしてほしいです。それから歩道を修理してほしい。あと、歩道に防犯カメラをつけてほしい。場所によってはカメラが付いていますが、もっと増やしてほしいと思います。Chodov とか、Centrální Park、Háje の駅なんかには設置してあります。それは警察がチェックしています。それから、この辺（Výstavní 通りと Opatovská 通りの交差点）もありますが、まだ足りないと思っています。

（来客により一時中断）

Ｔ：歩道の修理というのは具体的には。

Ｉ：歩道ができたのが 30 年前なので、だんだん老朽化してきています。

Ｔ：長く住み続けておられますが、近所の方とのお付き合いはありますか。

Ｉ：殆どの人の顔は分かります。何人かは挨拶したり雑談したりもします。その人の性格によります。時々訪問したりもします。職場の知り合いも沢山います。歩いていて声をかけられることもあります。全然知らない人と天気の話など世間話をすることもあります。

Ｔ：最後に、プラハ 11 区のおすすめのポイントを教えてください。場所じゃなくてもかまいません。

Ｉ：じゃあビール醸造所のビール。あと Chodovská tvrz。

Ｔ：Chodovská tvrz がおすすめの理由は。

Ｉ：理由は特にないですが、良いです。時々コンサートに行きます。仕事の関係で。でもクラシックはあまり好きではありません。あとは Centrální Park。

Ｒ：夜は危なくないんですか。

Ｉ：右側（東）は大丈夫です。左（西）は少し危ないかもしれません。Kunratický les は危ないですね。あと住宅の間とか。

Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー g

□日時

日にち：2013 年 10 月 24 日（木）

時間：12：00 〜 13：00

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：女性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Opatov - sever

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：プラハ 11 区に引っ越してこられた年を教えてください。

Ｉ：1979 年です。ずっと今の家に住んでいます。

Ｔ：なぜ引っ越してこられたのですか。

Ｉ：両親と一緒に引っ越してきました。もともと田舎に住んでいたのですが、田舎の一戸建てが駄目になったのでこっちの家をもらいました。

Ｔ：ご両親の仕事場が 11 区だったのですか。

Ｉ：仕事とは関係ありませんでした。母は専業主婦で、父は電気製品の会社に勤めていました。

Ｔ：兄弟姉妹はいますか。

Ｉ：兄が 1 人います。

Ｔ：では、通っていた幼稚園と小学校を教えてください。

Ｉ：幼稚園はプラハ 5 区の Jinonice、小学校はこっちです（地図を示して）。

Ｔ：小学校の頃はどこで遊んでいましたか。

Ｉ：一番はこの公園ですね。あとは、今 Centrální Park になっているところが工事現場だったのでそこで遊んでいました。コンクリートとか、色んな建築資材が沢山あったので。変な遊び方ですが、他に遊び場が無くてしょうがなく。コンクリートを回すタンク？の中で遊んでいました。

Ｔ：では、高校はどちらに行っていましたか。

Ｉ：プラハ 3 の Žižcov の学校に行っていました。それから、夜間学校としてプラハ 8 の Florenc。

Ｔ：その頃プラハ 1 1 区の中でよく行っていた場所はありますか。

Ｉ：ここ（現 Albert）に Start というお店がありました。あとこっち（現 Tesco jysk）に Signal というお店。

Ｔ：その頃は公園などの工事は終わっていましたか。

Ｉ：Centrální Park は 90 年まで工事していましたね。子供のころは緑が全然ありませんでした。

Ｔ：周辺部の森には行かれていましたか。

Ｉ：Bohúňova 通りに昔郵便局があって、そこから直接 Milíchovský les（森）に行っていました。小さいころは Milíchovský les で、少し年をとってから、高校生くらいの頃は Kunratický les（森）に煙草を吸いに行っていました。子どもが生まれてからはこっち（JM I 北東部の緑地を示して）ですね。娘がいて、今は 18 歳です。今は主人と一緒に行くことがあります。分けるなら、ここ（Milíchovský les）が子ども時代、ここ（Kunratický les）が高校時代、ここ（JM I 北東部の緑地）はデートと結婚後。

Ｔ：それぞれ違う緑地に行っていたのは理由があるのですか？

Ｉ：昔は母と郵便局によく行っていて、高校のときは彼氏が Kunratický les の近くに住んでいたので。今行くところにはバーベキューができる場所があったり、動物がいます。カモとか。

Ｔ：今、他によく行くところはありますか。

Ｉ：とくにありませんね。

Ｔ：では休日は何をされていますか。

Ｉ：プラハ以外に旅行に行きますね。

Ｔ：今買い物に行く場所はどこですか。

Ｉ:仕事帰りに行くのはここ ( 地下鉄 háje 駅近くの Albert を示して)です。あとはここ(Brandlova 通りの Albert を示して)も、家から近いので行きますね。
Ｔ：両方 Albert ですね。買い物チケットですか？
Ｉ：そうですね。使っています。
Ｔ：ではよく行くレストランはありますか。
Ｉ：PALATINO ですね。たしかこの辺…
Ｔ：ここですよね？　昨日私たちも食べに行ったんですが、美味しかったです。
Ｉ：そうそう、ここです。時々ピザを注文します。
Ｔ：では、これまで暮らしてきて 11 区で変わったなと思うことは何ですか。
Ｉ：建物の色が変わったこと、緑、自然が多くなったこと、お店やレストラン、映画館が増えたこと、ですね。建物の 1 階にも小さなお店ができました。
Ｔ：小さいお店には行きますか？
Ｉ：時々行きます。肉屋とか、何でもあるベトナム人の店、日用品のお店、文房具のお店、洋服のお店にも ( それぞれの場所を地図で示す )。大きいお店は好きじゃないので。人が多すぎて。ショッピングセンターには必要な時しか行きません。あとは、旅行のための道具などはプラハ 11 区以外のところに行きます。
Ｔ：長く住んでおられますが、近所に知り合いはいらっしゃいますか。
Ｉ：私が個人組合の組合の長をしているので、そういう理由で近所の人とやりとりがあります。
Ｔ：組合長をされているのですね。では、自宅のファサード改修のことなど教えてください。
Ｉ：家は 1979 年に建てられました。新しい窓とファサード、屋根、水道とガス管の修理をしました。窓が 2004 年、他の改修は窓の後だから 2004 年から 5 年の間、2006 年には終わっていました。これからエレベータと、ドアのチップ（鍵の代わりにカードを使うシステム）の改修を 5 年以内にやりたいです。
Ｔ：外観の色は周辺の建物と合わせるというお話を聞いたのですが、g さん（インタビュイー）のお宅もそうですか？
Ｉ：そうですね。ピンクとオレンジです。大体満足しています。
Ｔ：住宅改修について住民の方からの意見などはありましたか。
Ｉ:その頃は家賃を払っていたので意見は出せませんでした。自宅を所有したのは今年（2013 年）からで、組合長になったのは 5 月からなのでまだ素人です。
Ｔ：自宅を所有されてから室内の改修などはされましたか。
Ｉ：お金がないですね。まずは新しいエレベータにするためにみんなで 500 万チェココルナ貯めないといけません。個人の改修はその後ですね。キッチンとバスルームは 2006 年に改修しました。
Ｔ：プラハ 11 区で働き始めたのはいつからですか。
Ｉ：2009 年 2 月からです。
Ｔ：ご主人と結婚されたのは。
Ｉ：2010 年です。
Ｔ：今後プラハ 11 区に住みたいとお考えですか。
Ｉ：将来的にはプラハ以外のところに住みたいです。物価が高いし、環境がよくないので。
Ｔ：では、将来的にプラハ 11 区でこうなってほしい、ということはありますか。
Ｉ：すべてにありますね。まあ、人が多すぎるので、少ない方がいいです。混んでいる感じがしますね。
Ｔ：では、残していきたいところは。
Ｉ：一番は緑ですね。後は住宅を一戸建てに変えたい。家の中にいて、近所の人が騒いだり泣いたりするのが何でも聞こえるので問題です。
Ｔ：地域のイベントには参加されますか。
Ｉ：あまりしません。あまり興味が無いですね。
Ｔ：プラハ 11 区の中で好きな眺めとか、景色はありますか。
Ｉ：自分の家が 11 階なので、窓からの眺めがいいですね。Čestlice まで見えます。

Ｔ：では、プラハ 11 区の中で一番好きなもの、場所などを選ぶとしたら何ですか。
Ｉ：11 階からの眺めですかね。とくに好きな場所は無いですね。でもまあ大体満足しています。娘が大学を卒業するまではここにいる予定です。プラハ中心部と比べればこっちの方が良いです。具体的には、例えば自動車が少ない、とかですかね。
Ｔ：ではご自身でも自動車には乗られませんか。
Ｉ：大体地下鉄で行きますね。バスもいいですけど、あまり使いません。職場や学校には歩いてきます。主人は地下鉄を使っています。
Ｔ：ペットは飼っていらっしゃいますか。
Ｉ：（写真を出して）ネコを 3 匹。あとヘビと、カメ。ヘビの名前は Natalie Oreiro（※南アメリカの有名なドラマの主人公の名前）。カメは 18 歳で、名前は Mája（※チェコの有名な歌手 Karel Gott の歌の名前）。
Ｔ：ペットと、多分ネコだと思いますが、外に出かけることはありますか。
Ｉ：外には出ないですね。ペットはみんな家族のメンバーみたいな存在です。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー h

□日時

日にち：2013 年 10 月 21 日（月）

時間：11：00 〜 12：30

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：60 代

性別：男性

自宅の所有形態：協同組合

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Háje - jih

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中（筆者）、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：プラハ 11 区に引っ越してきた年を教えてください。

Ｉ：1979 年です。34 年前。

Ｔ：その時から区役所で働いていたのですか？

Ｉ：ずっと区役所で働いていました。この仕事が好きです。

Ｔ：引っ越してきた時の家族構成を教えてください。

Ｉ：自分、妻、息子の三人です。引っ越してきた後、娘が生まれました。

Ｔ：娘さんが生まれたのはいつですか。

Ｉ：81 年です。息子は 77 年。

Ｔ：引っ越してきた理由は何ですか。

Ｉ：仕事のためです。区役所から家をもらいました。元々は Smíchov の区役所で働いていて、11 区に来ました。

Ｔ：引っ越してきて、良いと感じたところは何ですか？

Ｉ：まず、高速道路が近いことです。両親の夏の chata まですぐに行ける。それから、幼稚園が近いので、子供を見守ることができます。幼稚園はここです（地図で示す）。それから、Milíčovský vrch（森）で子どもと遊んでいました。昔はこの辺にはあまり遊び場がなかったので、ここまで行きました。

Ｔ：当時買い物はどこでされていましたか。

Ｉ：Opatovská 通りに当時お店がありました。それから、土曜日と日曜日には Pražanka というレストランに行っていました。週末、料理を作りたくない時に。場所はここです（地図で示す）。今もありますよ。今はちょっと高級なレストランになりましたけど…。

Ｔ：今でも行かれます？

Ｉ：今でも行きますよ。

Ｔ；引っ越してから、生活環境の変化はありましたか。

Ｉ：地下鉄ができたことが変わりました。83 年に Háje まで地下鉄が延長されたのが大きな変化でした。それまでは Budějovická 駅で降りて、そこから Háje まではバスでした。でも、5 分おきにバスが来ていたので問題はありませんでした。それから、昔はすべての建物が灰色だったので、たまに自分の家の入り口を間違えることもありました。友達が家に遊びに来るときに、場所を説明するのも大変でした。今は色が違うので大丈夫です。あとは、Centrální park があります。冬は、小さい子どもが雪で遊んでいますね。それから、サイクリングロードがあります。サイクリングには本当にいいところです。Opatov から、Chodov、Michelský les を通って、Krč まで行けます。そこからウルタヴァ川、川を渡ると Smíchov までも行けますよ。45 分位で行けます。サイクリングには妻と行っていました。子どもが小さい頃に。

Ｔ：近所に知り合いやお友達はいますか。

Ｉ：同じ建物にいます。同じ建物に住んでいる人は同じ職場の人で、34 年も住んでいるのでもちろん友達です。高層アパートじゃなくて 3 階建てで、エレベータがないので、毎日階段で出会って話したりしています。高層だと会うチャンスはそんなにありませんが。友達だけじゃなくて、友達に会いに来る友達も分かります。全然知らない人が建物に入ってきたらすぐ気付くので、皆チェックします。

Ｔ：建物の改修はいつ頃されたか覚えていますか。

Ｉ：6 年前にしました。区役所の取り組みで、補助金も出ました。組合で計画を立てて申し込んで、区役所から認可さ

れたら 30 万チェココルナとか、建物によって違うけど、お金がもらえます。ファサードの色だけじゃなくて、バルコニーとか、屋根も修理しました。

Ｔ：ファサードの色はどうやって決めたのですか？

Ｉ：それは区役所が決めます。例えば、茶色だったら茶色と決まっているけど、茶色の中で明るい、暗い、中間などは決めることができます。

Ｔ：h さん（インタビュイー）のお宅の建物には小さいお店は入っていますか？

Ｉ：今は入っていませんね。10 年前はコピーセンターがありました。文房具販売とコピーサービス。それは建物の住人がやっていました。

Ｔ：話が戻るのですが、色を決める際に、住宅協同組合の中ではどのような話し合いをされたのですか。

Ｉ：住宅協同組合ではあまり話し合いはなかったですね。黄色に決まっていて、みんな同意しました。みんな良かったと思っているし、満足しています。住宅から地下鉄まで 3 分もかからないし、地下鉄から町の中心まで 20 分、友達の家まで 50 分なのも便利だし、こっちに引っ越してきて良かったと思っています。電車の Měcholupy 駅もそんなに遠くないので、便利です。Háje からバスでクトナー・ホラなどにも行けますよ。私も旅行で行きました。車で行くよりバスの方が便利なので。昔と比べると最近は自動車の数が増えてきましたね。交通手段では地下鉄が一番早くて便利で、あまり自動車は使いません。町に行くときには、自動車より地下鉄の方が良いです。最近は一人一台車に乗るので車の数が増えてきました。複数人で乗ればもっとエコなんだけど。

Ｔ：商業施設などの開発について、昔と変わったところはどこですか？

Ｉ：ここに、新しい映画館ができましたね（地図を示して）。それから、ここに Chodovská tvrz があって、結婚式がありますね。あと、Chodov にはチェコの有名なバイオリニストの Jan Svěcený（※ Jaroslav Svěcený の覚え間違いと思われる）が住んでいて、デパートでよくコンサートなどがあります。こっちに住んでいるので、地域のために演奏などしてくれます。お店も多くなりました。ここに Norma、こっちが Albert、それから Penny Market もできた。こういうところは結構大きいスーパーなんですけど、他にベトナム人が経営している小さいお店もあります。果物とか野菜とかの質はスーパーよりいい。日用品は近所で買います。服とか靴、特別なものなんかは Chodov のデパートで買います。文化的にも楽しめる。緑もかなり多い。引っ越してきた時は緑はあまりなくて、木を植えるボランティアがありました。私も木じゃないけど、幼稚園の周りの囲いの植え込みをつくりました。そういうボランティア活動がお互いをもっと知る機会になりました。人間関係が良くなり、子どももお互いに友達になりました。

Ｔ：では、今後もっとこうなってほしい、という希望はありますか。

Ｉ：自動車と駐車場の問題が一番大きいので、改善してほしいです。それから、ゴミの問題。チェコでは犬を飼っている人がとても多いんだけど、犬の糞をきちんと片づける人はとても少ない。飼い主は犬一匹につき年に 1500 コルナを払っていて、そのお金で市役所が道に犬の糞用のゴミ袋を用意しているのに何故みんな使わないのかと思います。お金を払ったんだから使えばいいのに。私も犬を飼っているんですけどね。4 年前、娘がプレゼントしてくれました。ラブラドールで、一日に 4 回散歩に行きます。夜の 12 時とかはもう出かけたくないけどしょうがなく行っています。でもいい運動にはなります。

Ｔ：では、今後も残していきたいと思うのは何ですか？

Ｉ：緑は残していきたい。あと、小さい劇場が欲しいと言う人がいましたけど、私は必要ないと思っています。プラハには劇場が沢山あるので、こっちにはもう要らないかなと。

Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー i

□日時

日にち：2013 年 10 月 25 日（金）

時間：10：00 〜 11：00

場所：ヴァーツラフ広場のコーヒーショップ

□基本情報

年齢：10 代

性別：女性

自宅の所有形態：協同組合

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM II - sever

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつから現在のお宅にお住まいですか。

Ｉ：1996 年からです。プラハで生まれて、Vysočanská に住んでいました。

Ｔ：なぜ引っ越してこられたのですか？

Ｉ：もっと大きいアパートが欲しくて、住宅の交換をしました。

Ｔ：住宅について今の家以外の選択肢はありましたか？

Ｉ：はっきりは分からないんですけど、JM I の中で選べたと思います。

Ｔ：では、引っ越してきたときの家族構成を教えてください。

Ｉ：父と、母と、私です。引っ越した年（96 年）に弟が生まれました。

Ｔ：通っていた幼稚園はどこですか。

Ｉ：ここです（地図を示して）。

Ｔ：幼稚園の頃はどこで遊んでいましたか。

Ｉ：幼稚園の隣の広場で遊んでいました。ボールゲームとか、木登りをしていました。

Ｔ：近所にお友達はいましたか？

Ｉ：いました。一人目はここ、二人目はここ、こっちと、こっちも。はっきりわからないけどこの辺と、ここと…（地図上で 8 か所を示す）。あとは、沢山いて覚えていません。

Ｔ：では、小学校の時はどうですか。

Ｉ：1、2 年はこっちの小学校に通っていました（地図を示して）。3 年生からは外国語が勉強できる特別な小学校に通いました。ウルタヴァ川の近くの、Podolí というところの Jerenenkova 通りにある学校です。英語と、5 年生からはフランス語を勉強しました。6 年の時に中学校（※頭の良い子どもの行く特別な学校）に入学しました。

Ｔ：では、その頃よく遊んでいた場所やよく行っていたお店はありますか。

Ｉ：プラハ 11 区以外で過ごすことが多かったですね。

Ｔ：休日はどんなことをされていたんですか。

Ｉ：Kunratický les（森）や vodní nádrž Hostivař（貯水池）の周りを散歩をしたり、あとはプラハを出て旅行に行ったりしました。

Ｔ：では、よく行くレストランはありますか？

Ｉ：大体 Centrum Chodov に行きますね。この辺にはレストランはあまりないので。11 区じゃないけど、Kunratice（※JM II から南に少し行ったところ）のイタリアンレストランにも行きます。

Ｔ：では、大学に入ってからは生活や行動範囲に変化はありましたか？

Ｉ：まだ一か月たっていないですけどね。でも、こっちではあまり時間を過ごさないですね。朝出かけて、夜帰ってきて寝る、という感じです。

Ｔ：では、住宅の改修について教えてください。

Ｉ：窓を新しくしました。それから壁の断熱と、内側から壁を新しくしました。

Ｔ：それは壁が薄いなどの不都合があったからですか？

Ｉ：以前は暗かったので。釘も壁には打てなかったし。

Ｔ：改修をいつ頃されたかは覚えていますか。

Ｉ：大体 5 年前（2008 年）くらいです。
Ｔ：ペットは飼っていらっしゃいますか。
Ｉ：いいえ。
Ｔ：今のお宅に今後も住み続けたいとお考えですか。
Ｉ：私も両親も満足しているので、引っ越すつもりはないです。
Ｔ：プラハ 11 区の中のイベントなどに参加されたことはありますか。
Ｉ：文化センター（Kult. centrum Zahrada）のイベントに参加していました。文化センターが活動を始めてから、私が 5 年生になるまで参加していました。劇場を利用したり、アート活動に参加したり、時々コンサートを聞いたり。Galaxie に映画を見に行くこともあります。前と比べて、今は文化センターでのイベントが少ないですね。以前はクリスマスの前に飾りを作ったりするイベントがあったんですけど。
Ｔ：では、交通機関は利用されますか。
Ｉ：バスも地下鉄も利用します。自転車はあんまり。地下鉄などには大体満足していますが、時々混んでいますね。
Ｔ：病院は近くにありますか。施設には満足していますか。
Ｉ：ファミリードクターは Opatov にいます。まだ 2 回しか行ったことがないけど、問題はありませんでした。
Ｔ：将来的に 11 区にこうなってほしいという希望はありますか。
Ｉ：子供たちが遊べるところを増やしてほしいですね。
Ｔ：では、今のまま残していきたいところはありますか。
Ｉ：幼稚園が近くにあるのがいいと思うので、残してほしいですね。私が通っていた小学校は無くなってしまったので。
Ｔ：では、好きな景色や眺めがいい場所はありますか。
Ｉ：V hájku からの眺めがいいですね。花火大会がある時に、上に登って見ました。後は、近くの森の風景が好きです。
Ｔ：では、最後にプラハ 11 区の中で一番のイチオシ、他の地域にはない、と思うところを挙げるとしたらどこですか。
Ｉ：あまりきれいじゃないけど、カーリングホールがとても面白いと思います。時々友達を応援に行きます。あと、レストランにも行きます。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイーj

□日時

日にち：2013 年 10 月 23 日（水）

時間：11：00 〜 12：00

場所：インタビュイーの自宅周辺

備考：実際に近所を歩きながらのインタビュー

□基本情報

年齢：10 代

性別：男性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM II - sever

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中、Ｒ：通訳者）

（駅で待ち合わせしてから、家まで歩きながら）

Ｔ：プラハ 11 区にはいつからお住まいですか。

Ｉ：生まれてからずっと 11 区に住んでいます。家は一度引っ越しました。（歩きながら）ここにカーリング場があります。ここは昔は中央ヨーロッパで唯一のカーリング場でした。バリアフリーです。

Ｔ：カーリングは良く見に行かれるのですか？

Ｉ：自分がプレーしています。家から近いのがきっかけでカーリングを始めました。

Ｒ：この辺りは景色がきれいですね。

Ｉ：あっちの方 (Horní roztyly を指して ) はこことは少し雰囲気が違いますね。

Ｔ：あっちにはよく行かれますか。

Ｉ：幼稚園と小学校はあっちにありました。こっちの幼稚園はあまり良くなかったので、あっちに行きました。小学校は 3 年生まで通いました。（地図で示して）小学校はここです。この小学校の周りの環境が良さそうだったので、ここに通っていました。散歩にも行けるし。

（しばらく歩く）

Ｉ：この辺りは春はすごくきれいです。バラの花が咲きます。地下鉄で通学しているので、毎日朝歩いています。

（しばらく歩く）

Ｉ：ここが家です。花が飾ってあるバルコニーがうちです。ちょっとジャングルみたい。あっちは桜の木できれいに咲くんですけど、こっちの木は 8 月にすごく臭くなるので、今の時期に来てよかったですね。僕はちょっとアレルギーがあります。緑が多いのは良いんですけど、多すぎると問題がおこりますね。

Ｔ：こちらの住宅に引っ越してきたのはいつですか？

Ｉ：2007 年です。その前はあっちに住んでいました。手前から数えて 3 棟目の、黄色い建物。あっちは家が小さかったので引っ越しましたが、ここが気に入っているのですぐ近くに引っ越しました。今のアパートに空きが出るまで長い間待っていました。

Ｔ：家族構成を教えてください。

Ｉ：両親と、妹と、自分です。

Ｔ：ペットは飼っていますか？

Ｉ：魚だけですね。

Ｔ：小さいころからこちらに住んでいらっしゃるということですが、子どものころはどこで遊んでいましたか？

Ｉ：今の家の裏に遊び場があるのですが、そこで良く遊んでいましたね。昔の家のところにもあったけど、こっちの方が良かったですね。犬もあまり来なかったし。あと、Kačerov にも行きました。そっちにも大きなプレイグラウンドがあるので。ここの道（V hájku）でもよく遊んでいました。散歩とか、ローラースケートをしていました。

Ｔ：（地図を示して）これ、眺望が良いマークなんですけど、ここからの眺めは良いですか？

Ｉ：高速道路があるので良くないですね。天気の良い時は見晴しが良いですね。こっちからはプラハ城が見えます。ハヴェル大統領のハートマーク（※ハヴェル大統領の任期満了の時期にプラハ城でハートのライトアップがされていた。ハヴェル大統領はサインにハートを書いていて、トレードマークだった）も見えました。

Ｔ：では、小、中学生の頃良く行っていたところはどこですか。

Ｉ：小学校 5 年生まではここで良く遊んでいました（地図を示す）。その後は Budějovická の中学校（※頭の良い子どもが行く特別な中学校）に通いました。丁度その時に Centrum Chodov ができて、遊びに行っていました。カフェや、フードコートを利用していました。あそこのフードコートは何も買わなくても座れるので、みんな行っていました。
Ｔ：日用品の買い物はどこでしていましたか。
Ｉ：Centrum Chodov ができる前は、ほとんどお店がなくて、 1 つのスーパーしかありませんでした。あとはベトナム人が経営する小さい店が 2 つ。ここに普通のスーパーがあって、ビロード革命の後 Albert になりました。でもあまり良くなかった。その頃は大体 Průhonice に買い物に行っていました。
Ｔ：では、今は休日はどのように過ごしますか。
Ｉ：今は法律を勉強しているので、あまり暇はないですね。たまに時間があれば、カーリングをしに行きます。あまり遊ぶところはないですね。よく町の中心部に行くのですが、夜遅くなってもバスがあるのが良いですね。Dědinova のバス停がここです。夜はこっちの Chodovec。30 分おきに来ます。
Ｔ：では、近所に友達はいますか。
Ｉ:ここと､ここ（地図を示す）。ここの友達はカナダ人です。大体中学校からの友達が多いですね。中学校はプラハの色々なところから生徒が来ていたので、近所の人と会う機会はあまりありませんでした。小学校の時は近所に沢山友達がいました。
Ｔ：住宅の改修はいつされたのですか？
Ｉ：この住宅（今住んでいるところ）は 2006 年です。こっち（昔の家）は去年の夏に改修が終わりました。
Ｔ：改修後に引っ越してこられたのですね。では、何か改修の途中に意見をしたりすることもなかったのですね。
Ｉ：意見は言えませんでしたね。でも、色にはちょっと反対です。住宅に対して青はあまりよくないと思います。元の色の方がよかった。グレーじゃなくて、石っぽい色。この建物は最初に改修されたので色を選ぶことができました。
Ｔ：誰が色を選んだのですか？
Ｉ：はっきりとは分かりませんが、多分組合だと思います。最初にこの色に決まって、後の建物はそれに従って色が決まりました。意見が多いと結果はあまりよくなりませんね。
Ｔ：では、引っ越し後に部屋の改修などは行いましたか？
Ｉ：何もしていません。改修は引っ越しの前にしてありました。他の住宅と比べて、たとえばバスルームが 2 倍くらい大きい。あと、普通はキッチンとリビングが分かれていますが、ここは一緒になっているので、料理を作りながら家族で話したりできます。寝室はリビングと比べてかなり小さいので、みんなリビングに集まります。
Ｔ：料理の話がありましたが、あまり外食はされませんか？
Ｉ：Centrum Chodov のイタリアレストランと KOBE に行きます。あと、カーリングホールの 1 階（※日本でいう 2 階）にもレストランがあります。
Ｔ：一番おすすめはどこですか？
Ｉ：おすすめは無いですね。…でも、Centrum Chodov のイタリアンがいいかな。PAUL というパン屋さんもいい。あとは普通のファストフード。KFC とか Mac とか。
Ｔ：では、よく遊んでおられた公園に案内していただけますか？
（公園に行くのに通り抜けた建物（自宅）の中で）
Ｉ：廊下に窓があるのがいいですね。廊下の改修は 3 年前です。多分組合の会長が黄色が好きで黄色になったんだと思います。
Ｔ：廊下に植物が飾ってありますね。
Ｉ：多分入口を飾るのはチェコの習慣だと思います。あと、昔は扉の前に靴を置いていたのですが、それは禁止になりました。今は自分のアパートに入れています。これ（廊下の設備の上の植木鉢）も禁止されているけど置いていますね。
（建物を通り抜けて外に出る）
Ｉ：公園の周りに策があって犬が入ってこないのがメリットです。犬の糞もないし。公園の中の遊具はよく変わっています。区役所が担当しています。ここに住んでいる人はあまり協力していません。
Ｔ：これからもプラハ 11 区に住み続けたいとお考えですか？

Ｉ：大学の間は住みたいですね。卒業したら、将来は海外に行きたいです。
Ｔ：海外でお仕事した後は、帰ってきたいですか？
Ｉ：帰るつもりはありません。将来は大使の仕事をしたいです。
Ｔ：では、将来は海外に行きたいとのことではありますが、将来的にプラハ 11 区にこうなってほしいと思うことはありますか？
Ｉ：ここが今空室なので、お店が入ってほしいですね。あと、遊ぶ場所が全然ないので作ってほしいです。でも、静かだからいいんですけどね。あと、みんなでやるようなイベントがあると良いですね。人間関係でもっと雰囲気がよくなると思います。みんな町の中心部から家に帰ってくる、という感じなので。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。
（公園から帰り道に出る途中、いつも行くというベトナム人のお店に立ち寄って中を見学後、終了）

## インタビュイー k

□日時

日にち：2013 年 10 月 23 日（水）

時間：13：30 〜 14：30

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：男性

自宅の所有形態：協同組合

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM - Nad šerovem

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：プラハ 11 区に引っ越してこられた年を教えてください。

Ｉ：1980 年に家族が引っ越してきて、一年後に私が生まれました。生まれてからずっと同じ家に住んでいます。元々はプラハ 9 区の Holešovice に住んでいましたが、高速道路を建てるために家がなくなったので引っ越しました。

Ｔ：引っ越してくる家は選べたのですか。

Ｉ：プラハ 11 区の中で、こっちかこっち、という選択肢があって、今の家にしました。窓の締りが悪かったりとか、良くないところもあったのですがこっちの方が良かったのでこっちにしました。

Ｔ：引っ越し当時の家族構成を教えてください。

Ｉ：母親と姉です。姉は 10 年前に独立して、今は母親と私の２人で住んでいます。

Ｔ：子どもの頃遊んでいた場所を教えてください。

Ｉ：家の前に砂場があって、友人の家も近くにあったのでこの砂場で遊んでいました。それから MÍčovský les。良く自転車に乗っていました。最初は家の周りだけでしたけど、大きくなるにつれて遠くまで行くようになりました。あとは子どもがやるゲームなんかをしていました。自転車で vodní nádrž Hostivař にも行きましたね。

Ｔ：水泳もされました？

Ｉ：いや、サイクリングだけですね。

Ｔ：子どもの頃、買い物はどこでされていましたか。

Ｉ：お店は３つしかありませんでした。ここ（ Norma 、建物番号 721）、（Penny Market、建物番号 664）、（ Billa、建物番号 1752）です。

Ｒ：小さいお店ですか。

Ｉ：今のスーパーみたいなお店で、小さくはありませんでした。あ、あとここ（Penny Market、建物番号 1550）も。全部で 4 つですね。ここが一番家から近いのでよく行きました。

Ｔ：では、もう少し大きくなって、中学生くらいの頃はどこによく行きましたか。

Ｉ：家にいることが多かったです。あとは友達の家に行ったり、プラハ 11 区以外に行くことが多かったです。

Ｔ：お友達の家はどの辺ですか。

Ｉ：小学校の頃の友達で、ここ、ここ…（自宅の近くを沢山示す）。今はもう会っていませんが。

Ｔ：沢山覚えておられるんですね。

Ｉ：小学校のクラスは 20 人くらいしかいなくて、大体みんなこの辺に住んでいますね。小学校はここ（建物番号 1399-1400）です。

Ｔ：中学校・高校はどこに通われましたか。

Ｉ：11 区の外の学校に通っていました。11 区からはバスで 1 時間と、歩いて 10 分かかりました。特別な機械学が勉強できる学校です。ADHD（注意欠陥多動性障害）の子どものためのクラスがありました。

Ｔ：大学に入ってから、よく行く場所などに変化はありましたか。

Ｉ：大学生の時はプラハの中心部に行くことが多かったですね。あとはこの映画館（Cinema City Galaxie）。95 年頃に出来たと思います。家の窓から工事が進むのを見ていました。地下鉄の上の商店街は 80 年代終わり頃に出来たと思います。この橋は 88 年にできました。この橋はチェコの映画で使われたことがあります（※ Jiří Menzel 監督、" Vesničko má středisková"（1985）に出てくる。邦題は「スイート・スイート・ビレッジ」）。この橋が出来る前に木の橋があって、本

当はすぐ建て替えるはずだったのですが、今の橋が出来るのに 15 年かかりました。
Ｔ：今のお仕事を始めたのはいつですか。
Ｉ：4 年前からです。大学の時に区役所でアルバイトをしていました。
Ｔ：お仕事を始めてから行動範囲は変化しましたか。
Ｉ：仕事をしてから、駅で買い物をして家へ帰ります。歩いて 8~10 分くらいです。
Ｔ：では、住宅について外観の改修はされていますか。
Ｉ：改修しました。住宅協同組合の決定で、3 年前に。2006 年にみんなで改修を決定して、少しずつ改修してきました。建物の半分は住宅協同組合の所有で、残り半分は区役所のものです。
Ｔ：そのような場合、公共部分の改修についてはどのように話し合われるのですか。
Ｉ：住宅協同組合のメンバーが話し合います。
Ｔ：家の中については何か改修を行いましたか。
Ｉ：大体 10 年前に浴室を改修しました。来年はキッチンとか、残りの部屋も改修する予定です。
Ｔ：今後も今の家に住み続けたいですか。
Ｉ：はい。住宅には大体満足しています。家具などはそんなに良くありませんが、家賃を払わなくてよいので。
Ｔ：周辺の環境については満足されていますか。
Ｉ：他のプラハの住宅地と比べてここはかなり良いと思います。新しい世代が来て、その変化がよく見えます。アパートからの景色もとても良いです。Milíčovský les の方向なので。8 階建ての建物の 4 階に住んでいます。そういえば、住宅の改修については、バルコニーのガラスも 10 年前にやりました。
Ｔ：今、ご近所にお友達はいますか。
Ｉ：います。ここ、ここ、…（地図を示して）。
Ｔ：離れたところにお住まいの方もいらっしゃいますが、どのようなご友人ですか。
Ｉ：共通の趣味を持った友人で、一緒に旅行に行ったりテーブルゲームをしたりします。
Ｔ：どうやって知り合われたのですか。
Ｉ：友達の友達、という形で知り合って、またその友達を紹介して…という風に広がりました。大体誰かの家に集まります。
Ｔ：プラハ 11 区の将来について、こうなってほしいという希望はありますか。
Ｉ：歩道をもう少し良くしてほしいです。例えば、ここはもともと道が無かったけどみんなが通っていて、今は歩道になりました。そういうところが沢山あるので、解決してほしいです。
Ｔ：引っ越してきた当初から変わったところはどこですか。
Ｉ：具体的には言えませんが、建物の上階や、高いところに建てられたお店に行くときに上がったり下がったりしないといけないのが不便ですね。Centrální park は良くなりました。時々通ります。自転車で、Milíčovský les の方まで行きます。20 年前と比べてかなり環境が変わりましたね。住宅の色とか。あときれいになりました。住宅の地階に小さなお店も入るようになりました。デパートまで地下鉄で行きたくない場合に、コンビニのようなお店をよく利用します。10-15 年前が一番多かったですが、今はまた減ってきています。
Ｔ：では、プラハ 11 区の中で 1 つ、一番良いところを挙げるとしたらどこですか。
Ｉ：森と住宅地がすぐ近くにある対比が面白いと思いますね。区役所で働くようになってから、特に水曜日には外でご飯を食べて、Milíchovský vrch の方に散歩に行きます。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイーⅠ

□日時

日にち：2013 年 10 月 25 日（金）

時間：8：00 〜 9：00

場所：Ocelíkova 通りの区役所

□基本情報

年齢：30 代

性別：男性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修無し

居住地区：JM II - západ

### □インタビュー（Ⅰ：インタビュイー、Ｔ：田中、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつから現在のお宅にお住まいですか。

Ⅰ：2011 年の 11 月です。

Ｔ：なぜ引っ越してこられたのですか。

Ⅰ：元々はプラハ 4 区の Krč に住んでいましたが、もっと大きな家に住みたくなったので。Michelský les が近いし、値段が安かったのでここにしました。

Ｔ：プラハ 11 区で働き始めたのはいつですか。

Ⅰ：5 か月前です。その前は会計士をしていました。

Ｔ：引っ越してきたときの家族構成を教えてください。

Ⅰ：彼女と一緒に住んでいます。あとペットが 2 匹（パソコンの写真を見せてくれる）。犬と猫がいます。

Ｔ：休日によく行かれるところはどこですか。

Ⅰ：ほとんど毎日 Michelský les や Kunratický les に行きます。Kunratický les に 2 つレストランがあるんですけど、そこにも行きます。買い物は Albert（建物番号 2021）で､隣にスカッシュをするところがあるんですが､そこにも行きますね。それから、Opatov の学校のグラウンドでサッカーをします。地図だとどこか分からないな…。ああ、ここです（建物番号 1594）。

Ｔ：サッカーは誰とするのですか。

Ⅰ：昔の仕事の友人です。プラハ 11 区以外に住んでいますが、こっちに来てくれます。それから、OC Chrpa にイタリアンのレストランがあって、そこに時々ビールを飲みに行きます。冬は山に行くこともあります。

Ｔ：長期休暇は何をされますか。

Ⅰ：11 区以外に出かけますね。

Ｔ：では、住宅については改修をされていますか。

Ⅰ:引っ越してから壁を塗ったり､部屋に壁を建てたりしました。ファサードはまだ改修していません。お金がないので。将来的な改修予定もありません。

Ｔ：今後もプラハ 11 区に住み続けたいです。

Ⅰ：住み続けたいですね。Kunratice に双子が住んでいて、近いので良いです。

Ｔ：よく会いに行かれるのですか？

Ⅰ： 1 か月に 1 回くらい。

Ｔ：近所に知り合いの方はいますか。

Ⅰ：隣に住んでいる人と話したりします。下に住んでいる人が時々音楽をかけるんですがうるさくて、そのことについて話していて知り合いになりました。今の建物は 7 階建てで、前に住んでいたプラハ 4 区より建物が小さいのでお互いに知りあえます。

Ｔ：プラハ 4 区と比較して、11 区の印象はどうですか。

Ⅰ：プラハ 4 区に引っ越してきた時は周りはみんなチェコ人だったのですが、だんだんベトナム人とかウクライナ人が引っ越してきて治安が悪くなりましたね。あとバルコニーもなかった。良かったのは駐車場がたくさんあったことで、11 区は駐車場があまりないですね。

Ｔ：普段は自動車を使いますか。

Ｉ：地下鉄とバスも使います。車と半々くらい。交通機関は満足しています。ヨーロッパの中で一番だと思います。地下鉄の駅が家から 5 分かからないくらい近いです。
Ｔ：他のヨーロッパの国々に旅行されたのですか。
Ｉ：旅行はそんなにはしないけど、オーストラリアに行ったことがあります。オーストラリアよりチェコの方が交通費が安いです。1 年間 4000 円で地下鉄にもトラムにも乗れますから。オーストラリアは交通網もあまりよくなかった。
Ｔ：他の国と比べてチェコの住宅はどうですか。
Ｉオーストラリアのラケンバというところに 1 年住んでいたんですが､そこは住宅は２階建てくらいであまり高くなかったですね。
Ｔ：では、将来的にプラハ 11 区にどうなってほしいとお考えですか。
Ｉ：駐車場を増やしてほしいですね。後は今の状況に満足しています。家の周りがとても静かなので、引っ越してから驚きました。前のところとは比べられないくらいです。
Ｔ：今後も残していきたいところはどこですか。
Ｉ：自然は守らないといけないと思います。緑はそのまま残したい。駐車場のスペースはほしいけど、森は駐車スペースにしたくないですね。
Ｔ：病院などには満足されていますか。
Ｉ：ファミリードクターはここにいます（建物番号 1930）が、まだ行ったことはありません。他の病院は 11 区以外にあります。
Ｔ：地域のイベントに参加されたことはありますか。
Ｉ：まだ参加したことはありません。
Ｔ：プラハ 11 区の中で好きな眺めや景色はありますか。
Ｉ：家からの眺めが良いです。7 階に住んでいるので、とても景色が良いです。
Ｔ：では、最後に 11 区の一番のおすすめポイントを 1 つ教えてください。
Ｉ：森のレストランの 1 つで、「U krále Václava IV」ですね。天気の良い日によく行きます。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## インタビュイー m

□日時

日にち：2013 年 10 月 24 日（木）

時間：9：00 〜 10：00

場所：Vidimova 通りの区役所

□基本情報

年齢：20 代

性別：男性

自宅の所有形態：個人所有

ファサード改修の状況：改修有り

居住地区：JM II - Jih

### □インタビュー（Ｉ：インタビュイー、Ｔ：田中、 Ｒ：通訳者）

Ｔ：いつプラハ 11 区に引っ越してこられましたか。

Ｉ:生まれた時からここに住んでいます。2 歳まではこの辺、5 歳まではここ、今はここに住んでいます（地図を示して）。1 回目の引っ越しは、母が結婚したので。2 回目は、もっと広い家が必要になったので、住宅の交換をしました。

Ｔ：ご両親が 11 区に来られた理由はご存知ですか。

Ｉ：会社から住宅をもらったからです。

Ｔ：引っ越しの際に 11 区に留まったのはなぜですか。

Ｉ：会社が決めたので、11 区に留まるしか選択肢がありませんでした。

Ｔ：昔通っていた小学校はどこですか。

Ｉ：元々通っていた保育園はここ (výjezd. stan záchr. služby、現在は病院 )、その後はここ（Hroncova 通りの幼稚園）、小学校はここ（幼稚園の隣）です。元々は 2 つの小学校だったんですが、今は 1 つになっています。ここの文化センター（Kult. centrum Zahrada）はもともと小学校で、1 年と 2 年の時通いました。文化センターになってからはアルバイトもしました。2004 年から 2011 年まで。

Ｔ：高校はどちらにいかれていましたか。

Ｉ：プラハ中心部のヴァーツラフ広場の近くにある電子学の学べる高校に通いました。大学はプラハ 5 区でした。

Ｔ：プラハ 11 区の区役所で働き始めたのはいつですか。

Ｉ：1 年半前です。

Ｔ：では、子どもの頃よく遊んだ場所はありますか。

Ｉ：この辺で遊んでいましたね（地図を示して。Horní Kunratice）。今は住宅地ですが、昔は工事現場でした。Kunratický les にもサイクリングに行きました。それから、ここのプレイグラウンドでも遊んでいました。ここの前の建物（建物番号 1968）にスポーツの道具のレンタルショップがあったので便利でした。

Ｔ：では、もう少し大きくなってから、高校生くらいの時によく行く場所はありましたか。

Ｉ：自転車が好きで、よく乗っていました。Braník まで行っていましたね。

Ｔ：買い物はどこでされていましたか。

Ｉ：ここ（Lidl、建物番号 1783）に行っていましたね。今は Lidl ですが、昔は Billa と Meinl がありました。

Ｔ：学生の頃、洋服などはどこに買いに行かれましたか。

Ｉ：まちの中心部に行っていましたね。プラハ 1 区の Na Príkopech と、プラハ 5 区の Novy Smíchov ですね。あとは、小さいころは知り合いから洋服をもらったりしていました。

Ｔ：知り合いというのは、近所の方ですか。

Ｉ：大体 ČKD（※チェーカーデー、チェコの会社）で働いている人が周りに住んでいて、その人からもらいました。

Ｔ：では、昔は近所の人は顔見知りの人が多かったのですか。

Ｉ：そうですね。両親の知り合いが多かったです。

Ｔ：今はどうですか。住んでいる人は変わりましたか。

Ｉ：今は大分変わりましたね。小学校の頃の友達が Zlešická 通りから Malenická 通りに引っ越したりしましたけど、今はもう会う機会がありませんね。住み続けている人もかなり多いです。レストランに行ったりすると、20 年前から顔は知ってるけど名前は知らない人、とかいますね。

Ｔ：では、今、休みの日に出かける場所はありますか。
Ｉ：Lidl の近くのデイジーというバーと、その隣のレストランに行きます。昔は結構よかったんですけど、だんだん悪くなって来ました。とくに美味しい食べ物とかコーヒーとかがあるわけじゃないんですけど、ずっと同じ客が来ているので通っています。あと、大学の経済学部の寮 (Vysokoškolské koleje Jižní Město) のクラブにも年に 1、２回位行きます。町の中心部のクラブより値段が大分安いです。ここの Penny Market のところにもダイヤモンドという名前のクラブがあります。後は Holešovice のクロスというクラブにも行きます。
Ｔ：では、住宅について伺います。今お住まいの住宅は外観の改修をされていますか。
Ｉ：去年（2012 年）改修しました。オレンジと青です。隣の住宅も青とオレンジで、それに合わせてそうなりました。デザイン、例えばどこが青でどこがオレンジ、みたいなのは選べましたが、色自体は選べませんでした。
Ｔ：住宅内部の改修はされていますか。
Ｉ：していません。予定はありますが。キッチンは少しだけしました。
Ｔ：今後も住み続けていきたいとお考えですか。
Ｉ：来年引っ越す予定で、Petrovice のアパートを買いました。Hornoměcholupská の新築で、Háje からバスで 10 分のところです。一人暮らしをする予定です。できるだけ早く一人暮らししたくて、銀行からローンを借りました。以前一年間彼女と住んでいて、去年の 12 月に両親の家に戻ってきたのですが、自由でないと感じることが多いので。
Ｔ：なぜ Petrovice のお宅に決めたのですか。
Ｉ：値段が安かったので。
Ｔ：では、今後の 11 区についてこうなってほしい、ここは残したいという希望はありますか。
Ｉ：もう変えるのは無理ですけど、建物の間のスペースを広くしたいですね。建物の間に自然があったらもっと明るくなると思います。今生えている木はあまりきれいじゃないので。良いと思うところは自然が多いところです。Kunratický les にキノコ狩りに行ったりします。あと、Kunratický les に 2 つ良いレストランがあって、そこにも行きます。レストランの名前は Na tý louce zelený と U krále Václava IV。それから、ここにガソリンスタンドがあるんですけど、時々この辺で友達とコーヒーを飲みながら歩いたりします。大学の頃はここが溜り場になっていました。僕は煙草を吸うんですけど、そのことは両親には言っていないので、ここで吸って家に帰ります。
Ｔ：最後に、プラハ 11 区の中でおすすめのところを 1 つ選ぶとしたらどこですか。
Ｉ：Centrární park と Kunratický les のレストランですね。
Ｔ：Centrární park は初めて話題に出ましたが、どこがお好きですか。
Ｉ：好きなところは特にないですね。教会は結構きれいですね。それから、Litochlebské nám. のところに新しい建物を建築する予定があるので、それができるのを楽しみにしています。三角形の形のビジネスセンターができる予定です。…それぐらいですかね。
Ｔ：質問は以上です。ありがとうございました。

## Ostrava-Jih 地区住民インタビュー記録
## インタビュイー A-1、A-2

□日時
日にち：2015 年 9 月 27 日（日）
時間：9：00 〜 10：00
場所：自宅

□ A-1 さんの基本情報
年齢：50 代 (52 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：
2009 年　屋根、窓
居住地区：Zábřeh
現在の職業：旅行会社
居住歴：1963 年〜

□ A-2 さんの基本情報
年齢：50 代 (54 歳 )
性別：男性
自宅の所有形態：同左
建物全体の改修：同左
居住地区：同左
現在の職業：ソフトウェア関係企業
居住歴：1961 年〜

### □インタビュー

引っ越し当初の家族構成：
A-1：4 人家族、2 人の子供
A-2：６人家族、4 人の子供
労働者家庭だった。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：
A-2：炭鉱業の仕事のため。近くの村に生まれて、炭鉱のための特別な学校（会社が持っている）に行って、卒業してからそのまま仕事を始めた。
A-1：両親が Vítkovice で仕事をみつけた。もともとはスロヴァキアに住んでいた。

生まれた時の家：
A-2：今と同じところ。
A-1：今の家の近く。

子供の頃良く行った場所、思い出の場所は：
A-2：森と、家の近くの遊び場。
A-1：家の近くの遊具付公園。家から歩いて 10 分で川と森へ行けた。

子供の頃、周辺の様子で印象に残っていることは：
A-1：森は今と比べてきれいに手入れされていなかった。今は手入れされて公園みたいになっているが、昔は本当に森、という感じだった。

家についてどう感じていたか：
A-2：部屋が３つで 6 人家族だったのでちょっと狭く感じた。4 人の子供が一つの部屋に住んでいた。
A-1：家は、今と似ていたところに住んでいたが、改修前だったので窓などが今と違う。今はプラスチックの窓枠だが、昔は木製。昔は家が寒かった。子供２人（男女 1 人ずつ）で一つの部屋だったので狭かった。

学生の頃、日常の買い物を行った場所や、友達と過ごした場所は：
A-2：ここに小さな買い物センターがあり、ここに行っていた。今もある。こっちには百貨店もある。近くにある市場では新鮮な野菜などを売っている。野菜はほとんどポーランドからの輸入だけど。それから、Výškovická のショッピングセンター Kotova。

お店の印象は今と昔でどうか。
A-1：全然違う。比べることもできない。昔は肉は木曜日だけ、一部の果物や野菜はクリスマスしかなかった。たまにはあったけど、そんなときは行列ができてみんな並んでいた。パンとかは毎日買うことができたけど、珍しいものはそうではなかった。チーズやヨーグルトは種類が一つしかなかった。洋服もあまりなくて、大体みんな家で作った。特に子供服は。

その当時の Vítkovice や旧市街の様子は：
A-1：Vítkovice は仕事場だったので普通の人は入れなかったけど、一年に一回、5 月 1 日だけ市民が見学に行けるお祭りみたいなのがあった。5 月 1 日だけ仕事を見ることができたが、とても難しくてつらそうな仕事だった。
通訳：偶然昨日私もヴィトコヴィツェの観光ツアーに行ったけど、そこで働いていた人は労働環境が悪かったので、大体 60 年代初めごろに亡くなった。
A-2：中心部については、昔の印象は全部灰色。緑とか、鮮やかな色は無かった。

当時の近所付き合い、友達は：
A-1：学校とか、隣に住んでいる人など沢山友達がいました。
A-2：この建物は会社が建てたもので、住んでいる人はみんな同じ会社で働いている人でした。

現在の近所付き合いは：
A-1：昔は同じ建物の人はみんな一つの家族のようにして住んでいたけれど、今はそうではない。以前は人づきあいはもっと温かかった。今は同じ建物でも知らない人もいる。昔は同じ建物の人たちはみんな一緒に建物の外で植物を植えたり、掃除をしたりしていたが、今はしない。

現在の買い物は：
A-1、A-2：昔と同じように一番近い店に行くけど、大きな買い物はカウフランドに行く。昔はこういう大きなショッピングセンターは無かった。小さいお店と市場は昔と同じ。

公共施設（病院、学校）や交通機関について：
A-2：ここにかかりつけ医がいるけど、みんな元気なのであまり行かない。小学校はここととここの 2 つ。歩いて 5 分のところにある。今もある。交通も昔と全く同じ。トラム、バスも増えたり減ったりしていない。

地域で一番好きな場所は：
A-1：Bělský les が一番好き。好きな池もあるけどそれは Ostrava ではない。ここでリラックスもできるし、スポーツもできる。川の近くにサイクリングコースがあって、散歩に良い場所。秋には森にキノコ狩りに行く。今もちょうどその季節。
A-2：Bělský les のジョギングコース。それからホスポダ（居酒屋）。ビールが美味しい。ずっと昔から行っている。

社会主義時代と今とで大きく変わったところは。場所でも生活でも：
A-2：一般的に言えば、自由のレベルが増えた。表現の自由、思想の自由、海外旅行もできるようになった。個人的に一番強い印象は、洗濯機が自動じゃなくて、4 人兄弟で洗濯するのがとても辛かったけど、今は全部自動で楽になった。そういう技術の進歩。
A-1：自由が一番大きい。自分の子供を、社会主義時代には育てたくないし、想像もできない。自分の意見が言えないのが想像できない。個人的には、社会主義時代に親戚がアメリカに引っ越したせいで、その罰として大学に行けなかった。もちろんお店の商品が増えたこともあるけど、それよりも自由が一番大事だと思っている。

将来的にどんな地域になってほしいか：
A-2：スイミングプールがほしい。今は屋外で夏だけなので、屋内プール。予定はあるけど、経済的にまだできていない。
A-1：それ以外は必要なものは全部そろっていて、楽な生活。友達も近くにいるし、仕事場への交通も便利。町全体としては Beskydy 山が近くて、車で一時間で行ける。一番問題なのは、空気が悪いこと。今から、秋冬が一番ひどい。

アパート自体について満足しているところ、していないところは：
A-1：改修後は結構満足している。暖かくなった。周りがうるさくなくて、穏やかな感じがいい。キッチンは狭い。自分でキッチンを広くするための改修をしたいと思っている。来年の予定。

アパートの改修については、問題はなかったか：
A-1：改修は早く済んで問題はなかった。2 日間窓とドアがなかったがそれはしょうがない。

今後も住み続けたいか：
A-1、A-2：住み続けたい。

Ostrava 全体についてどうなってほしいか：
A-2：中心部がもっとにぎやかになってほしい。店が閉まってから誰もいなくてさみしい場所になっている。近くに大きなショッピングセンターができてから、小さいお店がなくなって中心部がさみしくなった。あと、空気がきれいになってほしい。

## インタビュイー B

□日時
日にち：2015 年 9 月 27 日（日）
時間：10：00 〜 11：00
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (36 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：個人所有
建物全体改修：2007 年　断熱と窓
居住地区：Zábřeh
現在の職業：旅行代理店（現在育児休暇中）
居住歴：2005 年〜

### □インタビュー

引っ越し当時の家族構成：
2 人。主人と自分。

現在の家族構成：
4 人。子供 2 人（6 歳、6 か月）と主人。主人はトラックの運転手。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：
主人が Bohumín で働いていて、自分が Frýdek-Místek の学校に通っていたので、ちょうどその間にある Ostrava に引っ越した。

引っ越した時の Ostrava-Jih の印象：
生まれた場所がとても小さな村で、40 人の人しかいなかったので、とても大きな都会、という印象。トラムや沢山の人が怖くて、圧倒された印象があった。

引っ越す前のイメージと実際に生活してみての印象：
引っ越す前のイメージは特になかった。生活に関しては、すごく楽になった。村には店もなかったが、ここには店がちゃんとあるし、交通も便利。生活の質が上がった。

今、よく行く場所、子供たちと遊ぶ場所など：
家の前の遊具付公園。子供が自転車とかスクーターで遊ぶ。ここが幼稚園で、こっちが小学校。ここにはお店、レストラン、教会がある。特別なスポーツ用品や家具などは、ショッピングパークという大きなショッピングセンターに行く。子供はイケアのレストランのミートボールが好き。

中心部へは行くか：
あまり行かない。ベビーカーが大変なので、あまり遠い所にはいけない。中心部に行くときはベビーカーに必要な設備があまりないので、段差の移動などが大変。

10 年前と比べてまちの変化は感じられるか：
バス停が広くなって、ベビーカーの上り下りが便利になった。周りの建物は色が塗られて、前の灰色と比べてきれい、鮮やかになった。改修も進んだ。

建物の改修について：
改修する前は建物のみんなを説得しないといけなかった。最初は拒否する人もいたけど、最後は納得して決定した。一回の会議で決定した。

近所づきあいについて：
最初の頃引っ越した頃は誰も知らなかった。子供の遊び場や、幼稚園で知り合いができた。6 家族くらい。

地域のイベントには参加するか：
子供用のイベントに参加する。ミクラーシュの日など、たまに教会でのイベントに参加する。

日々の買い物について：
Hruška というスーパーに行く。

Ostrava-Jih の中でお気に入りの場所：
子供の遊具付公園、自転車のための障害物コース。

学校、病院などの公共施設の満足度：
幼稚園や病院は満足しているけど、遊び場については 6-7 歳以上の子供向けなので、もっと小さい子供向けの遊び場があまりないことが不満。ロープの遊具などは小さな子供には危ない。

将来的にこうなってほしい、というところ：
小さい子供のための遊び場以外には特にない。満足している。

アパートについての満足度：
電気の配線が古いので、リフォームしないといけない。洗面所が狭すぎるけど、それは建物で全部同じなので改善のしようがない。近くに交差点があって、駐車できない。
逆に満足しているのは、結構広いところ。もともと 4 部屋だったけど、今は 2 部屋の壁をとって 1 つにしています。太陽の光が沢山入るところもいい。

将来的に住み続けたいか：
今はここに住み続けたいが、もしかしたら将来主人の親の家をもらうかもしれない。それはどうなるか分からない。

今後 Ostrava 全体にどうなってほしいか：
もっとベビーカーにやさしい交通機関、特別なトラム（低床式）を増やしてほしい。他はすべて満足している。

## インタビュイー C

□日時
日にち：2015 年 9 月 27 日（日）
時間：11：00 〜 12：00
場所：自宅

□基本情報
年齢：20 代 (27 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：2005 年位
居住地区：Zábřeh
現在の職業：大学の秘書
居住歴：現在の家　2014 年〜
生まれた時から Ostrava-Jih

□インタビュー
現在の家族構成：
2 人（自分、夫）。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：
もともとは別の、職場に近いところに住みたかったけれど、こっちの方が家賃が安かったのでここにした。両親も近くに住んでいるし。将来的に子供が生まれたとき、両親が子供の世話をしてくれるのでいいと思う。

子供の頃良く行った場所、思い出の場所は：
家の近くの遊具付公園。今はプールになっているけれど、昔はサッカー場だったところ。更にその近くの森。森にも子供のための遊具があったし、自転車にも乗っていた。

近所に友人はいたか：
最初の小学校の時（6-8 歳）は、本当に近くに住んでいた子供たちと友人だったが、二番目の小学校（外国語が学べる特別な学校、9-15 歳）に行くようになってから、いろんなところから来る子と友達になった。

子供の頃過ごした場所で思い出に残っているところ：
一番良いところは森の中。遊び場があって、そこで色々な楽しい思い出ができた。背の高い遊具に、だれが一番早く登れるかなどの競争をしたりして遊んでいた。

季節ごとの娯楽：
ここで、秋には家族と凧上げをした。冬には、凍った川でスケートをした。学校の近くに小さな丘があるが、これは建物を建てる時に掘った土でできた人工的な丘。冬はここでそりすべりをして遊んだ。

高校生 (16 歳〜 ) になってからの、友達との過ごし方：
高校は Poruba にあったので、この近所ではあまりでかけなかった。Poruba の近くで喫茶店 ( チェコ語で čajovna と呼ばれる、独特な東洋的な雰囲気のお店。アジアのお茶や食事、水タバコなどが出される。中高生が良く行く ) などに行っていた。Ostrava-Jih にもあって、とても人気。今は前と少し変わったけど、でも良いところ。
通訳：私も高校時代に学校が Ostrava-Jih にあって、このお店に行っていた。雰囲気が面白いので。すごく懐かしい。

公共施設、交通機関についての満足度：
かかりつけ医はここにいる。今の家を選んだのは、幼稚園や小学校、ショッピングセンターが近いから。自分の職場の

Poruba とも、主人の職場の中心部とも結構近い。特にここからは、前の家に比べるとより便利になった。通勤時間も短い。買い物はショッピングセンターですることが多い。小さい買い物でも、家から近いのでここに行く。

現在よく行く場所：
川沿いの道を散歩する。ここに陸上トラックがあって、ジョギングをする。それから、ここにいいレストランがある。高級なレストランで、元々シャトー（大邸宅）だった建物を改修している。自家製ビールがあって、よく飲みに行く。

現在の近所付き合い：
まだない。将来的に、子供が生まれてから子供を通じて付き合いができたらいいと思う。

家について：
今改修中だが、床は元々全部絨毯だったのが嫌で、木に変えた。アーチ型の扉も前の所有者が変えたものだけど、これも好きではない。電気の配線も変えないといけない。80 年代の設備で、60 年代のものと比べるとそこまで危険ではないけれど、念のため変えたい。

2 か所の家に住んでみて、地域の違いを感じるか：
家そのものは、昔は狭くて弟と一つの部屋をシェアしていたけど、今は広くなって、子供が二人いても別々の部屋で過ごせる。洗面所が広い。
前の家の方が、トラムの停留所やバス停から遠かったので、周りに自然が多かった。
今の家はトラムやバスの停留所から近いので音はうるさいけど、夜は安全な気がする。前の家は停留所から遠くて、暗いところも通っていたので、歩くとちょっと危ないと感じた。
住んでいる人の世代的な違いなどの地域差は特に感じない。

今一番お気に入りの場所：
川の近くの地域。もうすぐ自然保護地域になる予定。それから、2 年前にできたローラースケート用の特別な施設も良い。ローラースケートをよくするので。

今後も住み続けたいか：
住み続けたい。本当は嫌だけど、主人の両親の家が離れた村があるから、年を取った時に両親の面倒を見るために将来的に引っ越さないといけないかもしれない。

今後どうなってほしいか：
トラムの停留所からの地下道があまりきれいではないので、変えてほしい。空気をきれいにしてほしい。

これまで暮らしてきて、地域の中での変化：
ローラースケート場ができたこと。建物がきれいになった。トラム停留所からの地下通路はまだだけど、他の道路は改修されたのも良い。ショッピングセンターは 90 年代にできた。中心部に行かなくても大きな買い物ができるので良い変化だと思う。

## インタビュイー D

□日時
日にち：2015 年 9 月 28 日（月）
時間：17：30 〜 18：30
場所：自宅

□基本情報
年齢：20 代 (29 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：2007 年　水道管
2010 年　外壁の塗装
2011 年　窓
居住地区：Dubina
現在の職業：公務員
居住歴：現在の家　1989 年〜
生まれた時から Ostrava-Jih

□インタビュー
現在の家族構成：
3 人。両親と自分。

今の家に引っ越して来た理由：
前のアパートが狭すぎたのと、カビが発生したため。今の家にしたのは、市から指定されたから。

子供の頃よく行った場所、思い出の場所は：
幼稚園は Hrabůhka にあって、小学校はこっち。幼稚園は今はピザ屋になって、もうない。小学生の頃は学校の近くで遊んでいた。小学校の頃は同じ建物に友達がいた。ちゃんとした遊び場はなかったけど、ちょっとした砂場はあった。昔と比べて今の方が、遊び場が増えた。インディアン公園（特別な遊具がある）とか。社会主義時代にはなかった。

子供の頃、買い物や食事にいったところは：
家の近くの Hruška というスーパーが一番古くて、多分 90 年代初め頃にできた。トラムの終点には Intersuper があって、家から歩いて 10 分くらいでテスコもある。両方とも 2000 年頃出来たと思う。

子供の頃、家族との休日の過ごし方：
良い天気の時は、この辺じゃなくて、おばあさんの持っている庭に家族で出かけた。

学生時代の過ごし方：
通っていたギムナジウムはここ。低学年の頃はこの辺の遊具で遊んで、高学年になると友達とレストランで喋ったりしていた。後は友達の家に遊びに行ったり。

働き始めてから：
職場が中心部にあるので、この辺では出かけなくなった。休日も、あまりどこにも出かけない。二週間前に動物園に行ったけど。後は友達とレストランに行く。近くにあるフランス風喫茶店「プロヴァンス」にはよく通う。

今一番好きな場所は：
自分の家が一番。他の地域と比べると周りに緑が少ないことは不満。

家について：
アパートはこのままでいいけど、両親と住んでいるので、自分のアパートがほしい。引っ越すなら Ostrava-Jih のどこかがいい。実はおばあさんから引き継いだアパートがあるけど、今親戚と喧嘩していて、その親戚がそこに住んでいるのでちょっとややこしい。

Ostrava-Jih がいい、という理由はおばあさんの家があるから？：
人があまりいなくて、穏やかなところが好き。中心部は人が多いのが嫌。

子供のころから暮らしてきて、地域の変わったところ：
この工業地域は新しく出来た。昔は野原だった。ここの通りの一軒家も新しくできた。個人的には緑が少なくなって残念。客観的に言えば、雇用機会が増えるのはいいことだけど、自分は別にそこで働いていないので。テスコは良い。

今後の希望：
緑をもっと増やしてほしい。この辺は建物に色が塗られて鮮やかになったけど、この辺りはまだ灰色なので、色を塗ってほしい。

現在の近所付き合い：
子供の頃に比べるとあまりない。友達は色んなところに引っ越して減った。

オストラヴァが工業都市であることについて：
炭鉱は閉鎖されたけど、ヴィトコヴィツェなどの企業があって製鉄業は今後も続いていくので、今後も工業都市であり続けると思う。

## インタビュイー E-1、E-2

□日時
日にち：2015 年 9 月 28 日（月）
時間：19：20 ～ 20：20
場所：E-2 さんの自宅
（E-2 さんの母親である E-1 さんの自宅は現在内装の工事中）

□ E-1 さんの基本情報
年齢：60 代 (62 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：
2012 年　エレベーター
2008 年　窓　外壁は未改修
居住地区：Dubina
現在の職業：退職
居住歴：1991 年～

□ E-2 さんの基本情報
年齢：20 代 (29 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：賃貸
建物全体の改修：時期不明
居住地区：Hrabůvka
現在の職業：会社員
居住歴：現在の家　2014 年～
Ostrava-Jih　1991 年～

□インタビュー
家族構成：
引っ越してきた時は 4 人。子供 2 人（兄、妹）。
今は娘がこっちに引っ越してきた。後の 3 人は同居。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：
E-1：以前は Poruba の家に住んでいたけれど、壁全体にカビが発生したので引っ越した。その時は社会主義体制は終わっていたけど、アパートが欲しいという申し込みをして、この家を指定された。本当は Poruba に住みたかったけれど空きがなくて、ちょうど出来たばかりだった Dubina に空きがあったのでここになった。

引っ越す前の Ostrava-Jih に対する印象：
E-1：ひどかった。生まれてから 40 歳までずっと Poruba に住んでいたので、別のところに住むのはどんなことところでも嫌だった。一カ月の間、トラムの中で泣いていた。今はもう慣れた。

実際に引っ越してみての印象：
E-1：やっぱり嫌だった。Poruba と比べて、その時はまだ店もなかった。1991 年時点では Hruška が唯一のスーパーだった。靴などの買い物は Hrabůvka まで買いに行かなければならなかった。今はもう Dubina に全部ある。
E-2：Poruba についてはほとんど覚えていない。家のドアだけ覚えている。

90 年代、良く行っていた場所は：
E-1：森の中の遊具があるところ。冬はそり遊び。夏はプール、Ostrava じゃないけど Polanka という地域。川沿いに馬が沢山いて、牧場がある。それから Proskovice の自然保護区。遠くまで遊びに行くことが多かった。Dubina には自然がなかった。
通訳：Dubina の Dub というのはオークの木という意味なのに、オークの木は全然ないのが皮肉的。
E-2：ここに昔栗の木があって、栗を拾いに行った。今はあるか分からない。多分減ったけどまだあるのでは。

公園やオープンスペースについて：
E-1：子供のための遊び場は何もなかった。社会主義時代の最後の時期だったので、あまり良くなかったけど、組合で家を買うのはとても安かった。昔のお金で 2 万 5 千チェココルナ。今買ったら 70 万位する。

通っていた学校について：
E-2：幼稚園と小学校が同じところで、中高がギムナジウム。

学生時代の遊び場：
E-2：小学校の近くの遊び場。子供の頃は他の子とよく喧嘩をしていた。それから Špalíček の商店街にも行った。ここには小さいお店が沢山ある。例えばペットショップとか。あと Broadway。ここにも小さなお店やレストランがある。このあたりでボーリングをしたり。今は会社の人と別の場所にボーリングに行く。

現在よく行く場所：
E-2：カフェプロバンス。3 年前に出来た。
E-1：La VIDA というレストラン。それから Školka。

中心部には出かけるか：
E-1：中心部にある二つのショッピングセンターには行く。レストランは Poruba か Třebovice に行く。職場が Třebovice だったので。カラシと酢を作っている会社で、品質チェックをする仕事をしていた。

昔と今を比べて、Dubina の変化は：
E-1：新しい建物が増えた。住宅と、スポーツセンター。スポーツセンターは 10 年前に出来たけど、行ったことはないです。私たちはプールが好きだけど、プールがない。それから緑が増えた。公園はないけど、建物の周りの木が増えた。

近所付き合いについて：
E-1：同じくらいの時期に引っ越してきた人は良く知っていて、ずっと前から近所づきあいがある。後から引っ越してきた人については良く知らない。特に同じ階に住んでいる人は良く知っている。ずっと住んでいる人は 3 分の 1 くらい。3 分の２の人は新しく来た人で、賃貸で住んでいる。

地域別の違いについて：
E-2：Hrabůvka の方が高齢者が多くて穏やか。こっちの方が緑がある。アパートは前より小さい。

今の Ostrava-Jih の好きなところ、嫌いなところ：
E-1：Bělský les。それからレストランが好き。
E-1、E-2：映画館や劇場などの文化施設、プールが Dubina にはないので、欲しい。居酒屋しかない。Stará Bělá のプールは屋外なので、室内プールがほしい。

今後も Ostrava-Jih に住み続けたいか：
E-1：多分 Dubina に住み続けるけど、もし宝くじに当たったとしたら自分の一軒家がほしい。自分が生まれた Poruba の近くにある、自然が多いところに引っ越したい。
E-2：村か小さな町に引っ越したい。Ostrava の近くの村がいい。

## インタビュイー F

□日時
日にち：2015 年 9 月 29 日（火）
時間：14：30 〜 15：30
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (38 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：
2007 年　屋根と窓
現在　建物の基礎部分を改修中
居住地区：Zábřeh
現在の職業：パソコン関係の会社（現在は育児休暇中）
居住歴：現在の家は 2006 年〜
生まれた時から Ostrava-Jih

### □インタビュー

生まれた時の家族構成：
4 人。子供 2 人。

現在の家族構成：
主人と赤ちゃん 1 人、もう 1 人妊娠中、犬。

現在の家に引っ越した理由：
前に住んでいたアパートは賃貸で、自分のアパートが欲しかったから。この家にした理由は、近くに森があって自然が多いから、ここから 5 分のところに両親が住んでいるから、生まれた場所に近いから。
生まれた家→ 14 年前から 5 年間 Hrabůvka → 2006 年から今の家。

子供の頃よく行った場所、思い出の場所は：
家の周りで、友達と遊んでいた。鬼ごっことか、かくれんぼ、ボール遊び、自転車、テニスの壁打ちなど。川のところに、お父さんと自転車で行った。森の公園におばあちゃんと行った。幼稚園、小・中学校は家の近く。幼稚園は今はない。友達とはクラブ活動をしたりしていた。例えばオウムを飼ったり、卓球をしたり。

学生の時の休日の過ごし方：
高校は Poruba にあった。週末に beskydy という山まで行ったり、バレーボールやハンドボールなどのスポーツをしていた。あと犬を飼っていたので、Bělský les で犬の散歩。
大学は中心部にあった。その頃は、ここの čajovna とか、Poruba の čajovna に行ったり、Poruba にある大学寮の大学のクラブにいったりしていた。

社会人になってから：
仕事を始めてからも、友達と山に行ったり、自転車に乗ったり、犬の散歩をしたり。レストランにはあまり行かない。

現在の買い物について：
家の近くのスーパー、Hruška、Kotva の BIO 食品店、Kaufland で大きな買い物。

中心部へは行くか：
前は週に一回水泳に行っていたけど、今は Poruba のプールに行くのであまり行かない。プールが開いている時間の都合

で変えた。

他地域へのアクセスについて：
利便性は良い。車を使っている。

昔からの変化について：
元々は安全な地域だったけど、今はそんなに安全ではない。問題がある住民や、スリが増えた。家賃が払えない人のための特別な寮ができた。5 年前から。Jih 全体じゃなくて、具体的にこの地域だけ。昔とは比べられないけど、Poruba と比べると空気が悪い。埃が多い。特に冬は汚れがひどいので、外に出かけない方が良い。

良くなったところは：
スポーツ施設や文化的な施設が増えたこと。小さな専門店も増えた。自転車のための道が増えたこと。

住宅の改修について：
8 年前の改修は、ここに住んでいる人みんなで屋根と窓を改修することを決めた。具体的な会社は、住んでいる人じゃなくて組合の偉い人が決めた。Ostrava で一番大きい組合で、この建物だけじゃなくて、2 万人の組合員がいる。屋根は問題なくて、窓そのものも問題なかったが、設置する会社が上手くなくて、カビが発生したり、すきま風が入ってくるなどの問題があったけど、その会社がもう存在しないので、文句も言えない。今やっている基礎の改修は、ここに住んでいる人たちが自分たちで会社を選んだ。自分が建物の組合長をやっているので、良い会社を探した。8 年前の改修は組合にお金を借りてやったから決められなかったけど、今の改修は自分たちでお金を貯めたので、自分たちで決めることができた。今回は、前の失敗を繰り返さないように、改修の会社だけじゃなくて、その出来をチェックする機関も雇っている。

住宅改修の同意形成は困難か、容易か：
一番の問題は、住民が会議に対して興味がないこと。住んでいる人の半分以上が参加しないと会議で決定できないが、参加者が少ない。この家は 60 年前に建てられたけれど、断熱改修もしていない。住んでいる人の一部は高齢者で、もう先も長くないので何もしたくない、という人もいる。窓の修理も良くなかったので失望している。

友人としての近所付き合いは：
ある。同じ建物に住んでいる人たちは、例えば子供が生まれたときは、ほとんどの人が遊びに来て、プレゼントをくれた。隣の建物の人とも、挨拶だけじゃなくて雑談をしたりする。自分はこの地域に生まれたが、知り合いも沢山いて、都会なのに村のような人間関係がある。ほとんどの人は長く住んでいる。新しく来る人は大体賃貸。

住宅についての満足している点、不満な点：
外の壁の改修をするときにバルコニーをつけたい。車が沢山通る道が近くて、この部屋はうるさい。もともとは子供部屋にしたかったけど、うるさかったのでやめた。

将来的に住み続けたいか：
後 5 年間は住み続けたい。お金が貯まったら近くの村に引っ越したい。動物と自然が好きなので。

今後 Ostrava-Jih にどうなってほしいか：
満足しているけど、安全面の改善と、空気がきれいになってほしい。

満足している中で一番好きなのは：
森が近いのがいい。

## インタビュイー G

□日時
日にち：2015 年 9 月 29 日（火）
時間：15：45 〜 16：45
場所：自宅

□基本情報
年齢：60 代 (63 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：2012 年　窓と外壁　エレベーターはもっと前（2005?）
居住地区：Zábřeh
現在の職業：退職（元公務員）
居住歴：現在の家　2012 年〜
プラハ→ Výškovice(1990-2010) →村→現在の家

### □インタビュー

家族構成：
1 人暮らし。

住宅について：
Výškovice に住んでいたころも、同じような高層アパートに住んでいた。その時も一番上の階に住んでいた。高いところが好き。同じ 12 階に住んでいる人はエレベーターが怖いから、いつも歩いて上り下りしている。30 年間ずっとそう。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：
元々 Výškovice に住んでいたけれど、村に引っ越して 2 年間住んだ。娘とその主人と一緒に住んでいて、村で仕事を探していたけれど中々見つからなくて、Ostrava との行き来が大変だったのでまた戻ってきた。
生まれはプラハ。25 年前に離婚して、新しい生活が始めたくて Ostrava に来た。Beskydy という山が好きだったので、その近くの Ostrava にした。山が近いけど、都会。アパートを探すときに近くの小さい村のアパートも見に行ったけど、アパートの建物がそんなに良くなくて、Ostrava と比べて良くなかった。

25 年前、引っ越してきた頃の印象：
その時は、とても心地よくて便利なところだった。Odra という商店街に美容院やレストラン、郵便局など何でもあったのでとても便利だった。文化センターもあった。今年なくなった。新しいショッピングセンターを建てる予定はあるけど、今はちょうど何もない。

休日の過ごし方：
近くの村や、Odra 川の近く、近くの森、Bělský les の森、時間があれば車で山まで行く。冬はスキー、夏は自転車。Bělský les の中にクロスカントリーのコースがある。最近は地球温暖化で雪が降らないからスキーは出来ない。

近所付き合い：
あまりない。一人でいるのが好きなので、他の人とはあまり交流しない。内向的な性格。

一度村に行った後、今の家に引っ越した理由：
元々自分は Výškovice に住みたかったけど、娘は Zábřeh の方が好きだった。子供の面倒を見るためには同じ地域に住んでいる方が良かったので、Zábřeh にした。Ostrava-Jih にしたのは、Poruba もそうだけど、自然が多くて子供にいいところだと思う。Ostrava の中で一番きれいなところ。

25 年前と比べての変化：
良くなったところは、建物が灰色から鮮やかな色になったこと。緑、木の数が増えたこと。悪いところは、若い世代がうるさいことと、ごみの片づけをしないこと。ホームレスが近くの森に棲んでいる。それも以前は無かった。ホームレスは夜にゴミ箱からいろんなものを取って周りにごみを散らかしたりする。それは 2 年前くらいから。なんでか理由は分からないけど、増えた。

現在よく行く場所：
池の近く、川沿いで自転車に乗っている。レストランにはいかないけど、買い物は Kotva の商店街。家の近くのコンビニ。

住宅の改修について：
引っ越したのは改修後。家を探しているときの写真は色を塗っている最中だった。

住宅に対しての満足、不満足な点：
100％満足。何も変えたくない。高いところが好きなのは、眺めが良いから。だから山も好き。

地域イベント等への参加：
イベントはいくつかあるけど、自分は内向的な性格なので、参加はしない。一人で自転車に乗るのが一番好き。

Ostrava 内の移動について：
たまには中心部に行くこともあるけど、あまり行かない。

Zábřeh に今後どうなってほしいか：
高齢者向けの運動器具を公園においてほしい。健康維持のためのエクササイズの器具。Hrabůvka にはあるけど Zábřeh にはないので、ここにも作ってほしい。

交通機関、公共施設などについての満足度：
交通には満足している。近くをバスもトラムも通っているので便利。病院などの公共施設についても全部満足。森がすぐ傍なので、空気も良い。一つ改善してほしい点を思い出した。昔はそんなことはなかったけど、今は家の前の通り (Volgogradská) に車が両側に沢山止まっている。その駐車のせいで女の子が事故で亡くなった。車の陰から出てくるのが見えなくて。駐車の問題を解決してほしい。

今後も Zábřeh に住み続けたいか：
住み続けたい。前住んでいた村に比べてとても便利。村では車がないとどこにも行けなかったので、こっちの方が便利。

## インタビュイー H

□日時
日にち：2015 年 9 月 29 日（火）
時間：17：00 〜 18：00
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (35 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：2009 年
居住地区：Zábřeh
現在の職業：イベント企画会社
居住歴：現在の家 2014 年〜
25 年前に Výškovice → 5 年前から 2 年間村→ 3 年前に同じ通りの別の家→ 1 年前に今の家

### □インタビュー

現在の家族構成：
4 人。子供２人と夫（籍はいれていない）。

今の家に引っ越して来た理由：
前のアパートよりもいい場所で、もっと狭い家が欲しかった。前のアパートは近くのディスコがうるさかった。お店の前で騒いだり、ガラスを割ったりしている人がいて危なかった。この地域に残ったのは、緑と川、森が近いし、サービス、学校、病院などが何でもあって便利だから。低層の住宅が好き。高層だと、エレベーターがないと生活できない。この建物にはエレベーターは無いけど、低いから普段は問題ない。大きな買い物をした時や、ベビーカーを運ぶ時は困る。

Ostrava-Jih に引っ越す前の印象：
その時は子供だったけど、プラハから引っ越して来て、黒いオストラヴァという固定観念があって、あんまりいいイメージはなかった。汚い、黒い、というイメージ。今でもそういう固定観念がある。

引っ越し後の印象：
引っ越してから、印象は結構変わった。実はいいところだった。自然環境よりも人間環境の方が大事だと思っていたので、友達がすぐできたのが良かった。子供の頃は自然環境には興味がなくて、友達ができたことがうれしかった。友達は同じ建物の、同じ階の子。

子供の頃よく行った場所、思い出の場所は：
森や Odra 川の辺りに犬の散歩に行った。森で友達と遊んだりもした。木の枝で小さな家を作ったり、犬の散歩を一緒にしたり、自転車に乗ったり、ローラースケートをしたり。

通っていた学校：
小学校は家の近く。中学校は外国語学校で中心部、高校は Poruba。学生の頃は中心部のお店に良く行った。ケーキ屋さんとか。

現在のよく行く場所、好きな場所など：
Kino Luna のところにあるケーキ屋さんは美味しい。最近できた。Kino Luna の前にある遊び場は子供に良い。最近新しくできたロープの遊具がある遊び場にも良く行く。それから Bělský les のサイクリングパーク、このレストランは、ビールを飲みに。夫がここのシュニッツェルが好き。それからショッピングパークへは、大きな買い物をしに。家から歩いて行ける。日常の買い物は Bila と、Hruška。郵便局も近くにある。Hruška はこっちにもある。

今と昔の地域の変化：
貧しい人のための寮が、この地域に悪い影響を与えている。寮ができたことで、周りのアパートの値段が下がった。病院などのサービスはよくなった。映画館が改修されて、新しいお店も沢山出来て、より便利になった。

以前住んでいた Výškovice と現在住んでいる Zábřeh の地域差：
Výškovice の方が坂があるから、空気がきれい。こっちの方が埃が多い。逆に、こっちの良いところは、サービス施設が多くて便利なところ。

近所付き合い：
沢山ではないけど、近所に知り合いはいる。子供の幼稚園の友達とか。建物の住人とは挨拶ぐらい。１年前まで住んでいたアパートで、隣の人とは友達のような関係だったけど、段々色んな頼みごとをされるようになったので、今は近所付き合いに積極的ではない。

建物内のメンテナンスについて（共用スペースに植木鉢が置いてあったり、小さな絵が飾ってあったりして手入れされていたので）：
アルバイトとして、私がやった。丁度昨日掃除した。社会主義時代の頃は、共用廊下は毎週別の家族が掃除をしていて、多分今もそういうところもあるけど、大体は管理会社に任せているところが多い。この建物では私がやっている。それは協同組合の話し合いで決めた。

住宅について、好きなところや改善したいところ：
この家は自分で改修したけど、まだ床は古い。断熱は大丈夫。状態の悪いアパートを安く買って、自分で修理した。
前住んでいた家は、近くのディスコの騒音がうるさくて、お店の周りで騒いだり、ガラスを割ったりする人もいたので引っ越した。

地域について、好きなところや改善したいところ：
一番好きなのは Bělský les。サイクリングロードもいい。川の向こうにある池も好き。私たちはスポーツ家族なので、運動とビールが好き。映画館もいいけど、４人で行くとちょっと高い。高齢者向けでも子供向けでも、もっと運動施設が増えたらいいと思う。子供向けの遊び場は、社会主義時代には結構あって、金属でできていた。それが今は壊されて、昔と比べて今は子供も多くないので新しい遊具が作られていない。今子供の遊び場があまりないので、元々の遊具の代わりに新しいものを作ってほしい。ベンチと、犬の糞を処分するためのゴミ箱も足りない。

今後も住み続けたいか：
まあ、住みたい。

## インタビュイーI

□日時
日にち：2015 年 9 月 30 日（水）
時間：8：15 〜 9：15
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (30 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：住宅組合
建物全体の改修：2010 年　窓
居住地区：Hrabůvka
現在の職業：シェフ（現在は育児休暇中）
居住歴：現在の家　2008 年
生まれは Zábřeh

### □インタビュー

現在の家族構成：
5 人。夫と、子供が 3 人。

両親が Zábřeh に住んだ理由：
親もアパートではないけど、Zábřeh 生まれ。なぜアパートに引っ越したかは分からないけど、多分住宅組合として建物を建てた。

子供の頃遊んだ場所：
建物の前に遊び場があった。今はもうない。サッカー、バレーボール、ハンドボールなどのボール遊びやゴムとび、冬は雪合戦をして遊んだ。

子供の頃家族といったレストランや買い物に行ったお店：
買い物は、Korna と Hruška。Korna はもうない。

子供の頃の友人：
小学校は別だけど、同じ建物に住んでいる友達がいた。
中学校・高校は料理の専門学校にいった。

学生時代友達とよく行ったところ：
Broadway 商店街。レストランやディスコがある。大体この地域にいた。同級生は中心部の Stodolní 通り（バーや居酒屋が集まっている通り。チェコでは有名な観光地だが、たまにそこで暴力的な事件などがある）に出かけていたが、自分は怖かったのでここが良かった。おばあさんがいたのでたまに Poruba には行った。後はカウフランドができたので、そこに買い物に行ったりしていた。ショッピングパークの中でも、カウフランドが最初にできた。大体 15 〜 18 年前位。今も両親が Zábřeh に住んでいるので、Zábřeh に行くときはショッピングパークによる。

現在の買い物、子供と遊ぶ場所など：
大きな買い物の殆どは Tesco に行く。日常の買い物は家の近くの Hruška と、Albert。Venuše のレストラン。結婚後によく行く。子供と遊ぶのは、家の近くの砂場と、学校の近くのインディアン風公園。

病院や子供の学校へのアクセス性について：
病院、幼稚園、小学校が家のすぐ近くで、それはとても便利。

現在の近所付き合いについて：
前の小学校や高校の時の友達はみんな引っ越して会うことは出来ないけど、Facebook で連絡を取り合っている。近所付き合いはあまりない。

昔と今の変化：
緑が増えている。子供の遊び場も増えているけど、それは Hrabůvka の方だけ。Zábřeh の方はあまり増えていない。
悪くなったのは、ホームレスの数が増えたこと、犯罪率が上がったこと。

Hrabůvka に引っ越した理由：
Ostrava-Jih に生まれてなじみがあるので、Jih の中ならどこでもよかったが、不動産の紹介で一番良かったのがここだった。Poruba は好きじゃない。

自宅について、好きなところ、改善したいところ：
不満なところが多い。まだ断熱改修されていないので､建物全体が寒い。組合の建物なので､反対が多いと改修できない。
前住んでいた人の背が高くて、キッチンの家具の背が高いのでそれを変えたい。食洗機などの家電もそろえたい。

5 年前の窓の改修について：
スムーズに行った。その時は自分は実家に帰っていたけど夫がここにいてちゃんと見ていた。改修はよくできたと思う。

地域のイベントについて：
Venuše の一部でいろんなイベントがある。例えば子供のためのイベント。幼稚園や小学校のイベントがあったら参加する。ミクラーシュの日のお祝いなど。Ostrava-Jih じゃないけど、Ostrava の動物園にいったりもする。

Ostrava-Jih の中で一番好きな場所：
Bělský les。子供と一緒にリラックスするのが好き。森も前と比べると手入れがされてきれいになった。子供は葉っぱや松ぼっくりを拾うのが好き。

将来的にもっとこうなってほしいと思うところ：
家の周りに居酒屋とカジノが多すぎるので減らしてほしい。

今後も住み続けたいか：
はい。便利だし、トラムでどこにでも行けるので満足。病院、お店も近いし。

## インタビュイーJ

□日時
日にち：2015 年 9 月 30 日（水）
時間：9：30 〜 10：30
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (35 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：個人所有
建物全体の改修：
2006-7 年頃　窓と外壁断熱
居住地区：Hrabůvka
現在の職業：大学のＰＲマネージャー（現在育児休暇中）
居住歴：現在の家　2006 か 7 年〜
生まれは Zábřeh

### □インタビュー

住宅の所有権について：
もともと自分のおばあさんが住宅組合の一員として持っていたのを、自分が住むときに買い取った。すごく安くて、1 万コルナ位。

建物改修について：
住んでいる人が借金をして改修をした。

現在の家族構成：
4 人。自分、夫、子供 2 人。

通っていた小学校について：通っていたのは外国語が学べる、オストラヴァでも一流の小学校で、他の地域からも子供が通っていた。最初はロシア語、5 年生からそれに加えて英語、6 年生からロシア語の代わりにドイツ語。入学には選抜試験があった。前はとてもいいところだったけど、今は近くに貧しい人のための寮ができて、そこが出来てからは治安が悪化した。母も同じ通りに住んでいたけど、それが理由で引っ越した。今はその小学校にも貧しい家族の子供が通うようになったので、勉強のレベルも下がって、一流ではなく、普通の小学校になった。

子供の頃、よく行った場所：
家の近くのスタジアム。近所の友達の家。この地域唯一の一軒家。元々は道路の反対側の地域と同じグループだったけど、道路ができた時にここだけ分断された。後は、学校の近くで学校の友達と遊んだ。

子供の頃の、地域に対する印象：
子供の頃だからあまり判断できないかもしれないけど、お店、病院など何でも近くて便利で、地域に問題もなくて満足していた。同じ建物（18 階建）の 17 階に住んでいた友人は高層なのが嫌だと言っていたけど、自分の住戸は 6 階だったので大丈夫だった。友達の家に遊びに行ったときは、ちょっと高すぎると思った。車はなかったけど、トラムやバスが便利だった。母は Vítkovice で働いていたけど、家の近くのバス停からバスで 10 分で行けたので、とても便利だった。中心部にある高校に行くのにも便利だった。高校は途中からビジネスが学べる高校に変わった。

学生時代、出かけた場所：
友達の家、Poruba、それからこの辺りで最初のロッククラブができた。Sklep（地下室）という名前で、本当に地下にあった。高校の時の同級生と一緒に行っていて、小学校の同級生と再会したりした。唯一のロッククラブだったから、みんなここに行っていた。ほとんど毎日行っていた。今はクラブは沢山あるけど、元々はここだけ。今でもこのころ知り合っ

た人たちと付き合いがある。スケートボードをやっている人とか、壁に絵をかく人とか。一つのコミュニティーになっていて、stodolni 通り（中心部）の近くにあるもう一つのクラブにも、90 年代半ばから今まで通っているので、今でも良く会う。Facebook にもコミュニティーのページがって、たまに昔の写真がアップされる。90 年代の写真なので、みんなで昔の髪型を笑ったりしている。

家族との外出：5 歳の時両親が離婚して、父と一緒に住んでいた。父は後で Dubina に引っ越した。親戚のところに遊びに行くくらいで、家族で出かけることはあまりなかった。高校は女子高。その時はショッピングパークなどもなかったので、家族で出かけるより友達といることが多かった。天気のいい時には森に出かけた。ここにあるレストラン Koliba があって、ここの近くを散歩していた。

大学生の頃：
大学は中心部にあった。その時にはクラブ Sklep はもうなくて、中心部のクラブに良く行った。友達も中心部に住んでいたので、中心部によく行った。

職場について：
Poruba にあったけど、休日に Poruba に出かけることはない。Poruba は仕事場、というイメージ。結婚は 2007 年。夫は小学校の同級生で彼も Ostrava-Jih で生まれたので、ここに住みたかった。

子供の遊び場について：
息子は 6 歳。この建物には沢山子供がいる。この近くには遊び場がなくて、砂場もなかった。役所の人が来て公園が欲しいか聞かれたので、「小さな子供が沢山いるので砂場が欲しい」といったけど、結局何もできなかった。それで、住んでいるお父さんたちが集まって自分たちで作った。なぜ自分たちで作らないといけなかったのか、という不満がある。役所が最低限してくれるのは、毎年砂を交換してくれることだけ。砂場自体は自分たちで作った。後で子供たちが大きくなってから、サッカーのゴールも作った。役所は古い金属の遊具を撤去した後、新しい遊具を作ってくれなかった。近くに他の遊び場がないので、近所の子供はこの砂場かサッカーゴールを使って遊ぶ。天気のいい日は 40 人くらいいる。子供を家から見守れるのと、車が来ないのは良いけど、40 人いるとうるさいこともある。こっちにも大きな遊び場を作るという約束があったが、結局何も作られていない。5 年前から約束している。子供が通っている幼稚園と小学校。幼稚園にはちょっとした遊具があるけど、小学校には何もない。この近くにはないので、たまに Zábřeh のロープ遊具のある遊び場まで行くけど、遠い。この地域には幼稚園、小学校が沢山あるのに、遊具付公園がないのが不思議。あとは、最近小さい子供のための新しい遊び場ができたけど、遠すぎる。もっと近くに作ってほしい。プールも新しく作られたけど、屋外だけ。役所は室内プールも作ると約束したけど、まだできていない。テニスコートの裏にも新しい遊び場ができたけど、テニスコートが開いている時間しか使えないし、隠れているので知らない人は見つけることができない。

自分たちで作った遊具について、役所に許可はとったのか：
何もしていない。ただ、建物のみんなで決めて、お金を集めて作った。元々は今より大きく作っていたけど、木が朽ちてきて、役所が修理してくれたけど、少し小さくなった。

地域の変化について：
治安が悪くなった。Vítkovice や中心部にいたロマ人が引っ越してきた。もちろん問題のないロマ人もいるけど、問題のある人も来た。特に貧しい人のための寮が 5 つ位ある。自分の息子（1 年生）が通っている小学校にロマ人の子供が多くて、彼らはあまり勉強しないので、全体のレベルが下がった。商店街 Broadway も。以前は買い物に良い場所だったけど、今は問題のある人が集まっていてうるさいし、安全な気がしない。この広場にも、貧しい人のための寮が出来て、以前はきれいで安全な場所だったのにそうではなくなった。変化が始まったのは 10 年位前から。元々は組合の人たちが自分たちで作ったからとても幸せで、とてもいい地域だった。共産主義時代に市からこの地域のアパートを指定されると、

みんな喜んだし、うらやましがられた。寮が出来てからは違う。元々寮に住む人たちは中心部と Vítkovice にいたけど、政治的、経済的理由で無理やりこっちの地域に移された。多分中心部で高い建物を売りたくて、問題のある人たちをこっち移しているんだと思う。
良くなったところは、店、レストラン、サービス施設が増えたところ。歩道がちゃんと手入れされていること。緑が増えていること。Bělský les も前と比べると整備されてきれい。

建物の改修について：
室内の改修は自分でやった。アパート全体は親戚が住んでいた頃にした。電気の配線は、自分のところだけ自分でやった。

Ostrava-Jih の中で好きなところ：
家の前の遊び場。子供たちの両親が外のベンチで出会っていろんな話をしたり、子供の誕生日のお祝いでグリルで肉を焼いたり。近所付き合いが強い。

将来的にもっとこうなって欲しいというところ：
寮がなくなってほしい。寮があるだけで、地域全体に悪い影響がある。Ostrava 全体の空気がきれいになってほしい。この地域は町の中心部やもっと遠いところから汚れた空気が来ていて、汚れがひどい。

将来的にも住み続けたいか：
下の子供が小学校に上がる前（5 年以内）に一軒家に引っ越したい。夫はもっと山の方に住みたがっているけど、自分はもっと Ostrava の近くの郊外に一軒家が欲しい。義理の妹は、以前 Venuše に住んでいて、すごく地域が大好きで引っ越ししたくないとずっと言っていた。でも結婚して子供が生まれてから郊外の小さな町に引っ越して、そこで村みたいな生活を始めてから、もうここには戻りたくないといっている。あんなに好きだったのに。ただ、自分は町のバスが通っていない（バスはあるけど、町のバスではない）のは不便で嫌なので、町のバスが通っているところがいい。

## インタビュイー K

□日時
日にち：2015 年 9 月 30 日（水）
時間：16：15 〜 17：15
場所：自宅

□基本情報
年齢：30 代 (36 歳 )
性別：女性
自宅の所有形態：個人所有
建物全体の改修：2009 年　窓
2005 年頃　屋根　引っ越す前
居住地区：Výškovice
現在の職業：教師
居住歴：現在の家　2006 年〜
生まれは Zábřeh

### □インタビュー

引っ越してきた時の家族構成：
2 人。夫と自分。

現在の家族構成：
4 人。子供が２人。今幼稚園のイベントで森に遊びに行っている。

現在の家への引っ越しの理由：
前も Ostrava-Jih に住んでいたが、家族のためにもっと広い家が必要になったから。

子供の頃、遊んだ場所、思い出に残っている場所：
家の周りの遊び場。友達とサッカー、ゴムとび、木登りなどをして遊びました。それから、こっちの芝生ところで冬はそりすべり、夏はインディアンごっこをして遊んだ。自分で「カエルの山」という名前をつけた。カエルが居るわけじゃないけど、テレビの影響で。通っていた幼稚園と小学校はここととここ。

子供の頃、買い物やレストランで出かけた場所：
買い物は家の近くの広場のお店、レストランはあまり行かなかった。両親の好きなレストランは Ostrava にはなくて、少し離れた村にあったので、誕生日の時などはそこに行った。それから、ミニゴルフ（レストラン）。

家族の歴史：
父親は 4 歳からここに住んでいた。父親の両親は Vítkovice で働いていたので、ここに来た。母親は南モラビアで生まれた。父は兵隊の訓練（昔は皆行かなければならなかった）で村に行ったときに母と出会って、一緒にこっちに来た。

高校時代：
通っていたギムナジウムはここ。ロッククラブ Sklep と、Venuše の居酒屋。Beskyby の山まででかけたりもした。山にコテージがあって、友達と行った。

大学時代：
医者になるための勉強をしに半年程度 České Budějovice に行った後、やっぱり教師になりたくて Ostrava に戻ってきた。大学は Ostrava 中心部。戻ってきた頃、Stodolni 通りに新しい居酒屋やクラブが作られていて、そこに行っていた。

現在の家に引っ越してから、良く行く場所：
森でジョギングをしたり、自転車で川の近くを走ったりする。子供が、家の前で遊ぶ。砂場と、社会主義時代のちょっと古い遊具がまだあって、使える。子供の小学校はここ。幼稚園はこっち。学校の近くにロープの遊具がある遊び場がある。他の場所で新しい遊具を作るという予定があるけど、まだ実現していない。

買い物について：
日常の買い物は Albert、フルシュカ。ショッピングパークはたまに。アクセス性などについては、まあ満足。

将来的にもっとこうなって欲しいというところ：
新しく作る予定の遊び場を作ってほしい。森の中にもっと照明をつけてほしい。夜でもジョギングできるように。
森の北東部分の道にはあるけど、こっちにはまだない。

今と昔で変わったと思うところ：
ロマ人の数が増えた。前は一つの建物に住んでいたけど、最近そういう建物の数が増えた。広場の建物が改修されてきれいになった。イベントも増えた。

Výškovice と Zábřeh の地域差について：
Výškovice の方が建物が高くて密度が高い。人が多くて、匿名性が高い。その一方で、川も近くて自然が多い。

近所付き合いについて：
昔は休日を一緒に過ごすなど、近所付き合いが結構あった。今は同じ建物の中で 2 家族と付き合いがあるけど、遊びに来たりはしない。道を渡ったところには友達が住んでいるけど、近所とは言えない。同じ建物の家族とは、子供を通じてや、建物の改修を通じた話し合いで知り合った。

建物の改修について：
建物の一部は個人所有、残りは協働組合所有なので、住んでいる人が二つのグループに分かれていて、改修の時に別々の会社を希望したので、結局別々に改修した。今は断熱の改修がしたいと思っているけど、意見がまとまっていないのでできない。

地域の良いと思うところ：
自然の近さ。森や川があって、山にもすぐ行ける。

将来の希望：
空気をきれいにしてほしい。歩道や階段を整備してほしい。

将来も住み続けたいか：
今は住み続けたいけど、将来は一軒家か、もっと広いアパートが欲しい。それは Ostrava-Jih でも良いし、村でもいい。村だと庭があるので良いが、別になくてもいい。

## インタビュイーL

□日時

日にち：2015 年 9 月 30 日（水）

時間：17：30 〜 18：30

場所：Kino Luna の喫茶店

□基本情報

年齢：20 代 (28 歳 )

性別：女性

自宅の所有形態：賃貸

建物全体の改修：

引っ越し前に窓と断熱

居住地区：Zábřeh

現在の職業：広告会社

居住歴：現在の家　2013 年〜

Ostrava-Jih　2009 年〜

### □インタビュー

建物の所有について：

賃貸だが、家賃は普通より安い。一緒に住んでいる彼氏が借りている。市から指定されたアパートは安い家賃で借りることができる。引っ越す時に市役所に申し込むと、市から指定される。その前は賃貸の寮みたいな家に住んでいた。

居住歴について：

2009 年に Ostrava-Jih に来る前には大学の都合で、中心部や Fifejdy など、色んな地域を転々としていた。

家族構成：

２人。彼氏と同居。

Ostrava-Jih に引っ越して来た理由：

彼氏がなぜここに引っ越したかは知らないけど、自分の場合は、６年前に良いアパートを探していて、たまたまそれが Ostrava-Jih にあったのが理由。その後は Ostrava-Jih が好きになって、ずっとここにいたいと思っている。今は自分のアパートを彼氏と一緒に買いたいと思っているけど、Ostrava-Jih が良いと思っている。Prouba でも良いけど。

引っ越してくる前の印象：

印象はそんなに考えたことはない。大学生の時は他の人と一緒に部屋を借りていて、ここの家賃が安かったのでここにした。中心部の方は２倍くらい高かった。まちの雰囲気などは気にしなかった。

最初に引っ越してきた時、良く行った場所、お気に入りの場所：

森でジョギング、ディスコ。半年間、週末にディスコでアルバイトをしていた。遊びに行く時は大体中心部。最初の 4 年間はずっと同じ友達と一緒に住んでいて、その友達とディスコやレストランに行った。

彼氏と付き合い始めてから：

一緒に運動したり、散歩したり、自転車に乗ったりしている。夏はプールに行く。大きな買い物はショッピングパークで、一カ月に一回くらい。日常の買い物は近所の Hruška。

地域の中で好きなところ：

元々 Beskyby の山の近くで生まれたので、自然に親しんでいる。遠くの町に自転車で出かけることもあるけど、Ostrava-Jih の中では川と Bělský les。映画館も好き。

これまでに住んできた地域と比べて：
Ostrava-Jih が一番いい。自然が多くて、便利だから。お店も沢山あるし、医者も近い。前住んでいた Fyfejdy には自然がないし、Heřimanice は中心部から離れていてバスも一本しかないし、お店も少ないから不便だった。Ostrava-Jih は自然もお店も両方あるから良い。Ostrava-Jih の中でも、Hrabůvka よりも Zábřeh の方が自然が多くて良い。

６年前と今の地域の変化：
色んな建物が改修されてきれいになった。例えば、この建物は半年位前に改修された。Kotva の商店街もきれいになった。前に住んでいた Výškovice の、社会主義時代の店やレストランがあった Odra の建物が今取り壊されているのも、代わりにもっときれいな新しいものを建てる予定があるので、良いことだと思う。家の周りもだんだん改修されてきれいになったり、イベントも増えているので、ちょっとにぎやかになっていると思う。ショッピングパークもお店が増えて大きくなった。

地域のイベントへの参加：
たまにイベントをやっている。ビールのお祭りに参加した。別のところでもイベントがあったけど、仕事があって参加できなかった。一番面白いイベントは中心部でやっているので、そっちに行く。

将来的にもっとこうなって欲しいと思うところ：
この建物が醜いので壊してほしい。ディスコはちょっとうるさいけど、自分の家からは離れているのでそんなに問題ではない。ただ、朝歩いているとたまに割れたビール瓶が散らばっていたりするのは危ない。だけど、あとは大体満足。アパートの家賃はもっと下げてほしいけど、それは無理かな。

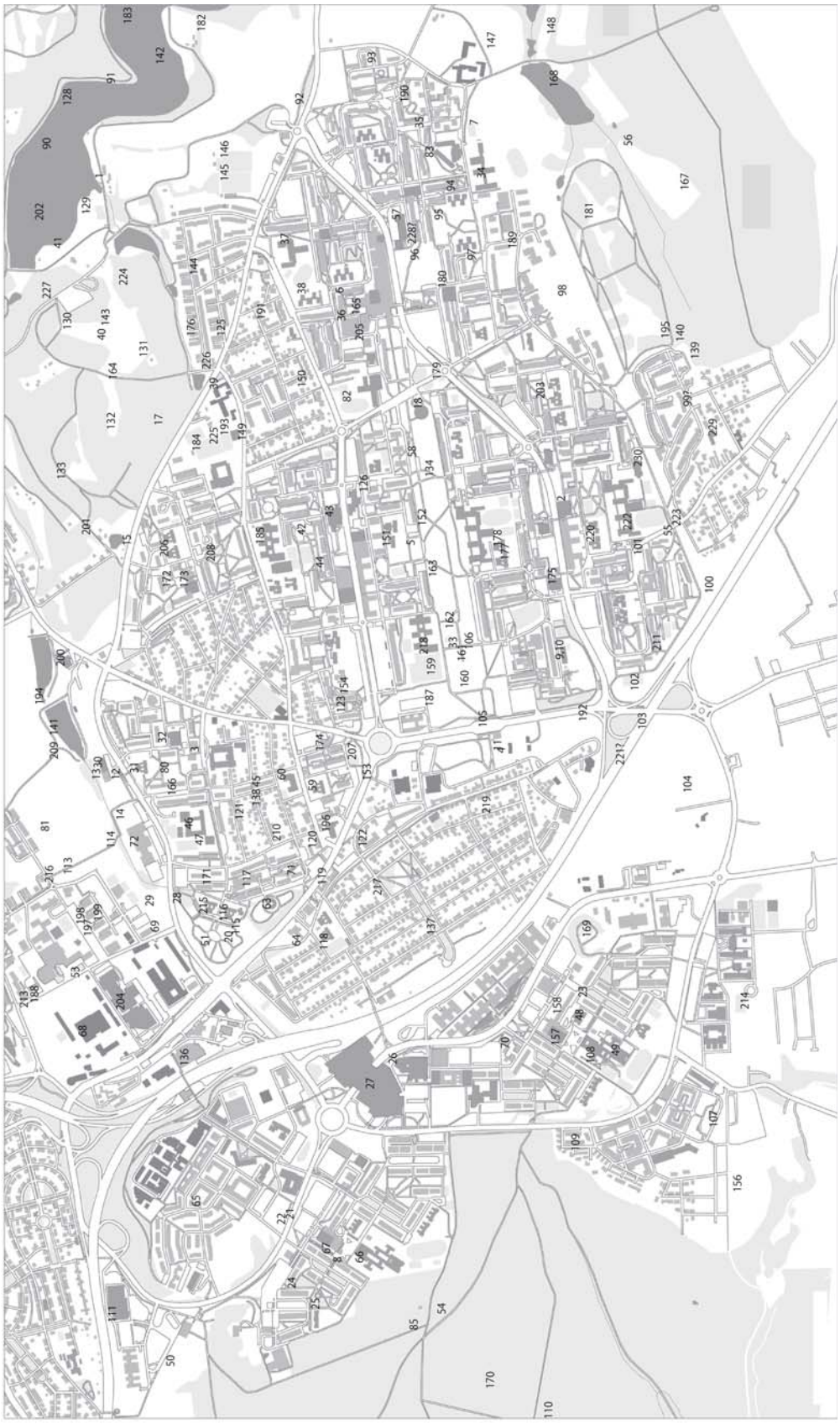
自宅について：
壁が薄くて、隣の人の声が聞こえるのが嫌。良いところは部屋が広いところ。バルコニーがないのでそれは欲しい。将来的には子供が欲しいので、もっと広いアパートを買いたい。今は２つの部屋とキッチンしかないけど、４つの部屋があるアパートが欲しい。

窓と断熱の改修について：
彼氏の引っ越し前なので具体的にいつされたのかは分からないけれど、仕上がりには満足している。

将来も住み続けたいか：
低層の住宅に住みたい。高層は嫌。でも、低層は人気があるので中々見つからない。今住んでいる地域のアパートは部屋数が少ないので、他の地域がいい。Poruba でも良いけど、Poruba の方が値段が高い。Dubina には広くて安いアパートがあるけど、Dubina は嫌。Dubina に比べるとこっちの方が学校も良いし、Dubina には犯罪のイメージがある。新しくできたきれいなアパートもあるけど、そっちはすごく高い。この地域なら 4 つの部屋で 70 万コルナくらいのアパートがあるので、そういうのが見つかれば買う。仕事にはトラムで行くので、トラムの停車場の近さも大事。彼氏は車を持っているけど、職場は別々だし自分は持っていないのでもう一台車が欲しい。今は働いているけど、もっとお金を稼ぎたいので、別の仕事があるなら別の都市に引っ越してもいいけど、今はこれで満足している。自分の職場の Mariánské Hory まではトラムで 30 分で行ける。

インタビュー後の雑談で、オストラヴァの印象について：
オストラヴァに来てからここに慣れるのに時間がかかったけど、今はここに住んでいるのを自慢している。チェコの中で一番ユニークだと思う。炭鉱で働く人の特徴で、よくお酒を飲む。言葉使いも違う（母音を短く発音するので、早口に聞こえる）。トラムの中で大声でしゃべったり、問題のある人は多いけど、都会はどこでも問題のある人はいる。今はもう慣れた。沢山の友達が出来て、悪い人ばかりじゃなくて、優しい人や賢い人も沢山いると思う。

# プラハ 11 区住民参加イベントのコメントカード一覧



| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | a | ジョギング、家の近くにある緑が好き | 2010- | 緑・公園 |
| 15 | | a | 緑が良い、できればテニスコートを増やしてほしい | 現在 | |
| 16 | | c | Toulcův dvůrのポニー | | |
| 17 | 1 | a | 公園が好き、水の公園がほしい | | |
| | 2 | a | 公園が好き、水の公園がほしい | 同じコメント | |
| 20 | 1 | a | 公園は良いけれど、木を増やしてほしい | | |
| 24 | | a | 森が素晴らしい ＋何でも利用できる ＋草地が素晴らしい （※カード位置は自宅？） | | |
| 25 | | a | きれいな遊具付き公園がある☺ | | |
| 28 | 4 | c | 子どもためのすごくいい遊具付き公園☺ | | |
| | 5 | c | すごくいい遊具付公園 | | |
| 29 | | a | 公園と子供のための遊具付き公園が好き | | |
| 30 | 4 | a | プールスタジオは良いが、値段が高いので貧しい子どもは入りにくい。Chodovská tvrzの周りが好き。子どものための遊具付き公園が良い、Lesopark（北の森の中の公園）は子どもが遊んだり、火を起こしたりできるのが良い | | |
| 33 | 1 | c | ループの遊具付き公園が最高 | | |
| 40 | | c | Lesopark（森の公園）が一番☺ | | |
| 42 | | c | 素晴らしい遊具付き公園。Tobogán（ウォータースライダー）がいい。ここで遊ぶのが好き | | |
| 51 | 1 | a | チェコで最初のディスクゴルフが出来る公園。初心者に良い！ | 2013年～ | |
| | 2 | a | すごくいい公園　夏に子供用の日陰がもっとほしい | | |
| | 4 | a | Chodovská tvrzとCentrální parkが好き。心地いい | | |
| | 5 | a | 子どもの公園がすごくいい | | |
| | 6 | c | 新しい公園 | | |
| | 7 | c | ゴルフ | | |
| | 8 | a | ☺ホドフスカートボルズ公園 | | |
| | 9 | a | (+)水飲み場がある (-)水が出ない | | |
| | 10 | a | Pavlovín遊具付き公園+ビール！ | | |
| | 11 | a | 遊具付き公園、迷路、ミニゴルフ、ホスポダに行く。<br>昔の生い茂った草と古いtvrz（砦）を覚えている | | |
| | 12 | a | 公園と遊具付き公園に行くのが好き | | |
| | 14 | a | 昔は沼地　今はきれいな公園 | | |
| | 15 | a | ローラースケートにとても良い☺ | 現在 | |
| | 16 | a | スケートボード、自転車に乗れて、子どものための遊具がある完璧な公園 | 現在 | |
| | 17 | a | 今日のお祭りが良い。今はJMをきれいにする運動があって、本当に良かった。元の区長じゃなくて現在の区長を応援している。プールが好きだけどもうちょっと広い方が良かった | | |
| | 18 | c | ミニゴルフが好き | | |
| | 19 | ? | Miličovský les　Kunratický les　Centrální park　Chodovská tvrz | | |
| | 20 | c | ここがきれい　テレスカ | | |
| | 21 | c | ホドフスカートボルズ公園が好き☺ | | |
| | 25 | c | ローラースケートと自転車で走れるし、イベントがあるので遊具付き公園が好き　アニチカ | | |
| | 26 | a | 家から近くて、子どものためのきれいな公園 | | |
| 54 | 1 | a | 馬などの動物がいる良いところ | | |
| | 2 | a | Kunratický les | 1980-91年 | |
| 56 | | c | 森とその公園が好き❤！！ | | |
| 58 | 1 | a | Centrální parkにあるピアノが良い☺ | 現在 | |
| | 2 | a | Centrální parkにピアノがあるの好き☺ 【裏面】ピアノの絵 | 現在 | |
| | 3 | c | ピアノがあってうれしい 【裏面】☺ピアノの絵 | | |
| 65 | | a | ここに住んでいる。家の前の遊具付き公園がきれい | | |
| 71 | | c | 新しい遊具付き公園 | | |
| 81 | 2 | a | Trojmezí通りの緑 | | |
| 90 | 1 | a | 新しく直されたダムが好き | | |
| | 3 | c | ここに泳ぎに来ている | | |
| | 4 | a | ダム、森林公園、自転車、散歩 | | |
| 91 | | a | ダム☺ | | |
| 97 | 1 | a | 2002年？からある新しい遊具付き公園☺ 【裏面】大きな遊具付き公園だけどトイレがない！ | 2002年～ | |
| | 2 | c | 良い遊具付き公園　アダム | | |
| 109 | | a | ここにきれいな丘があって、ムフロン(mouflon、動物)が来ていた | 1980年～80年代後半 | |
| 110 | 1 | a | Kunratický lesとTESCO（※スーパー）とダムが好き | | |

| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 123 | | a | 遊具付き公園が好き　砂場に新しい砂とお絵かきボードが必要で、ほしい | | 公園・緑地 |
| 127 | | c | (虫の絵) | | |
| 128 | | a | 改修されたダム、森林公園 | | |
| 129 | | a | 新しく作られたビーチがきれいに整備されている | | |
| 130 | | a | ピクニックの場所　休憩するのにとても良い | | |
| 131 | | a+c | 公園が好き　もっと木を増やしてほしい(虫の絵) | | |
| 132 | 1 | c | 森 | | |
| | 2 | a | 森林公園が好き☺ | 現在 | |
| 133 | | c | すごくいい遊具付き公園　シモン | | |
| 137 | | a | 新しい子どものための遊具付き公園が好き | | |
| 139 | | c | 移動式遊園地と森(木の絵)　ミーシャ | | |
| 140 | 1 | a | 子どものためのきれいな遊具付き公園が森の中にある | | |
| | 2 | ? | 良い遊具付き公園　大きなアスレチックが良い | | |
| 141 | | c | 白鳥とカモ | | |
| 142 | | a | ダムが最高 | | |
| 143 | | a | 森の中にある運動器具を使うのが好き | | |
| 147 | 1 | c | 世界で一番きれいな公園☺☺ | | |
| | 2 | c | (動物の絵) | | |
| | 3 | c | (動物の絵) | | |
| | 4 | a+c | 動物たちにニンジンをあげる(ニンジンの絵)　【裏面】動物の絵 | | |
| 148 | 1 | c | 自転車に乗ってここへ来るのが好き　空気がきれい | | |
| | 2 | ? | Milíčovský lesが好き　自然の中の散歩が好き | | |
| 152 | 1 | c | Centrální park☺　アネタ☺ | | |
| 154 | | a+c | 子どものための公園が良い→親のためのベンチが沢山ある | 現在 | |
| 155 | 1 | a | Sv. Václavaが好き(良い遊具付き公園があって動物もいる☺)(動物の絵) | | |
| | 2 | c | 良い遠足　jo kinanolu lo nely(※チェコ語ではなく、解読できず) | | |
| 159 | | c | 良い遊具付き公園　Mikulova小学校 | | |
| 161 | | a | 自然＋公園＋森＋ダム　静か＋きれい | | |
| 164 | | a? | 運動と休憩にとても良い場所 | | |
| 167 | 1 | c | ここに馬と羊とヤギとウサギとポニーがいる | | |
| | 2 | c | 森の中が好き　キノコがあって虫がいる | | |
| | 3 | c | 森が好き　動物がいるから | | |
| 168 | 1 | a | Milíčovský rybník(池) | 1980～90年 | |
| | 2 | c | まわりを自転車に乗って走る　10歳　ネラ　ビオレタ　(花、豚の絵) | | |
| 170 | | c | 森に行くのが好き☺ | | |
| 171 | 2 | c | 良い自転車コース | | |
| 176 | | a+c | 森林公園への散歩(犬の絵) | | |
| 179 | | a | Opatovskáの遊具付き公園 | | |
| 181 | 1 | a | Milíčovský les(森)の中の湿原 | 90年代 | |
| | 2 | ? | Milíčovský les(森) | | |
| | 3 | c | Milíčovský les(森)　いろいろな遊びができるから | | |
| 182 | | a+c | 公園が好き　遊具付き公園をを大きくして(虫の絵) | | |
| 183 | | c | Milíčovský rybník(池)に散歩に来る | | |
| 186 | | c | 森の中で散歩するのが好き　静かだから | | |
| 190 | | ? | この遊具付き公園が大好き | | |
| 195 | | ? | Milíčovský les(森)　自然が好きだから | 現在 | |
| 200 | 1 | c | 遊具付き公園にある小さい家　滑り台　ブランコ(それぞれの絵) | | |
| 201 | | c | 森林公園、森の動物　ミーシャ | | |
| 202 | | c | ダムがきれい | | |
| 207 | | ? | 運動場と遊具付公園 | | |
| 212 | | c | 森とジャングルジム | 現在 | |
| 214 | | ? | 休憩するのによい野原がある | 現在 | |
| 215 | 3 | a | ディスクゴルフが公園の中で一番好き、子どもの遊具付き公園がある、子どものためのミニゴルフもがある、休憩できる野原がある | 現在 | |
| 219 | | a | ここは昔緑が沢山あった Opatovを変えないで | | |
| 221 | | c | 遊具付き公園と回転木馬 | | |
| 224 | | a+c | Hostivařの森林公園にある遊具付き公園がすごくいい | | |
| 225 | 1 | ? | Shulhofova運動場 | | |
| | 2 | ? | サッカー教室Dukla | | |
| 227 | | c | ☀Hostivařの森林公園がきれい | | |

| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 1 | c | 図書館　家で勉強したくない時、または用事があるとき | | 文化・運動施設 |
| | 2 | a | 本を読むのが大好き | | |
| | 3 | 不明 | アンディからおすすめ 【裏面】本、本、本！！！ | 現在 | |
| 9 | 1 | c | DDM（※Dům dětí a mládeže Jižní Město、子どものサークル活動施設）は子供にとって良い暇つぶし | | |
| | 2 | a | DDM　子供のための沢山の面白いサークル活動 | | |
| 10 | | c | DDMは最高！ | | |
| 18 | 1 | c | MC Domečekが好き | | |
| | 2 | c | ダンス教室 | | |
| | 5 | a | 良い場所　ありがとうMC Domeček | | |
| 19 | | c | RC Pilné včelkyが好き | | |
| 30 | 1 | c | プールがすごくいい☺ | | |
| | 2 | c | 学校とプールに通うのが好きだった | | |
| | 4 | a | プールスタジオは良いが、値段が高いので貧しい子どもは入りにくい。Chodovská tvrzの周りが好き。子どものための遊具付き公園が良い、Lesopark（北の森の中の公園）は子どもが遊んだり、火を起こしたりできるのが良い | | |
| | 6 | a | wellness11に行くのが好き | | |
| | 7 | c | ここは良い！！！弟がそこでフロールボール(flor ball)をやっている　クララ | | |
| | 8 | c | ここに学校から通うのが好きだった、よく家族とも行く | | |
| | 9 | c | グルグルスライダーのあるアクアパーク☺☺☺ | | |
| | 11 | c | プールが良い | | |
| 47 | 1 | c | 図書館にほしい本が全部ある | | |
| | 2 | c | 図書館がすごくいい | | |
| 48 | 1 | a+c | RC Babočka | 2013-2014 | |
| | 3 | a | KC Zahrada　陶芸とアートの教室がすごくいい | | |
| | 4 | a | KC Zahradaはいいところだからもっと市からお金をもらうべき | | |
| | 5 | a | RC Babočkaに良いサークルが複数ある | | |
| 49 | 1 | c | 図書館が好き。静かに本を読める | | |
| | 2 | c | 本が大好きだから、図書館は素晴らしい場所 【裏面】9（歳？） | | |
| | 3 | a | 本！ | 現在 | |
| | 4 | a | 図書館がすごくいい、とても楽しんでいる | | |
| | 5 | c | 図書館が良い☺ | | |
| 55 | | a | (-) 噴水など水の子どものための遊び場がほしい (+) 素晴らしい子ども図書館 | | |
| 63 | 1 | c | Chodovská tvrzは素晴らしい。なぜなら古い要塞で、騎士道時代の雰囲気があって、毎年何らかのイベントがあるから | | |
| | 2 | a | (+) これから高齢者のための英語の授業が始まる　色々なプログラムとイベントをやっているから | | |
| | 3 | a | パネル住宅地の中のオアシスみたい　ありがとう | | |
| | 4 | a | 1985年から90年に改修が行われた | 1985－90年 | |
| | 6 | a | ローラースケートにすごくいい場所 | | |
| | 7 | a | この公園に行ったり、Chodovská tvrzに子どもの話を聞きに行ったりしに行くのが好き | | |
| | 8 | ? | ホドフスカートボルス公園が好き | | |
| 72 | 2 | c | スイミングプール 【裏面】スイミングプール | | |
| | 3 | ? | プール | | |
| | 4 | c | 絵（プール） 【裏面】プールに行けるのが好き☺❤☺ アレンカ | | |
| | 5 | a | プールが好き　家から色々な場所-映画館、買い物、交通機関、学校へのアクセスが良い | | |
| | 6 | c | ウォータースライダーがあるので、プールが好き | | |
| 136 | | c | Decathlonと11区ホールに行くのが好き | | |
| 145 | 1 | c | サッカー最高！ | | |
| | 2 | c | ルカ―シュくんはサッカーがすごく上手い | | |
| | 3 | c | サッカーするのが好き | | |
| | 4 | c | Háje SOS （※Hájeのサッカークラブの名前） | | |
| | 5 | a | Hájeのサッカーは最高！！ | | |
| 146 | | c | サッカーが好き | | |
| 193 | | | 良い先生と授業 | | |

| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 31 | | a | すごくいい幼稚園 【裏面】絵 | | 学校 |
| 34 | 1 | c | 学校が良い 【裏面】図書館が良い | | |
| | 2 | c | Miličovの小学校 英語の授業が一番 クベーク 一年生 | | |
| | 3 | c | Miličovの小学校 ここはきれい☺ | | |
| 37 | | c | この小学校は世界で一番の学校 | | |
| 38 | 1 | a | Drabíkovkaはプラハ11区で最高の幼稚園 | | |
| | 2 | a | Drabik幼稚園 | | |
| 39 | 1 | c | 柔道教室が良い | | |
| | 2 | c | ここの柔道教室に通っている ダニエラ | | |
| 46 | 1 | c | 学校が良い | | |
| | 2 | a | Donovalská小学校が良い | | |
| | 3 | c | この小学校が一番❤！！！！！！！！！！！ | | |
| | 4 | c | 素晴らしい先生たち！☺ | | |
| | 5 | a | Donovaskaの小学校のヨガ授業が素晴らしい | | |
| | 6 | c | 学校がいい☺ | | |
| | 7 | c | ここの学校に通っている ユスティーナ | | |
| | 8 | c | ここの学校に通っている アニチカ | | |
| | 9 | c | ここの学校に通っている キキ | | |
| | 10 | c | ここはすごくいい小学校 | | |
| | 11 | c | 私の小学校と図書館 | | |
| | 12 | c | Donovalská小学校 | | |
| | 13 | c | すごくいい小学校 | | |
| 59 | 1 | c | 学校が良い | | |
| | 2 | c | わたしの学校とホドフからここに来ている友達が好き ルチエ | | |
| | 3 | c | ぼくの幼稚園が本当に大好き マックス | | |
| | 4 | c | 私はここに通っていて、お姉ちゃんはむこうの小学校 テレスカ | | |
| 60 | 1 | c | Chodov小学校が好き でも子どものためのGutovkaみたいな公園がほしい | | |
| | 2 | c | Chodov小学校が好き Květnového vítězství 57 (※学校の住所) | | |
| | 3 | c | いい学校 | | |
| | 4 | c | ここが良い 1年生です | | |
| | 5 | c | 友達と先生が好き 1年生(※6－7歳) | | |
| | 6 | c | 学校 最高 先生 | | |
| 66 | 1 | a | 小学校のところにある幼稚園がきれい | | |
| 94 | 1 | a | ZUŠ Křtinská☺ | 現在 | |
| | 2 | c | すごくいい先生たち☺ | | |
| 107 | | c | ZUŠ J.M.はすごくいい | 現在 | |
| 108 | 1 | c | CAMPANUS(※小学校の名前) | | |
| | 2 | a | 文化センターKC Zahrada万歳 6年生 | | |
| | 3 | a | すごくいい小学校 4人の子どもたちがとっても満足していた！ | | |
| 116 | 1 | c | (絵) | | |
| | 2 | a | 幼稚園と公園 | | |
| 118 | | c | 幼稚園 ミーシャ☺ 【裏面】(顔の絵) | | |
| 144 | 2 | c | Stachova幼稚園(学校の絵) | | |
| 149 | | c | Pilné včelky(active beesの意)良い幼稚園(ハチの絵) | | |
| 151 | | c | MŠ Vejvanovského(幼稚園)がすごくいい☺❤ | | |
| 156 | 1 | a | Šeberov小学校 子どものためのタイチ(太極拳) | | |
| | 2 | | 柔道 Šeberov小学校 | | |
| 178 | | a | いい幼稚園(Mš Křejpského) | | |
| 184 | | ? | JNS チアリーダース☺ | 場所間違い？ | |
| 185 | 1 | c | きれいな5月君(小学校) | | |
| | 2 | c | すごくいい小学校、ここに通っている | | |
| | 3 | c | 最高の小学校！ 【裏面】この小学校が好き テレザ | | |
| | 4 | c | ここに通っている ビキ | | |
| 206 | 1 | c | Dubnova幼稚園が好き | | |
| | 2 | c | 幼稚園が好き 友達が沢山いるから(友達の絵) 【裏面】トム | | |
| 215 | 1 | c | 私たちの学校はすごくいい ZŠ Kliček アネタ | 1970年(※間違い？) | |
| | 2 | c | ここはすごくいい アネタ | | |
| 218 | 1 | c | BABY DANCE PRAHA(※ダンス教室) 【裏面】バレエ最高 | | |
| | 2 | a | 全体的にプラハ11区が好き 若い頃この学校に通っていて、大人になってからは運動しに通っている | | |
| 220 | | c | とても良い学校 | 現在 | |
| 222 | 1 | c | ここはとても良いけど、厳しい☺ 【裏面】クラスは26人ぐらい | | |
| 228 | | c | アリーナ ここの幼稚園に通っている | 場所？ | |
| 229 | | c | 私たちの幼稚園 | 2011年～ | |
| 230 | | c | ここに通っている！！ 良いところ！☺ | | |

| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | | a | Zažít město jinak (Different City Experience、お祭り)、9月19日開催 | 未来 | イベント |
| 18 | 4 | a | ハーイェの移動式の農家の市場の品物は質が良くて選択肢が多い | | |
| 162 | | a | 子どもと大人のためのプラハ11区のランニングイベントがとてもいい | | |
| | | | | | |
| 27 | 2 | c? | Centrum Chodov | | 店舗 |
| | 3 | c | Centrum Chodov | | |
| | 4 | c | Centrum Chodovは最高！！！❤ | | |
| | 5 | c | Centrum Chodovが良い！！！ | | |
| | 6 | a | Centrum Chodov 車いすの人に良い☺ | | |
| | 7 | c | 品物と品質とCLAIRS(※お店の名前)が好き | | |
| | 8 | c | マクドナルドとペットセンターとH&Mが好き☺ | | |
| | 9 | c | H&MとKFCが好き | | |
| | 10 | a | OC Codov 座ってコーヒーを飲むのが気持ちいい | | |
| | 11 | c | ペットセンターが好き。お店をもっと大きくしてほしい☺☺☺ | | |
| | 12 | c | ここでの買い物と食べ物が好き | | |
| | 13 | c | Centrum Chodv 買い物が好き | | |
| | 14 | c | Centrum Chodv♡ (買い物) | | |
| 32 | 1 | c | 食べ物 | | |
| 43 | 1 | c | お菓子があるからAlbertがいい | | |
| | 2 | c | ここの買い物シールを集めている ベロニカ | | |
| 57 | 1 | c | Lidl(スーパー)が良い | | |
| | 2 | ? | OBI BILLA LIDL V.S. | | |
| | 3 | c | かわいい服があるから | いつからか分からない | |
| 67 | | c | アルベルトはすごくいいお店！❤ | | |
| 70 | | a | 食堂PE-PEが好き ここの料理は美味しい | | |
| 85 | 1 | a | Srub Gizela☺(※レストランの名前) | | |
| | 2 | a | Srub Gizela ビーーーール！！！！！！！！！ | | |
| 106 | | a | 漢方薬の店が好き | | |
| 110 | 1 | a | Kunratický lesとTESCO(※スーパー)とダムが好き | | |
| 126 | 1 | a | 美味しいビールとマリノフカ(※ジュース) | 現在 | |
| | 2 | a | ビール醸造所 素晴らしいビール | | |
| | 3 | a | ビール醸造所 12度のビールとテラス席 | 2010年～ | |
| | 4 | a | 11区独自のビール醸造所があるのがすごい おいしい料理とおいしいビール、それにお菓子！おいしい！ | | |
| | 2 | c | お菓子屋さん最高 | 現在 | |
| 175 | | a | Billa(※スーパーの名前)→いつでも何でも買える☺ | | |
| 177 | | a | 老人ホームの喫茶店(誰でも行ける) | | |
| 180 | | c | Norma☺バーラ | | |
| 205 | | | STODOLOA(※レストランの名前、家畜小屋の意)☺ | | |
| 231 | | a | 美味しくて良いバー | 場所不明 | |
| | | | | | |
| 36 | 1 | a | Pizzerie Galaxieがいい | | 娯楽施設 |
| | 2 | c | ☺ | | |
| | 3 | c | Cinema City Galaxieは最高！ | | |
| | 4 | c | Cinema Cityはすごくいい！！！ | | |
| | 5 | c | 良い映画があるのが好き 【裏面】Cinema Cityは良い 友達と行く | | |
| 157 | 1 | c | おじいちゃんと一緒にボーリングに来る ヨナーシュ | 2008年～現在 | |
| | 2 | c | Slunečnice(＝ひまわりの意、お店の名前)がすごくいい | | |
| 200 | 2 | ? | ボーリングがとても良い | | |
| | 3 | c | ボーリングが好き | | |
| | 4 | c | ボーリングが大好き☺ | | |
| | | | | | |
| 44 | | c | 家が一番。お父さんとお母さんがいるから | | 住宅 |
| 45 | | c | 何が好きか？ 全部が好き | | |
| 98 | 2 | ? | ☺自然が近くにあるきれいな家 | 現在 | |
| 117 | 2 | c | ここに家があって周りがとてもきれい アニチカ | | |
| 122 | 1 | c | ここに住んでいる エリ♡☺ 【裏面】ここがきれいだから好き☺♡ | | |
| 138 | | c | マチェイくんのうちに遊びに行くのが好き マックス | | |
| 188 | | c | Blažimská 70に住んでいる キキ | | |
| 189 | | a | 自分の家 Stříbrského 681 きれいな場所 | | |
| 197 | | a | ここに住んでいる☺ | | |
| 198 | 1 | c | Babická通り5番 ここに住んでいる キキ | | |
| | 2 | c | Babická通り5番 ここに住んでる ユスティーナ☀ | | |
| 199 | | ? | きれいな建物が作られている | 現在 | |
| 203 | | c | ここに住んでいる | | |
| 210 | | c | Benková1685に住んでいる | | |
| 211 | | c | ここにおばあちゃんが住んでいる ベロニカ | | |

| カード番号 | 副番号 | child/adult | コメント | 備考 | カテゴリー |
|---|---|---|---|---|---|
| 50 | | c | 地下鉄に乗るのが好き:) | | 道路・交通 |
| 53 | | c | 絵(犬の散歩) | | |
| 105 | 2 | a | JM Chodovの交通アクセスの良さは好きだけどOpatov駅の周りのビルは嫌い | | |
| 153 | | a | 交通の接続は素晴らしいが、もっと言えばSporilovからトラムの路線を伸ばしてほしい | | |
| 216 | | c | スクールバス(※のバス停？)がここに残ってよかった☺ | 現在 | |
| | | | | | |
| 69 | 1 | a | 赤いバスが、毎日15時から15時半まで腕立て伏せしている(※芸術家のアート作品)。雨と猛暑のとき以外。今年は11月までかな 大人にも楽しい経験 | 現在 | アート作品 |
| | 2 | a | 赤くて動くバス | | |
| | | | | | |
| 196 | 1 | c | 消防士 テレザ | | その他 |
| | 2 | c | 消防士 ファンダ | | |
| 204 | | c | ここはお母さんの会社 建てた(※会社を作った？) | | |
| 208 | | c | 僕の三角 | | |

## 参考文献リスト


1. Sýkora. L. (1995), Prague., In Berry, J., and McGreal, S. (eds)., European Cities, Planning Systems and Property Markets, E & FN Spon.
2. Strong. A. L. et al. (1996), Transitions in Land and Housing: Bulgaria, The Czech Republic, and Poland, St. Martin's Press.
3. Maier, K., Hexner, M., & Kibic, K.(1998), Urban Development of Prague: History and Present Issues, ČVUT.
4. Bren, P. (2002), Weekend Getaways: The Chata, the Tramp, and the Politics of Private Life in Post-1968 Czechoslovakia. In Crowley D., Reid E. S. (Eds.) Socialist Spaces: Sites of Everyday Life in the Eastern Bloc, Oxford.
5. Sýkora, L. (2003). Between the State and the Market: Local Government and Housing in the Czech Republic. In Lux, M. (Ed.), Housing Policy: An End or a New Beginning?, Open Society Institute.
6. Maier, K. (2005). Czech Housing Estates: Recent Changes and New Challenges. Geographia Polonica, vol.78, no.1, pp.39-51.
7. Kallabová, E.& Bílek, J. (2006), The Historical Background and Current Situation of Mass (Industrial) Forms of Housing in the Ostrava Region (Czech Republic), Moravian Geographical Reports, vol.14, no.2, pp.27-42.
8. Sýkora, L. (2007). The Czech Case Study - Social Inequalities in Urban Areas and Their Relationships with Competitiveness in the Czech Republic. In V. Szirmai (ed.), Social Inequalities in Urban Areas and Globalisation: the Case of Central Europe, Centre for Regional Studies of Hungarian Academy of Science, pp.77-104.
9. Sýkora, L. & Ouředníček, M. (2007), Sprawling Post-Communist Metropolis: Commercial and Residential Suburbanisation in Prague and Brno, the Czech Republic., Employment Deconcentration in European Metropolitan Areas the GeoJournal Library, vol.91, pp.209-233.
10. Blažek, J., Csank, P., Macešková, M., Sýkorová, I., & Žížalová, P.(2008), Regional Development of Prague, and Application of the Four-Capital Model to the Issue of Urban Sprawl, European Environment, vol.18, no.2, pp.96-109.
11. Ouředníček, M., & Temelová. J. (2009), Twenty Years After Socialism: The Transformation of Prague's Inner Structure, Studia Universitatis Babes-Bolyai, Sociologia, vol.54, no.1, pp.9-30.
12. Lux, M., & Sunega, P. (2010). The Future of Housing Systems After the Transition - The Case of the Czech Republic. Communist and Post-Communist Studies, vol.43, pp.221-231.
13. Temelová, J., et al. (2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiations, Urban Studies, vol.48, no.9.
14. Temelová, J., Novák, J.,Ourednícek, M., & Puldová, P. (2011), Housing Estates in the Czech Republic After Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiation, Urban Studies, vol.48, no.9, pp.1811-1834.
15. Zarecor, K. M., and Špačková, E. (2012), Czech Paneláks are Disappearing, but the Housing Estates Remain, Architekture & urbanizmus, vol.46, no.3-4, p.293.
16. Zarecor, K. M. (2012), Socialist Neighborhoods after Socialism: The Past, Present, and Future of Postwar Housing in the Czech Republic, East European Politics and Societies, vol.26, no.3, pp.486-509.

17. Flekačová, M., Kudyn, M., Zadražilová, L., & Halmanová, K., (translation: Mellander, E). (2012), Pražská panelová sídliště ( Prague Panel Housing Estates), Útvar rozvoje hl. m. Prahy (City Development Authority Prague).
18. Rumpel, P., & Slach, O. (2012). Governance of Shrinkage of the City of Ostrava, European Science and Art Publishing.
19. Zarecor, K. M. (2014). Architecture in Eastern Europe and the Former Soviet Union. Architecture Publications.
20. Flekačová, M. (2014), Beautiful Boxes or Technocratic Grey? Towards a Periodic Definition of Czech Housing Estates Using the Example of Prague, Czech and Slovak Journal of Humanities, no.2, pp.168-182.

21. 丸毛 忍（1951）、チェコスロヴァキヤの土地改革、農業総合研究、5 巻、2 号、pp.277-289。
22. 黒川 紀章 (1959)、チェコスロバキアの都市計画、国際建築、26 巻、7 号。
23. 小林 富士雄（1995）、チェコとその林業をめぐる話題：分離独立、民営化、森林管理、そして森林衰退、森林科学：日本林学会会報 15、pp.48-54。
24. 烏田専右 (1972)、東欧諸国の建築工業化について、コンクリートジャーナル、10 巻、2 号、pp.60-68。
25. 田村明 (1999)、まちづくりの実践、岩波新書。
26. 牧野 勝都 (2000)、中欧諸国におけるコーポレート・ガバナンスの課題、日本経営教育学会全国研究大会研究報告集、41 号。
27. 赤川 元章 (2001)、チェコスロバキアにおける国有企業の民営化プロセスについて、三田商学研究、43 巻、6 号、pp.1-28。
28. 青山吉隆、中川大、松中亮治 (2003)、都市アメニティの経済学　環境の価値を測る、学芸出版社。
29. 森下 嘉之 (2008)、戦間期プラハにおける住宅政策 - チェコスロヴァキア共和国における社会政策と社会主義諸政党 -、社会経済史学、74 巻、1 号、pp.23-40。
30. 三輪和宏 (2008)、諸外国の上院の議員定数配分：憲法の規定を中心として、レファレンス、691 号、p.86。
31. 植村、宇都、水石、榊原、安田 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 上 ) 人口減少先行国ドイツにおける減築の実際と課題 ( 特集 人口減少時代の都市問題 ). 知的資産創造 , 17 巻、8 号、pp.6-23。
32. 植村、宇都 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 中 ) 2040 年の日本の空家問題、知的資産創造、17 巻、9 号、pp.62-75 。
33. 植村、宇都 (2009)、人口減少時代の住宅・土地利用・社会資本管理の問題とその解決に向けて ( 下 ) 2040 年の日本の空家問題への対応策案、知的資産創造、17 巻、10 号、pp.60-77。
34. 佐藤 雪野 (2011)、日本から見た戦間期チェコスロヴァキア土地改革、国際文化研究科論集、19 巻、pp.127-133。
35. 寺川 政司（2012）、「ハウジング・まちづくり 居場所を紡ぐコレクティブタウンを推進する『リノベーション特区』」、西成特区構想有識者座談会報告書第 19 章。
36. 森下 嘉之 (2012)、チェコスロヴァキア第三共和国 (1945-1948 年 ) 期における社会政策の変容 : 住宅

政策の分析を中心に、スラヴ研究、59 巻、pp.93-114。
37. 芦川 智 (2012)、チェコ共和国における民主化と都市空間の変化 - 民主化 20 年後の東欧 -、學苑、861 号、pp.2-14。
38. 森下嘉之 (2013)、近代チェコ住宅社会史、北海道大学出版会。
39. 岡絵理子 (2016)、新しい住環境価値の生まれ方、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.3-4。
40. 内田奈芳美 (2016)、経済的側面を超えた、地方都市の持続価値、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.13-16。
41. 高見沢実 (2016)、住環境価値の捉え方と都市計画制度、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.5-8。
42. 高鍋剛 (2016)、居住地の物的環境と地域社会の持続可能性、限界住環境のゆくえ　2016 年度日本建築学会大会（九州）都市計画部門パネルディスカッション資料、日本建築学会、pp.11-12。

43. Svaz Architektů ČSSR (1967), Architektura ČSSR, vol.26.
44. Svaz Architektů ČSSR (1969), Architektura ČSSR, vol.28.
45. Svaz Architektů ČSR (1972), Architektura ČSR, vol.31.
46. Svaz Architektů ČSR (1973), Architektura ČSR, vol.32.
47. Svaz Architektů ČSR (1978), Architektura ČSR, vol.37.
48. Svaz Architektů ČSR (1981), Architektura ČSR, vol.40.
49. Svaz Architektů ČSR (1982), Architektura ČSR, vol.41.
50. Svaz Českých Architektů (1988), Architektura ČSR, vol.47.
51. Analýza REGENERACE pražských panelových sídlišť , 2001.
52. Bartoň.J. (2007), Praha11 na Prahu 21. Století, Městská část Praha 11, pp.102-104.
53. Skulinová, K.D. (2008), Bytová Výstavba v Ostravě v Druhé Polovině Minulého Století, Vady a Poruchy: Monografie, Vysoká škola báňská - Technická univerzita Ostrava.
54. Městská část Praha11 (2010), Praha11 Obrazem.
55. Hruška, L., Kukuliač, P. a kol. (2011). Socioekonomický Atlas Ostravy, Accendo-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s.

56. Paneláci: http://panelaci.cz/ （最終閲覧日 2016 年 10 月 21 日）
57. SÍDLIŠTĚ, JAK DÁL? (HOUSING ESTATES, WHAT'S NEXT?))http://www.sidlistejakdal.cz/en/（最終閲覧日 2016 年 10 月 21 日）
58. 日本貿易振興機構（2011）、チェコの環境に対する市民意識と環境関連政策：http://www.jetro.go.jp/world/europe/reports/07000441（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
59.「住環境の再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」まとめ：http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/indexho/4.Ysushi%20Nozawa.pdf（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
60.「住環境の再価値化とそのデザイン：俯瞰と発見」田中 友章：http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/indexho/2-3.Tomoaki%20Tanaka.pdf（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）

61. 外務省ＨＰ：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/czech/data.html#section1（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
62. プラハ市航空写真 : http://mpp.praha.eu/OrtofotoArchiv/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
63. Český Statistický Úřad: http://www.czso.cz/xa/redakce.nsf/i/home（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
64. プラハ市 Strategic Plan: http://kreativnipraha.eu/en/prague-strategic-plan（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
65. プラハ市 Územní Plán: http://mpp.praha.eu/app/map/VykresyUP/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
66. プラハ市土地・建物所有者分類図：http://mpp.praha.eu/majetek/default.aspx（ 最終閲覧日 2014 年 6 月 7 日）
67. プラハ市地籍図 : http://nahlizenidokn.cuzk.cz/（最終閲覧日 2016 年 12 月 12 日）
68. ENVIS: http://envis.praha-mesto.cz/(mw3wrtnq2dwiwgryxeowzt55)/zdroj.aspx?typ=2&Id=81366&sh=516053348（最終閲覧日 2014 年 6 月 9 日）
69. オストラヴァ市 Územní Plán: https://uzemniplan.ostrava.cz/（最終閲覧日 2016 年 4 月 21 日）

## 関係論文

・田中由乃、神吉紀世子：社会主義時代に開発された住宅地のプラハ市行政による再生施策の特色 - プラハ市行政とプラハ 11、13 区行政の関係性の考察を通じて -
日本都市計画学会都市計画論文集　第 48 巻　第 3 号　309 ～ 314 頁　2013 年 10 月（関連章:第２章）

・田中由乃、神吉紀世子：プラハ市において社会主義時代に形成された住宅開発地の再価値化に関する研究 プラハ 11 区イジュニームニェストを事例として
日本建築学会計画系論文集　第 80 巻　第 709 号　631 ～ 640 頁　2015 年 3 月（関連章：第 4 章）

・Yuno Tanaka and Kiyoko Kanki: Interview and Community Participation Event About the Area History for Finding Attractiveness of South Town in Prague
Procedia Engineering, World Multidisciplinary Civil Engineering-Architecture-Urban Planning Symposium 2016, WMCAUS 2016　第 161 巻　213 ～ 220 頁 2016 年 10 月（関連章：第 4 章、補章）

・田中由乃、神吉紀世子、ヤン ポリーフカ、ヨセフ モルクス、ミロスラヴァ フィシャロヴァー、栗原幸子：チェコにおける社会主義時代のパネル住宅地の地域価値の形成　- オストラヴァ工業地域を事例として -
2015 年度住総研 研究論文集　第 42 巻　203 ～ 214 頁　2016 年 3 月（関連章：第 5 章）
2016 年 6 月　第 14 回　平成 28 年度（2016 年）住総研 研究選奨 受賞

・田中由乃、神吉紀世子：社会主義時代のプレハブ集合住宅開発地における民主化後の変化と住民評価 - オストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区を事例として -
日本都市計画学会都市計画論文集　第 51 巻　第 3 号　979 ～ 986 頁　2016 年 10 月（関連章:第 5 章）

**学術論文（査読付き論文）**

| No. | 執筆題目 | 著者 | 掲載誌 | 発行機関 | 巻・号・頁 | 年月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 01 | 社会主義時代に開発された住宅地のプラハ市行政による再生施策の特色 -プラハ市行政とプラハ11、13区行政の関係性の考察を通じて- | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本都市計画学会都市計画論文集 | 日本都市計画学会 | 第48巻<br>第3号<br>309～314頁 | 2013年10月 |
| 02 | プラハ市において社会主義時代に形成された住宅開発地の再価値化に関する研究 プラハ11区イジュニームニェストを事例として | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本建築学会計画系論文集 | 日本建築学会 | 第80巻<br>第709号<br>631～640頁 | 2015年3月 |
| 03 | チェコにおける社会主義時代のパネル住宅地の地域価値の形成　-オストラヴァ工業地域を事例として- | 田中由乃<br>神吉紀世子<br>ヤン ポリーフカ<br>ヨセフ モルクス<br>ミロスラヴァ フィシャロヴァー<br>栗原幸子 | 2015年度住総研研究論文集 | 住宅総合研究財団 | 第42巻<br>203～214頁 | 2016年3月 |
| 04 | 社会主義時代のプレハブ集合住宅開発地における民主化後の変化と住民評価 -オストラヴァ市Ostrava-Jih地区を事例として- | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本都市計画学会都市計画論文集 | 日本都市計画学会 | 第51巻<br>第3号<br>979～986頁 | 2016年10月 |

**国際会議（全文審査）**

| No. | 執筆題目 | 著者 | 掲載誌 | 発行機関 | 巻・号・頁 | 年月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 01 | Interview and Community Participation Event About the Area History for Finding Attractiveness of South Town in Prague | Yuno Tanaka<br>Kiyoko Kanki | Procedia Engineering, World Multidisciplinary Civil Engineering-Architecture-Urban Planning Symposium 2016 | WMCAUS 2016 | 第161巻<br>213～220頁 | 2016年10月 |

**口頭発表**

| No. | 執筆題目 | 著者 | 掲載誌 | 発行機関 | 巻・号・頁 | 年月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 01 | プラハ市における社会主義時代の住宅開発地の再生調査事業に関する研究 | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本建築学会大会学術講演梗概集 | 日本建築学会 | F-1分冊<br>639～640頁 | 2013年7月 |
| 02 | プラハ市において社会主義時代に開発された大規模住宅開発地の価値の形成過　程に関する研究-プラハ11区ホドフ・ハーイェ地域での住民インタビューを通じて- | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本建築学会大会学術講演梗概集 | 日本建築学会 | F-1分冊<br>463～464頁 | 2014年7月 |
| 03 | オストラヴァ市において社会主義時代に形成されたプレハブ集合住宅開発地内の複雑化- チェコ共和国オストラヴァ市Ostrava-Jih を事例として- | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本建築学会大会学術講演梗概集 | 日本建築学会 | F-1分冊<br>201～202頁 | 2015年7月 |
| 04 | プラハの住宅開発地イジュニームニェストにおける地域の魅力探しワークショップ - 社会主義時代のプレハブ住宅開発地の再価値化を目的として- | 田中由乃<br>神吉紀世子 | 日本建築学会大会学術講演梗概集 | 日本建築学会 | F-1分冊<br>653～654頁 | 2016年7月 |

## 謝辞

本論文は筆者の京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程及び博士後期課程に在籍中の研究成果をまとめたものです。本論文をまとめるに至るまでに、多くの方々のご指導、ご協力を賜りました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

指導教官である京都大学大学院工学研究科教授・神吉紀世子先生は、非常にお忙しい中、研究の進め方や論文の執筆に関して、時間を惜しまずご指導して下さいました。さらに、大学内外での活動を通じて、研究者として物事に取り組む姿勢からも非常に多くのことを学ばせていただきました。学部 4 回生の研究室配属の際の「自分なりの見方で都市を見てみたい」、「海外に興味がある」という話から始まった 6 年間で、漠然と思い描いていた「やってみたいこと」を実際の研究に結びつけ、博士論文という成果として形にできたことは、神吉先生のご指導があって初めて実現出来たことだと思います。心より感謝申し上げます。

副査を引き受けて下さいました京都大学工学研究科教授・髙田光雄先生、竹山聖先生からは、お忙しい中、それぞれの専門分野の視点から数々のご指摘をいただき、論文内容をより深めることが出来たと同時に研究に対する視野を広げていただきました。ご指摘いただいた着眼点や解釈は、今後の研究を通して、さらに理解を深めていければと思っております。心より感謝申し上げます。

また、本研究はチェコ共和国の住宅開発地を調査対象としたものであり、チェコ共和国の関係者の方々から多大なご協力を賜りました。一人の知り合いもおらず、特別な知識もない状態から研究をスタートすることになり、日本で入手できる情報の少なさやチェコ語の難しさから、最初は本当に手探り状態でした。しかし、何度も現地に足を運び、また日本でもチェコ語を学ぶ等しているうちに、チェコに関わる沢山の方々と知り合うことが出来ました。また、それらの出会いを通じて、それまで知らなかったチェコの奥深さ、面白さを沢山教えていただきました。

ドルトムント工科大学の Jan Polívka 先生は、修士過程の時より、チェコ共和国についての情報を提供していただいていただけでなく、ドルトムントを訪問した際には、お忙しい中、周辺地域をレクチャー付きで隈なく案内していただきました。建築のみに留まらない知識の深さと研究に対する真摯な姿勢、そして大変温かなお人柄から、非常に多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。

大阪大学の木多道宏教授、日本政策投資銀行の吉崎真人氏は、プラハでの調査を始めるにあたって様々な資料や関係者の方々を紹介して下さいました。心より感謝申し上げます。

MMR (Ministry of Regional Development CZ) の Josef Morkus 氏は、ÚRM 所属当時にプラハ市行政についてのインタビューに応じて下さっただけでなく、その後も研究成果を報告に行く度にプラハで温かく迎えて下さり、研究についてご助言下さいました。心より感謝申し上げます。

プラハ 11 区役所担当者の Miroslava Fišarová 氏、Hana Šurovská 氏、Alexandr Keller 氏、Petra Vjhralíková 氏からは、プラハ 11 区での区行政、住民、企業へのインタビューの実施にあたり、非常に大きなご協力を賜りました。お忙しい中、こちらからの提案に対して様々な形で、調査に多大なご協力をいただいたことに加え、別れ際に「次はいつ来るの」と笑顔で尋ねて下さることは、次の現地調査準備のモチベーションになりました。心より感謝申し上げます。

プラハ 11 区区役所の Jan Topinka 氏、Alžběta Tichá 氏は、住民参加イベントの実施を快く受け入れてくださり、会場設営等にもお力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。

プラハ 13 区役所担当者の Milena Bejkovská 氏は、お忙しい中、区行政に関するインタビューに応じて下さ

いました。心より感謝申し上げます。

プラハ 11 区行政関連企業 Jihoměstská Majetková a.s. の Rostislav Korbel 氏は、お忙しい中インタビューに応じていただき、企業の取り組みについて貴重なお話をして下さいました。心より感謝申し上げます。

JM の資料調査では、プラハ市アーカイブの Jan Schwaller 氏、IPR PRAHA の Martina Koukalová 氏のご協力により、研究に関連する資料を入手することが出来ました。心より感謝申し上げます。

オストラヴァでの調査を始めるにあたっては、まず最初にオストラヴァ大学の Petr Rumpel 先生からオストラヴァ市の都市構成や住宅開発地の概要についてご指導いただきました。心より感謝申し上げます。

更に、オストラヴァ大学秘書の Jana Harvišová 様は、個人的な知り合いを辿ってインタビューに応じて下さる住民の方々を紹介して下さいました。Ostrava-Jih 住民の紹介には、通訳もしていただいた Veronika Abbasová 様も協力して下さいました。心より感謝申し上げます。

オストラヴァでの行政関係者へのインタビューでは、オストラヴァ市役所の Cylil Vltavský 氏及び行政関連企業 PROCES の Lubor Hruška 氏が、お忙しい中インタビューに応じて下さいました。心より感謝申し上げます。

インタビューに応じてくださったプラハ 11 区 JM 住民 13 名の方々及び Ostrava-Jih 地区住民 14 名の方々にも、心より感謝申し上げます。お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき本当にありがとうございました。

チェコ語通訳に関しても、非常に多くの方々のご協力を賜りました。

Miwatis s.r.o. の大井美和様はアーカイブ資料調査やプラハ 11 区役所訪問において、建築関係の専門用語を含むチェコ語 - 日本語通訳を引き受けて下さいました。調査開始当初から継続して、研究内容と調査の意図を理解した上で通訳業務を行って下さったことで、様々な関係者への交渉が可能になりました。心より感謝申し上げます。

プラハ市、オストラヴァ市での住民の方へのインタビューと、オストラヴァ市行政関連企業担当者の方へのインタビュー、オストラヴァ市アーカイブ調査及びプラハ 11 区住民参加イベントでは、Adela Reznickova 様、林瑠智恵（Lucie Buresova）様、Veronika Abbasová 様、Veronika Meravá 様、Denis Birjukov 様に、状況に応じた臨機応変な通訳をしていただきました。また、移動時間等に話して下さった、それぞれの視点からのリアルなチェコ話からも、非常に多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。

日本では、チェコ語を学ぶにあたって梶原初映先生、Michael Miko 先生にお世話になりました。文法だけでなく、チェコ文化の紹介を交えた授業はいつも面白く、チェコに対する興味を様々な分野に広げていただきました。心より感謝申し上げます。

神吉研究室の皆様からは、研究に対する助言やサポートをいただいたと同時に、それぞれの研究についての議論を通じて沢山のことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。

秘書の長谷川直子様には調査等の手続きにおいて非常にお世話になっただけでなく、いつも明るい励ましの言葉をかけていただきました。心より感謝申し上げます。

なお、本研究の一部は、一般財団法人住総研の研究助成並びに日本学術振興会科学研究費補助金（特別研究員奨励費、課題番号 16J10282）によって実現することが出来ました。心より感謝申し上げます。

最後に、これまで支えてくれた家族に、心より感謝します。

2017 年 2 月

田中由乃